

第4章 貝塚中心部の調査（轟貝塚第12・13次調査）

第1節 調査の概要

（1）目的

第3章で示したとおり、轟貝塚の貝層形成に伴う居住域（集落跡）は、当初想定された貝塚北西側の微高地上ではその痕跡がみられず、それらは後の時期に形成された貝層の下に埋没している可能性が高いと考えられた。

一方、貝塚中心部については第2章で示したとおり、過去に複数の発掘調査が行われている。しかし、それらは近代考古学黎明期における古い発掘調査を含み、調査の目的が主に古人骨資料の収集にあったとみられること等により、堆積状況や遺構・遺物の詳細な情報、特に貝層以下の状況については検討に堪える資料が不足している。また、堆積状況（層序）について比較的詳しい情報が記録されている第5次調査と第6次調査の間でも、ごく近接する5次調査I tと6次調査Dトレンチとの間で記録された層序に違いがみられることが、層序の理解を困難にしている。

このような状況を踏まえ、貝塚中心部における基本層序の再構築と各層の時期推定、及び貝層以下を中心に生活痕跡（遺構）の有無を検討することを目的に、貝塚中心部の発掘調査を実施することとした。

（2）方法

調査にあたっては、新たに掘削することによる遺跡の破壊を最小限に抑えるため、また過去の調査で記録された土層を直接再確認するため、まずは過去の調査区の再発掘調査により土層断面の検出を行うこととした。その上で、必要に応じて調査区の掘り下げ・拡張や一部について新規掘削することにより、遺構の検出や層ごとの遺物の収集に努めた。なお、新規掘削部分を中心に、土中に含まれる微細遺物の採取にも留意した。本来ならば全ての掘削廃土を持ち帰り、屋内でウォーターフローテーション等により遺物の抽出に努めるべきだが、そこにかかる膨大な作業量に堪えられないとの見通しから、現場で可能な限りふるいがけすることでこれに代えた。ふるいは7mm・4mm・2mm、一部1mmメッシュのものをを用い、乾燥状態で7mm・4mmのふるいにかけて後、2mm・1mmメッシュ上で土を水で溶きながら遺物のピックアップを行った。第5章で報告する魚骨や微小貝類等の自然遺物は、定量的な土壌サンプルから抽出したものの他は多くがこの作業により得られたものである。

再発掘調査の対象としたのは、堆積状況に関して最も多くの情報が残されている第6次調査及び第5次調査の一部、そして多くの人骨と遺物の出土が知られる一方で、堆積状況に関して情報の少ない第2次調査の一部である。これらの調査区を検出するため第1トレンチから第7トレンチ（1T～7T）を設定し、過去の調査区を検出した上で埋土の再掘削と土層断面の確認を行った。また、未攪乱の土層・貝層を新規掘削することによる出土遺物の検討も必要とみて、過去の調査で攪乱されていない地点を選び第8トレンチ（8T）を設定した。

平成26～28（2014～2016）年度の3か年に及んだ調査のうち、1～7Tによる過去の調査の再発掘と堆積状況の再検討を行った平成26年度調査を轟貝塚第12次調査、トレンチの一部拡張や8Tの設定により、未攪乱の土層・貝層の新規掘削を中心に行った平成27年度の調査を第13次調査とした。なお、27年度の調査で一部を検出しつつも取り上げられなかった人骨の記録や取り上げを中心に行った平成28年度の調査は、年度をまたぐものの、内容は13次調査の延長と位置づけ、個別に調査次数は付さないこととした¹⁾。



第40図 第12次・13次調査位置図 (S=1/1,000)

(3) 経過 (調査日誌抄)

轟貝塚第12次調査

平成26(2014)年

- 10月1日 再調査対象である過去の調査地点について、位置を推定し調査区を設定。
人力による表土剥ぎと過去の調査区(主に6次調査)の検出作業を開始。
- 10月7日 第1トレンチ(以下「1T」)にて、6次調査Dトレンチをほぼ検出。
2次調査の調査区検出を開始。
- 10月14日 第2トレンチ(以下「2T」)にて6次調査Aトレンチを検出。
第4トレンチ(以下「4T」)にて2次調査Ⅶ区の一端を検出。
- 10月16日 2Tにて、6次調査Cトレンチを検出。
- 10月21日 第3トレンチ(以下「3T」)により、2次調査Ⅱ区・Ⅴ区の検出作業を開始。
- 10月24日 1T内で、6次調査Dトレンチ埋土(9・13・17グリッドとみられる)の再掘削を開始。
- 10月30日 2T内で、6次調査Cトレンチ1~3グリッドの埋土を再掘削、土層断面を確認。
- 10月31日 2T内で、6次調査Aトレンチ23・24グリッドの埋土を再掘削、土層断面を確認。
- 11月4日 4T内で、2次調査Ⅶ区とみられる埋土を再掘削。
第5トレンチ(以下「5T」)にて、2次調査Ⅹ区付近の検出を開始。
- 11月6日 廃土のふるいがけによる微細遺物の抽出作業を開始(以後、調査終了まで継続的に実施)。
- 11月10日 3Tにて、2次調査Ⅱ区・Ⅴ区の掘方をほぼ検出(土層断面からの復元を含む)。
- 11月11日 3T内で、2次調査の埋土(攪乱層)の下から集石遺構とみられる多量の礫を検出。

以後、時間をかけ全体の検出及び記録作業を実施。

- 11月12日 5次調査I tの検出を目的に第7トレンチ（以下「7 T」）の調査を開始。
- 11月13日 2 Tの6次調査Cトレンチ底部で、地山のローム土に掘り込まれた若干の土坑・ピットを検出。（翌14日、Aトレンチ23・24グリッド部分でも同様のピットを検出）
- 11月17日 5 T内で2次調査X区の北東隅角部分を検出。
- 11月18日 2次調査XI区の検出を目的に、第6トレンチ（以下「6 T」）の調査を開始。
- 11月24日 一般向けの体験発掘イベントを実施。参加者80名あまり。
調査全体の説明、5 T・6 Tの攪乱層掘削体験、廃土のふるいがけ体験などを実施。
- 12月10日 平面図の基準点として、現場全体に杭打ち作業を実施。（株式会社ダイチプランに委託）

平成27（2015）年

- 1月31日 1 T・4 Tの貝層を含む土層断面各層から、年代測定用試料をサンプリング。
（株式会社古環境研究所に委託）
- 2月2日 4 T南側の未攪乱部分を拡張し、層ごとの遺物と分析用土層サンプルを採取。
- 2月10日 4 T拡張部で焼土坑を検出。
- 2月12日 3 T西端部に残る純貝層部分にて、貝層・土層のサンプリングを伴う掘り下げを実施。
- 3月6日 1 T・2 T・4 Tにて、貝層を含む土層断面の剥ぎ取りを直営で実施。
- 3月13日 宇土市重要遺跡保存活用検討委員会を開催。調査成果を報告し、今後の方針を協議。
- 3月16日 1 T北西部の未攪乱部分を拡張し、層ごとの遺物と分析用土層サンプルを採取。
- 3月18日 調査区の養生をして調査を終了（引き続き検討を行うため、埋め戻しは実施せず）。

轟貝塚第13次調査

平成27（2015）年

- 5月19日 調査開始。
3 Tにて、集石が検出されたIV a層以下の調査を開始。
5 T内にサブトレンチを設定し、堆積状況を検討。
- 5月20日 3 T内で人骨の一部を検出。（2号人骨脚部。詳細は第5節参照）
5 T内で集石の一部とみられる礫群を検出。
- 5月25日 5 Tについて、貝層・集石が検出されたトレンチ南側を残して埋め戻しを実施。
- 5月28日 広い範囲で貝層の残存状況を探り、貝層上面から掘り込まれた土壇墓の有無を確認することを主目的に、貝層の残りが良いとみられた4 T北側を中心とした表土剥ぎを実施。
（以下、3 TIV a層の礫群検出・記録作業と4 T北側の貝層検出作業を中心に実施）
- 6月19日 4 T北側で、2次調査VIII区の痕跡とみられる攪乱（貝層の切れ目）を検出。
- 7月15日 過去の調査をはじめ、攪乱されていない地点で改めて層位ごとの遺構・遺物の確認を行うため、第8トレンチ（以下「8 T」）を設定し、調査を開始。
- 7月23日 3 T内の掘り下げを終了。以後、礫群の実測をはじめとした記録作業を実施。
- 7月24日 6 T内で2次調査XI区の痕跡とみられる落ち込みを確認。
- 7月31日 8 T内で貝層の掘り下げを開始。
- 8月4日 8 T内で貝層下の褐色土層以下の掘り下げを開始。
- 8月5日 6 T内サブトレンチで混土貝層を検出。ただし同層から弥生土器が出土したため、貝層は攪乱された二次堆積と判明。

第1節 調査の概要

- 8月20日 8 Tサブトレンチ土層断面上で、貝殻廃棄土坑の可能性のあるSK02を検出。
(別件発掘調査等との調整により、調査一次休止)
- 10月4日 現地説明会を実施(来場者100名あまり)。
- 10月22日 貝層下の褐色土層がアカホヤ火山灰に由来するかを推定するための土壌分析用試料を採取。
(株式会社 古環境研究所に委託)
- 平成28(2016)年
- 2月19日 調査再開。3 T内で部分検出されていた人骨の周囲を精査。複数体の存在が予想された。
- 2月22日 3 T内で検出されている人骨が2体分であることを確認(1号・2号人骨)。
- 3月2日 文化庁・熊本県の調査指導。人骨の取扱い等について助言あり。
- 3月3日 8 TIV a層(褐色土層)中から集石を検出。
- 3月4日 2 T内、6次調査Aトレンチ23グリッド部分において、過去の調査で掘削されていない褐色土中から集石を検出。
- 3月16～17日
3 Tで検出した人骨の取り上げを実施(NPO法人 人類学研究機構に委託)。
取り上げの過程で、人骨が計4体分であることが判明。うち3号とした人骨の半身が調査区外にのびていた他、4号については作業終盤に判明したため、この2体については取り上げず、次年度調査の課題とした。
- 3月22日 1 T・2 T・5 T・6 Tの埋め戻しを実施。
3 T出土の3号人骨を検出するため、トレンチを一部拡張、表土から順次掘り下げを開始。
- 3月23日 8 TIV a層(褐色土層)中で多くの轟B式土器を伴う集石遺構を検出。
- 3月24日 平成27年度の調査を終了。3 T拡張区の人骨検出及び8 Tの完掘を次年度に持ち越し。
(4月着手を予定するも、熊本地震・豪雨災害等の被災対応により遅延)
- 8月10日 調査再開。休止期間中に伸びた現場周辺の草刈り等から実施。
- 8月17日 調査区内清掃、基準杭の誤差確認、8 TIV a層(褐色土層)の掘り下げ。
- 8月22日 3 T拡張区の掘り下げ、8 T検出集石の写真撮影、実測及び礫の取り上げ開始。
- 10月6日 集石取り上げ後の包含層掘り下げ。
- 10月11日 8 T北東隅の土層中で人骨の一部を検出。トレンチ外にかけて土壇墓が存在する可能性が発覚。
- 10月13日 人骨取り上げのための3 T拡張区の掘り下げ。
8 T北東隅の人骨(土壇墓)を検出するため、トレンチを拡張。表土から掘り下げを開始。
- 10月14日 8 T拡張部分で集石と土壇の落ち込みを確認。集石が破壊されている点や土壇上部に貝層が被る位置関係から、土壇の時期は集石より新しく貝層より古いと位置づけられた。
- 10月17日 3 T拡張区にて、3号人骨を範囲がおおよそわかる程度に検出。
- 11月7～8日
3 Tにて人骨の実測・取り上げを実施(NPO法人 人類学研究機構に委託)。
3号・4号人骨を取り上げた。
- 11月15日 8 T出土の5号人骨について、実測及び取り上げを実施(NPO法人 人類学研究機構)。
- 11月22日 8 Tを地山まで完掘。完掘状況写真撮影。
- 12月9日 3 T・4 T埋め戻し。
- 12月19日 8 T埋め戻し。調査終了。

(4) 調査区の概要

第1トレンチ(1T)

第6次調査で特に貝層等の残りが良かったとされるDトレンチの再確認を目的に設定した。過去の調査地点は周辺地形から推定したおよその位置しかわからないため、推定地付近でやや広めに表土剥ぎを行い、必要に応じて適宜拡張しながら検出に努めた。結果として、約5m×8mの範囲で、6次調査Dトレンチ5・9・13グリッド及び18グリッドとみられる調査区跡を検出した。このうち5・9・13グリッド部分の西壁について土層断面を検出し、堆積状況の確認を行った。

土層は全部で9層に分けられ、うち1～4層は表土の耕作土及び攪乱、5層はカキ殻を主体とする純貝層、6層は貝殻や炭化物を含む褐色土層、7層は混入物の少ない黒褐色土層、8層はしまりの良い黒色土層、9層は地山のロームと8層が混ざる漸移層である。6次調査Dトレンチとして記録された土層断面と比較して、層序に大きな違いは無いが、6次調査で「褐色土層」とされたものを今回新たに6層と7層に分層した。

各層の時期推定のため、確認した土層断面を一部外側へ拡張して層ごとの遺物抽出を行った他、各層から試料を採取して年代測定を実施した。出土遺物については本章第4節を、年代測定結果については第6章を参照されたい。

その他、調査区内の広い範囲で貝層の堆積が平面的に確認された。逆に、調査区北端付近の一部ではそれが無く、この付近が貝層堆積の端部と考えられる。

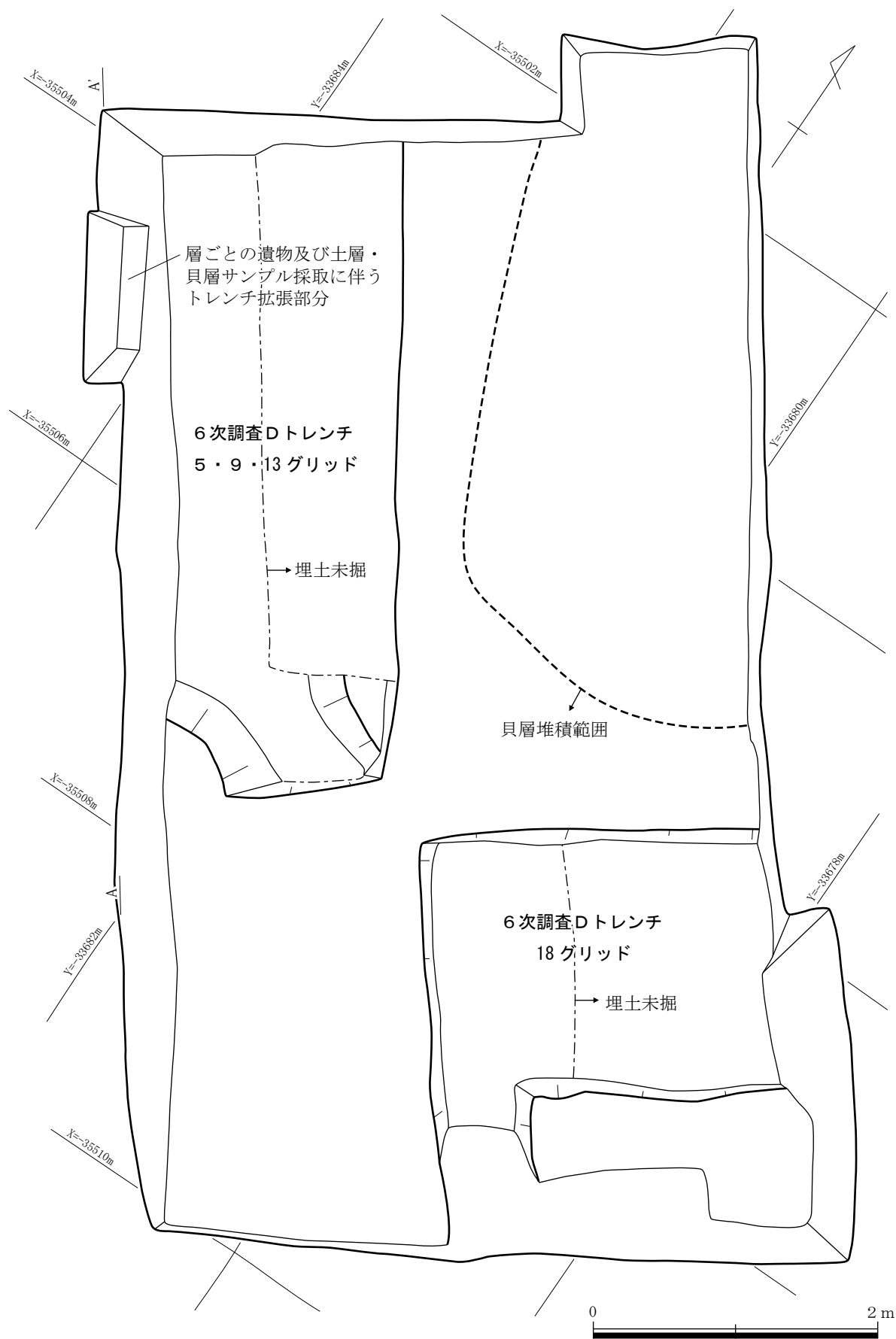
第2トレンチ(2T)

第6次調査Aトレンチ及びCトレンチの再確認を目的に過去の調査区の検出作業を行い、東西約14m、南北約10mの範囲でAトレンチ21～24グリッド及びCトレンチ1～3グリッドとみられる調査区跡を検出した。

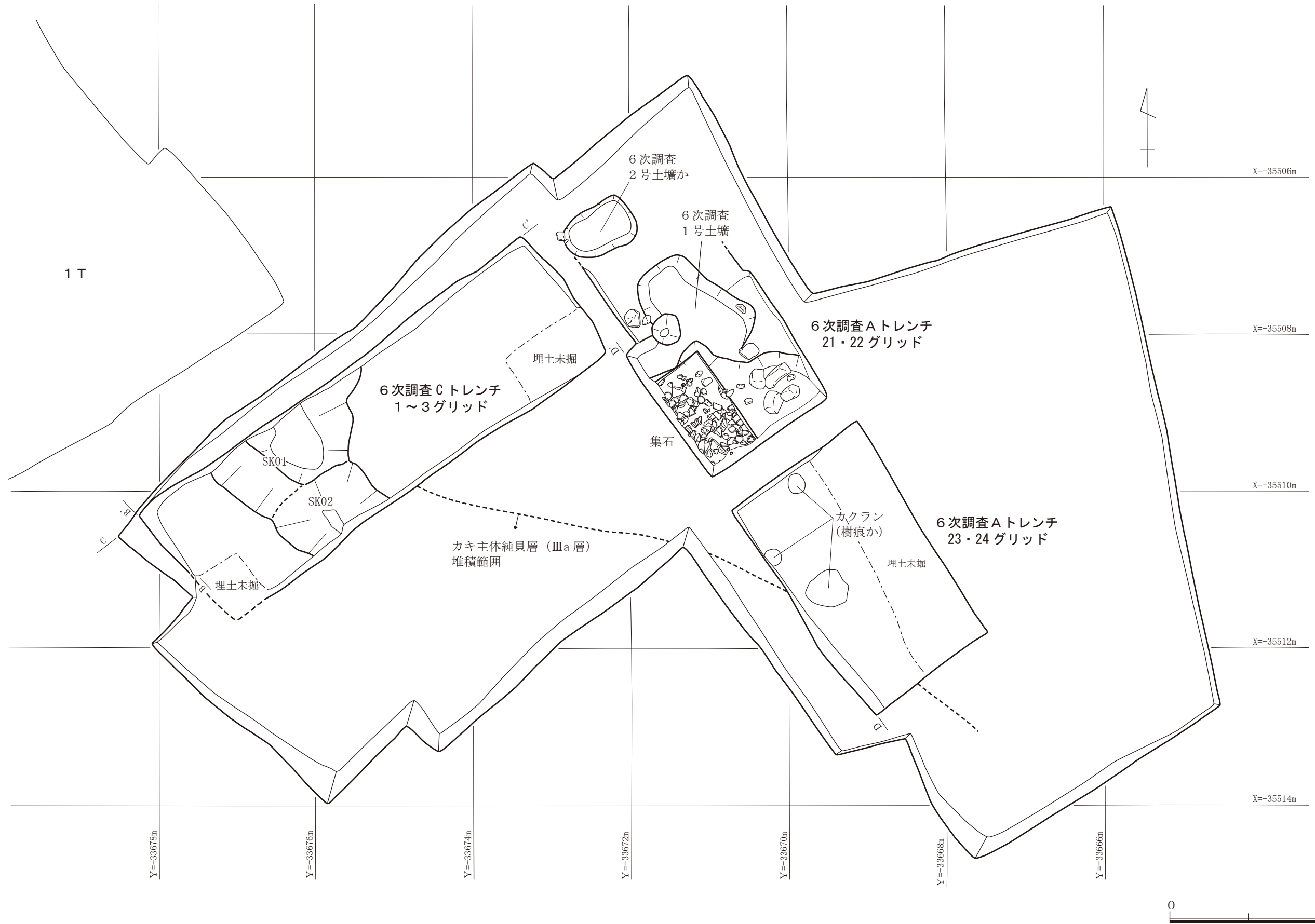
埋土の再掘削による土層の確認は、Aトレンチ23・24グリッド西壁及びCトレンチ1～3グリッド北壁で行った。Aトレンチ23・24グリッド西壁は7層に分層された。1層は表土、2層は攪乱の混貝土層、3層はカキを主体とする純貝層、4層はハイガイ・ハマグリを主体とする混土貝層、5層は貝殻や小礫を含む褐色土層、6層はややしまりの良い黒褐色土層、7層は地山のロームと6層が混ざる漸移層である。6次調査で記録された土層と概ね一致するが、貝層を3層と4層に分層している。

Cトレンチ1～3グリッド北壁は10層に分層された。1・2層は表土及び攪乱の混貝土層、3・4層も同じく攪乱で、5層がカキを主体とする純貝層、6層が貝殻や礫を含む褐色土層、7層が混入物の少ない黒褐色土層、8層が部分的に堆積する褐色の粘質土、9層が黒色土層、10層が地山と9層が混ざる漸移層である。6次調査の記録と異なるのは主に6・7層で、過去の調査で「褐色土層」と記録されたものを上下2層に分層している。後述の第3トレンチの調査成果を参考にすれば、これら2層の間には一定の時期差が存在する可能性が高い。また、6次調査では明確に記録されている「純貝層」が、今次調査ではトレンチ西端部にわずかに残るのみである点も注目される。調査を行った貝塚中心部は現在も耕作が行われている畑地であり、6次調査から12次調査までの約50年間に少しずつ削平されていった様子が明らかになった。

調査の過程で、既報告のものも含め若干の遺構が検出された。ひとつは6次調査Cトレンチ1・2グリッドの底部で検出した土坑SK01・SK02である。これらは6次調査時点でほぼ掘削されていたとみられるが、覆土が土層断面に一部現れる他、特に遺構として報告されていない。人為的なものかどうか定かではないが、明らかな落ち込みがみられるため、改めて遺構番号を付すものである。また、Aトレンチ21・22グリッド部分では6次調査1号人骨・2号人骨が出土した土坑(6次調査1号土壙墓・2号土壙墓)がそれぞれ検出された。その他、Aトレンチ22グリッドにて礫が密集して検出されたため、サブトレンチを設けて未調査

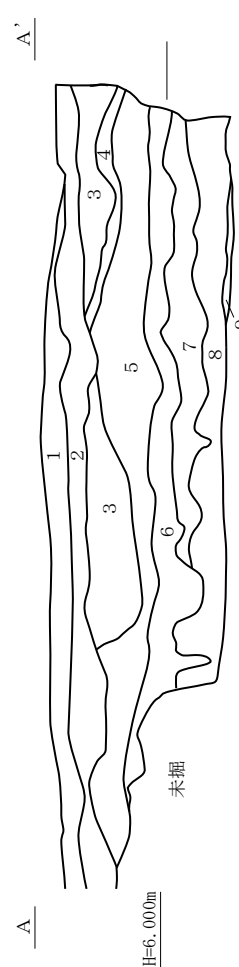


第41図 第1トレンチ(1T)平面図(S=1/40)

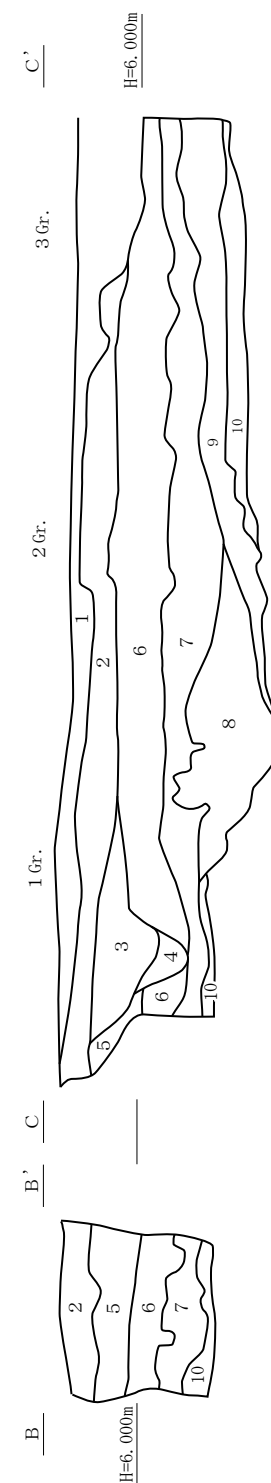


第42図 第2トレンチ (2T) 平面図 (S=1/50)

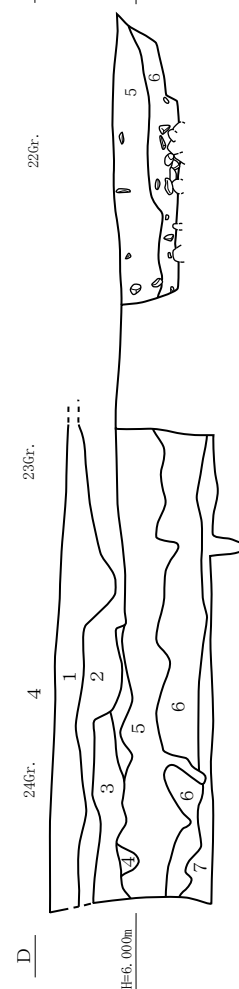
- 1 表土 目録混じりの単色土
- 2 砕けた貝殻を多量含む混貝土層 基本層序II層 10YR3/2 黒褐色 しまり・粘性弱い
- 3 カクラン 10YR3/2 黒褐色～10YR3/3 暗褐色
- 4 カクラン 目録等をほとんど含まない褐色土 10YR3/3 暗褐色 しまり・粘性やや強い
- 5 純貝層 カキ・ハイガイを主体とする 基本層序IIIa層
- 6 褐色土層 炭化物やハイガイを中心とした貝殻少量含む 基本層序IVa層
- 7 5YR3/3 暗褐色 しまりやや良い、粘性やや弱い
- 8 黒褐色土層 貝殻等の混入無し 基本層序IVb層
- 9 5YR3/2 黒褐色 しまりやや良い、粘性やや強い
- 10 黒色土層 基本層序V層 10YR2/3 黒褐色 しまり・粘性やや強い
- 11 暗褐色粘質土 地山のロームと8層が混ざる漸移層 基本層序VI層
- 12 7.5YR3/3 暗褐色 しまり・粘性強い



1 T 6次調査Dトレンチ5・9・13グリッド付近西壁



- 1 表土 貝殻多量含む黒色土
- 2 混貝土層 10YR3/3 暗褐色 しまり・粘性弱い 基本層序II層
- 3 カクラン 砕けた貝殻を多量含む 10YR3/3 暗褐色 しまり・粘性弱い
- 4 カクラン 3層より多量の貝殻から成る 5層から流れ込んだ二次堆積とみられる
- 5 純貝層 カキを主体とする 基本層序IIIa層
- 6 褐色土層 ハイガイを中心とした貝殻や礫を少量含む 基本層序IVa層
- 7 7.5YR3/4 暗褐色 しまり・粘性やや弱い



2 T 6次調査Cトレンチ1～3グリッド付近北壁

- 1 表土 貝殻多量含む黒色土
- 2 混貝土層 10YR3/2 黒褐色 しまりやや良い、粘性弱い 基本層序II層
- 3 純貝層 カキ・ハマグリを主体とする 黒色土少量混じる 貝殻はやや破碎が目立つ 基本層序IIIa層
- 4 流土貝層 ハイガイ・ハマグリ主体 10YR2/3 黒褐色土混じる 基本層序IIIb層
- 5 褐色土層 貝殻・小礫微量含む 基本層序IVa層
- 6 10YR2/3 黒褐色～10YR3/3 暗褐色 しまり良い、粘性弱い
- 7 黒褐色土層 10YR2/2 黒褐色 しまり良い、粘性やや強い
- 8 の礫を含む 基本層序IVb層
- 9 黒褐色粘質土 10YR3/2 黒褐色 しまり・粘性強い
- 10 6層と地山のローム層が混ざる漸移層

2 T 6次調査Aトレンチ22～24グリッド付近西壁



第43図 第1・第2トレンチ(1T・2T)土層断面図 (S=1/50)

の褐色土層を掘り下げたところ、安山岩を主体とする多量の礫が検出された。部分的な検出であり全貌が明らかでないが、黒褐色土層（基本層序IV b層）に帰属する集石遺構の一部とみられる。

第3トレンチ（3T）

第2次調査のⅡ区及びⅤ区部分の再確認を目的に設定した。調査の結果、当初想定していた明瞭な形では調査区跡が検出できなかったが、攪乱に従って丁寧に掘り下げた結果、北から南へ傾斜して掘り込まれ、場所により深さの異なる不定形な調査区の姿を復元できた。この掘方は、2次調査における主な目的が古人骨の収集にあり、現代の調査のように層序の把握に重きを置いていなかったことを端的に示すとみられる。恐らく、全体を掘り下げた中で人骨の一端が検出されれば、そこを中心に深く掘り下げていくような調査方法が採られたものとみられる。しかしそのままでは今次調査の目的である堆積状況の確認に堪えないため、過去の調査区検出後は改めてトレンチの壁が垂直に切れるよう拡張し、攪乱されていない土層断面がみられるトレンチ北壁を中心に層序の検討を行った。

土層は全部で7層に分けられた。1層は表土、2層は攪乱の混貝土層、3層も攪乱で、2次調査の埋め戻し土とみられる。4層はカキを主体とする純貝層、5層はハイガイ・ハマグリを主体とする純貝層、6層はハイガイ等の貝殻や礫を多量含む暗褐色土層、7層は混入物の少ない黒褐色土層である。

注目すべきは2次調査の埋土を掘り上げた下の6層中から多量の礫が出土した点である。礫は比較的密集する場所と散漫な場所とが混ざりながらもトレンチ内全面に分布している。恐らく複数基の集石遺構が存在したとみられるが、使用後に解体された状況を示すものなのか、礫が混ざり合って正確な群構成は不明である。集石とセット関係を成す土坑についても不明だが、礫と同じ6層から7層に掘り込まれた土坑SK01～SK03は関連する遺構である可能性がある。出土した礫の多くに、変色や亀裂等、被熱した痕跡が認められる点から、集石が火を伴って使用されたものであることがうかがえる。

さらに、集石の下の7層から、合計4体分の人骨が出土した（第1～4号人骨）。人骨はトレンチ内東側に密集して存在し、調査の中で墓壇のプランは認識できなかったものの、いずれも仰臥屈葬の姿勢をとる埋葬人骨である。人骨の詳細については第5節で述べる。

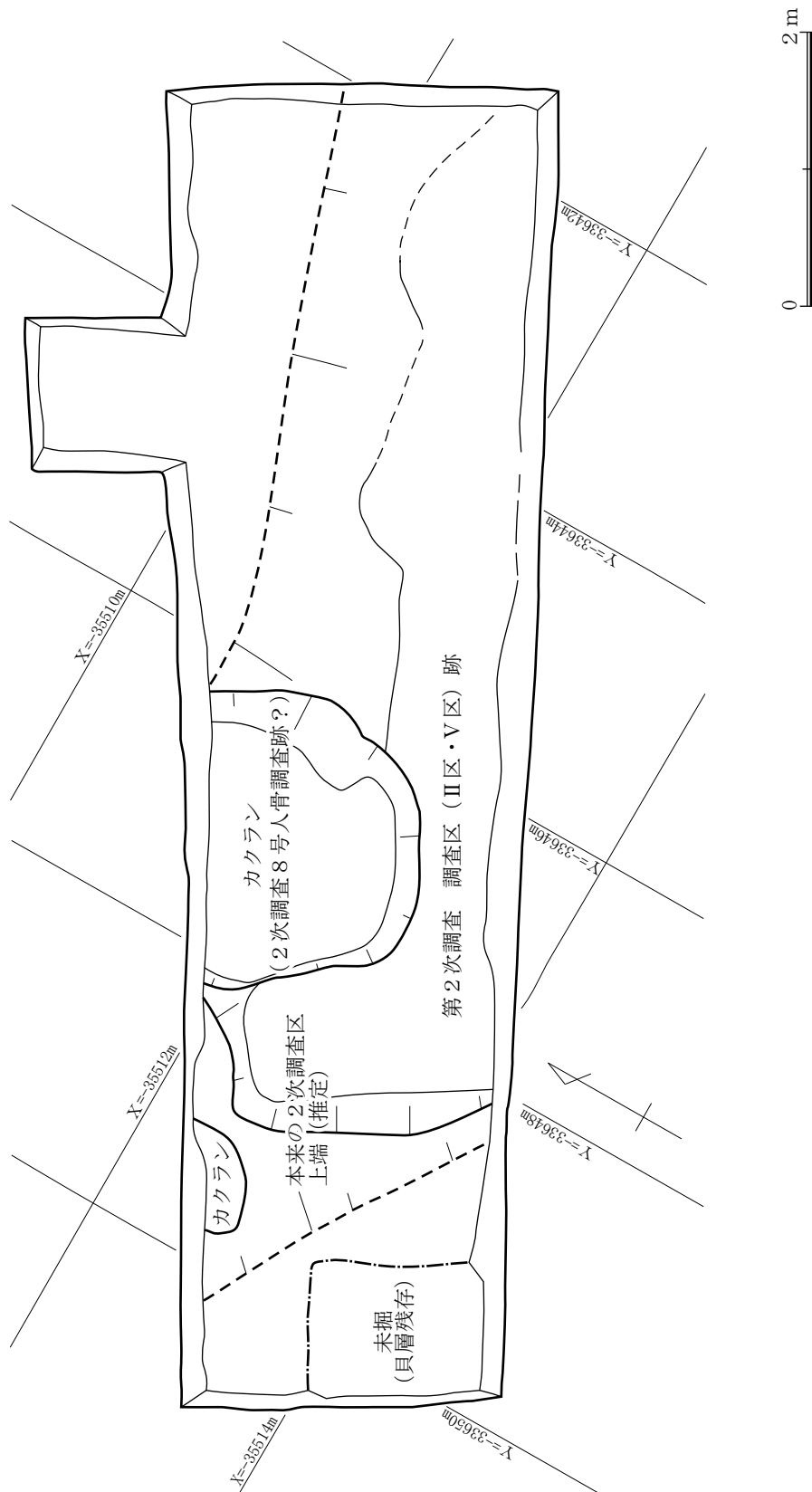
第4トレンチ（4T）

第2次調査のⅥ区及びⅦ区の再確認を目的に設定し、調査の結果、東西約8m、南北約5mの範囲で両調査区の一部を検出した。3個所の壁面で土層断面の確認を行った結果、土層は全部で9層に分層した。

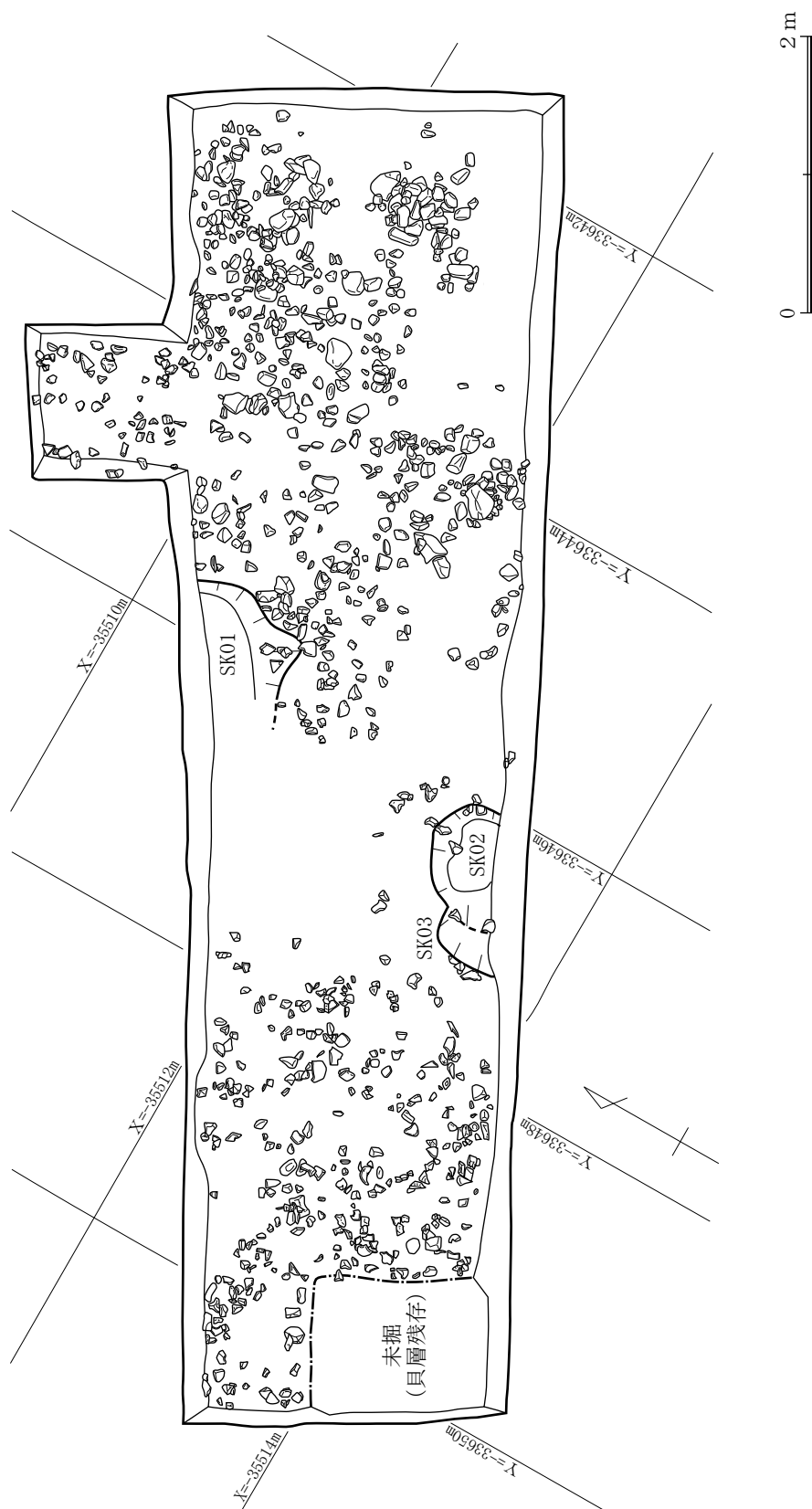
1層は表土、2層は攪乱の混貝土層、3・4層は2次調査の埋め戻し土とみられる攪乱層である。埋め戻し土のうち、下位の4層には比較的破碎されていない貝殻を多量含むことから、埋め戻しの際にまず貝層由来の廃土を集中的に入れたものとみられる。5・6層は純貝層で、5層はカキ主体、6層はハイガイ・ハマグリが主体である。7層はハイガイをはじめとした貝殻や礫、少量の炭化物等を含む褐色土層で、8層はそれらの混入が少ない黒褐色土層である。9層はしまりの良い黒色土層で、礫や貝殻はほぼ混入しない。

ここでは純貝層が上下2層に分けられた点と、貝層下の褐色土層～黒色土層が、それぞれの特徴の違いと共に明確に区別できた点が特筆される。第2節で述べる基本層序の理解の上で、このトレンチが果たした役割は大きい。

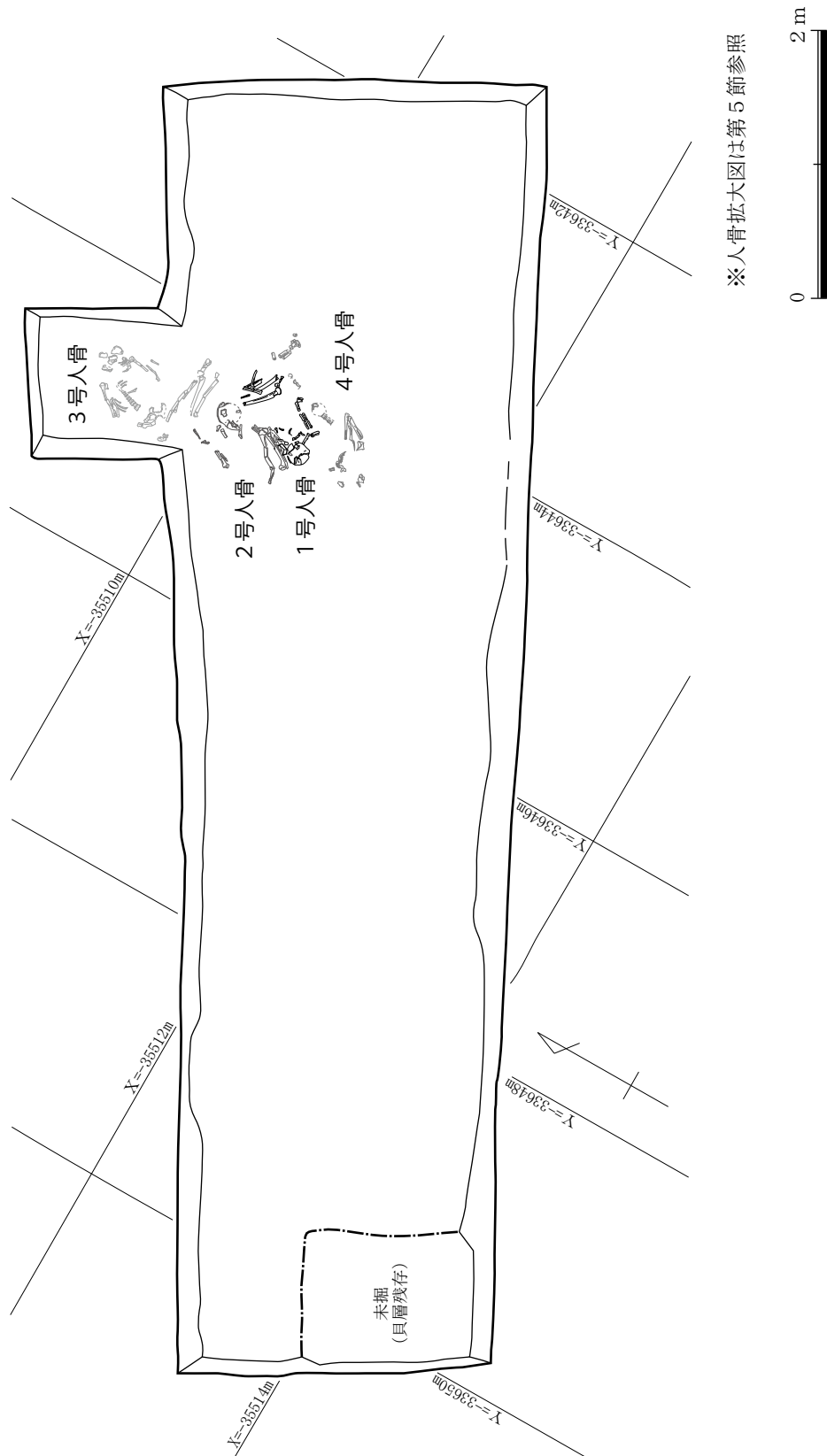
集石遺構と呼ぶには分布の密度が比較的低いだが、7層から複数の礫が出土した。3Tで検出した集石と同種のものと考えられる。また、7層中から8層に掘り込まれた土坑SK01は、薄い層状に堆積する焼土を覆土とし、土坑内から被熱した礫や獣骨等が出土した。周囲で出土した礫群とも併せ、加熱調理に用いた炉跡の可能性が指摘できる。



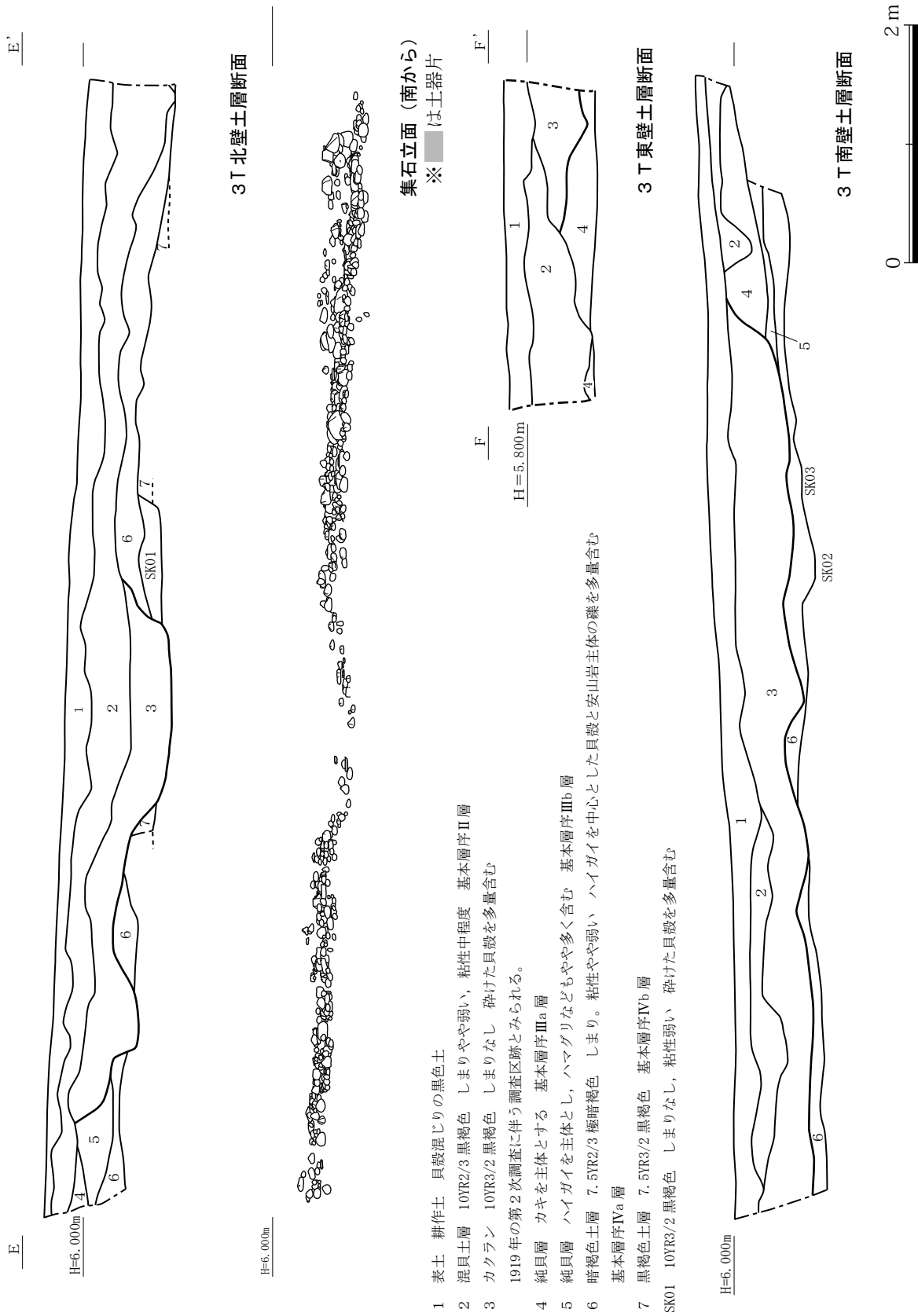
第44図 第3トレンチ (3T) II層中検出遺構 (S=1/50)



第45図 第3トレンチ(3T)IVa層 遺構・礫群検出状況 (S=1/50)



第46図 第3トレンチ(3T)IVb層 人骨出土位置 (S=1/50)



第47図 第3トレンチ (3T) 土層断面図 (S=1/50)

第5トレンチ（5T）

第2次調査のX区付近の再確認を目的に設定した。調査の結果、断面V字形に掘り込まれた調査区跡を検出した。トレンチ北壁及びトレンチ内東部のサブトレンチにて土層断面の確認を行い、土層は全部で10層に分けられた。

1層は表土、2層は攪乱の混貝土層、3・4層も攪乱で、2次調査に伴う埋め戻し土とみられる。5層はカキ・ハイガイをはじめ貝殻を多量含む混貝土層、6層はカキ・ハマグリ・ハイガイ等を多量含む混貝土層である。7層は貝殻を少量含む褐色土層、8層は7層よりも混入物が少ない黒褐色土層、9層はしまりが良く粘性が強い黒色土層、10層は地山のロームと9層が混ざる漸移層である。

このうち、トレンチ南東部を中心に7層中から多量の礫が出土した。被熱した礫を多数含む集石遺構の一部とみられ、近接する3Tで検出したものと同様の遺構である。

第6トレンチ（6T）

第2次調査のXI区付近の再確認を目的に設定し、調査区中央のサブトレンチにより、2次調査XI区の北端部とみられる落ち込みを検出した。しかし、他のトレンチの調査結果も踏まえ、斜めに落ち込む過去の調査区をそのまま再掘削しても、調査の主目的である土層断面の確認はできないとみて、過去の調査区にかからないトレンチ北西側壁際に別途サブトレンチを設け、この中を深く掘り下げることで土層断面の確認を行った。

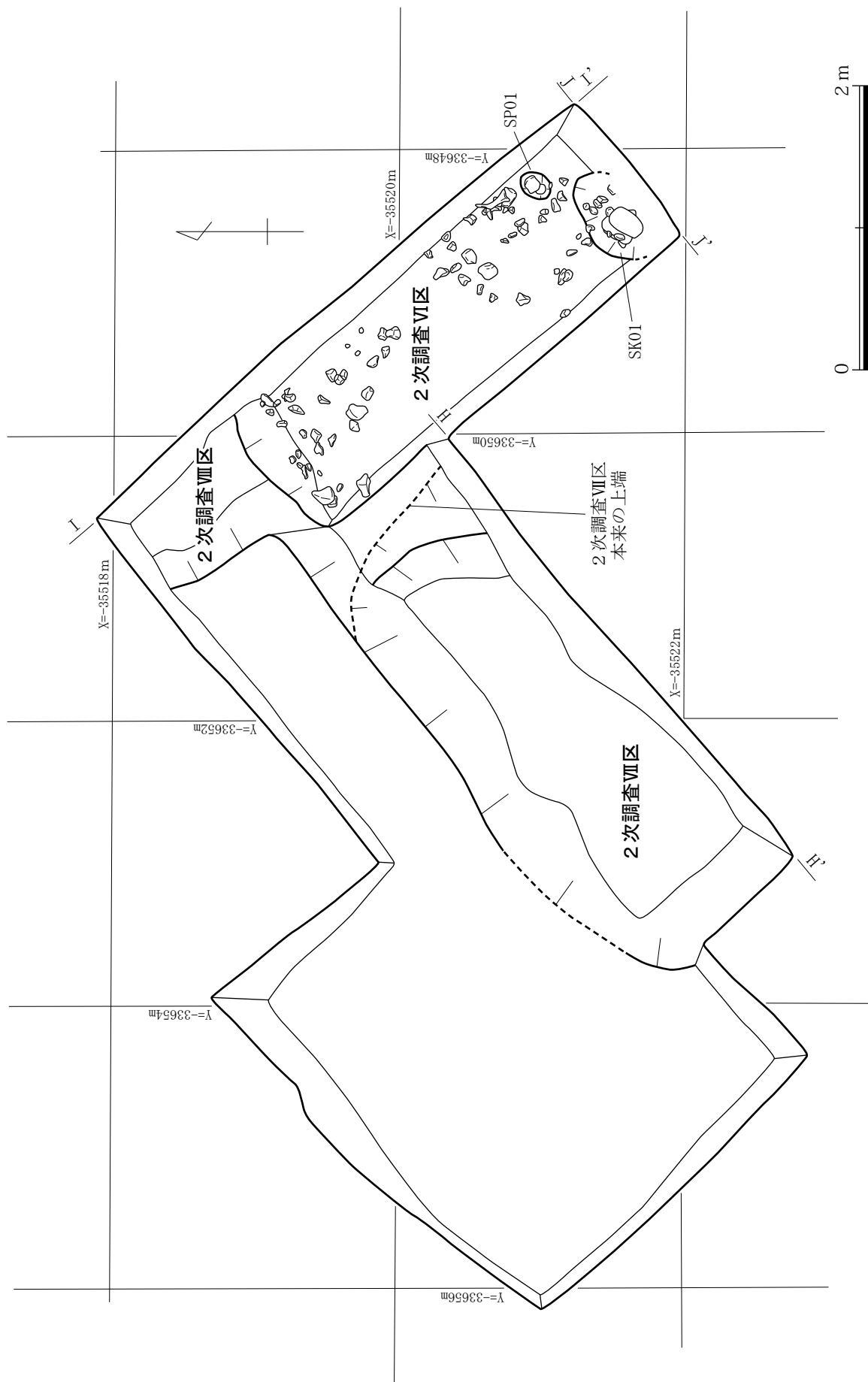
調査の結果、土層は全部で12層に分層された。1層は表土、2層・3層は攪乱の混貝土層、4層はカキ・ハイガイを主体とする貝層だが、5層以下の状況により攪乱された二次堆積とみられる。5層は黒褐色の混貝土層で、出土した土師質土器等により中世以降の堆積土とみられる。6層も5層に似た混貝土層だが、含まれる貝殻がやや少ない。7層は砂質の焼土で部分的に堆積する。8層は混貝土層、9層は混貝土層で、うち9層からは弥生土器が出土している。10層は黄褐色の粘質土で、地山と堆積土の漸移層である。11・12層は地山で、11層は褐色のローム層、12層は黄褐色のシルト質土である。大きく分けて、1～4層は攪乱層、5～6層は中世の遺物包含層、8～9層は弥生時代の遺物包含層とみられ、結果としてここに縄文時代の堆積土が存在しないことがわかった。

トレンチ内で縄文時代の貝塚に関する直接の遺構や遺物包含層は検出されなかったが、トレンチ西端部で検出された地山の落ち込みにより、貝塚が立地する台地の端部が現況より3～5m程度西側に存在することがわかった。これにより、現在見える台地の端部付近はほとんどが攪乱層であることが想定される。

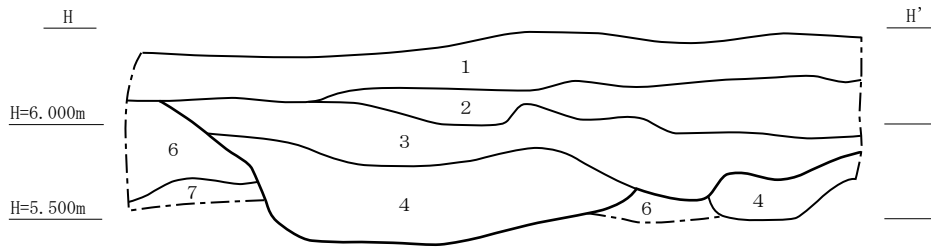
第7トレンチ（7T）

第5次調査I tの検出と土層の再検討を目的に設定したが、当初想定した場所に調査区跡はみられず、トレンチ内全域で残りの良い純貝層を検出する結果となった。実際のI t跡は今回調査した地点より更に北西側に存在するとみられるが、調査対象範囲とした地番の外にあたることもあり、トレンチ拡張等による追跡は行わなかった。

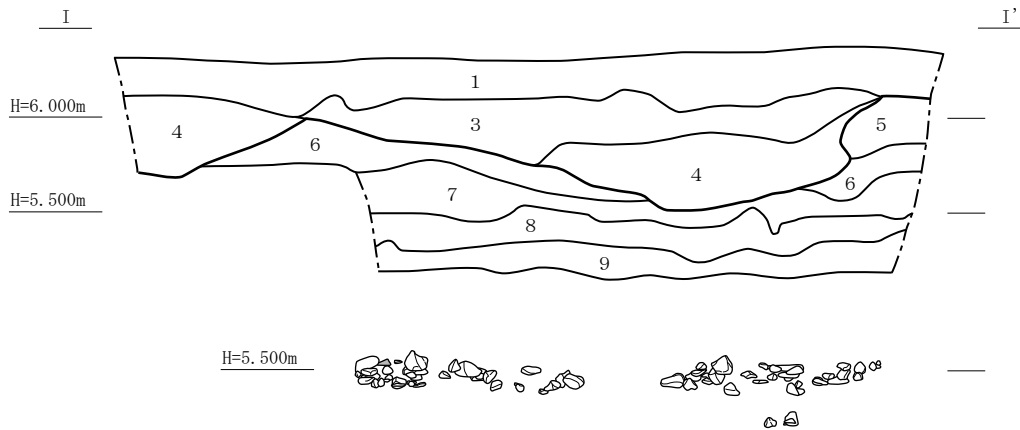
検出された貝層は1Tで確認したものの延長とみられ、カキ・ハイガイを多量含む。現在は一部攪乱されているが、台地の西端部から西側の斜面にかけて堆積していたものとみられる。堆積状況についてはすぐ東側の1Tで土層断面を確認しているため、敢えて貝層の一部を断ち割って掘り下げることはしなかった。



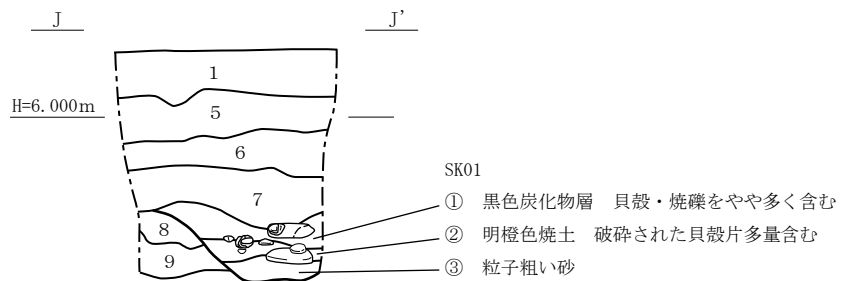
第48図 第4トレンチ (4T) 平面図 (S=1/40)



4 T 南壁 2次調査Ⅶ区付近 土層断面



4 T 東壁 2次調査Ⅵ区付近 土層断面・礫群立面

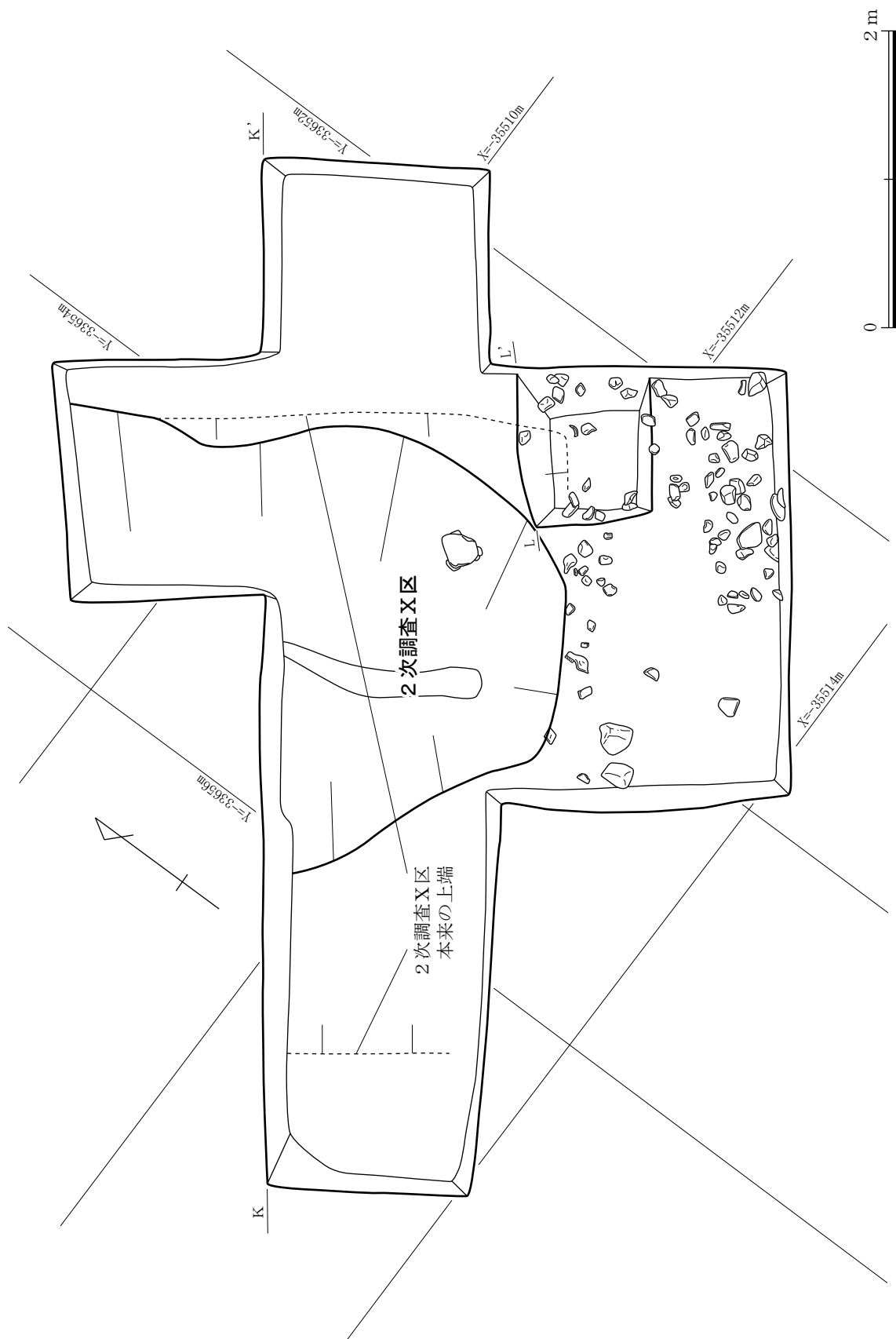


4 T 南東壁 土層断面

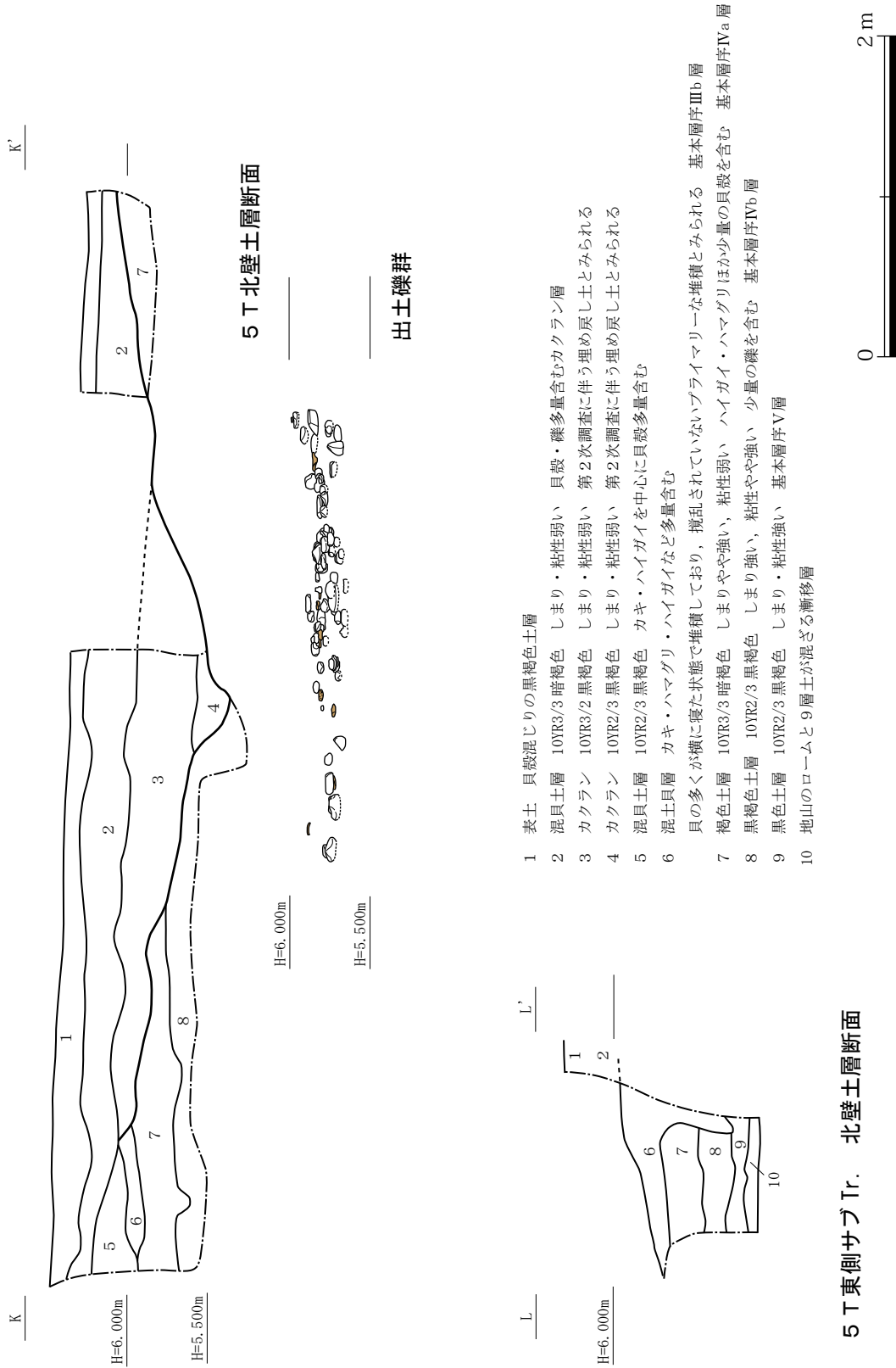
- | | |
|---|---|
| <p>1 表土 耕作土 貝殻を多量含む黒色土</p> <p>2 混貝土層 7.5YR3/2 黒褐色
貝殻・礫などやや多く含むカクラン層 基本層序Ⅱ層</p> <p>3 混貝土層 砕けた貝殻を多量含む黒色土 しまり・粘性弱い
基本層序Ⅱ層に含まれるが、特に2次調査に伴う埋め戻し土とみられる</p> <p>4 混貝土層 ほぼ3層と同様だが、砕けていない貝殻を比較的
多く含む 2次調査埋め戻しの際、掘削した貝層部分を集中的に
埋めたものか</p> <p>5 純貝層 カキを主体とし、部分的に土が混ざる 基本層序Ⅲa層</p> <p>6 純貝層 ハイガイ・ハマグリ主体 礫をやや多く含む 基本層序Ⅲb層</p> | <p>7 褐色土層 ハイガイを中心とした貝殻・礫を多く含み、
炭化物を少量含む 基本層序Ⅳa層
7.5YR3/2 黒褐色 しまり弱い、粘性やや強い</p> <p>8 黒褐色土層 7層に比べ貝殻・礫の混入が少ない
7.5YR2/2 黒褐色 しまり・粘性やや強い
基本層序Ⅳb層</p> <p>9 黒色土層 礫や貝殻の混入ほぼ無し
10YR2/2 黒褐色 しまり・粘性強い 基本層序Ⅴ層</p> |
|---|---|



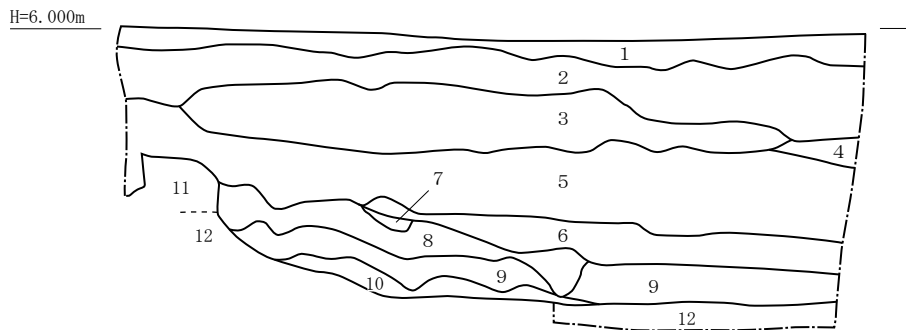
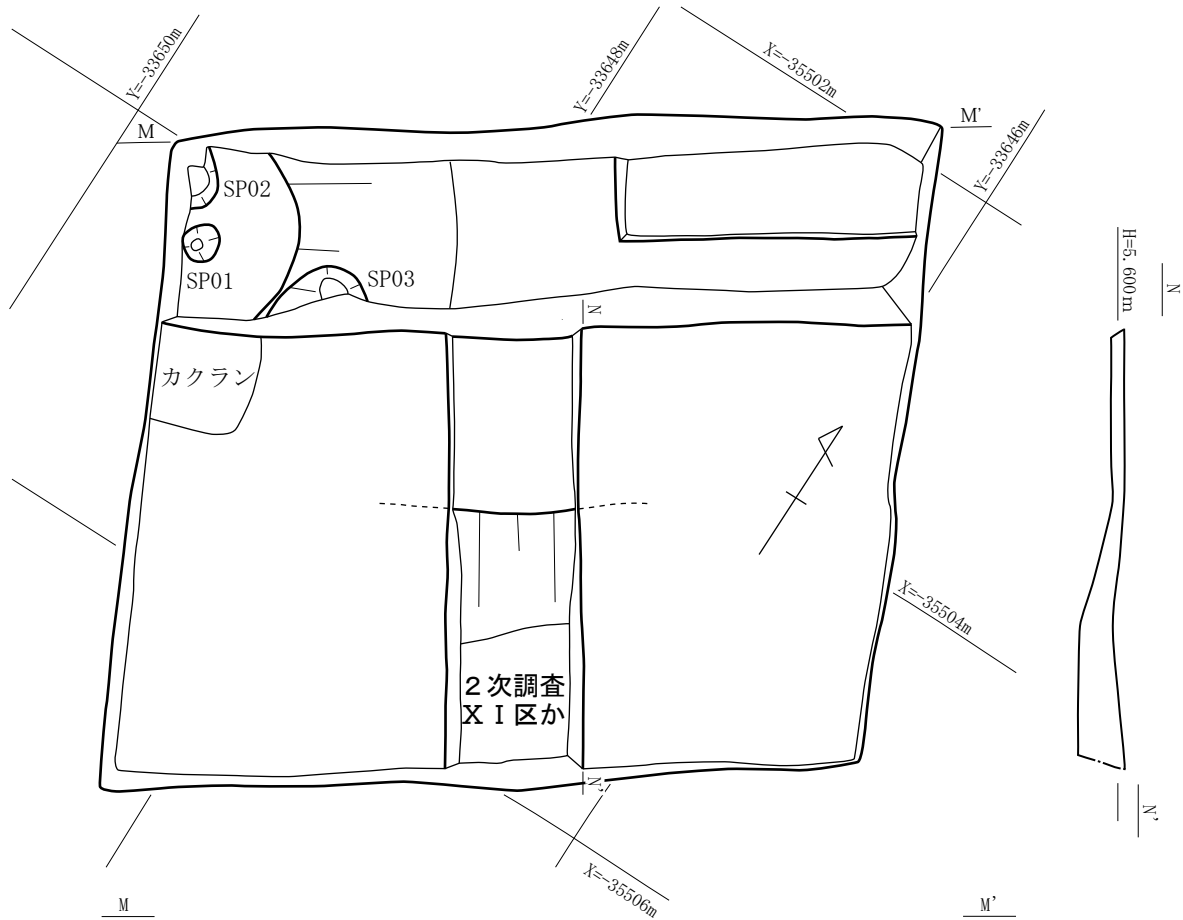
第49図 第4トレンチ(4T)土層断面図(S=1/40)



第50図 第5トレンチ(5T)平面図 (S=1/40)



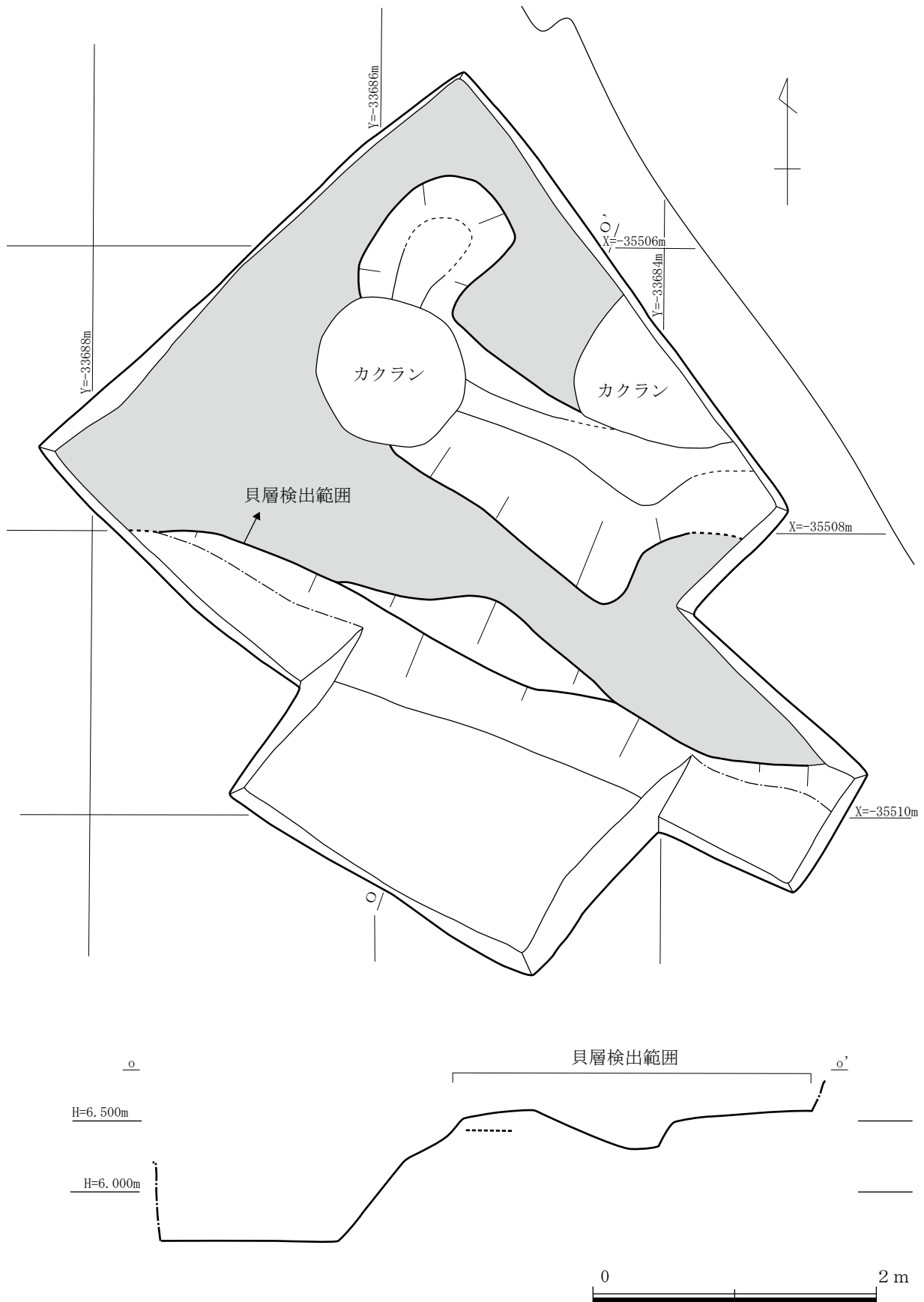
第1節 調査の概要



- | | |
|---|---|
| <p>1 表土 耕作土</p> <p>2 混貝土層 砕けた貝殻を少量含む
10YR2/3 黒褐色 しまり・粘性弱い 基本層序II層</p> <p>3 混貝土層 貝殻・礫を多量含む
貝は破碎していないブロック状の塊を少量含む
10YR3/2 黒褐色 しまり・粘性やや強い</p> <p>4 純貝層 カキ・ハイガイを主体とする
ただし、5層以下の状況によりカクランの一部と判明</p> <p>5 混貝土層 砕けた貝殻をまんべんなく含む 10YR3/2 黒褐色
土師質土器の出土から中世以降の堆積とみられる
SP01～03の覆土はこれに類似</p> <p>6 混貝土層 10YR2/2 黒褐色 しまり弱い
破碎した貝を含むが、5層に比べ少量</p> | <p>7 焼土 微細な貝殻片を少量含む砂質土
5YR4/4 にぶい赤褐色 しまりやや良い、粘性弱い</p> <p>8 混貝土層 10YR2/3 黒褐色 しまり弱い やや砂質</p> <p>9 混土貝層 ハイガイ主体の貝層に黒色土が混ざる
弥生土器を含む</p> <p>10 粘質土 10YR4/2 灰黄褐色 しまり・粘性強い
地山の黄褐色土に少量の黒色土と貝殻が混ざる</p> <p>11 地山 7.5YR4/3～4/4 褐色 固くしめるローム層</p> <p>12 地山 シルト質土に砂が混ざる
10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり強い</p> |
|---|---|



第52図 第6トレンチ(6T)平面図・土層断面図 (S=1/40)



第53図 第7トレンチ（7T）平面図・断面図（S=1/40）

第8トレンチ（8T）

過去の調査区の再発掘を基本とした1T～7Tと異なり、未攪乱の土層・貝層を調査して出土遺物による各層の時期推定を行うことを主な目的として設定した。現地表から深さ1mあまりの地山（ローム層）上面まで調査し、全体を9層に分層した。

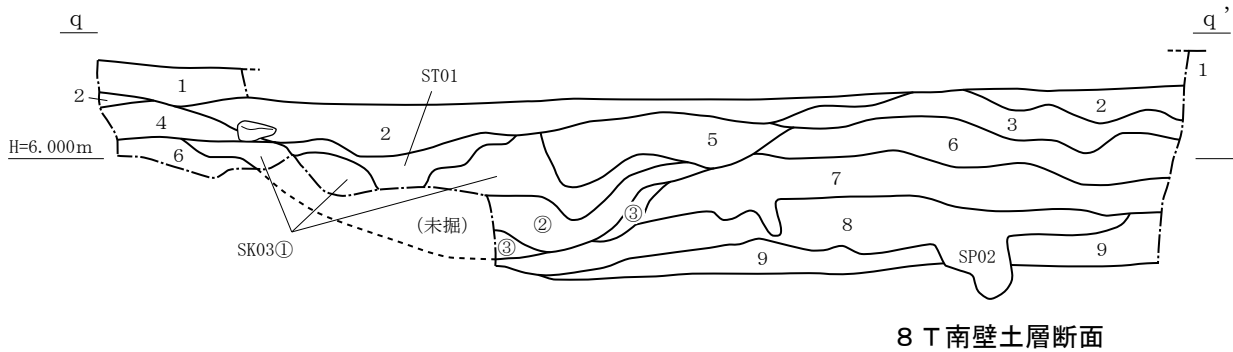
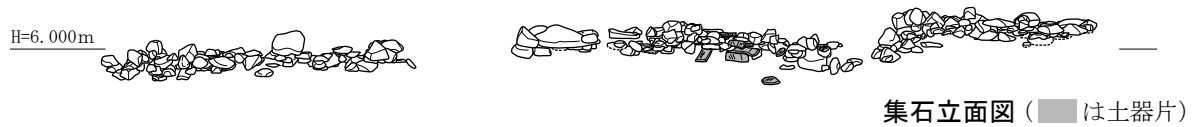
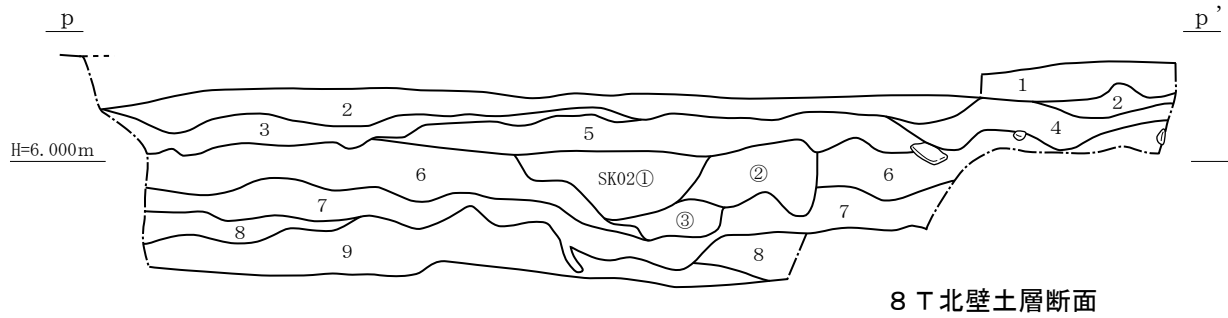
1層は表土、2層は混貝土層で、ここまでが攪乱層である。3層はカキを主体とする純貝層で、基本層序Ⅲa層にあたる。台地の端部に近い西側に向かって層が厚くなる。4層はハイガイ・ハマグリを主体とする純貝層で、基本層序Ⅲb層にあたる。3層とは対照的に、こちらは東側の台地中央寄りを中心に堆積する。5層は貝殻や礫を多量含む暗赤褐色土で、IVa層に似るが、後述するSK02・SK03の掘削に伴う、IVa層の再堆積土とみられる。6層は同じく貝殻や礫を多量含む暗赤褐色土で、基本層序IVa層にあたる。7層は6層に比べ混入物の少ない暗褐色土で、基本層序IVb層にあたる。8層はしまり・粘性のやや強い黒褐色土で、基本層序V層にあたる。9層は砂質土と粘質土が混ざる黒褐色土で、ブロック状に地山のローム土を少量含む。基本層序VI層にあたる。

8T内では複数の遺構が層位的な上下関係を伴って確認された点が最大の成果と言える。3層（Ⅲa層）上面で検出された土坑SK01は、出土した土師質土器により中世以降のものとみられる。4層（Ⅲb層）からは多量の礫が出土した。変色や亀裂等、被熱した痕跡のみられるものが多く、集石遺構に伴う遺物とみられるが、後述する6層中出土の礫群が攪乱されたものである可能性が高い。4層（Ⅲb層）の下から、ほぼ完全な埋葬人骨を伴う土壌墓ST01が検出された。人骨の出土位置だけでなく、土壌そのものがどこから掘り込まれたかを層位的に把握できる点で、重要な遺構である。同じくⅢb層より下で、6層（IVa層）に掘り込まれた遺構としてSK02・SK03がある。これらは多量の貝殻を含む廃棄土坑とみられ、広く貝層が形成される前段階の、スポット的な廃棄の様子を示している。なお、SK03はST01の下部で検出されており、ST01に先行する遺構と言える。6層（IVa層）中からは、トレンチ内のほぼ全域で礫群が出土した。他のトレンチで出土したものと同様、被熱した礫を多く含む集石遺構とみられる。礫群の下、7層（IVb層）では性格は不明ながら土坑SK04が検出された他、8層（V層）から地山に掘り込むSP01・02など、トレンチ底部付近でも若干の遺構が検出された。

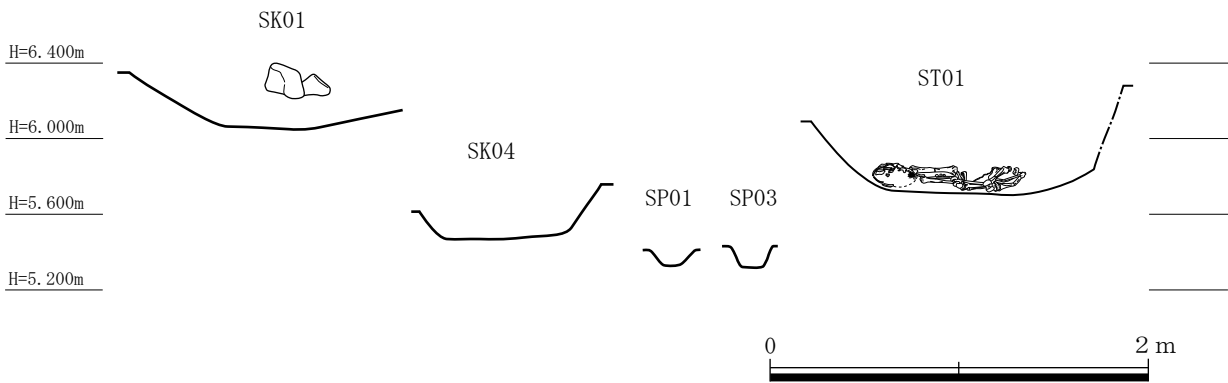
第2節 層序

上記1～8Tの調査により把握された土層・貝層の堆積状況は、場所により多少の違いはあるものの、概ね以下のとおりI層～VI層に大別され、各層の中でさらに細分が可能である。

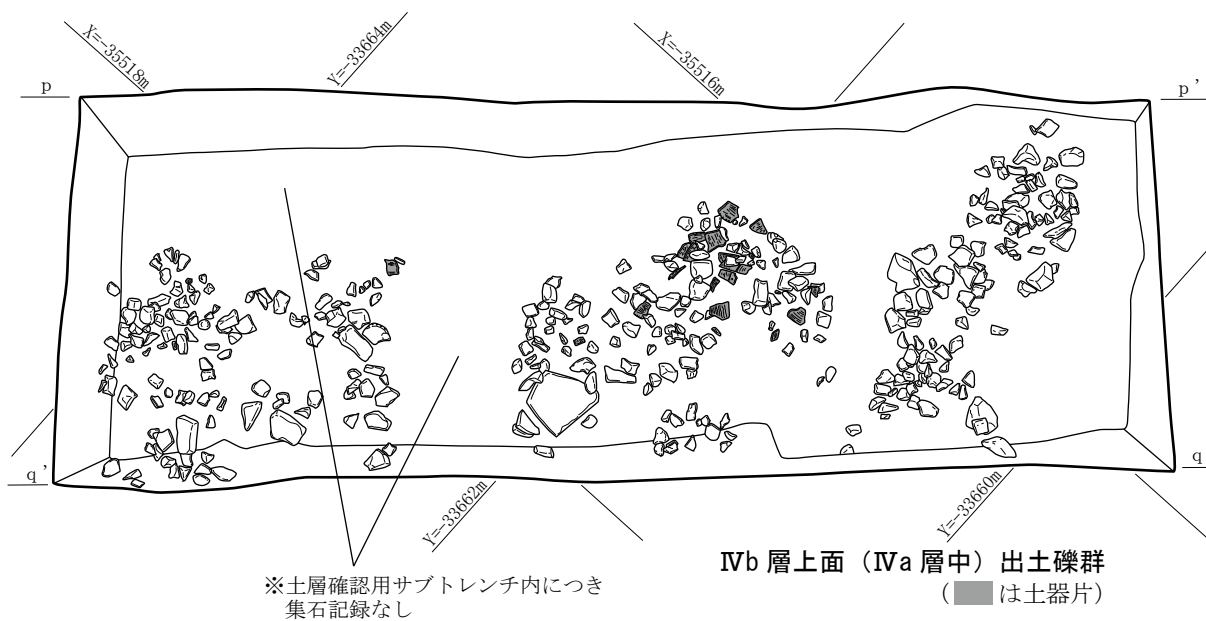
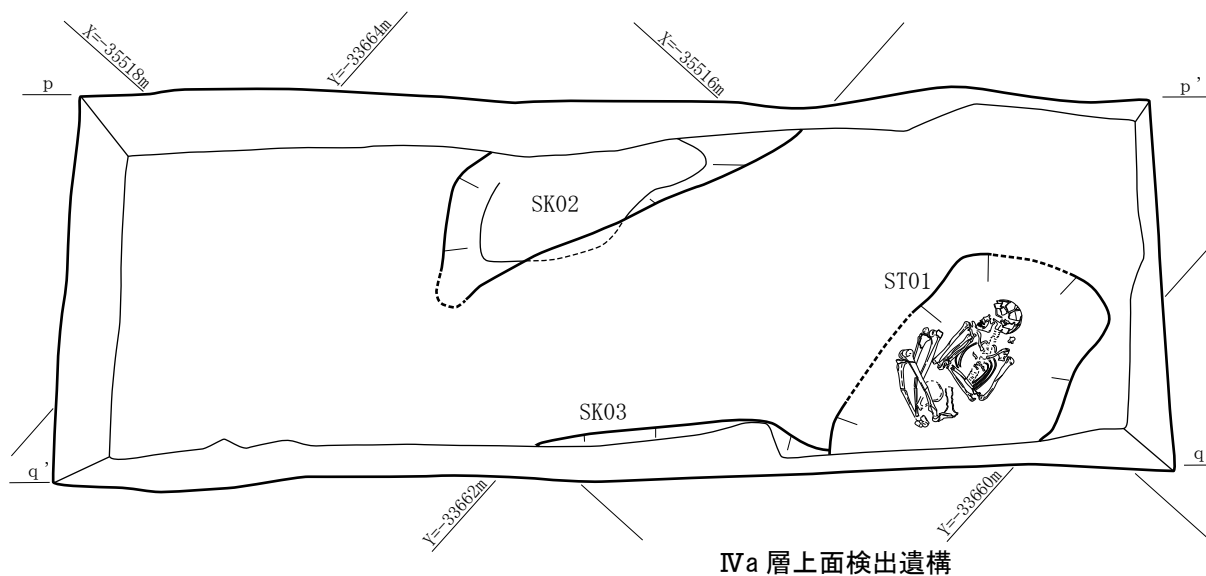
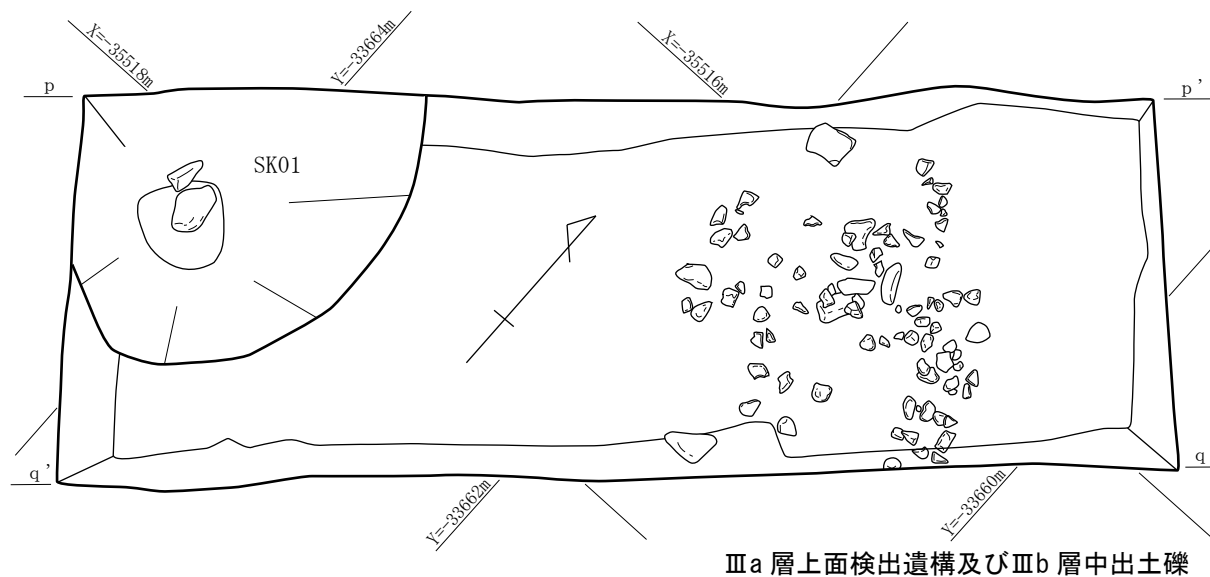
- I層 表土（耕作土）。
- II層 混貝土層。砕けた貝殻を含む黒褐色土層。縄文時代～現代までの幅広い遺物を含む攪乱層。再掘削した過去の調査区の埋土もこれに含まれる。
- III層 純貝層（場所により混貝土層）。カキを主体とするⅢa層と、ハイガイ・ハマグリを主体とするⅢb層に分けられる。Ⅲa層は主に貝塚が立地する台地の南西側斜面付近に分布し、Ⅲb層は南部中央に集中的にみられる。
- IV層 褐色土層。貝殻や礫、炭化物等を多く含むIVa層と、比較的混入物が少なくしまりの良いIVb層に分けられる。IVb層の方がIVa層に比べ色調がやや暗い。IVa層からは集石遺構や焼土を覆土とする土坑が検出された他、土中には獣骨・魚骨をはじめ多くの自然遺物や炭化物が含まれる等、生活の痕跡が最もよく残る。
- V層 黒色土層。しまりが良く、含まれる遺物・自然遺物は少ない。



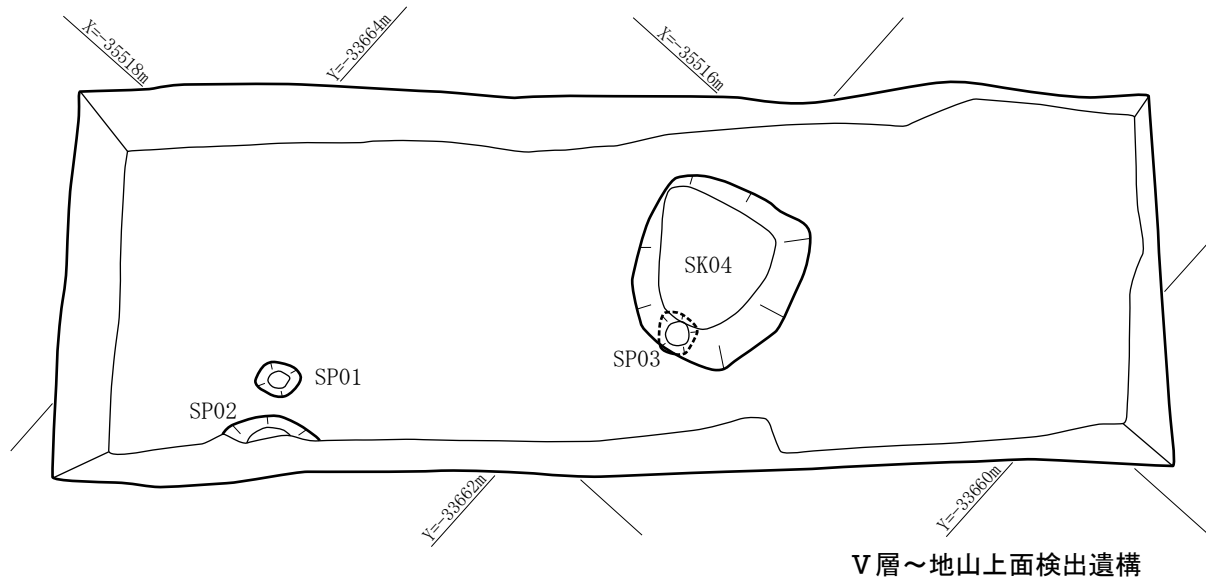
- | | |
|---|--|
| <p>1 表土 耕作土 しまり弱い暗褐色土</p> <p>2 混貝土層 10YR3/3 暗褐色 しまり弱い 基本層序Ⅱ層</p> <p>3 純貝層 カキを主体とし、ハイガイ少量混じる
西側に向かい厚みを増し、堆積の中心は調査区西側とみられる
基本層序Ⅲa層</p> <p>4 純貝層 ハイガイを主体とし、ハマグリなど多く含む
調査区東側を中心に堆積 基本層序Ⅲb層</p> <p>5 5YR3/3 暗赤褐色 しまり・粘性やや弱い
ハイガイを中心とした貝殻・礫・炭粒多量含む
SK02・03 掘削に伴い攪乱された6層土の再堆積土とみられる
SK02①～③・SK03①～③
ハイガイを主体とする貝殻がブロック状に固まって堆積
全体が廃棄土坑とみられ、分層は廃棄単位を示す可能性が高い</p> | <p>6 5YR2/3 極暗赤褐色 しまりやや強い、粘性やや弱い
ハイガイを中心とした貝殻や礫を多量含む
層の中ほどから下部にかけて礫群(集石)出土
基本層序Ⅳa層</p> <p>7 7.5YR3/3 暗褐色 しまり・粘性やや弱い
6層に比べ礫や貝殻の混入少ない 基本層序Ⅳb層</p> <p>8 10YR2/3 黒褐色 しまり・粘性やや強い
混入物ごく少ない黒色土 基本層序Ⅴ層</p> <p>9 10YR3/2 黒褐色 しまり・粘性強い
砂質土と粘質土が混ざり、地山由来のロームブロックを
少量含む 基本層序Ⅵ層</p> |
|---|--|



第54図 第8トレンチ(8T)土層断面図・遺構断面図 (S=1/40)



第55図 第8トレンチ(8T)層別遺構検出状況1 (S=1/40)



第56図 第8トレンチ(8T)層位別遺構検出状況2 (S=1/40)

VI層 黒色土と地山のロームとが混ざる漸移層。遺物は僅少でV層との時期差は不明。

本調査の最も主要な目的は、過去の調査で記録された堆積状況が、情報不足や一部整合しない部分があることによって、現代考古学における検討に十分に堪えない状況である点を整理し直すことにある。以下、その目的に従って上記の基本層序を過去の調査区と比較してみる(第57図)。

まず、上記の基本層序と最も近いのは、昭和41(1966)年の第6次調査である。土層・貝層の特徴や堆積順はほぼ同じで、6次調査における「表土」はI層、「混貝土層」はII層、「純貝層」はIII層、「褐色土層」はIV層、「黒色土層」はV層に対応する。ただし、「純貝層」をIII a層とIII b層、「褐色土層」をIV a層とIV b層に細分した点が、6次調査と12・13次調査の違いである。このうち6次調査の「純貝層」は、カキが主体で阿高式土器を伴うというその特徴から、III a層に相当する²⁾。また、IV b層はIV a層とV層の間断的な色調を呈すことから、一部「黒色土層」として記録されている部分もある(6次AT 24グリッド)。

第2次調査における層序は①「貝殻混じりの耕作土」②「密実なる貝殻の層」③「貝層下有機土」の3層で表現されており、①はI・II層、②はIII層、③はIV層と対応する。③の「有機土」という表現は、IV a層に獣骨・魚骨をはじめとした多量の自然遺物や炭化物を含んでいる点とよく符合する。

第5次調査の土層は、最も残りが良いとされたI tの調査結果を基に①「耕作土」②「純貝層」③「混土貝層」④「貝層」⑤「純黒土層」の5層で記録されている。これを上記の基本層序と比較すると、①はI・II層、②はIII層(III a層?)、③・④はIII層(III b層?)～IV a層の一部、⑤はIV b層～V・VI層に対応すると考えられる。

5次調査I tと6次調査Dトレンチは近接しているにも関わらず、互いに記録された層序が異なることが、これまで轟貝塚における堆積状況の理解を困難にしてきた。主な相違点は、5次調査で貝層が3層に分かれる点、6次調査における「褐色土層」にあたるものが5次調査にはみられない点だが、ここに12・13次調査の基本層序と土層の所見を加えることで、両者の違いを説明することができる。注意すべきはIV a層(≒6次調査「褐色土層」)で、ここには多くの貝殻・獣骨・礫・炭化物等が含まれる。また13次調査8Tで検出したSK02・03のように、IV a層中に掘り込まれた貝殻廃棄土坑など、貝殻が密集して存在する場所が過去の調査でも見えていたかもしれない。これらを「混土貝層」や「貝層」と表現するか、混入物の多い土層として「褐色土層」と表現するかが5次調査・6次調査の層序が異なる主要因と考えられる。そう捉えるこ

5次 熊大調査 (1958) 6次 慶大調査 (1966) 2次 京大調査 (1919) 12・13次 宇土市教育委員会調査 (2014～16)

層位名	特徴	中心となる土器型式	時期
「耕作土」	I層 表土・耕作土	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・埴輪片・陶磁器類ほか	現代
「純貝層」	II層 混貝土層		中世～近現代
「混土貝層」	IIIa層 貝層 (カキ主体)	IVa類 (並木式) IVb類 (阿高式)	縄文時代 中期後葉～後期前葉
「貝層」	IIIb層 貝層 (ハイガイ・ハマグリ主体)	IIIc・IIId類 (藪C・D式)	縄文時代 前期後葉
	IVa-1層 褐色土層 貝殻・骸骨等多く含む アカホヤや二次堆積を含む	IIIc・IIId類 (藪C・D式)	縄文時代 前期後葉
	IVa-2層 暗褐色土 アカホヤや微量・軽石含む	IIIb類 (藪B式)	縄文時代 前期前葉
	IVb層 黒色土	IIIa～IIIb類 (藪A～B式)	縄文時代 早期末～前期前葉
	V層 黒褐色粘質土	IIIa類 (藪A式)	縄文時代 早期末
	VI層 砂質土・粘質土・地山のロームが混じる	IIIa類 (藪A式)	縄文時代 早期末
	地山 黄褐色ローム		

※ IVa-1・IVa-2層は、調査の中で明確な分層による上下関係が把握できなかったものではないが、IVa層は長期にわたる生活面とみられ、前期前葉・後葉どちらの要素も色濃く含んでいる。よって、全体を理解するための一助として便宜上細分するものである。

第57図 第12・13次調査基本層序及び過去の調査との比較

とで、5次調査と6次調査で異なる層序はどちらかが間違っているものではなく、同じ土層に対する記録上の表現の違いと捉えられ、各層及び出土遺物の対比が可能となる。長い調査史を持つ轟貝塚だからこそ、この点は重要で、12・13次調査の主要な成果のひとつと言える。

第3節 遺構

轟貝塚第12・13次調査における掘削は、その多くが過去の発掘調査地点の再発掘であり、新規に広い面積を発掘調査した訳ではないため、面的な遺構検出はほとんど行っていない。それでも、過去の調査において掘削が及んでいない調査区下部やその周辺において若干の遺構が検出されたため、以下にその概要を示す。

なお、遺構名は種類別にアルファベット2文字の略記号と2桁の番号の組み合わせで示し、番号はトレンチごとに01からの通し番号とした。記号はSKが土坑、SPがピット（小穴）、STが土壇墓を示す。特に必要が無い場合はトレンチ名を省略するが、遺構の正式名称としては記号の前に検出したトレンチ名を冠することとする。

(例) 第4トレンチ1号土坑 → 4 T SK01

(1) 土坑

2 T・3 T・4 T・8 Tの各トレンチから、総数10基を検出した。以下、トレンチごとにその詳細を記す。

2 T SK01・SK02

2 T内の、再掘削した第6次調査Cトレンチ1～2グリッド部分の底部で検出した。実際には6次調査時にほぼ完掘されていたとみられ、今次調査では埋土の再掘削と一部を追加掘削した程度である。そのため、調査済みの遺構として改めて遺構名を付すべきでないとも考えられたが、6次調査に伴う報告では土層断面に一部その痕跡が残るのみで、明確な記述が無いため今回改めて遺構として報告する。

SK01と02を合わせて、北西―南東方向にのびる溝状遺構のようにも見えるが、中央で底部が若干立ち上がるため、別々の遺構とした。ただし、遺構上部の平面検出により切り合い関係を確認できていないため、新旧関係は不明である。SK01は上端の直径が約190 cmで、西側の立ち上がりは途中で段をつけて角度が変わる。SK02は上端の直径が約130 cmである。覆土はともにしまりの良い黄褐色粘質土で、トレンチ北壁土層断面により、基本層序IV b層とV層の間に堆積する。遺構の性格は不明で、あるいは人為的なものでない可能性も否定できない。

3 T SK01

3 T北壁際の中央付近で検出した。北側はトレンチ外にのび、西側は攪乱の土坑に切られているため、全体の規模は不明である。検出部分はおおよそ隅丸長方形を呈し、長軸（東西）約1 m、短軸（南北）60 cmを測る。検出面からの深さは約20 cmである。

検出層位は7層上面で、遺構の時期としては6層（基本層序IV a層）に帰属する。周囲の6層中には後述する礫群（集石）が分布しており、関連する遺構の可能性はある。なお、覆土中には砕けた貝殻を多量含むが、焼土その他、炉跡としての性格を積極的に想定するだけの根拠は無い。

3 T SK02

3 T南壁際の中央付近で検出した。南側の一部は調査区外にのびる。直径1 m程度のやや楕円形を呈す土坑で、検出面からの深さは約15 cmである。7層上面で検出し、6層とほぼ同じ褐色土を覆土とする。基本層序IV a層に帰属する。周囲で出土した礫群（集石）と関連する遺構の可能性はあるが、詳細は不明である。

3 T SK03

3 T南壁際の中央付近で、SK02 と半ば重なって検出された。検出部分がわずかであるため、遺構全体の規模・形状は不明である。時期・性格ともにSK02 と近いものであると推察されるが、詳細は不明である。

4 T SK01

4 T南東隅の壁際で検出した土坑である。調査区外にのびるため遺構全体の正確な規模は不明だが、検出部分は直径80 cmあまりを測る。7層中から8層に掘り込まれており、基本層序IV a層に帰属する遺構と言える。覆土は貝殻や礫を多量含む焼土であり、①焼けた貝殻や礫を含む黒色炭化物層、②貝殻片を多量含む明橙色焼土、③粒子の粗い砂の3層に分けられる。厳密には②・③層は焼土と炭化物がきわめて薄い層状に堆積しており、土坑の使用（火を伴う加熱調理か）が1回でなく複数回行われた可能性が考えられる。土坑の周囲では礫群（集石）が出土しており、関連する遺構である可能性が高い。

8 T SK01

8 T南西部にて、基本層序III a層とみられる貝層の上面で検出した。一部調査区外にのびるが、検出された範囲で最大直径約2 m、検出面からの深さ約30 cmを測る。底部に回転糸切り離し痕が残る土師質土器の坏が出土したことにより、遺構の時期は中世以降と考えられる。土坑内中央で直径20 cm程度の安山岩礫が出土しているが、土坑の底部からは浮いた位置にあり、特に土坑に伴うものではなく埋没過程で混入したものとみられる。

8 T SK02

8 T北西壁の中央付近で検出した。上部はIV a層に似る褐色土に覆われ、覆土にはハイガイを中心とした多量の貝殻を含む。検出当初、IV a層の下部に存在する貝層かと思われたが、貝の分布は限定的で、貝の出土に沿って掘り上げた結果、不定形の土坑状の落ち込みが検出された。これにより、遺構を覆っていた褐色土は掘削されたIV a層の再堆積土と判断した。土坑はトレンチ外部にのびるため、全体の規模・形状は不明だが、検出された範囲で上端の最大径は約1.8 mを測る。北西から南東方向へやや斜めに落ち込み、下端の一部が上端より外にはみ出す様子は、いわゆる袋状土坑やフラスコ形土坑と呼ばれる貯蔵・廃棄用の土坑を彷彿とさせる。実際、覆土に多量の貝殻を含む様子から、SK02 が廃棄土坑である可能性は高いとみられ、貝殻の密集する部分と土が混じる部分との差は、廃棄の単位を示すと考えられる。

8 T SK03

8 T南東側の壁際で検出した。遺構の大部分が調査区外にのびるため、平面形や全体の規模等は不明だが、土層断面上で、4層（III b層）の下部から6層（IV a層）に掘り込まれた直径2.4 m程度の土坑であることが把握された。SK02と同様、ハイガイを主体とする多量の貝殻が密集して出土しており、同じ性格の遺構と考えられる。5号人骨が出土したST01との上下関係により、これに先行する遺構であることがわかる。

8 T SK04

8層（V層）上面で検出した。直径90 cmあまり、検出面からの深さ約30 cmを測る。やや粘性の強い黒褐色土を覆土とする。礫や焼土など、遺構の性格を推定できるような痕跡は無いが、比較的大型の轟式土器片がまとまって出土した。

(2) 小穴（ピット）

調査区全体で7基のピットが検出された。調査面積が限られるため、いずれもほぼ単独の検出であり、位置関係から建物などの存在を推定できるものはない。以下に、それぞれの検出位置や層位等について記述する。

4 T SP01

4 T東部、SK01のすぐ横で検出した。直径約30 cm、検出面からの深さ約20 cmを測る。周囲で検出したSK01や礫群と同様、IV a層に帰属する。

- 6 T SP01 ~ 03 6 T北壁際のサブトレンチ内で、地山上面から検出した。SP01・02は東に向かって地山が落ち込む法肩付近で、SP03は斜面中で検出した。覆土はいずれも5層に類似した黒褐色土で、5層から出土した土師質土器により中世の遺構と考えられる。
- 8 T SP01 ~ 03 地山上面で検出した。SP01・02は直径20 cmあまり、検出面からの深さ約10 cmで類似しており、関連する遺構の可能性はある。SP02は調査区南東側の壁際で検出され、土層断面により8層（V層）から掘り込まれたものと判断される。

（3）礫群（集石遺構）

2 T・3 T・4 T・5 T・8 Tの各トレンチで、安山岩を中心とする多数の礫が密集して出土した。被熱によるとみられる変色や亀裂があるものが相当数含まれることから、人為的に集められ、火を伴って使用された、いわゆる集石遺構の一種と判断した。検出層位は、2 Tのみ基本層序IV b層で、他は全てIV a層中から出土した。

礫群はトレンチ内のほぼ全域に分布し、トレンチ外にも続いている。密集具合に多少の濃淡があり複数の単位に分かれるとみられるが、ほぼ切れ目なく分布するため、それぞれの礫がどの群に属すかを客観的に区別するのは困難である。また、3 Tをはじめ再掘削した過去の調査区の下で検出されたものに関しては、上部の攪乱が激しく検出レベルも一定していない。よって本書では礫群を「●号集石」といった個別の遺構としては区別せず、トレンチ単位で概要を述べることにする。

2 T集石

2 T内で検出した第6次調査Aトレンチ22グリッド内で、基本層序IV b層中から出土した。IV a層中で礫群の一部が検出された当初、広く掘り下げて礫群の全体を把握することも考えられたが、同グリッド内には、学史上特に重要と言える6次調査1号人骨が出土した土壌が良好に残っており、今後の史跡整備・活用を念頭にこれを破壊すべきでないとは判断した結果、トレンチ内の一部にサブトレンチを設け、その中だけでの検出に留めた。約90 cm×120 cmの範囲で、総数94点の礫を検出した。石材は全て安山岩で、うち20点に被熱によるとみられる変色や亀裂が確認された。部分的な検出のため全体の規模や土坑の有無等は不明である。

3 T集石

2次調査の調査区跡とみられる攪乱層を掘り下げた後、下部のIV a層中から出土した。深く攪乱が入るトレンチ中央を除き、トレンチ内の全域に礫の分布がみられる。記録はIV b層上面に張り付いた状態のものを中心に行い、IV a層中に浮いた状態のものは掘削途中で随時取り上げたが、これも相当数に上る。記録した礫は総数895点を数える。石材は877点が安山岩、4点が頁岩、6点がチャート、3点が花崗岩、3点が凝灰岩、2点が砂岩である。変色・亀裂など被熱の痕跡がみられたものは388点あり、全体の4割超に及ぶ。無秩序に散乱したような出土状況からみて、礫のほとんどは使用後に崩された複数単位の集石が混ざり合って堆積しているとみられる。ただし、トレンチ東端付近などに一部、比較的大型の礫が密集する部分があり、これらについては使用時の状況を留めている可能性がある。礫群が土坑を伴う集石土坑（集石炉）であったかは不明だが、同じ層位に帰属するSK01～03は関連する遺構である可能性がある。ただし、土坑内部から礫や焼土の出土は無かった。

4 T集石

4 T内、2次調査VI区とみられる調査区跡の下部で出土した。帰属する層位は基本層序IV a層である。2 T・3 Tほど密集した状態ではなく、出土した礫は約2.8 m²中で89点と、他のトレンチより比較的散漫な分布状況である。このうち、石材は全て安山岩で、うち被熱の痕跡が見られたものは1点のみである。分布状況

第4節 出土遺物

から、北西側の一群と南東側の一群に大別され、特に南東側の群は焼土を覆土とする SK01 と関連する遺構である可能性が高い。

5 T 集石

トレンチ南東部を中心に、IV a 層中から出土した。近接する 3 T で出土した礫群とつながる一連の遺構とみられ、その西端部にあたる。ただし、2次調査に伴う掘削で礫群の一部は破壊されているとみられ、出土状況にみえる空白部分は必ずしも本来の配置や集石の単位を示すものとは限らないため注意が必要である。

検出・記録した礫は総数 83 点で、うち安山岩が 78 点、頁岩が 4 点、チャートが 1 点である。このうち、被熱の痕跡が見られるものは全体の 6 割を超える 51 点含まれる。集石に伴う土坑は検出されなかった。

8 T 集石

IV a 層中から出土した。トレンチ内全域に分布し、トレンチ外にも続いているとみられる。埋没過程で原位置から動いたとみられる、土中に浮いた状態のものを除外し、相互に組み合っているもの、下位の IV b 層上面に乗っているもの等、可能な限り本来の位置関係を保っているものに限定して記録作業を行った。記録された礫は総数 350 点を数える。石材の内訳は安山岩が 313 点、チャートが 14 点、凝灰岩が 10 点、砂岩が 11 点、花崗岩が 1 点、片岩が 1 点である。また、全体の 6 割あまりにあたる 231 点について変色・亀裂など被熱の痕跡が認められた。集石に伴うとみられる土坑は確認されなかった。

(4) 土壙墓 (1号～5号人骨)

第 12・13 次調査を通して、計 5 体分の人骨が出土した。うち 1 号～4 号人骨は 3 T から、5 号人骨は 8 T からの出土である。出土人骨の詳細は第 5 章で述べるが、以下に検出層位や土壙について、考古学的な所見を中心に述べる。

1～4 号人骨は、3 T 内東寄りの一画で、IV a 層で出土した礫群の下位から出土した。いずれも仰臥屈葬の姿勢をとる埋葬人骨で、帰属する層位は IV b 層である。人骨の切り合い関係から埋葬順は 4 号→1 号→2・3 号で、2 号と 3 号は直接の上下関係が無いため埋葬順は不明である。密集した出土状況から、これらの人骨は同時埋葬の可能性が考えられるが、注意して観察した上でも土壙のプランは検出できなかった。単に土色に紛れて認識できなかった可能性も残るが、土壙を伴わないことを事実として捉えれば、土壙による地下埋葬でなく、盛土等による地上埋葬の可能性も視野に入れる必要がある。2 号人骨の脚部など、骨の一部が礫群と同じレベルに突出して発見された背景に、埋葬された盛土を削平して礫が敷かれた可能性が考えられる。

5 号人骨は 8 T 東部の一画で出土した。当初、トレンチ北東側の壁中に骨の一部が出土し、全体を検出するためトレンチを拡張した結果、仰臥屈葬の姿勢をとる、ほぼ完全な形の埋葬人骨が出土した。また、人骨の検出に際し土壙のプランと上端の層位にも留意した結果、貝層 (III b 層) の下から掘り込まれた土壙を検出し、これを土壙墓 ST01 とした。土壙の覆土中には礫も多く含まれ、一見すると、土壙が礫群より先行するようにも見えるが、これは土壙を掘削する際に礫の一部が動かされ、埋葬後の埋め戻しに伴って紛れ込んだものと捉えられる。なお、人骨取り上げ後の土壙底部では、SK03 の覆土である多量の貝殻が検出され、これにより ST01 が SK03 より後出する遺構であることがわかる。

第4節 出土遺物

(1) 出土遺物の概要

轟貝塚第 12 次・13 次調査を通して多くの遺物が出土した。遺物の総量は整理前の袋詰め状態でコンテナ

106箱分に及ぶ。

遺物の時代は縄文時代が多くを占めるが、他にも弥生時代から中世まで、幅広い時期の遺物がみられる。その多くは土器であり、縄文時代早期から後期までを含む縄文土器に加え、弥生土器、土師器、瓦質土器等が含まれる。

土器ほどの数量は無いが、石器・石製品も多数出土した。器種は石鏃・石匙・削器・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石・石皿・砥石・石錘・双角状礫器と若干の石製品で、出土数の多寡はあるものの、狩猟・伐採・製粉・加工・漁撈といった、様々な生業に関わる道具が含まれる。なお、剥片と若干の石核も出土しており、遺跡内で石器の加工が行われたことを示唆しているが、今回これらについては図化・掲載していない。

骨角器については出土数が少なく、製品として確認したものは図示した2点のみである。包含層中に多量の獣骨が含まれることと対照的である。ただし、獲物の解体や骨髄食に伴うとみられる傷、いわゆるカットマークが残る獣骨は別に若干数みられる。貝製品は貝輪を中心に8点が出土している。

これらの遺物のうち、比較的残りの良かった1378点（土器・土製品1150点、石器・石製品218点、骨角・貝製品10点）について以下に詳述する。掲載順は1Tから8Tまでのトレンチ順を基本とし、トレンチ内をさらに層位別に分けることを原則とする。

(2) 土器の分類

出土した縄文土器の分類は、ほぼ同じ地点の調査を含む第6次調査の報告（宇土市教育委員会2008）における分類に準拠し、一部について若干の変更を行った。

出土した縄文土器は大きくⅠ～Ⅶ類に分類され、うち可能なものについて細分を行った。以下にその分類の概要を示し、調査区ごとの個々の出土遺物については後述する。なお、6次調査報告に含まれるもので、今回報告する12・13次調査では出土していないものもあるため、分類として存在するが、該当する遺物が無いものもある。調査報告としてはやや不自然だが、過去の調査との比較検討を念頭に、敢えてそのまま掲載した。また、報告する遺物の多くは小破片であり、器形全体の復元ができるものをほとんど含まないことから、分類は主に文様を中心に行った。

Ⅰ類 押型文系土器群

原体の円周に文様を彫刻し、それを回転押捺することで土器表面に施文した土器群である。鋸歯状の三角波状文を彫刻し山形押型文を施文したⅠa類と、交差する格子目状の刻みにより格子目押型文を施文したⅠb類、円形や楕円形の彫刻による楕円押型文を施文したⅠc類に細分した。

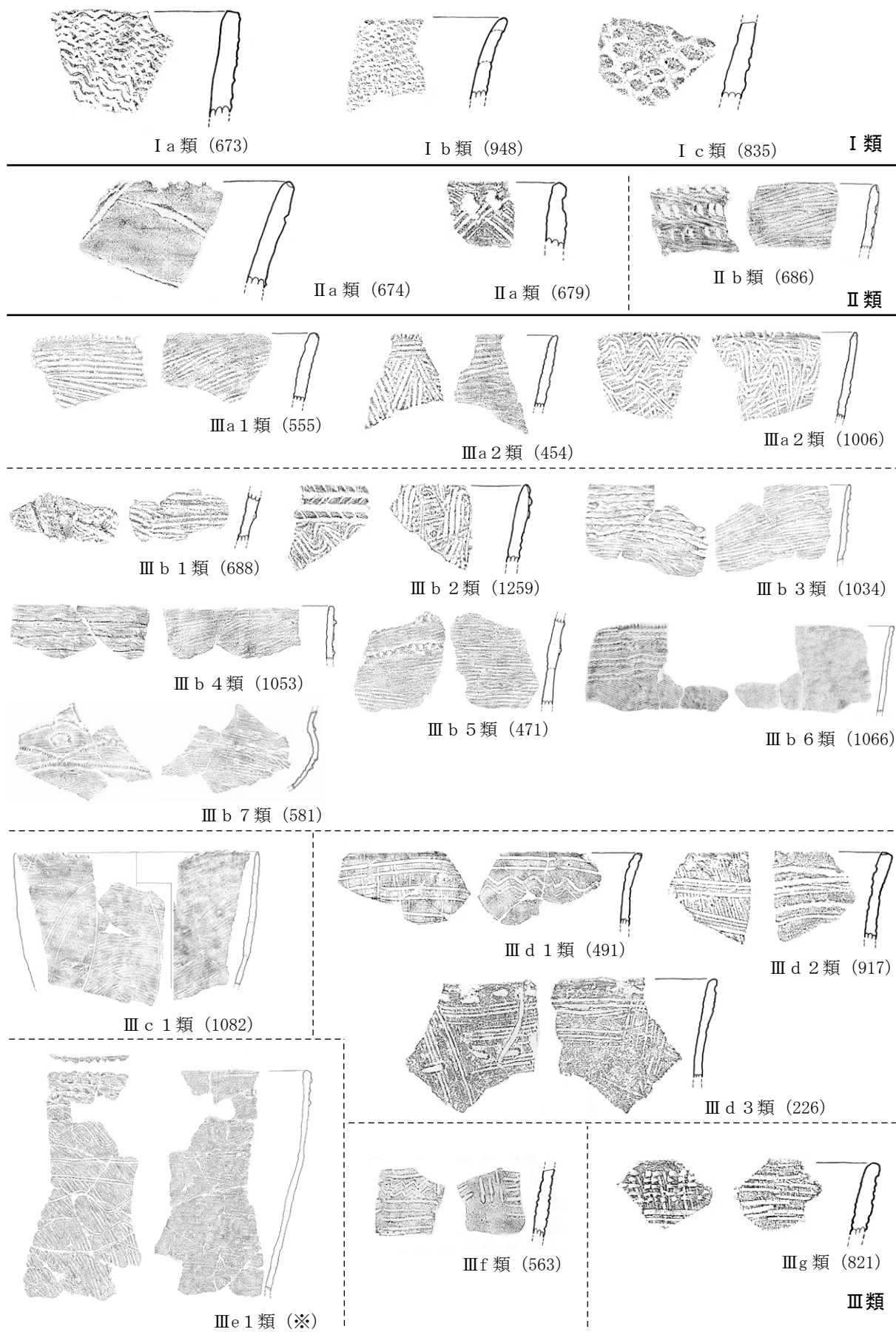
Ⅱ類 貝殻文系土器群

口縁部外面に貝殻腹縁による刺突文や押引文、沈線文などを施した土器群である。一部の沈線を除き面的な貝殻条痕を施さないⅡa類と、下記のⅢ類につながる地文としての貝殻条痕がみられるⅡb類に分けられる。塞ノ神式土器に相当する。

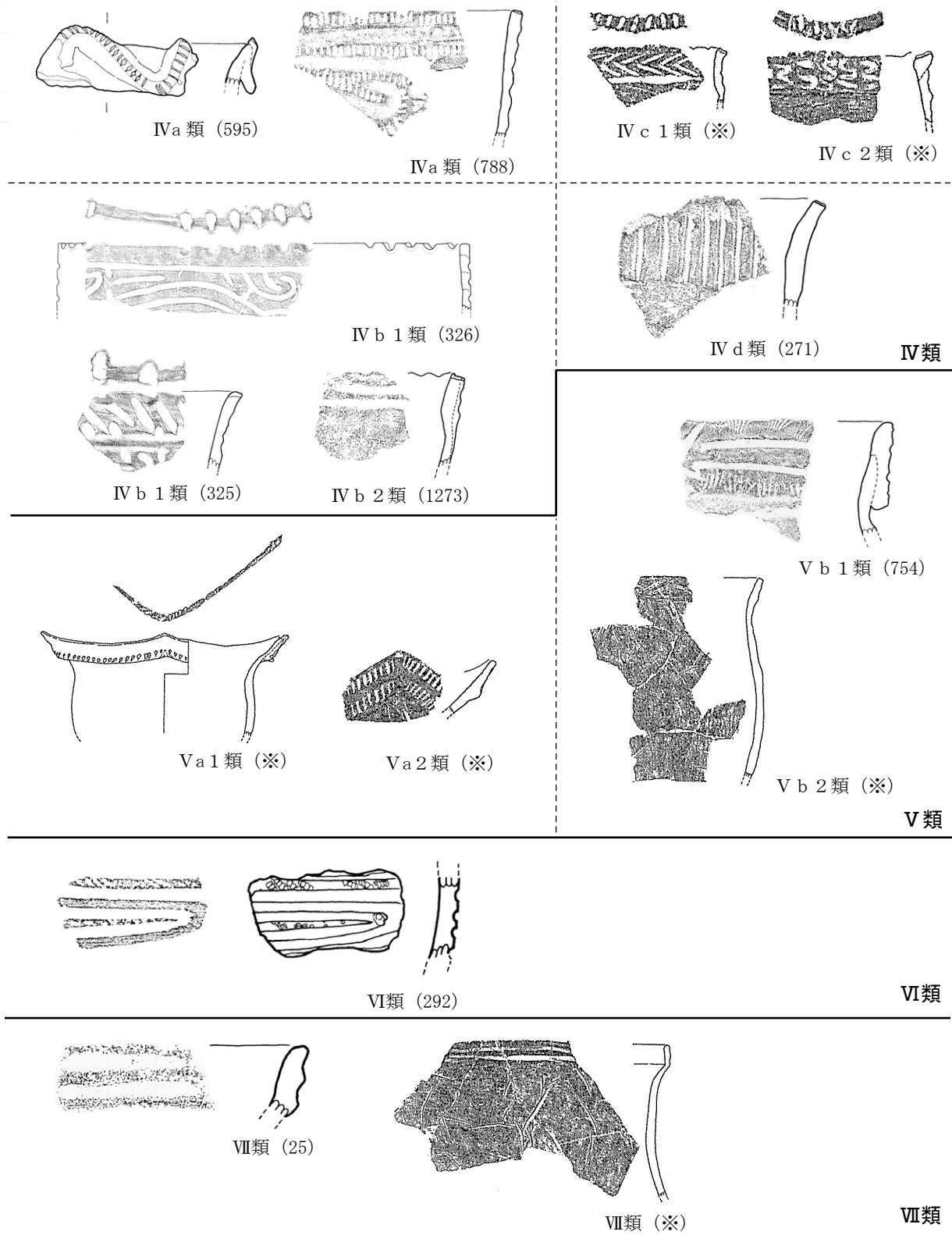
Ⅲ類 轟式系土器群

深鉢形を呈し、地文にハイガイ等フネガイ科の貝殻腹縁を用いた貝殻条痕を施すものや、その系譜上に位置づけられる土器群である。施文の技法や文様からⅢa～Ⅲg類に分けられ、それぞれが更に細分できる。

Ⅲa類：内外の器壁に貝殻腹縁による強い条痕を施す。斜めや横方向など、不定方向の条痕を施すⅢa1類と、綾杉状や曲線状といった、文様的な意匠を含む規則的な条痕を施すⅢa2類に分けられる。胎土にはやや大きめの砂粒が混じり、他のⅢ類の土器に比べやや器壁が厚い。轟A式土器に相当する。



第58圖 出土土器分類圖1



() 内の数字は遺物番号を示す。

(※) は、宇土市教育委員会 2008『轟貝塚』宇土市埋蔵文化財調査報告書第30集から引用した轟貝塚第6次調査出土遺物。

第59図 出土土器分類図2

Ⅲ b 類：器外面に隆起帯文(以下「隆帯」)が施されるもの。隆帯の太さや施文技法により細分が可能である。主にアカホヤ火山灰層より上層で出土する、いわゆる轟B式土器に相当するが、Ⅲ b 1 類・Ⅲ b 2 類についてはアカホヤ火山灰層より下層から出土する微隆起帯文土器や西之藪式土器に相当する可能性がある。

Ⅲ b 1 類：横位や縦位，斜位の隆帯を器外面に多数貼り付けるもの。隆帯は小規模な微隆起帯文が多い。

Ⅲ b 2 類：口縁端部に近い位置に，やや高く突出する隆帯を1～2条並行してめぐらせるもの。隆帯上に連続する刻み目を施し，貝殻腹縁による横位・縦位・曲線状の強い貝殻条痕を伴うものが多い。

Ⅲ b 3 類：口縁部を中心に隆帯を数条貼り付けるもの。

Ⅲ b 4 類：口縁部を中心に微隆起帯文を数条貼り付けるもの。

Ⅲ b 5 類：隆帯上に刻み目や刺突文を施すもの。

Ⅲ b 6 類：粘土紐貼り付けによらず，器表面の摘み上げや上下に強い沈線や押引文を施すことで微隆起帯文を造り出すもの。

Ⅲ b 7 類：縦位・横位・渦巻状など多様な隆帯と刺突列点，押引文等を施し，胴部中央で器壁が屈曲する独特の器形を持つ。轟B式土器の中で，単純な砲弾形のものとは区別して呼ばれる「屈曲型」に相当する。

Ⅲ c 類：地文の浅い貝殻条痕が残り，そこへ波状文を主体とする曲線文を施す。波状文の振幅が比較大きいⅢ c 1 類と，振幅が小さいⅢ c 2 類に分けられる。轟C式土器に相当する。

Ⅲ d 類：外面や口縁部内面に短直線文や2本単位の波状沈線，刺突列点文や押引文といった文様を持つもの。地文の浅い条痕が残るものと残らないものがある。沈線と刺突列点文の関係等から，以下のとおり細分できる。

Ⅲ d 1 類：外面や口縁部内面に短直線や波状沈線を施す。沈線は2本単位のものが多く，また下方に膨らむ弧状を呈するものが多い。刺突列点文は施さないが，一部押引文が施されるものがある。

Ⅲ d 2 類：Ⅲ d 1 類のような細めのへら状施文具を用いず，幅広の施文具でやや浅めの沈線ないし条痕状の沈線を施すもの。

Ⅲ d 3 類：沈線は施されず，刺突列点文だけの文様構成のもの。文様から見る限り，Ⅱ類に似た文様構成のものが存在するため注意が必要である。

Ⅲ e 類：隆帯と沈線を組み合わせたⅢ e 1 類や，隆帯がなく直線と弧状の細い沈線を組み合わせたⅢ e 2 類がある。器壁は薄い。野口式土器に相当する。

Ⅲ f 類：外面全面に列点文や平行する直線文を組み合わせた幾何学的な文様が施されるもの。曾畑式土器に相当する。

Ⅲ g 類：外面や口縁部内面にフネガイ科貝類の貝殻腹縁を用いた押引文を帯状に施したもの。粘土紐を貼り付けるものをⅢ g 1 類，貼り付けないものをⅢ g 2 類とするが，今回報告する中にⅢ g 2 類は含まれない。尾田式土器に相当する。

Ⅳ類 阿高式系土器群

外面に凹線文・凹点文を主体とする文様を施す土器群。凹線文から変化したとみられる沈線文を施すものも含む。胎土中に多量の滑石を含むものがある。Ⅳ a ～Ⅳ d 類に分類できる。

Ⅳ a 類：凹線文間に爪形の刺突や押引文を加えた文様を主体とし，粘土貼り付けによる隆帯やその上部に

刻目を施すものもある。胎土には多量の滑石を混入する。並木式土器に相当する。

IV b 類：口縁部を中心に凹線文や凹点文を施す。凹線文には縦・横・斜位の直線文や入組文、渦巻文などがある。口唇部に凹点文を施すことで、口縁部が波状を呈するものが多い。胎土中に滑石を混入するものもある。器形は平底の深鉢形を呈すとみられる。阿高式土器に相当し、文様帯の幅から以下のように細分できる。

IV b 1 類：文様帯が口縁部から胴部上位にまで及び、凹点や横位の凹線文で文様帯と無文部が明確に区別される。

IV b 2 類：文様帯が口縁部に限られ、胴部に比べて口縁部が肥厚するもの。

IV c 類：口縁部に細めの凹線文や太めのへらで施文する土器群で、逆S字状文や縦位・斜位の直線文等を施す。南福寺式土器に相当する。

IV d 類：深鉢形で、口縁部文様体にへら状の施文具を用い、直線的な短沈線文を面的に施文する土器群。出水式土器に相当する。

V 類 市来式系土器群

口縁部が突帯状に肥厚する貝殻条痕文系の土器群。口縁部外面に短沈線や爪形文、貝殻文を施す。深鉢がほとんどで、口縁部は外反する。

V a 類：山形口縁のもの。口縁部に粘土帯を貼り付けるV a 1 類と、粘土帯を貼り付けずに肥厚するV a 2 類に分類できる。

V b 類：平口縁のもの。口縁部に粘土帯を貼り付けるV b 1 類と、粘土帯を貼り付けずに肥厚するV b 2 類に分けられる。

VI 類 磨消縄文系土器群

器面に縄文を施した後、一部を磨り消して文様を表現する磨消縄文を持つ土器群である。6次調査報告ではVI a～VI d 類の4つに分類し、それぞれ鐘崎式・北久根山式・福田K 2式・西平式に相当するとしているが、今次報告の中では詳細不明な小片のみであるため、詳細な分類はしていない。

VII 類 黒色磨研土器群

器面を丁寧に磨き、黒色に仕上げることを意図する黒色磨研技法を用いる土器群。口縁部が「く」の字形でやや内傾気味に屈曲し、頸部は弧状にくびれて胴部に至る。口縁部に2～3条の平行沈線がめぐる。御領式土器に相当する。

縄文時代以外の土器

縄文時代以外の土器として、調査地点により数に偏りはあるが、弥生土器・土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器類がある。このうち、小片ながら比較的出土数の多い弥生土器の甕片について、口縁部外面の突帯形状により以下のとおり分類した。なお、この分類は宇土市石ノ瀬町に所在する石ノ瀬遺跡出土遺物を用いた分類（川口 2001）に基づき、一部変更を加えたものである。

I 類：口縁部に小さな断面三角形の突帯が施されるもの。突帯上面は平坦で、口唇部に刻目を施すものがある。口縁部内側は突出せず、突帯と胴部外面との境は完全にナデ消されていない。

II 類：突帯がI 類よりも大きく、傾きが水平なもの。突帯上面は平坦で、断面の形状にはいくつかのバリエーションがある。口縁部内側が突出しないII a 類と、突出するII b 類に細分できる。

III 類：突帯が「く」の字状に上方に傾くもの。突帯の形状はII と同じ。口縁部内側は突出しない。

IV 類：「く」の字に傾く突帯の内側が小さく突出するもの。

V 類：「く」の字に傾く突帯の内側が強く突出するもの。

VI 類：「く」の字に傾く突帯の上面が、強くナデられることにより浅く窪み、内側が強く突出するもの。

Ⅶ類：「く」の字に傾いた突帯の上面が、反り返るように強く窪むもの。

(3) 轟貝塚第12・13次調査出土の土器

1 T I・II層出土土器 (第60～63図)

199～201は貝殻腹縁による施文が施されたⅡ類である。199は押引文、200は平行する沈線文が施されるⅡa類、201は内外面に貝殻条痕を地文として施し、貝殻腹縁による刺突を加えたⅡb類である。

202は内外面に貝殻条痕を施すⅢ類で、縦・横・斜めなど規則的に施文される様子からⅢa 2類に分類できる。

203～211は貝殻条痕の上に隆帯を施すⅢb類である。うち203は縦方向の微隆起帯文を複数施すⅢb 1類である。204～206はⅢb 2類で、口縁部外面に比較的高く突出する隆帯を施し、その上面に刻み目を施す。206は隆帯の下に波状の曲線文がみられる。207はⅢb 3類で、口縁部外面に断面三角形の隆帯が平行して2本みられる。208～211はⅢb 5類である。208は貝殻による波状の条痕を全面に施すもので、これ自体に隆帯は無いが、後述する8 T SK02で出土した1297(第117図)等、同じ文様と刺突を施した隆帯が同居する資料がみられることにより分類した。209は隆帯上に刻み目を、210は丸い棒状工具によるとみられる刺突を、211は断面三角形の工具による刺突を隆帯上に施す。

212～214は、薄い貝殻条痕の地文に曲線状の条痕を施すⅢc類である。うち212は振幅の大きさからⅢc 1類に分類される。

215～219はⅢd 1類である。215・216は口縁下部に横方向の沈線を施す。217は横方向の直線と波状の沈線及び斜め方向の直線的な沈線で施文されている。218は縦方向に貝殻条痕を施した後、横方向に平行する複数の沈線を施す。219は横・縦方向に細い沈線を施す。

220はⅢd 2類である。斜行する条痕の上に横方向の隆帯及び沈線を施す。隆帯上には連続して刺突を施し、沈線は比較的幅広の工具による。

221・222・226はⅢd 3類である。221には浅い条痕が地文として残るが、222にはみられない。どちらも棒状工具によるとみられる刺突を横方向に連続して施す。226は縦・横方向の条痕の後、上下2列の刺突列点を施す。

223～225は特に細分しなかったⅢd類である。223は横方向の条痕の後、縦方向の沈線を施す。わずかながら棒状工具によるとみられる刺突も施される。224はナデ調整された器面に押引文に近い連続刺突が施される。

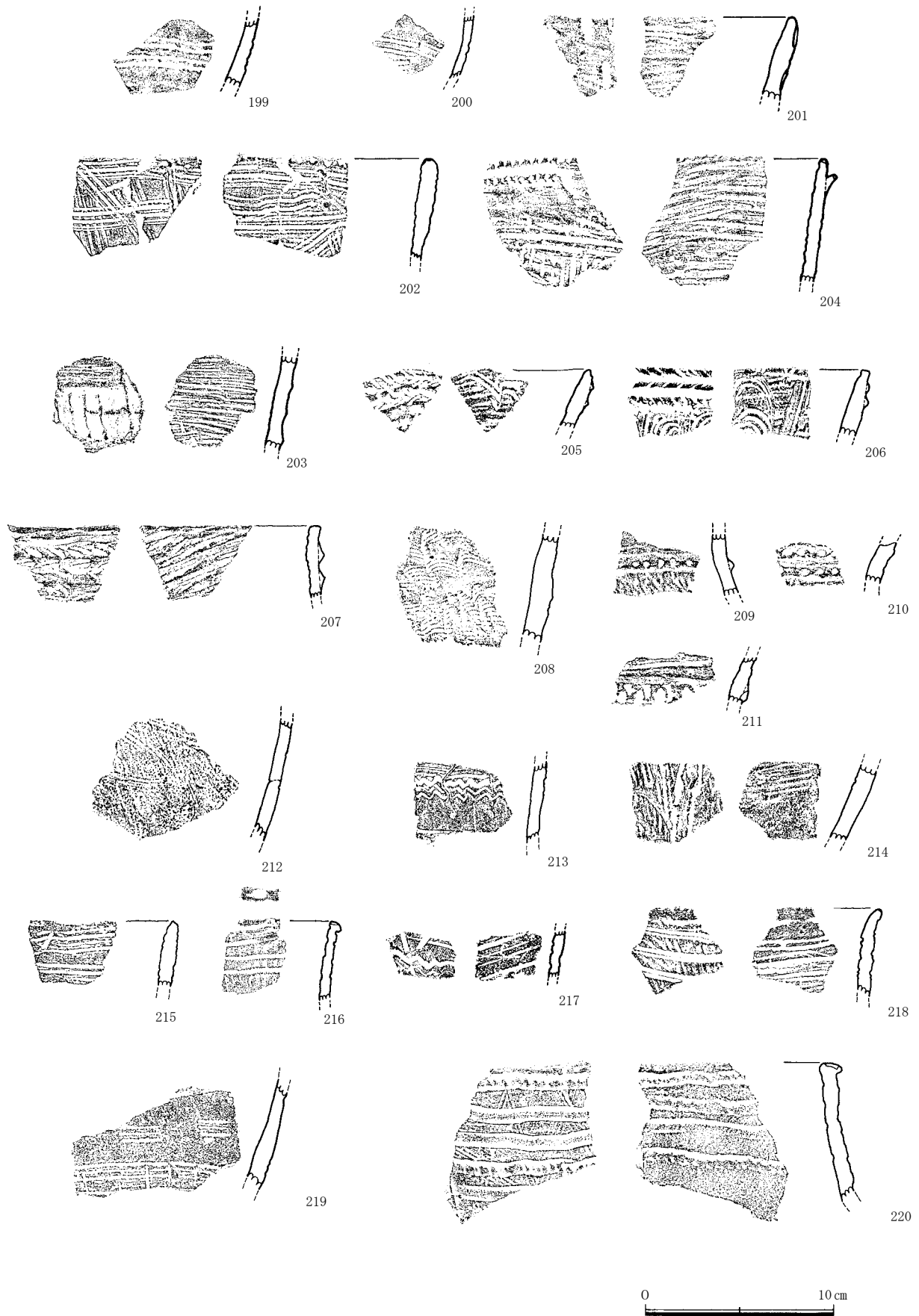
227・228はⅢe類である。227は横方向の押引文で区画された間に薄い波状沈線を施す。228は条痕の上に細い弧状の沈線を施す。

229～232はⅢf類である。229は内外面に平行する細い沈線を施す。230～232は縦・横・斜め方向の沈線に加え、棒状工具による刺突を施す。

233～246は、貝殻条痕の存在によりⅢ類に分類したが、特徴に乏しくそれ以上の細分ができなかったものである。233は条痕の上に斜行する沈線を施す。235も横方向の条痕の上に、縦方向の細い沈線を施し、口縁部外面には刻目を施す。239は底部片で、やや尖底気味の丸底を呈す。246は貝殻による連続する押圧で鋸歯状の文様を施す。条痕でなく、破片には隆帯もみられないが、8 T出土のものに類似の文様と刺突を施した隆帯を併せ持つものが出土していることから、Ⅲb 5類にあたる可能性が高い。

247はⅣa類である。凹線文の上下に連続する爪形文を施す。胎土には滑石が多く含まれる。

248～270は、外面に凹線・凹点で施文したⅣb類である。うち248～254はⅣb 1類で、施文が口縁部だけでなく胴部に及ぶものである。248・249は縦方向の、250・252～254は横方向主体の凹線がみられ、251は横・



第60図 1T I・II層出土土器1 (1/3)

斜め方向に加え渦巻状の凹線が施される。254では無文となる胴下部が確認できる。

255～258はIV b 2類である。255は先の尖った工具による縦方向の短い凹線を連続して施文する。256は横方向の浅い凹線の上と口唇部に凹点を連続して施す。257・258も同様の施文がみられるが、258は横方向の線の幅が狭く、沈線状である。

259～270・272は文様帯の広さから細分できなかったIV類である。259は横・斜め方向の凹線を施す口縁部片。260には凹線はみられず、口唇部に施された連続する深い凹点により、口縁が鋸歯状に波打っている。261は口縁から少し下がった位置に横方向の凹線を施し、胎土には滑石を含む。262は口縁下部に施された横方向の凹線の上から斜め方向の凹線を連続して施し、口唇部には連続する凹点を施す。263は横方向の凹線がみられる胴部片である。264は口縁部外面と口唇部にやや大型の凹点を施す。265は一部「く」の字に屈曲するやや細めで縦方向の凹線が施される。266には凹線はみられない。肥厚する口縁部と口唇部に施された凹点の特徴で、器面は赤く彩色されている。267は渦巻状の凹線がみられ、凹線の底部にみられる凹凸から、貝殻など凹凸のある施文具を用いたとみられる。268・272は口唇部に凹点を施す他、粘土の継ぎ目を横方向の沈線状に明瞭に残す。269・272も同様に粘土の継ぎ目が明瞭に残る。270は横方向に流れるような凹点を口縁部に多数施す。267と同様、貝殻などの施文具を用いたとみられる。

271はIV d類である。横方向の凹線で区画した間に、縦方向の沈線が連続して施される。

273は沈線で区画された間に薄い縄文が残るVI類である。沈線の中などにわずかながら赤色顔料が付着している。

274～287は施文された部位が残存しない等の理由で分類しなかったものである。274～283・285は底部片である。いずれも平底で、274～277・279・282にはやや不明瞭ながら鯨骨らしき圧痕が残る。284は口縁部に取り付いた把手部分で、全体が黒くいぶされる黒色磨研状の土器である。VII類に近いものとみられる。286はやや細長い刺突と波状の細い沈線で施文される。287はごく薄い横方向の条痕がみられ、不明瞭ながらIII類に近いとみられる。

288～291は縄文時代以外の土器片である。288・289は土師器の小皿で、底部には回転糸切り離し痕が残る。290は弥生土器で、頸部に一条の突帯を施す壺形土器である。291は円筒埴輪片である。残存状態が悪く刷毛目などの調整は不明だが、突帯部分の破片である。

1 T III a層・IV a層出土土器 (第64図)

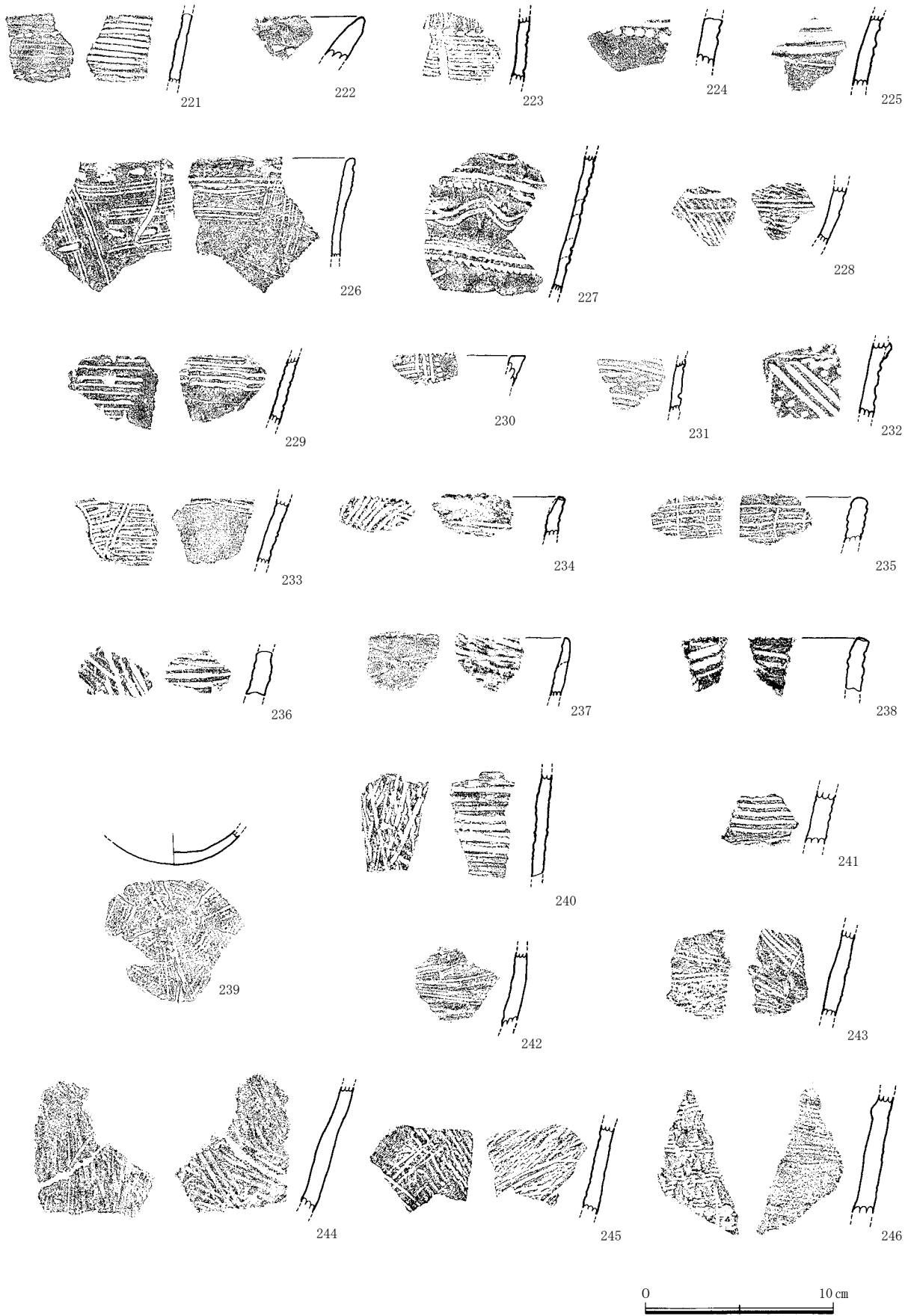
292はIII a層出土である。沈線による区画の中に目の細かい燃糸状の文様が残るVI類である。掘削面積が少ないとはいえ、III a層出土の土器はこれのみであり、攪乱層から混入した可能性も考えられる。

293～299はIV a層出土の土器である。293は縦方向の山形押型文がみられるI a類、294は平行する3本の隆帯が斜め方向に取り付くもので、III b類とみられる。295は内外面に明瞭な貝殻条痕が残るIII類である。296・299はIII d類で、296は横方向の平行する沈線を、299は横方向の条痕の上から刺突を施す。297・298は平行する曲線的な沈線を全体に施すもので、III f類とした。

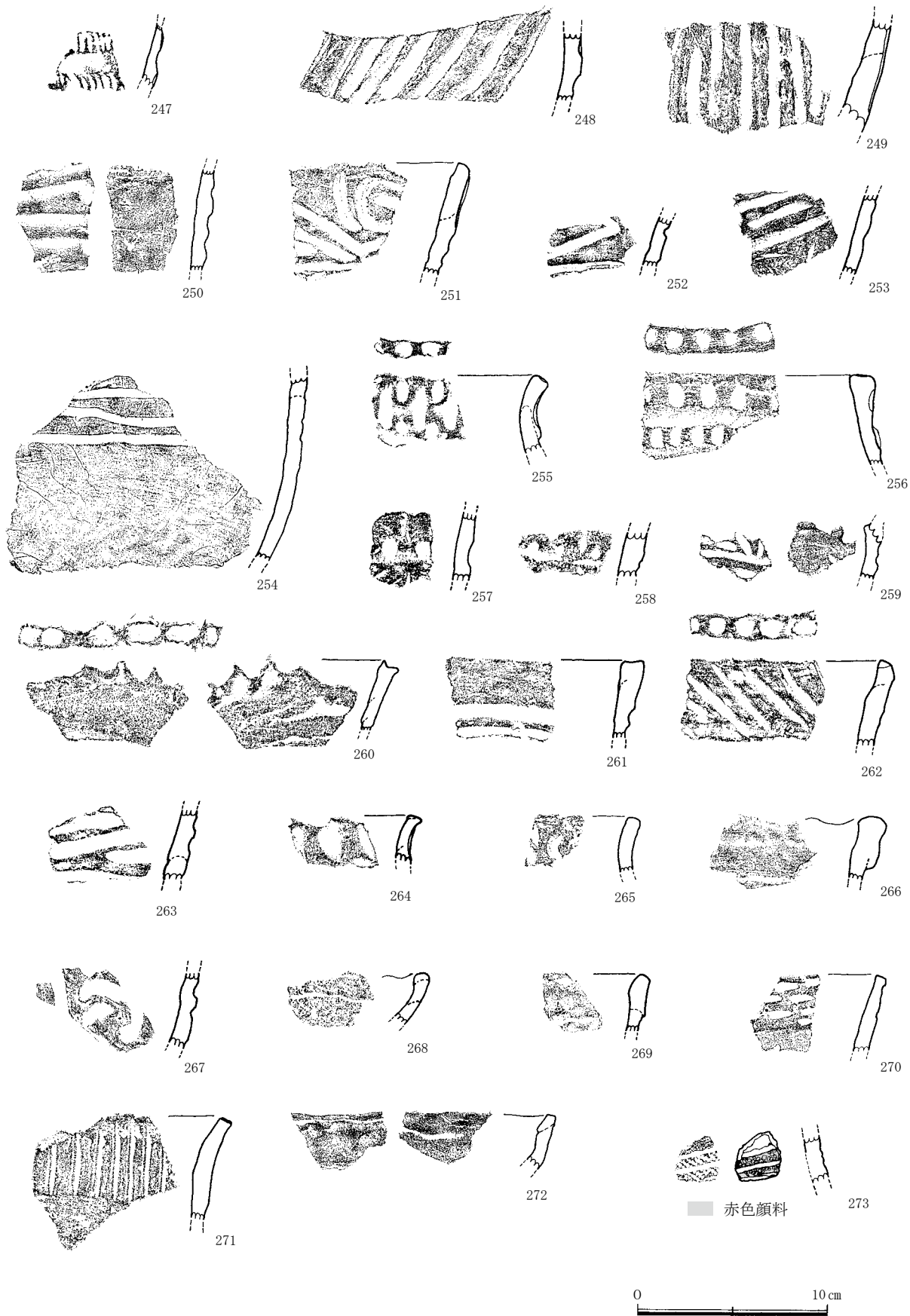
2 T I・II層出土土器 (第65・66図)

300・301は山形押型文を施すI a類である。小片のため器形等は不明である。

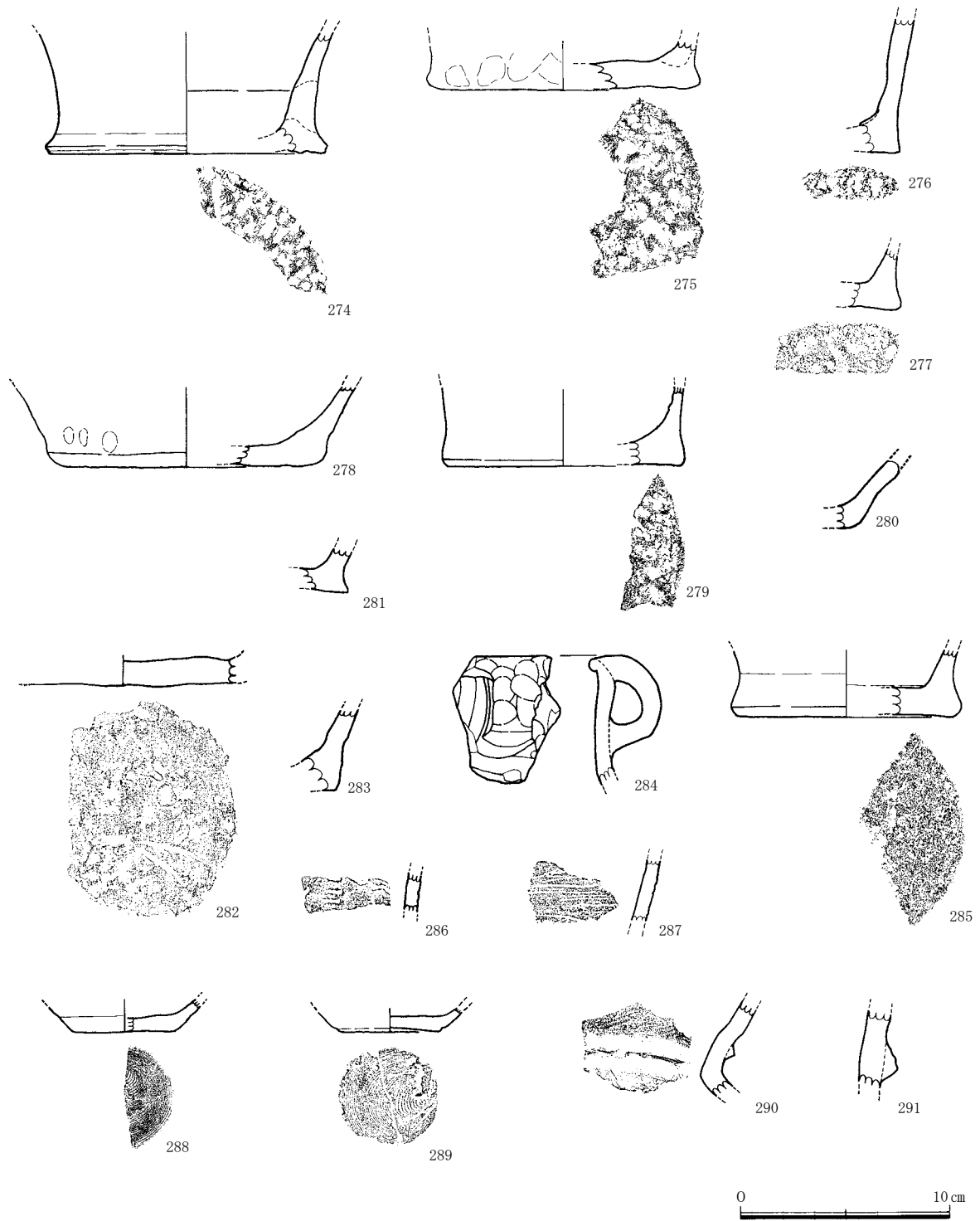
302～304はII a類である。302は貝殻腹縁による刺突を施す。303は爪形文の下部に波状文を施し、器形は口縁に向かいラッパ状に開く。304は器壁の厚い口縁部の内外に、貝殻による沈線とも条痕ともつかない擦過痕がやや散漫に施される。305は貝殻腹縁による刺突・波状文の下に、地文としての貝殻条痕が薄く残るII b類である。



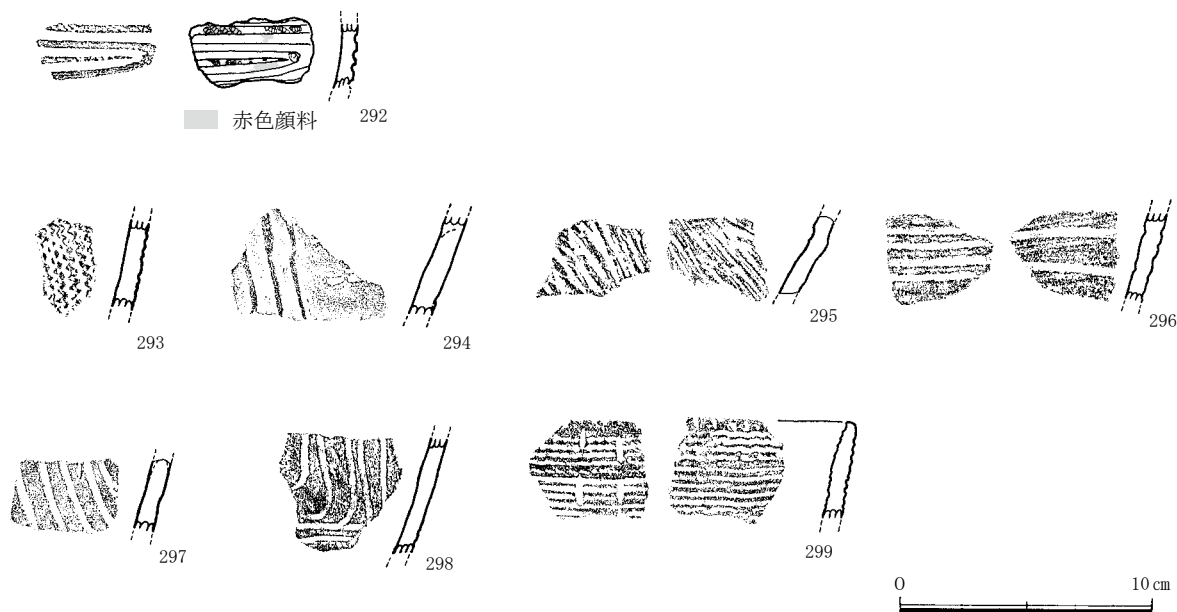
第61図 1T I・II層出土土器2 (1/3)



第62圖 1T I・II層出土土器3 (1/3)



第63図 1T I・II層出土土器4 (1/3)



第64図 1 T III a・IV a層出土土器 (1 / 3)

306～315はⅢ a類である。うち306～312はⅢ a 1類に細分され、比較的厚手の器壁に、内外面に強い貝殻条痕を施す。口縁部片のうち306・307・308は刺突・刻目を口縁端部の外側に施し、310・311・312は口唇部上面に施す。313～315はⅢ a 2類で、斜行する条痕を交差させる等、文様的な意匠を持つ条痕が含まれる。口縁部片である314では、口縁端部の外側に刻目が施される。

316～318は、貝殻条痕の上に隆帯を貼り付けるⅢ b類である。316は条痕の上に押引文で施文した後、縦方向の隆帯を貼り付けるⅢ b 1類で、口唇部には連続する刺突を施す。317は口縁下部に比較的強く突出する横方向の隆帯を貼り付け、隆帯及び口唇部に連続する刻目を施すⅢ b 2類である。318は強い押引文により隆帯状の突出部をつくり出すⅢ b 6類に分類される。

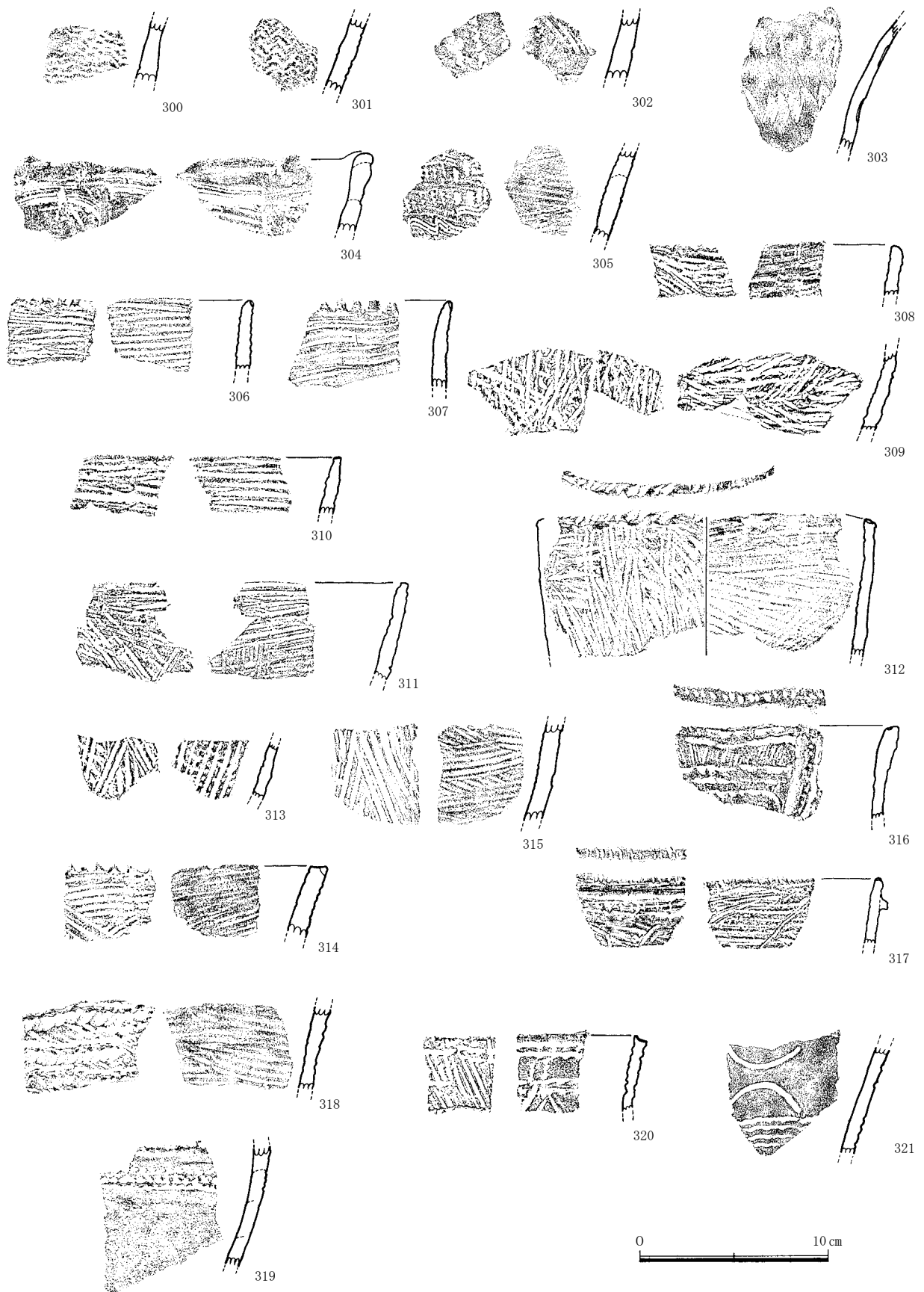
319・320はⅢ d類である。319は横方向に連続する刺突列点を密集・平行して3列施し、それ以外の部分をナデで仕上げるⅢ d 3類である。320は斜め方向の条痕と横方向の押引文で施文し、内面にも押引文を施す。

321は上下それぞれに開く2本の弧状沈線と横方向の平行する沈線がみられるⅢ e 2類である。

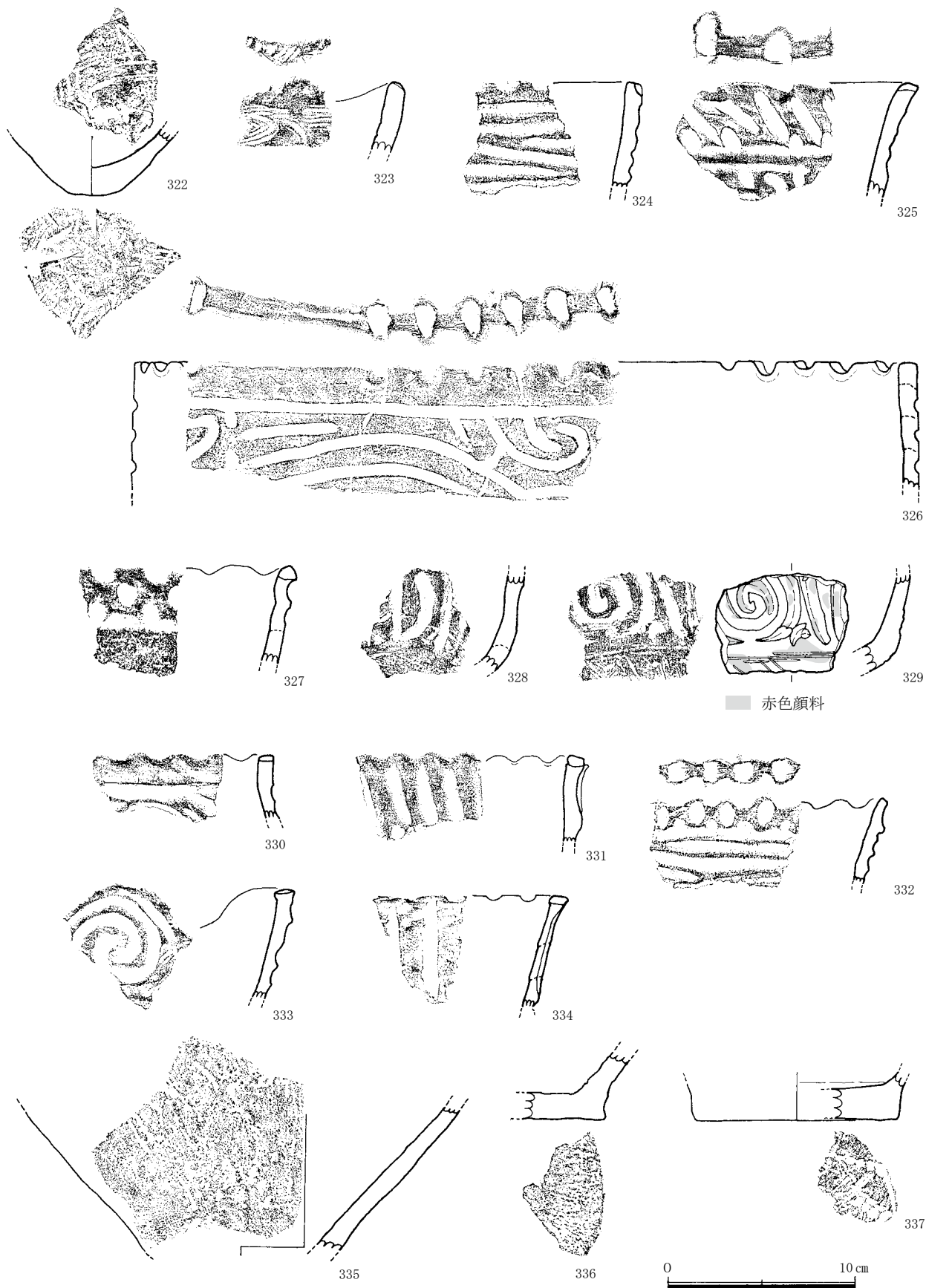
322・323は、詳細は不明だが貝殻条痕の存在によりⅢ類と判断される。322は底部片で、尖底気味の丸底を呈す。323はやや文様的で散漫な条痕を施し、口唇部に連続する刻目を施す。Ⅲ類としたが、Ⅱ類に近いものである可能性がある。

324～334はⅣ b類である。うち324～326はⅣ b 1類で、横方向を主体とする凹線に斜めや曲線状の凹線と凹点を加え、口唇部にも凹点を施す。口縁部は肥厚せず、垂直～やや開き気味に立ち上がる。327はⅣ b 2類である。口縁下部に横方向の凹線を施し、口縁端部との間及び口唇部に等間隔の凹点を施す。328・329は上方に屈曲して立ち上がる口縁付近の破片とみられ、曲線や渦巻状の凹線を施す。329の凹線内には一部赤色顔料が付着している。333は渦巻状の凹線が口縁端部まで及び、口縁自体がこれに沿った曲線を呈す。334は縦方向の短直線状の凹線と口縁部の凹点で施文される。

335～337は、文様部分が残存しないため分類不能である。335は大きく外傾して立ち上がる胴下部の破片で、不明瞭ながら貝殻条痕らしき痕跡がみられることからⅢ類の可能性はある。336は平底の底部で、鯨骨らしき圧痕が残る。337も同じく平底の底部で、一部に縄目状の圧痕が残る。



第65図 2T I・II層出土土器1 (1/3)



第66圖 2T I・II層出土土器2 (1/3)

3 T I・II層出土土器 (第67～70図)

338はⅢf類である。外面は口縁下部に連続する刺突を施し、その下に横方向の連続する沈線を施す。沈線は内面にもみられ、口縁付近に横方向の直線文や波状の曲線文を施す。

339～341はⅡ類である。うち339は地文としての貝殻条痕を持たず、貝殻腹縁による刺突・沈線を施すⅡa類で、連続する刺突を弧状に配置する。340・341はⅡb類である。340は外面に貝殻による押圧文を連続して施し、内面には面的に貝殻条痕が残る。341は縦方向のごく薄い貝殻条痕の上に、沈線状に明瞭に施された横方向の条痕がめぐる。内面にも同様に横方向の条痕が施される。

342は貝殻条痕に規則的な意匠を持たせたⅢa2類である。口唇部外側に連続した刻目を施し、斜め方向に施文される条痕と刻目との間を横方向の条痕で区画する。

343～353は、貝殻条痕の上に横走する隆帯を複数施したⅢb3類である。貼り付けた隆帯を短い間隔で顕著につまむものと、つまみの間隔が広くナデ調整に近いものとに分けられる。354も同様に横走する複数の隆帯を持つが、隆帯の小ささからⅢb4類に分類した。

355～370・381～383はⅢb7類である。胴部中央で屈曲する器形と、縦・横・渦巻状といった多彩な形状の隆帯、緻密に施された刺突や押引文が特徴的である。胴部の屈曲部が直接確認できないものも多く含むが、文様構成から同じ型式の土器と認識した。

371～380・385・386は縦方向主体の貝殻条痕に横方向の沈線を複数施すⅢd1類である。372・374・380のように、別に斜め方向の沈線を重ねるものもある。また385・386は横方向直線状の沈線の他、波状の沈線を施す。

384は外面を縦・横の沈線と口縁下部に連続して施した刺突で施文し、内面にも刺突を施す。口唇部には刻目を施す。刺突と沈線が同居する点が独特だが、ひとまずⅢd類に分類する。

387・388はⅢf類である。387は外面に3本単位の沈線を横方向に連続的に施し、同様の沈線を一部山形に施す。内面には直線文と波状の曲線文を横方向に施す。388は横方向の直線文を連続して施した下に、波状沈線を連続して施す。文様帯が明確に区分されている様子が見える。

389は貝殻条痕によりⅢ類に分類できるが、それ以外の特徴に乏しく細分はできない。丸底の底部片で、器壁は薄い。

390はⅣa類である。粘土貼り付けにより肥厚する口縁部片で、連続する刺突や貼り付け隆帯、隆带状の刻目等の施文がみられる。胎土に滑石を含み、器面は滑らかである。

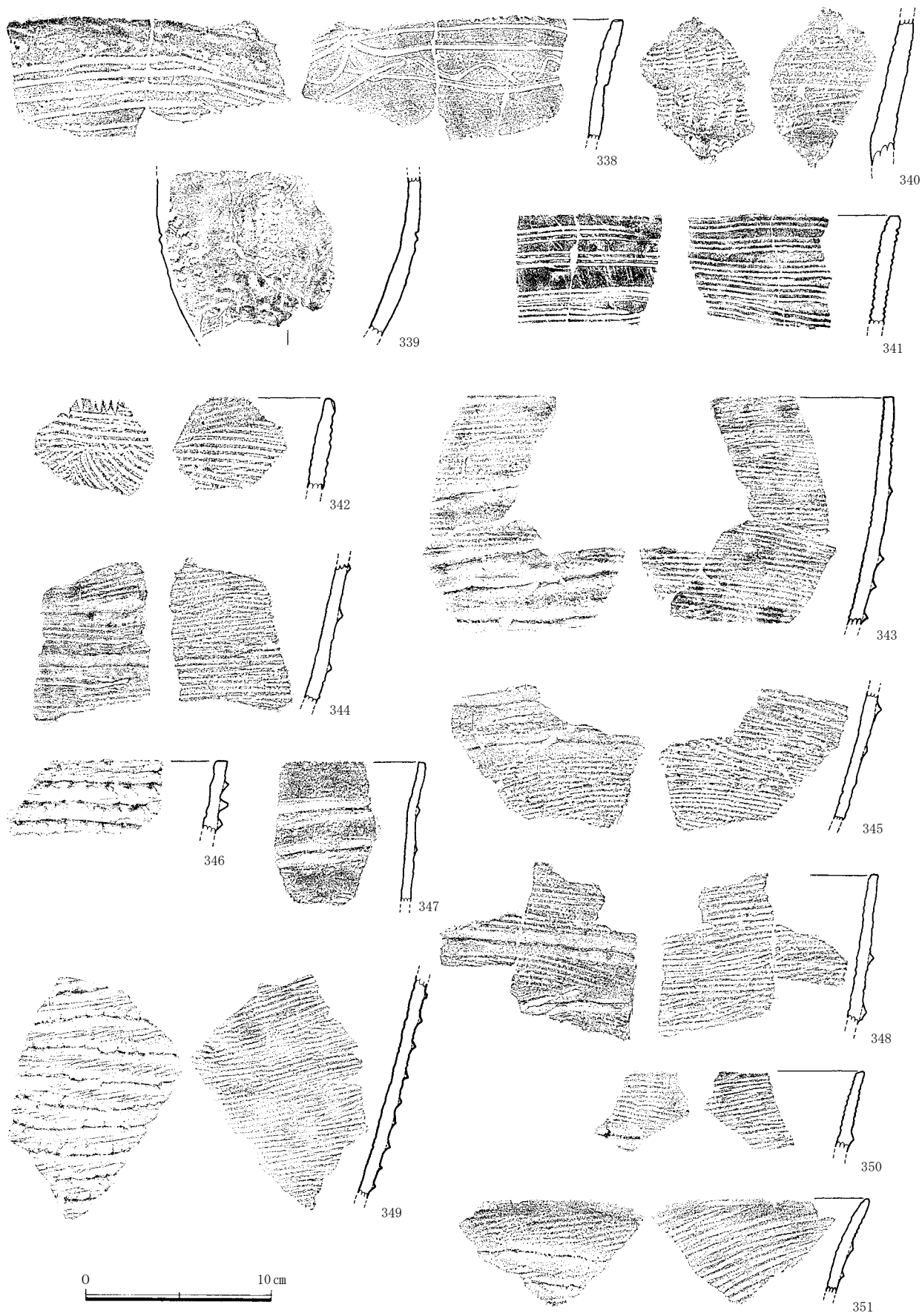
391・392はⅣb類である。391は横方向の凹線により施文され、文様帯が口縁付近に限られる様子からⅣb2類に細分される。392は縦・横方向の凹線がみられる。391に対し文様帯は比較的広いとみられるが、詳細は不明である。

393は縦方向の条痕の上に粘土帯を貼り付け、貝殻腹縁による刺突を施す。粘土貼り付けにより口縁部を肥厚させる点はⅣ類又はⅤ類に近い特徴とみられるが、詳細は不明である。

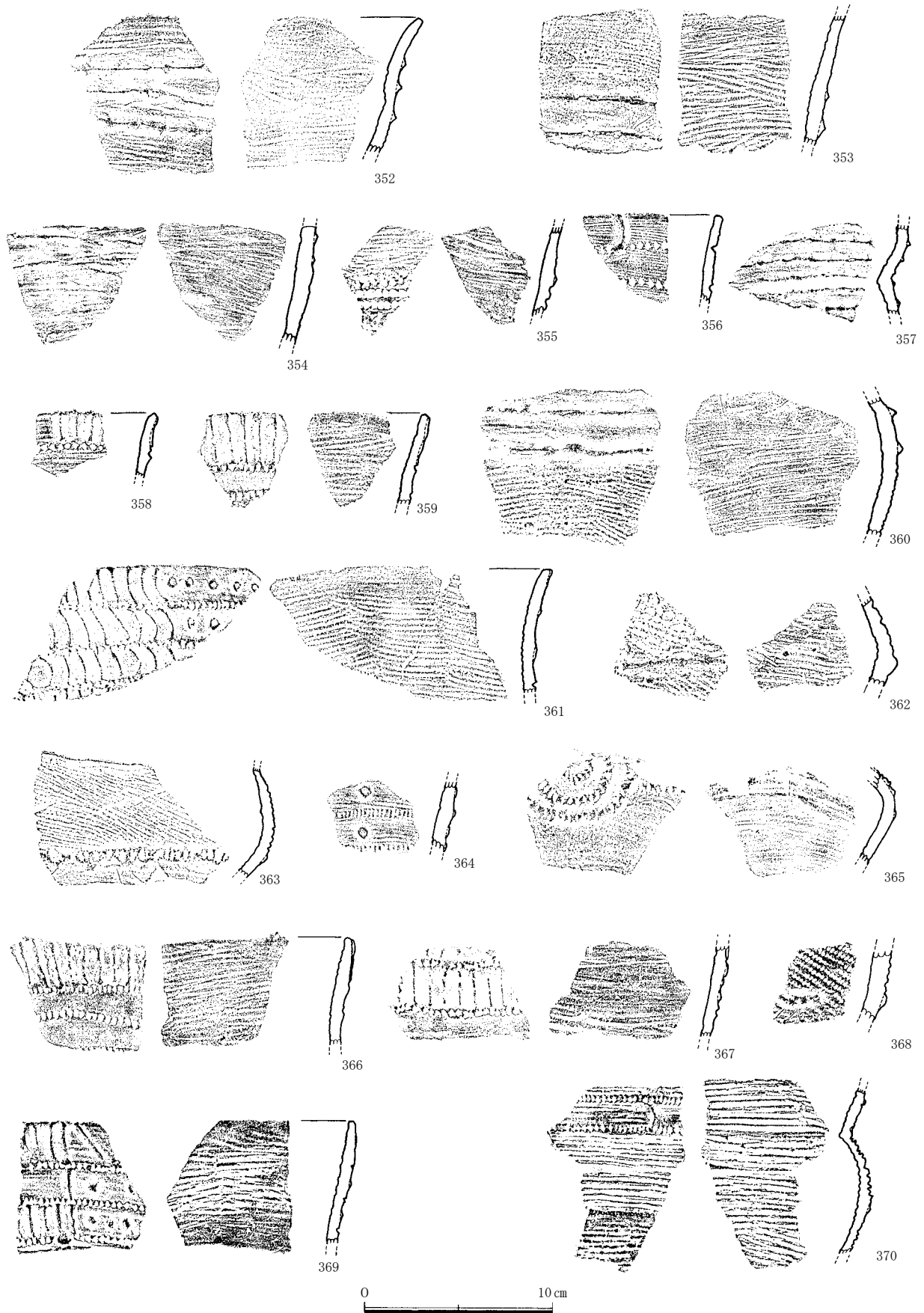
394～397は縄文時代以外の土器である。394・395は弥生土器の甕片で、上方に傾く突帯の内側が小さく突出する394はⅣ類に、突帯上面がナデにより凹み、内側が強く突出する395はⅥ類に分類される。396・397は土師器の坏で、ともに底部に回転糸切り離し痕が残る。

3 T III a層出土土器 (第71図)

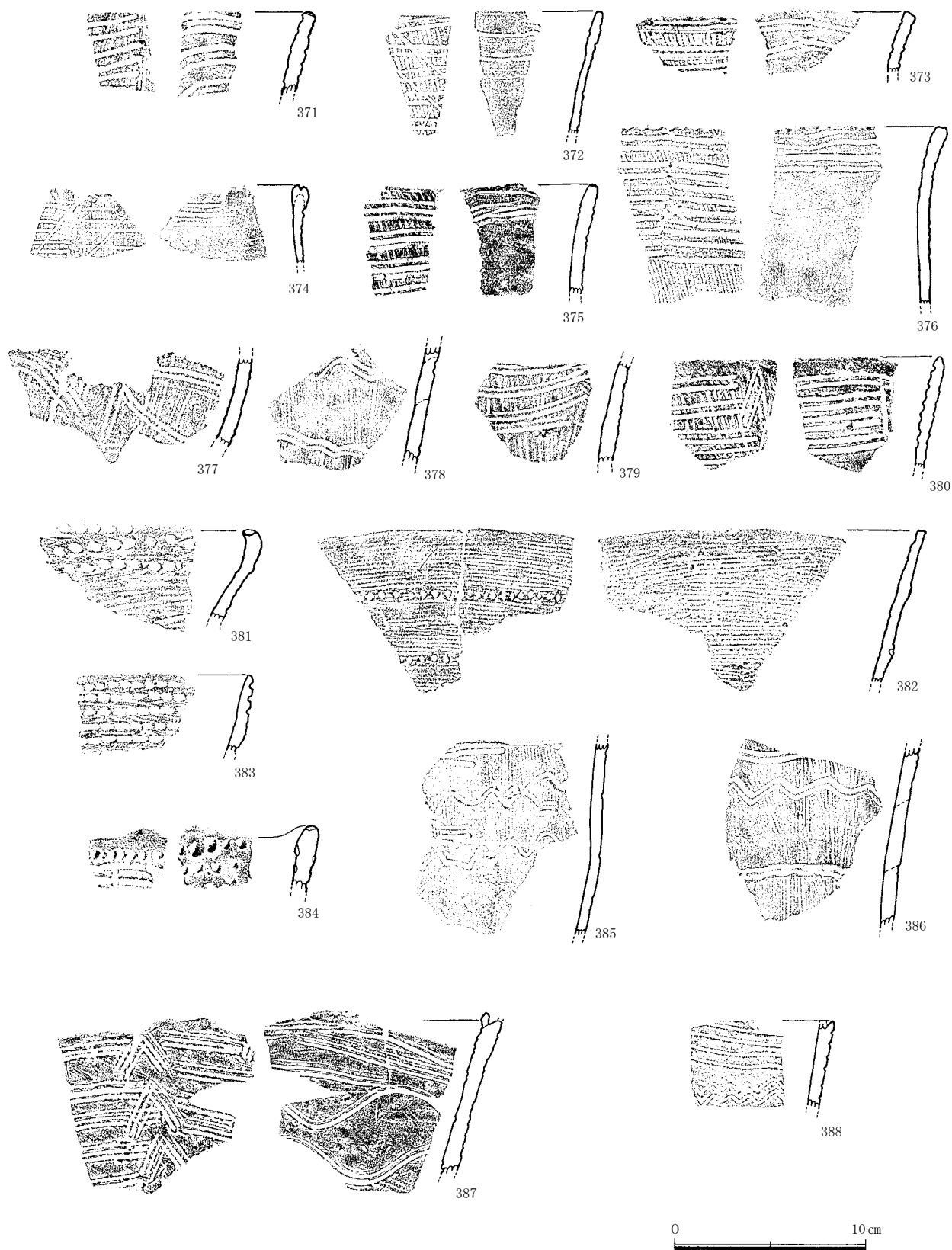
出土した遺物は、407を除き全てⅢ類である。398・399はⅢb1類で、横・斜め・縦方向等の隆帯を施す。400は横方向の隆帯がみられるⅢb3類、401は同じく横方向の隆帯だが、小規模な微隆起帯文がつくⅢb



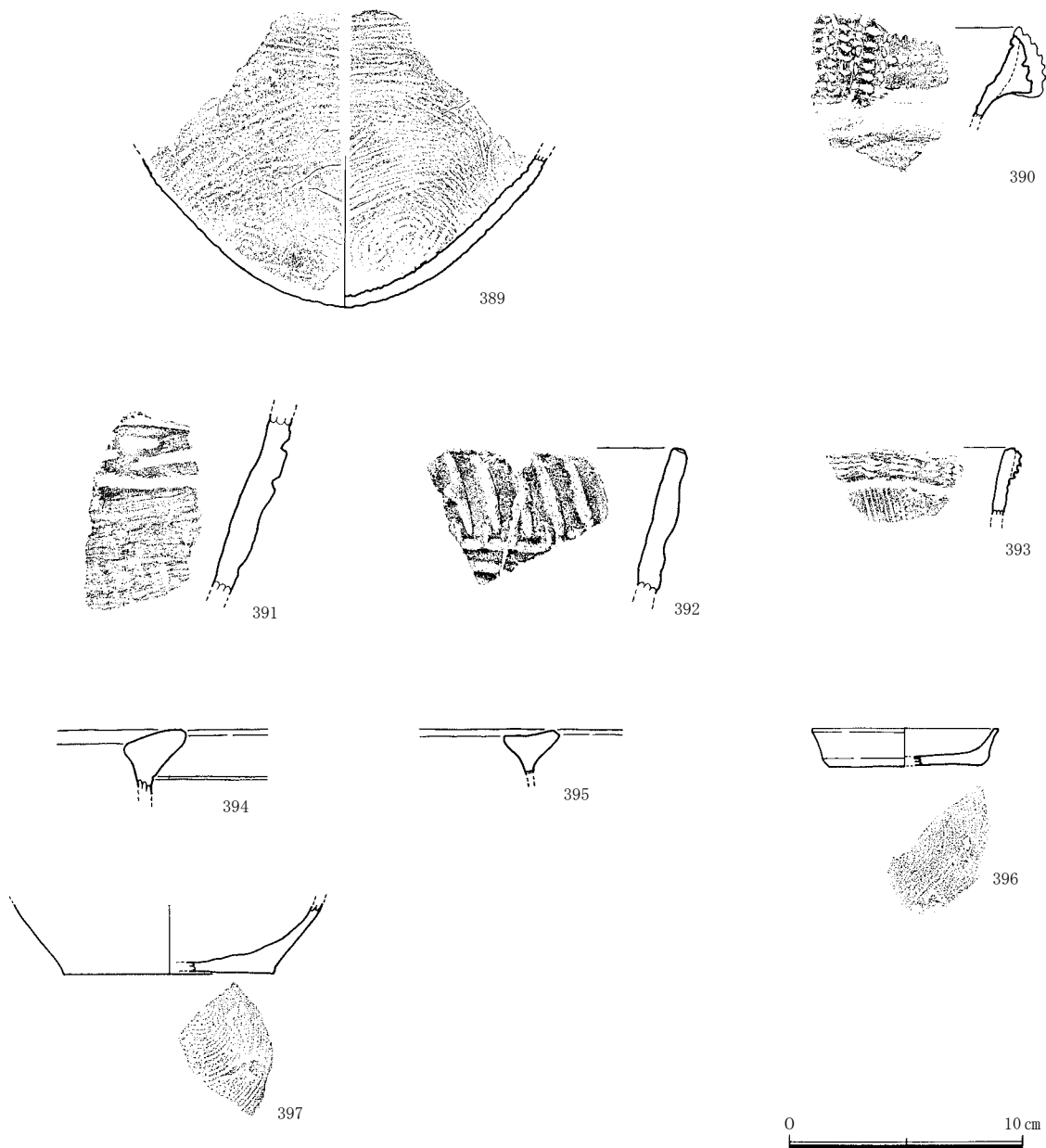
第67圖 3T I・II層出土土器1 (1/3)



第68図 3T I・II層出土土器2 (1/3)



第69圖 3T I・II層出土土器3 (1/3)



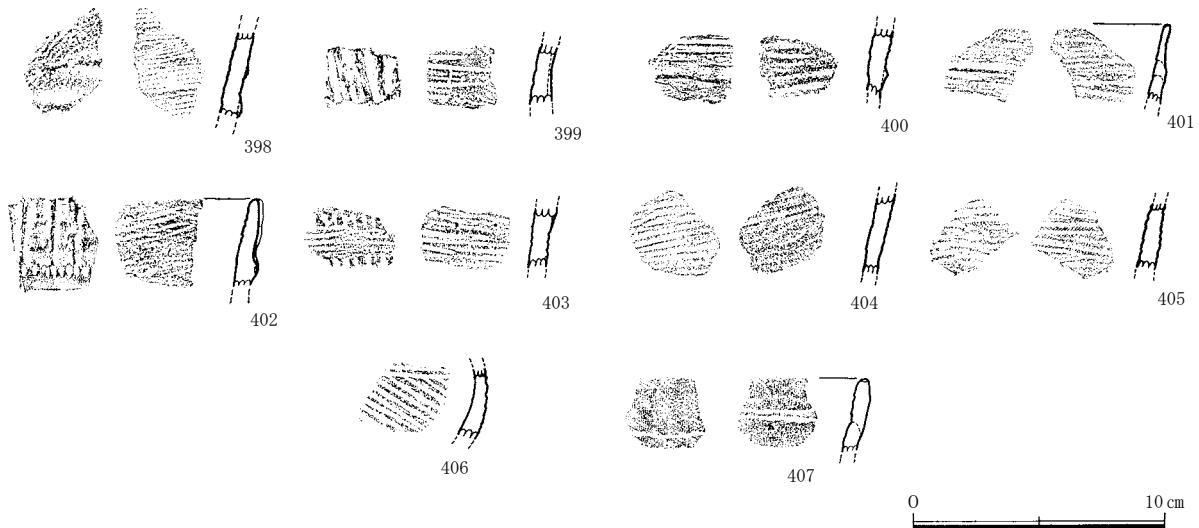
第70図 3T I・II層出土土器4 (1/3)

4類である。402は縦に走る複数の隆帯と横方向の連続刺突文がみられる。直接この破片ではわからないが、胴部で屈曲するⅢb 7類に相当する。403は隆帯の代わりに横方向に連続する刺突文を施すⅢd 3類である。404～406は条痕以外の特徴に乏しく細分し難いが、これらもⅢ類に分類される。

407は内外面ともナデで調整され、特別な文様を持たないが、成形に伴う粘土紐の接合部が沈線状に明瞭に残る。

3TⅢb層出土土器 (第72図)

408は内外面に地文の条痕がみられ、外面に貝殻腹縁による刺突を施すⅡb類である。以下、Ⅲb層から出土した土器はこれを除いて全てⅢ類である。



第71図 3TIII a層出土土器(1/3)

409はIII a 2類で、比較的厚手の器壁に綾杉状の規則的な条痕を施す。410はIII b 1類で、斜め方向の微隆起帯文が平行して2本施文される。隆帯は粘土貼り付けでなく、摘み上げによるとみられる。411・412はIII b 3類で、粘土紐貼り付けによる横方向の隆帯が平行して複数みられる。

413～419・421・422はIII b 7類である。413・414は口縁部片で、縦方向の連続する微隆起帯文の下に横方向の連続刺突文を施す。415も口縁部だが、隆帯はみられず横方向の連続刺突と同じく横方向の沈線がみられる。416・417は屈曲部を含む胴部片で、刻目を施した隆帯を伴う。418・419・421・422は隆帯から変化したとみられる横方向の連続刺突文を平行して複数施すもので、文様の要素はIII d 3類に近いものの、屈曲する器形が想定されるためIII b 7類に分類した。

420はIII d 1類である。縦方向の薄い条痕の上に、横方向の弧状沈線を複数施す。内面にも横方向・直線状の沈線を平行して複数施す。

423～427は、貝殻条痕によりIII類に分類したが、それ以外に目立った特徴が無く、細分不能のものである。

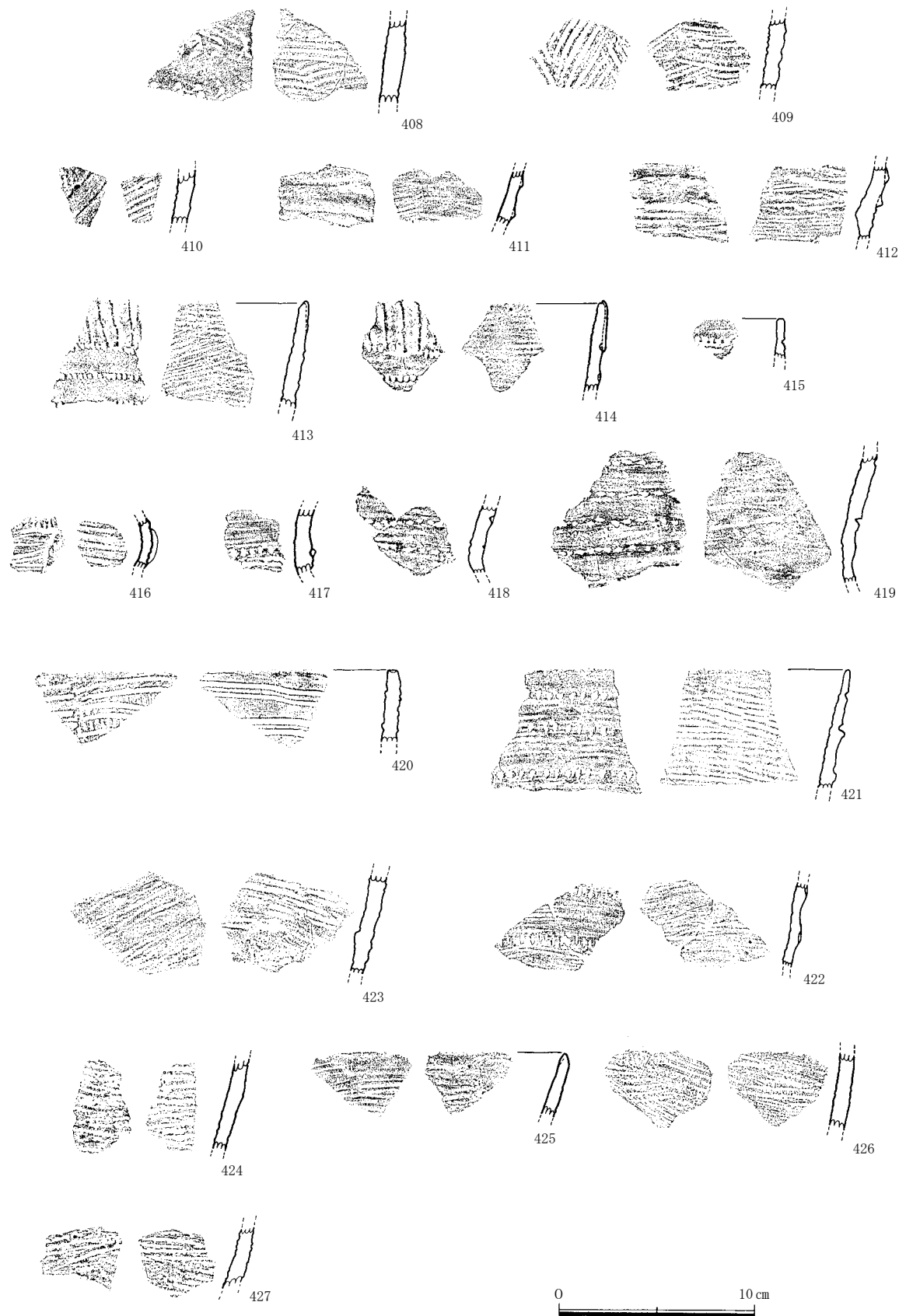
3TIV a層出土土器(第73～77図)

428・429はI類で、外面に楕円押型文を施すI c類である。

430～452はII類である。うち430～448は地文としての貝殻条痕を持たないII a類、449～452は貝殻条痕の上から刺突・沈線等の文様を施すII b類に細分できる。430～432はそれぞれ貝殻腹縁による刺突を施す。433は刺突に加え、貝殻による沈線状の条痕がみられる。434は外面にわずかな条痕、内面と口唇部には刺突が施される。435はやや散漫に施される条痕と、その下部に不揃いな縄目のようにも見える押圧文を施す。436は連続する刺突文のように見えるが、これはハイガイ等、フネガイ科の貝殻の背面にある結節部を利用した押圧文とみられる。437・438は貝殻による屈曲する沈線を施す。439は主に内面に横方向の沈線を施す。440～448は横方向や斜め方向の沈線を施すもので、特に443・446では沈線が交差する様子がみられる。449はごく薄い条痕の上に、斜め方向の沈線を施す。450・451は条痕の上に貝殻腹縁による刺突を施す。452は斜め方向の沈線をV字状に施す。

453～455はIII a類である。横方向の単純な条痕のみ確認できる453はIII a 1類に、横方向や斜め方向の綾杉状の施文がみられる454・455はIII a 2類に細分される。

456～484はIII b類である。456はIII b 1類で、縦・横方向の微隆起帯文が施される。457～464はIII b 3類で、横方向の平行する隆帯を複数施す。465～467は、同じく横方向の隆帯が複数みられるが、小規模な微隆起



第72図 3 T III b層出土土器 (1 / 3)

帯文を施すⅢ b 4類である。468～471は、隆帯の上に刺突・刻目を施すⅢ b 5類である。刺突には細く扁平な工具によるものと、丸みを帯びた棒状工具の2種類があるとみられる。472～484はⅢ b 7類である。胴部中央で屈曲する器形に、縦・横・渦巻状など多彩な隆帯、横方向に連続する刻目、連続刺突文、押引文等で施文される。

485・486はⅢ c類である。薄い貝殻条痕の上に、同じく貝殻によるとみられる曲線文が施される。曲線文の振幅が大きいⅢ c 1類に分類される。

487～501はⅢ d類である。うち487～500は、薄く残る貝殻条痕の上に直線や弧状をなす沈線が施されるⅢ d 1類とみられる。501は外面に沈線、内面に刺突が施される。

502・503は直線状・弧状の沈線を主体とする点ではⅢ d類と変わらないが、沈線が密になり内外面に施される点からⅢ f類とみられる。

504～546は、貝殻条痕以外の特徴が不明で細分できなかったⅢ類である。ただしこの中にも、比較的厚手で深い条痕を伴うⅢ a類・Ⅲ b類に近いものと、条痕が比較的薄いⅢ c類・Ⅲ d類に近いものが存在する。544～546は底部片で、545がやや不明瞭だがいずれも丸底を呈すとみられる。

547はⅣ a類である。凹線と押引文に近い連続刺突文で施文され、胎土には滑石を含む。

548は口縁下部に貼り付けた隆帯と縦方向の条痕で施文される口縁部片である。隆帯の存在からⅢ b類に近いと考えられるが、隆帯上も含めて貝殻もしくは棒状工具で調整したとみられ、指などでつまむ他のⅢ b類とは趣が異なる。

549は一部に横方向の条痕を持つもので、Ⅱ類又はⅢ類の可能性がある。550は貼り付け隆帯の上に刺突を施すⅢ b 5類に似たものだが、地文の中に一部に縄目状の押圧文がみられる。551・552は平底の底部片で、どちらも内面や立ち上がりに貝殻条痕がみられるⅢ類である。

3 T IV b層出土土器 (第78図)

553は、口縁部内外に貝殻腹縁による刺突を連続して施し、その下部に貝殻による沈線状の条痕を横走させるⅡ a類である。

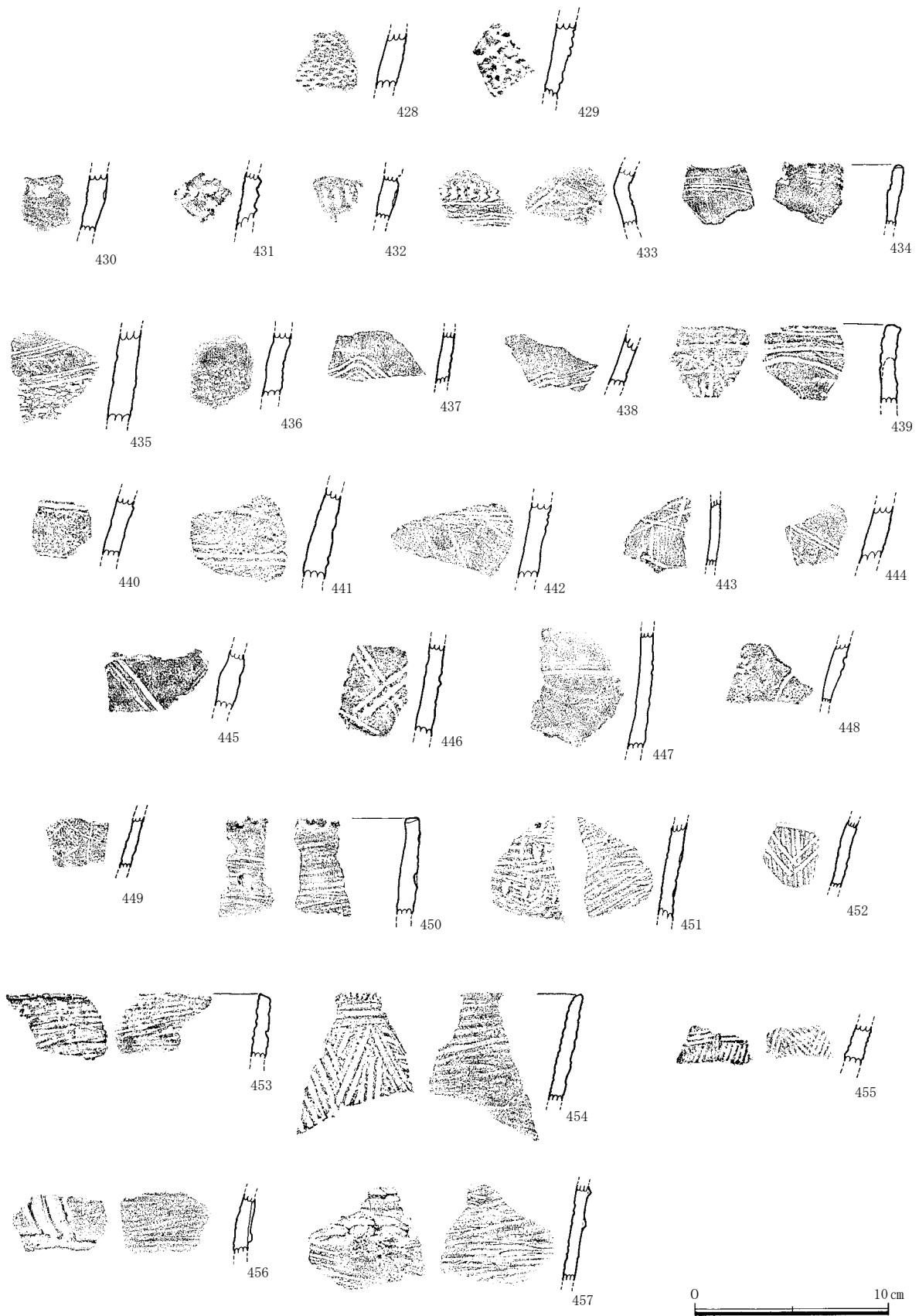
554～566はⅢ類である。うち554～556はⅢ a 1類に分類され、やや厚手の器壁に強く施文された条痕が残る。口縁部片である555・556では口唇部に刻目がみられる。557～560は隆帯を施すⅢ b類で、557は縦方向の微隆起帯文によりⅢ b 1類に、558は並行する横方向の隆帯によりⅢ b 3類に、559は刻目のある隆帯によりⅢ b 5類に、560は面的に施された押引文によりⅢ b 7類に細分される。561・562はⅢ d 1類で、貝殻条痕の上に横方向・直線状の沈線を施す。口唇部には連続する刺突を施す。563・564は連続する短直線文や波状文を面的に施文したもので、Ⅲ f類に分類される。565は隆帯を持つⅢ類とみられるが、口縁端部を外側に突出させる点や外面にみられる羽状文風の施文が他の多くのⅢ b類と異なっている。566は胴下部の破片で、縦方向の条痕がみられる。

4 T I・II層出土土器 (第79・80図)

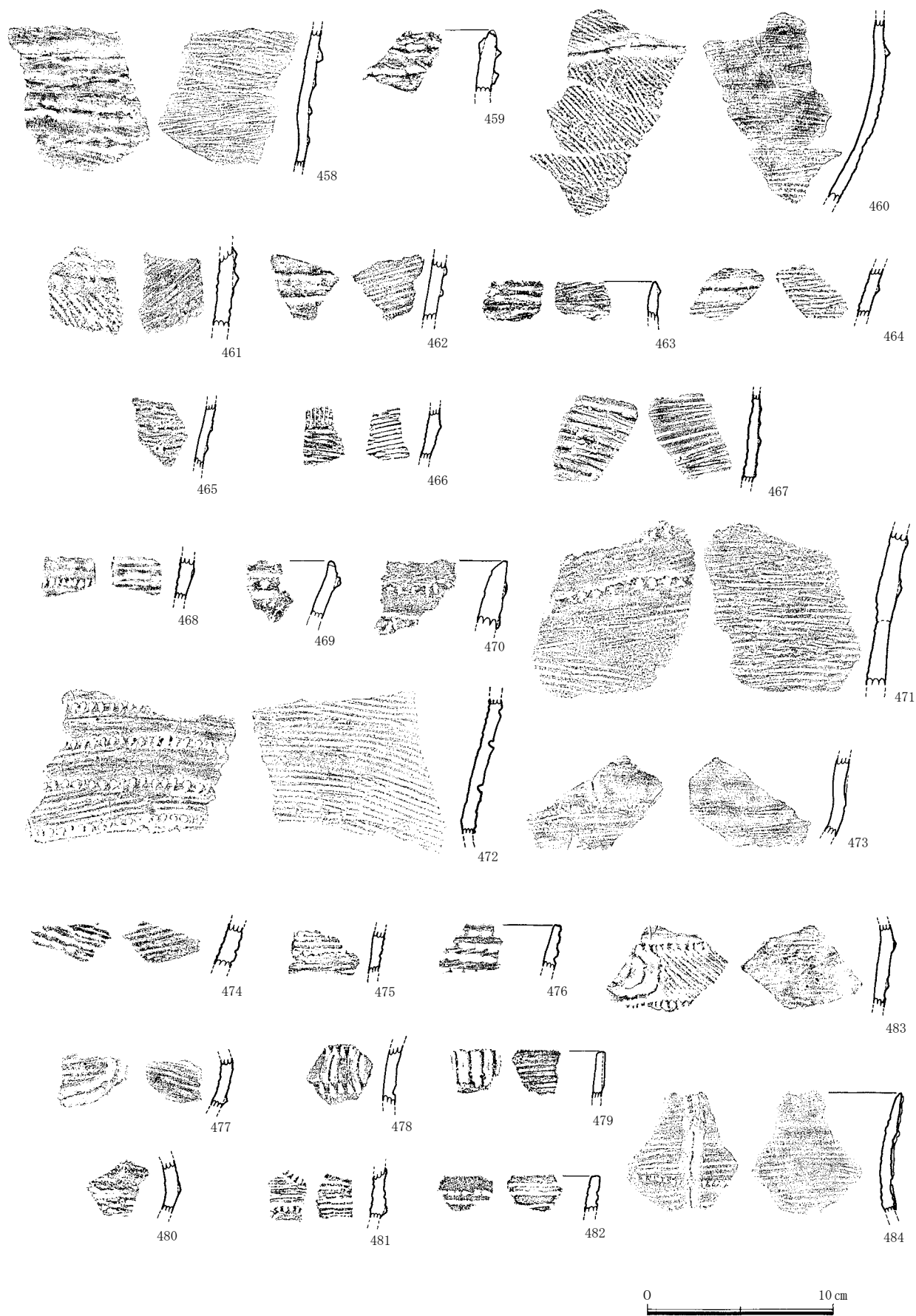
567はⅡ a類である。厚手の器壁に貝殻による沈線を施す。沈線は斜行する2つの単位が交差するように配置される。

568は、同じく厚手の器壁を持ち内外面に貝殻条痕を施す。条痕は一定の規則性をもって横・斜め方向に施される。Ⅲ a 2類である。

569は、内外面に貝殻条痕を施した後に縦・横・斜め方向の隆帯を施す。縦・斜め方向の隆帯を持つことからⅢ b 1類に分類したが、焼成や条痕の様子、隆帯の調整など、特徴のほとんどが下記のⅢ b 3類と共通



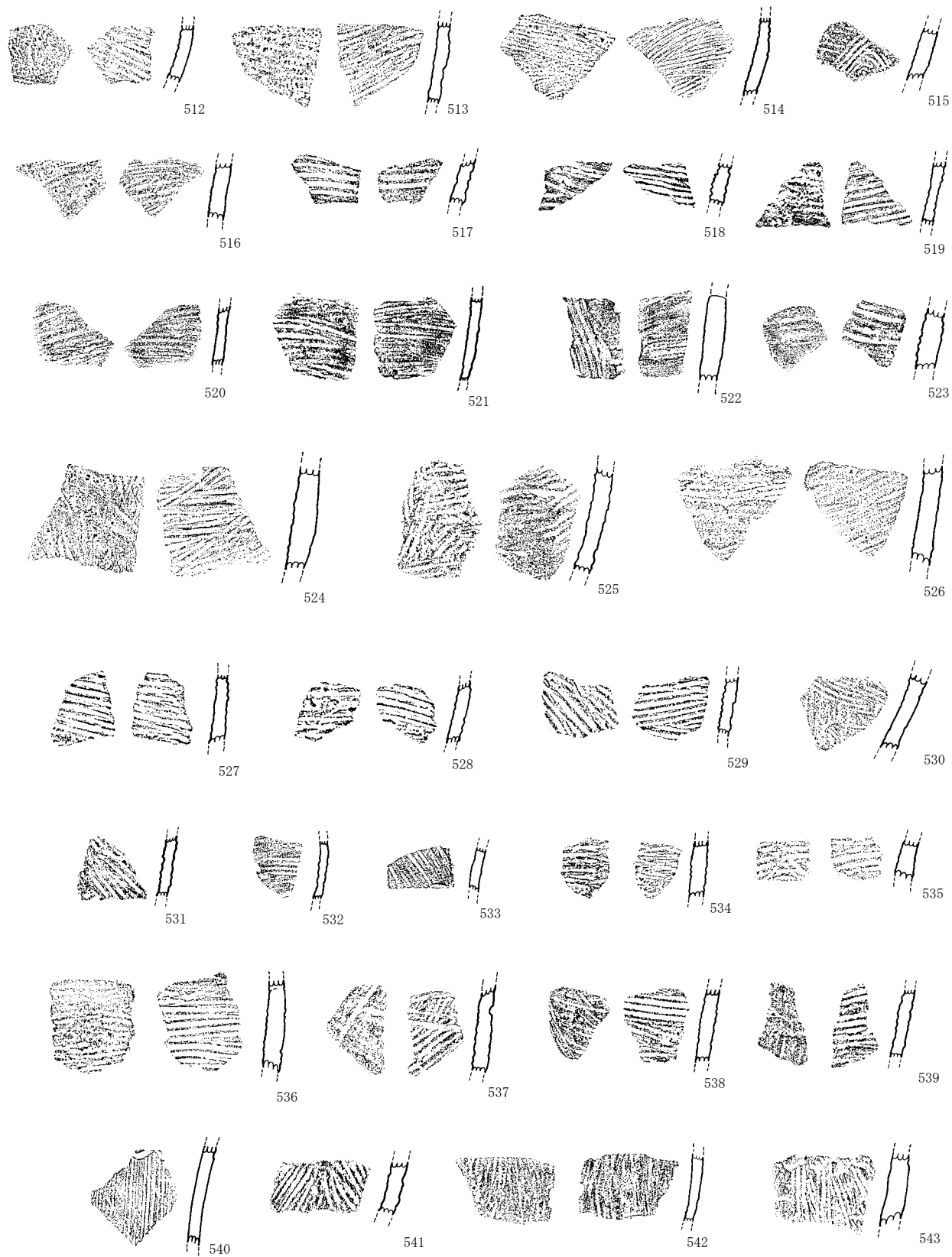
第73図 3 TIV a層出土土器1 (1/3)



第74圖 3 TIV a層出土土器2 (1 / 3)

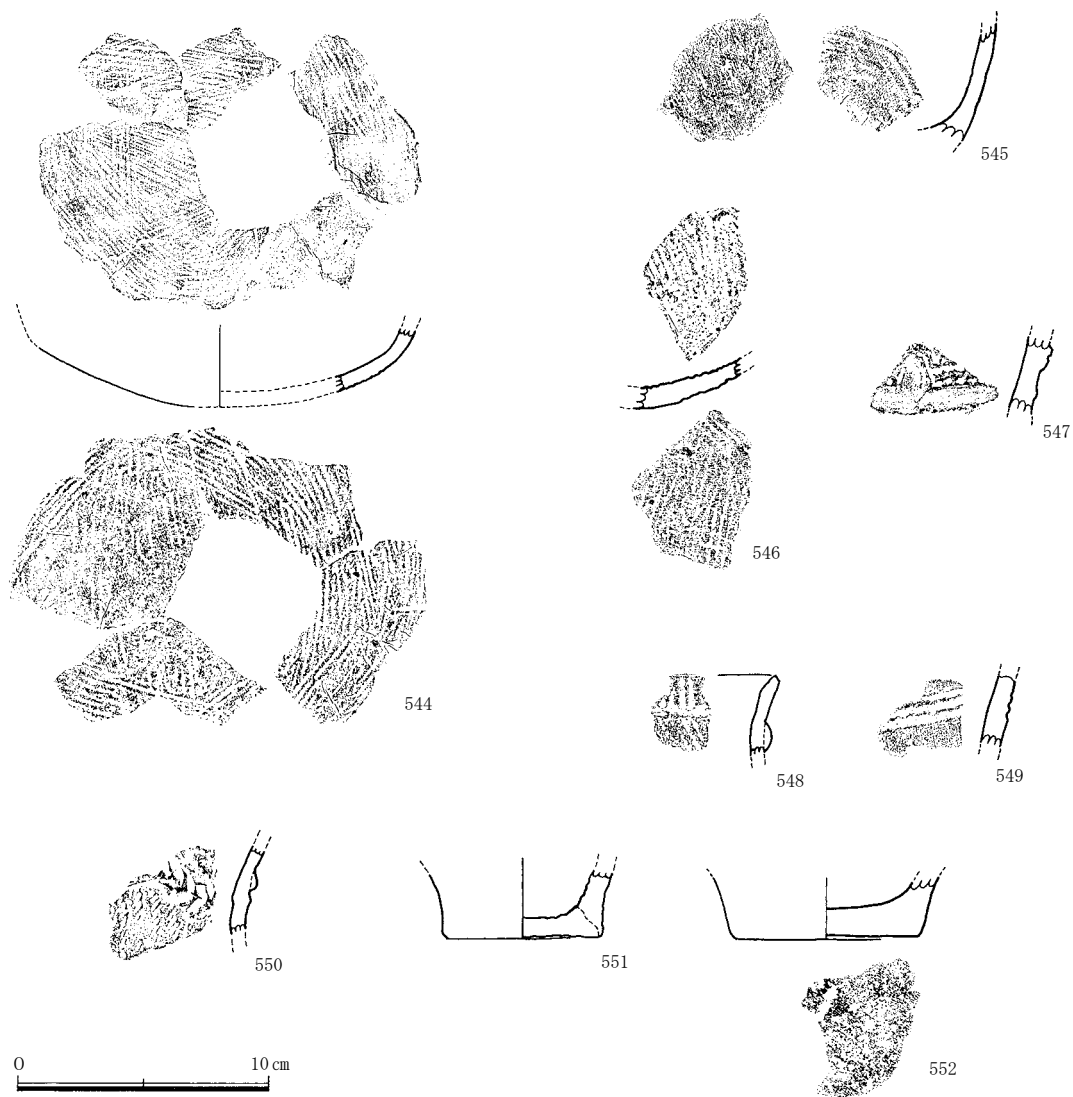


第75図 3 TIV a層出土土器3 (1/3)



0 10 cm

第76圖 3 TIV a層出土土器4 (1 / 3)



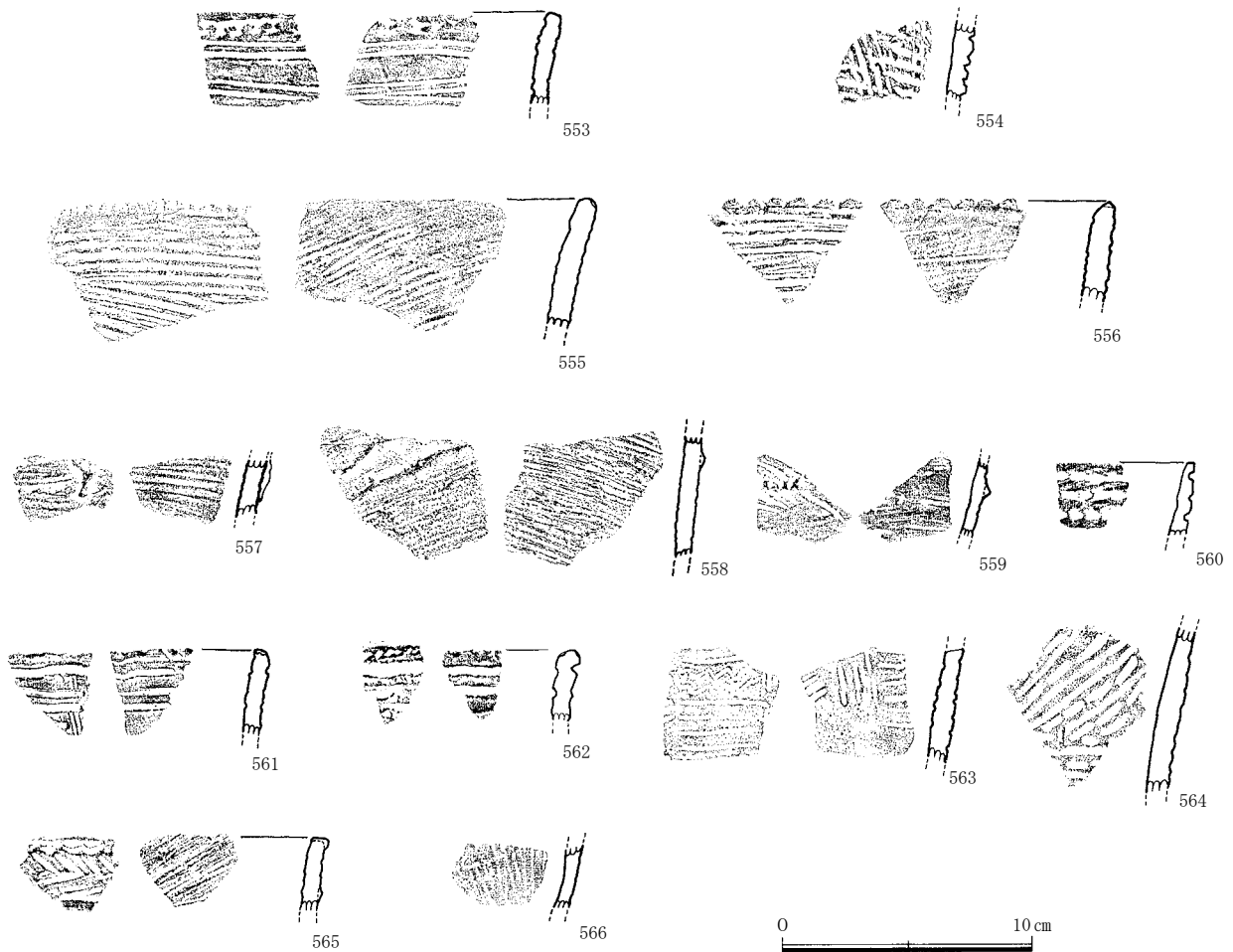
第77図 3TIV a層出土土器5 (1/3)

する。

570～577は、横方向の隆帯を複数連ねるⅢb 3類である。隆帯は貼り付けた粘土紐を上下からつまみ断面三角形をなすものがほとんどだが、574のみ明確なつまみの痕跡がみられず断面に丸みを帯びる。577は12次・13次調査で出土した土器全体の中でも特に大型の破片である。口縁下部から横方向の並行する隆帯を8条貼り付け、最下部には折れ曲がって鋸歯状をなす隆帯が1条取り付く。地文の貝殻条痕を除き、胴部中央以下には文様が施されない。

578も横方向の隆帯を複数連ねるものだが、隆帯の規模が小さいことからⅢb 4類に分類した。

579～584はⅢb 7類である。579は胴部中央で大きく屈曲し、屈曲部から上を押し引文で埋め尽くすように施文する。押し引文は横方向と斜め方向の文様帯に分けて捉えられ、交互に上下に連なる。580も同様に横方向の押し引文が連ねられた口縁部片である。やや内傾して立ち上がり、口縁部がわずかに外反する。581は刻目を持つ隆帯で文様帯を区画する胴部片である。S字状に屈曲し、およそ胴部上半のみ刻目を持つ隆帯や沈線で施文する。582は縦方向の隆帯と横方向の連続する刺突文で施文される口縁部片である。やや外傾し、直線的に立ち上がる。583はわずかに屈曲部にかかる胴部片で、押し引文により面的に施文した後、刻目を持つ



第78図 3TIVb層出土土器(1/3)

つ縦方向の隆帯を施す。584は口縁部片で、口縁から少し下がった位置に横方向に連続する刺突を施す。

585～588は貝殻条痕の存在からⅢ類とだけ分類した。うち588は平底の底部片で、外面底部を除き全面に明瞭な貝殻条痕が残る。外面底部に特筆すべき圧痕はみられない。

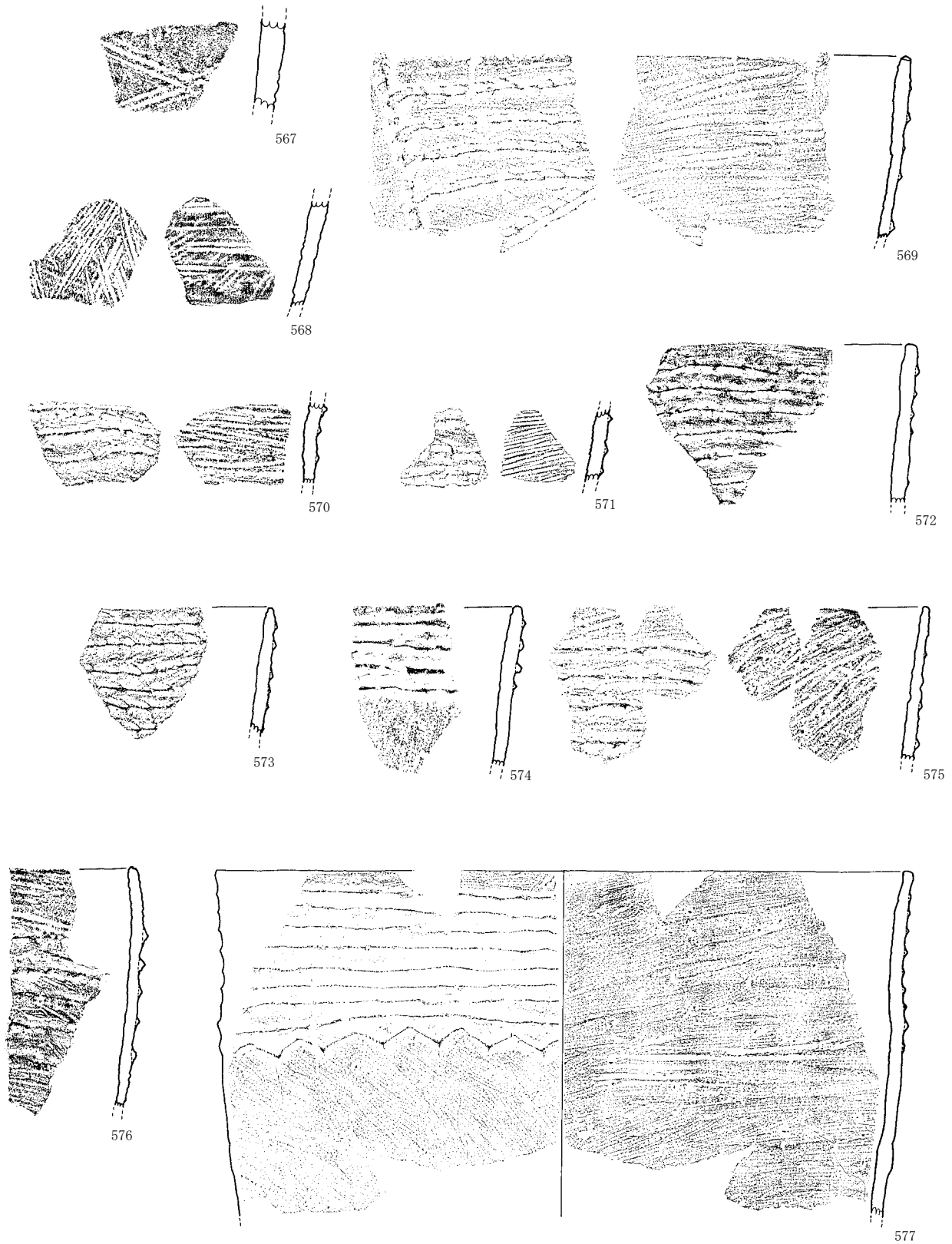
589はⅣa類である。器面に貝殻条痕を施す口縁部片で、口縁部外側は大きく突出し、大ぶりの刻目が連続して施される。胎土には多量の滑石を含む。

4TⅢa層・Ⅲb層出土土器(第81図)

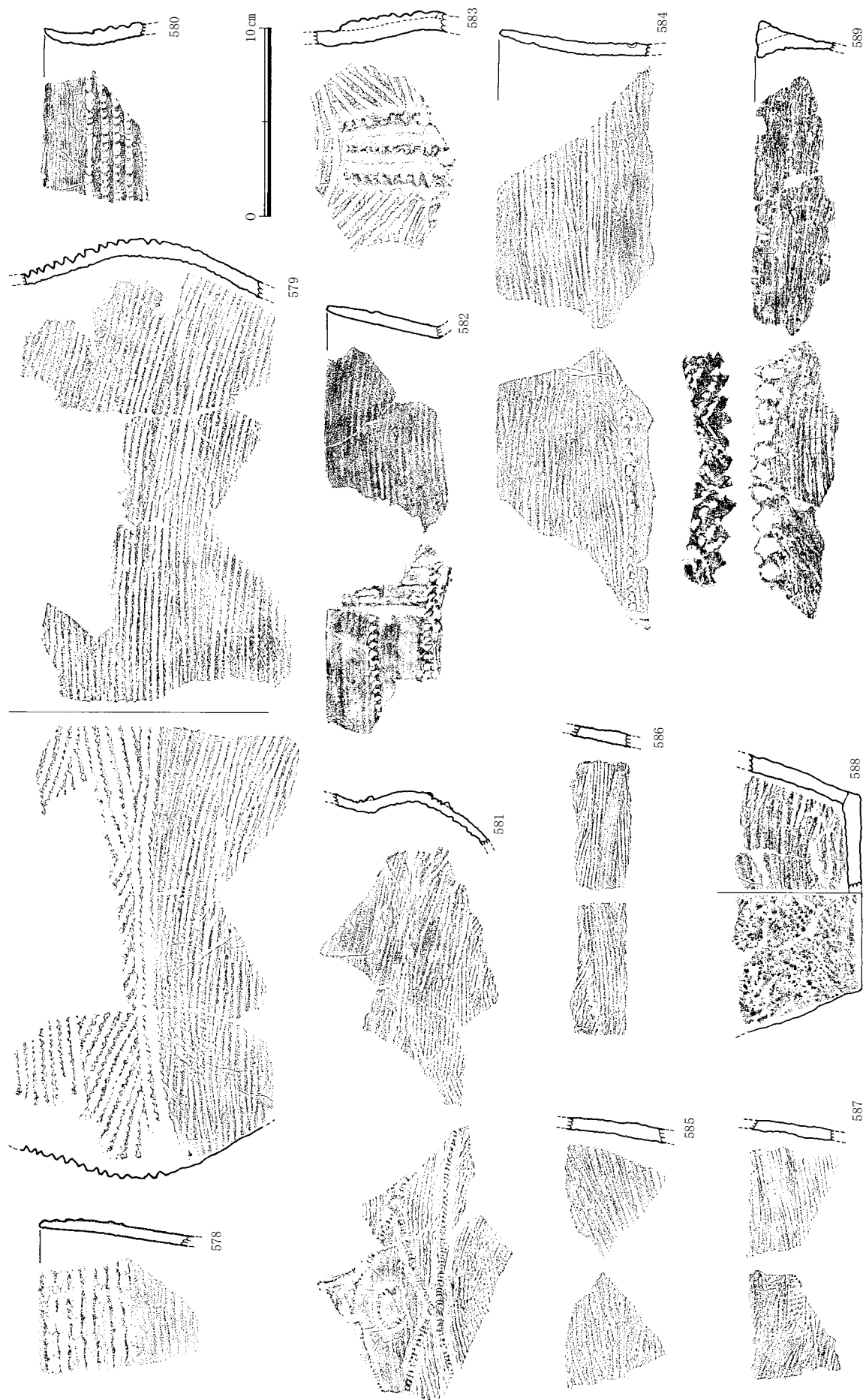
590～596はⅢa層出土、597～603はⅢb層出土の土器である。

590はⅢd3類で、横方向に連続する刺突文を施す。591・592・594は貝殻条痕によりⅢ類と認められるが、それ以外の特徴に乏しく細分はできない。593・595・603は胎土に滑石を含むⅣa類で、口縁部片である595にはM字状に蛇行し頂部に刻目を施す隆帯がみられる。596は不明瞭ながら目の細かい縄文がみられる。船元式等、外来系の土器の可能性はある。

597～602は全てⅢ類である。597はⅢa2類で、比較的厚手の器壁を持ち、貝殻条痕が綾杉状に施される。598はⅢb3類で、口縁下部に2本の隆帯を平行に配置する。599も同様に横方向の隆帯がみられるが、隆帯の規模が小さいⅢb4類である。600は貝殻条痕の上に弧状の沈線を施すⅢd1類である。601・602は、貝殻条痕によりⅢ類とみられるが、細分できるだけの特徴を持たない。



第79図 4T I・II層出土土器1 (1/3)



第80圖 4T I・II層出土土器2 (1/3)



第81図 4 T III a・III b層出土土器 (1/3)

4 T IV a層出土土器 (第82~84図)

604・605は山形押型文を施すI a類である。

606~613はII類である。うち606~608は面的な貝殻条痕を施さないII a類で、細い沈線や貝殻腹縁による刺突で施文する。609~613は地文の貝殻条痕がみられるII b類で、条痕の上から貝殻腹縁による刺突や沈線を施す。

614~636は、比較的厚手の器壁の内外面に強い条痕を施すIII a類である。条痕に特別の規則性がみられないことからIII a 1類に細分される。ただし624のみ、胎土に滑石を多量含む。小片のため詳細不明だが、III f類もしくはIV a類の可能性はある。

637~651は、同じくIII a類のうち、曲線状や綾杉状など文様の意匠を持つ条痕を含むIII a 2類である。特に曲線文がみられるものは637・638・641・651で、斜行・交差する条痕や綾杉状の条痕を含むものは639・640・642・644・645・649である。

652~665は貝殻条痕の上に隆帯を貼り付けるIII b類である。652・653は縦及び斜め方向の隆帯によりIII b 1類に細分される。654は同様に縦方向の隆帯がみられるが、途中で屈曲する器形によりIII b 7類とみられる。隆帯はみられないが、669も同じくIII b 7類とみられる。655~659は横方向の隆帯を平行に複数配置するIII b 3類である。大型の破片である657・658では、隆帯が胴部上半に集中する様子がよくわかる。660~662はIII b 5類で、貼り付けた隆帯の上に刺突を施す。663~665はIII b 6類で、粘土紐貼り付けによらず、周囲を強くなでることにより小規模な隆帯をつくり出している。

666～668 は、貝殻による曲線文を施すⅢ c 類である。666 は、曲線の振幅が比較的小さいⅢ c 1 類に細分される。667・668 は曲線文と併せて直線文もみられる。

670 は平行する短直線状の沈線を連ねて面的に施文し、刺突をもつ隆帯を施す。Ⅲ e 1 類とみられる。

671 は平底の底部片である。内面にわずかに残る貝殻条痕によりⅢ類に分類される。外面底部に特筆すべき圧痕はみられない。

4 T IV b 層出土土器 (第 85 図)

掘削面積が狭いこともあり、4 T IV b 層から出土した土器はわずか4点である。総じて器壁が厚く、比較的古い様相を呈す。

672・673 は I a 類である。外面に山形押型文を施し、内面はナデで調整される。674 は II a 類である。断面 V 字形の鋭い沈線を斜めに施文する。残存部分では不明だが、沈線は交差するように施文されているとみられる。675 は口縁部外面に横方向の隆帯を 2 本貼り付け、隆帯状及び口唇部に連続して刺突を施す。Ⅲ b 2 類とみられる。

4 T 内遺構出土土器 (第 85 図)

676・677 は SK01 出土の土器である。676 は山形押型文を施す I a 類である。677 は外面に貝殻による曲線状の沈線を施す。内面の一部に横方向の条痕がわずかに残ることから、Ⅱ b 類とみられる。

678 は SP01 出土の土器である。小片だが、渦巻状に施される隆帯に連続して刺突が施されているのが確認できる。Ⅲ b 7 類とみられる。

5 T I～Ⅲ a 層出土土器 (第 86 図)

679・680 は攪乱層である I・II 層出土、683 はⅢ a 層出土である。

679 は II a 類で、貝殻による交差する条痕の上に、貝殻腹縁による刺突を施した口縁部片である。680 も同じく貝殻条痕の上に刺突を施すが、条痕が文様から全体的な地文に変化しており、Ⅱ b 類に分類される。681 は貝殻条痕の上に平行する横方向の隆帯を複数施すⅢ b 3 類である。682 は凹線文の間に連続して刺突を施すⅣ a 類で、胎土には滑石を含む。

683 は貝殻条痕が施されたⅢ類の胴部片である。ナデ消しか手擦れによるものか不明だが、条痕は薄い。

5 T III b 層出土土器 (第 87 図)

684～686 は貝殻腹縁による刺突を施すⅡ類である。地文の貝殻条痕を持たない684・685 はⅡ a 類に、条痕を持つ686 はⅡ b 類に細分される。

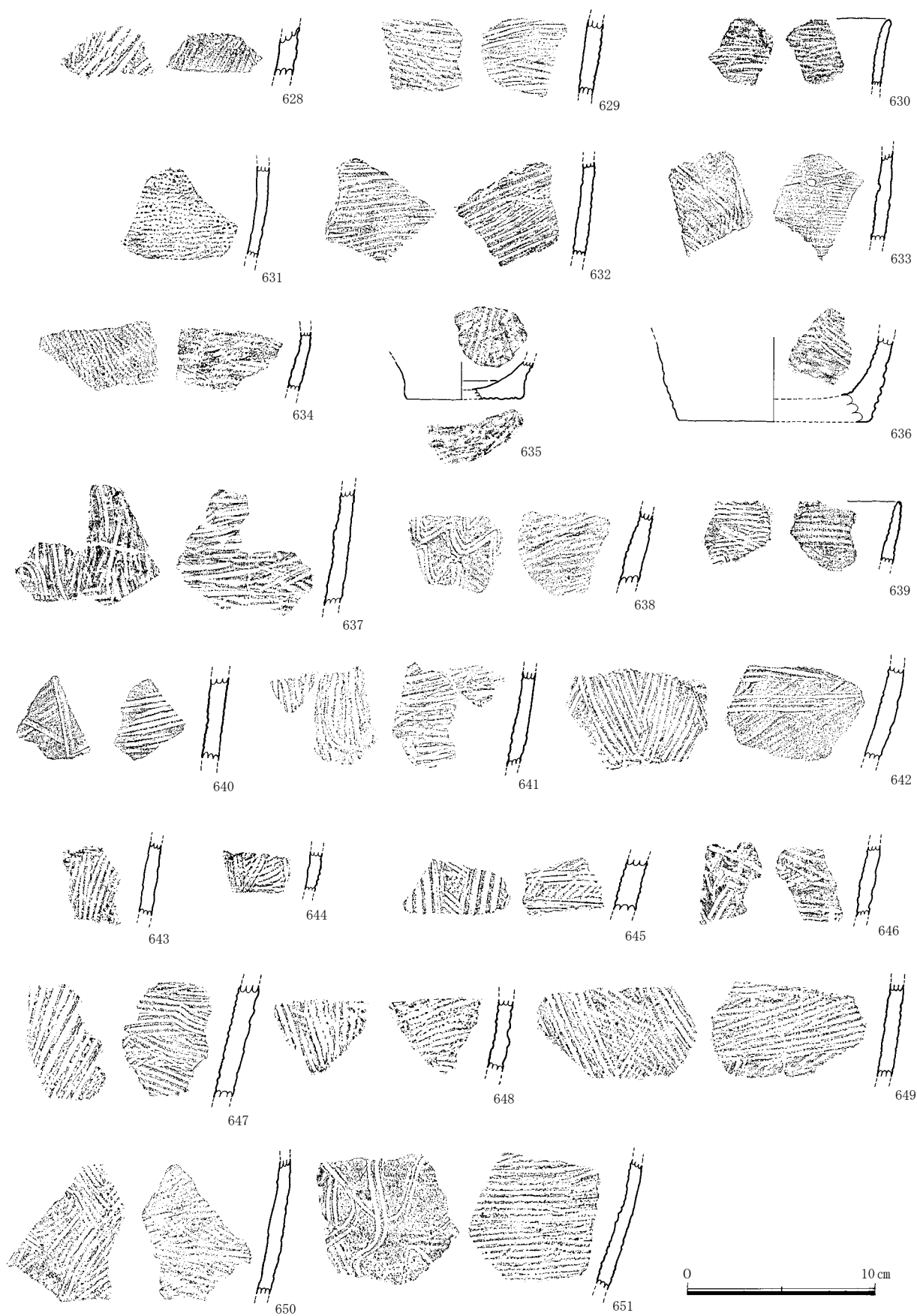
687～694 は貝殻条痕の上に隆帯を持つⅢ b 類である。うち687～690 は、縦方向や斜め方向の隆帯を持つⅢ b 1 類である。隆帯はいずれも小規模である。691～693 は横方向の隆帯を持つ。隆帯の大きさから、691・693 はⅢ b 4 類、692 はⅢ b 3 類に分けられる。694 は隆帯状に刺突文を連続して施すことからⅢ b 5 類に分類した。ただし、刺突には断面が丸い棒状工具を使用したとみられ、工具の特徴としてはⅢ d 類に近い要素とも考えられる。

695～700 は、貝殻による曲線文を持つⅢ c 類である。施文の方向は縦方向と横方向があるが、曲線はいずれも広い振幅で蛇行する。Ⅲ c 1 類に細分できる。

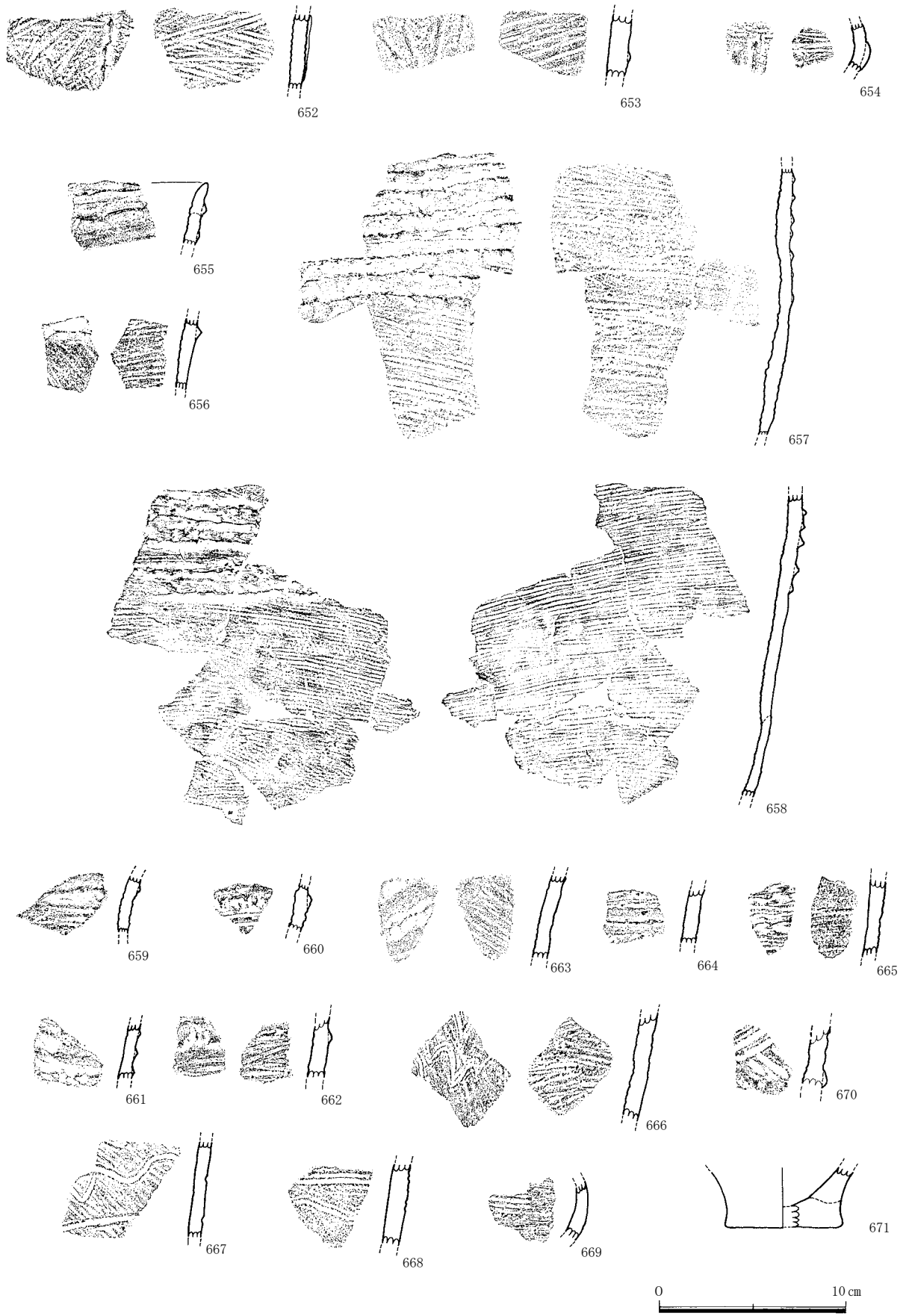
701～706 は、器面に貝殻条痕が見られるⅢ類である。器面に残る条痕はいずれも深く、Ⅲ a 類又はⅢ b 類



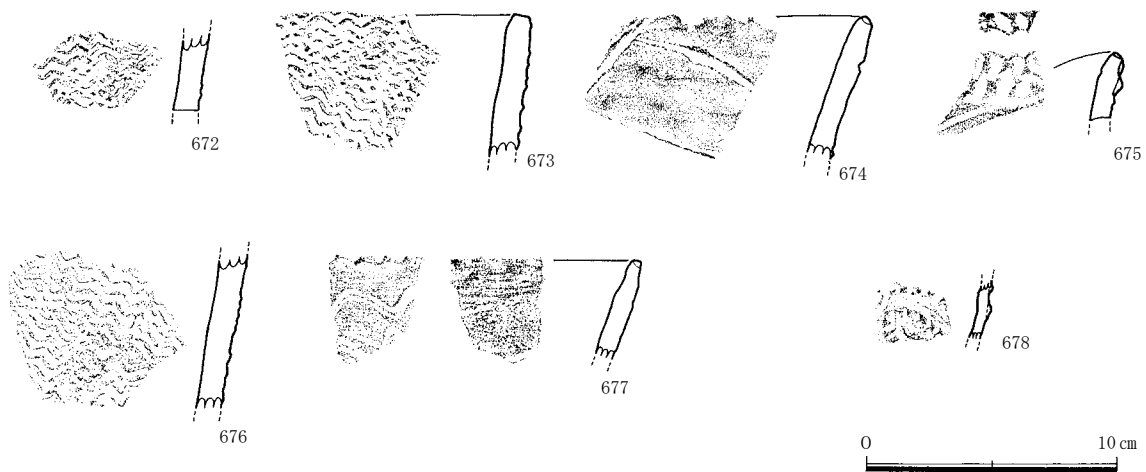
第 82 図 4 T IV a 層出土土器 1 (1 / 3)



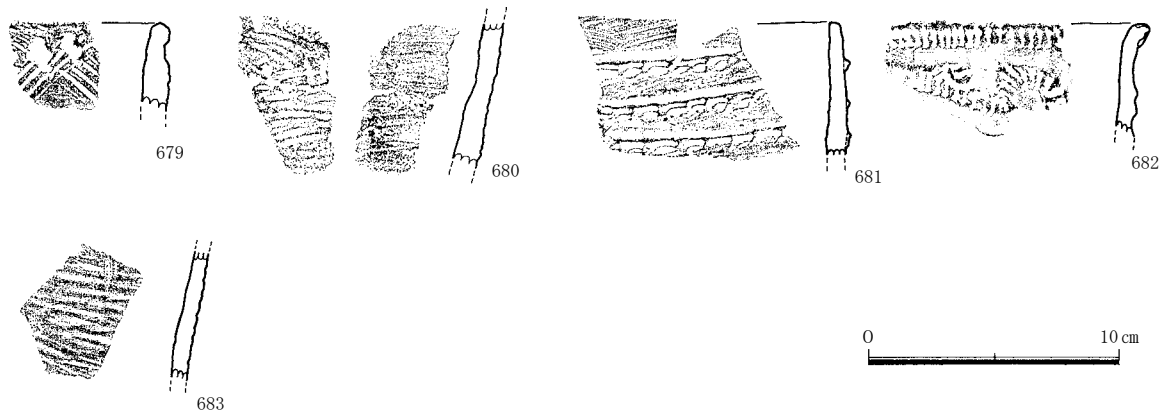
第83圖 4 T IV a層出土土器2 (1 / 3)



第84図 4 TIV a層出土土器3 (1/3)



第85図 4 T IV b 層・SK01・SP01 出土土器 (1 / 3)



第86図 5 T I ~ III a 層出土土器 (1 / 3)

である可能性が高い。706は平底の底部片で、内面にわずかに貝殻条痕が残る他、外面底部には刺突列点に似た不明圧痕がみられる。

5 T IV a 層・IV b 層出土土器 (第88・89図)

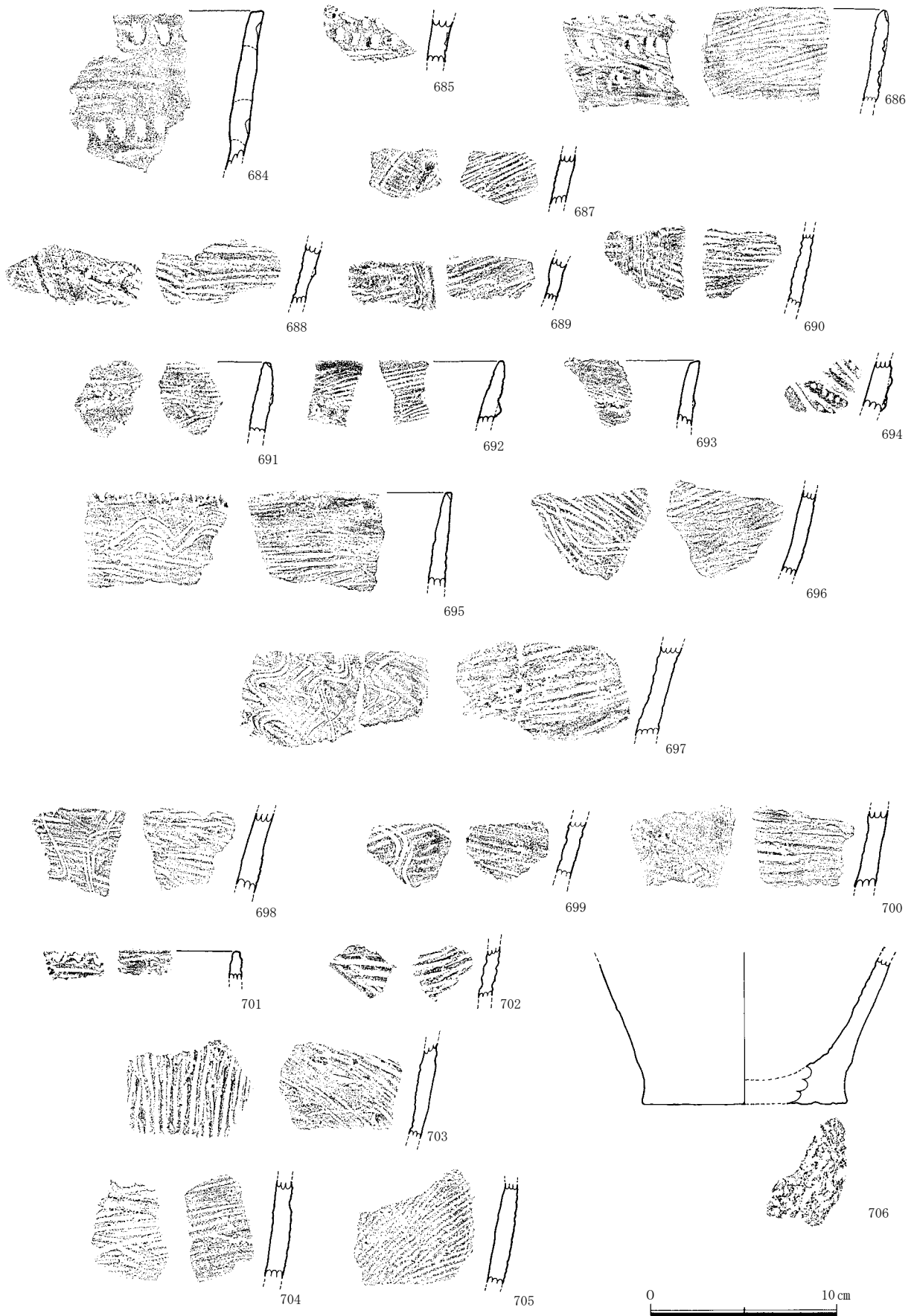
707~749のうち、749のみIV b 層出土、他は全てIV a 層出土である。

707は楕円押型文を施すI c 類である。708~713はII 類で、うち708~712は貝殻による斜行する沈線や貝殻腹縁による刺突等で施文されるII a 類、713は沈線に先立って地文としての貝殻条痕を施すII b 類である。

714・715は内外面に強い貝殻条痕を施すIII a 1 類である。

716~722は、貝殻条痕の上に隆帯を施すIII b 類である。うち716~718はIII b 1 類で、斜め方向等の隆帯を施す。719・720はIII b 3 類で、横方向の並行する隆帯を複数施す。720は口唇部に連続する刻目を顕著に施す。721も横方向の隆帯を施すが、隆帯は貼り付けでなく上下を強くなでることによって作り出した微隆起帯文で、III b 4 類に分類される。722は隆帯上に刺突を施したIII b 5 類である。

723は貝殻条痕の他、棒状工具による刺突を連続して施したIII d 3 類である。724は平行する縦方向の沈線の後、横方向の沈線を施す。沈線は比較的太く、断面が半円形をなす凹線に近いものである。III f 類と判断した。



第87図 5 T III b層出土土器 (1 / 3)

725～747はⅢ類である。貝殻条痕以外の特徴に乏しく、細分はできなかった。

748はⅥ類である。沈線で区画された中に、わずかながら磨消縄文が認められる。

749はⅡa類である。斜め方向の沈線と、貝殻腹縁による刺突文が施される。

6 T出土土器 (第90図)

6 T出土の縄文土器は750～754の5点である。全て3～5層出土だが、調査の成果によりこれらの土層が縄文時代の堆積でないことが判明している。よって、6 Tの縄文土器は全て攪乱されたものであると言える。

750は「く」の字に屈曲させた口縁部の外面に断面三角形の工具による刺突を連続して施す。地文の条痕が薄く残りⅢ類の可能性があるが、詳細は不明である。751は内外面に貝殻条痕を施した後、口縁下部に隆帯を貼り付け、隆帯上と口唇部外側に連続した刻目を施す。焼成は非常に良い。Ⅲb2類に分類される。752は口縁部外面に横方向の沈線を2本施文し、その下に斜め方向の沈線を連続して施す。器壁は比較的厚く、内面はナデ調整で文様は施さない。Ⅳ類に近いとみられるが、詳細は不明である。753は連続する刺突文で区画された間に縦方向の細い隆帯を連続して施すⅢb7類である。754は沈線の間ハイガイ等フネガイ科の貝殻の背面によるとみられる押圧文が残る。粘土を折り返して肥厚させた口縁部片で、Ⅴb1類に相当する。

以下、755～780は縄文時代以外の遺物である。出土層位ごとに示す。

755～764は3～5層出土である。764は土師器の塚で、底部のみ残存する。内面を黒く燻して磨き、放射状暗文を施した黒色土器(内黒土器)である。それ以外の755～763は弥生土器である。いずれも甕の口縁部で、突帯の形状から755はⅠ類、756はⅡ類、757はⅣ類、758・760・763はⅤ類、759はⅥ類、761はⅦ類、762はⅡb類に分類される。

765～767は5層出土である。765は土錘で、中央のやや膨らむ円筒形を呈す管状土錘である。766は弥生土器の甕で、口縁部形状はⅡb類である。767は土師器の坏である。内外面ともナデで調整され、底部には回転糸切り離し痕が残る。

768～770は8層出土である。全て弥生土器の甕片で、口縁部の形状から768はⅡb類、769・770はⅣ類に分類できる。

771・772は8層と9層を明確に区別できないまま取り上げてしまったもので、どちらも弥生土器の甕の口縁部である。口縁部の形状は771がⅣ類、772がⅦ類である。

773～780は9層出土である。全て弥生土器の甕片である。773～779は口縁部で、突帯の形状から773・774はⅡa類、775はⅡb類、776はⅥ類、777はⅠ類、778はⅡb類、779はⅦ類に分類される。777・778には口縁下部に断面三角形の突帯がみられる。780は甕の底部で、外面に縦方向の刷毛目が残る。欠損しているが、脚部を有すとみられる。

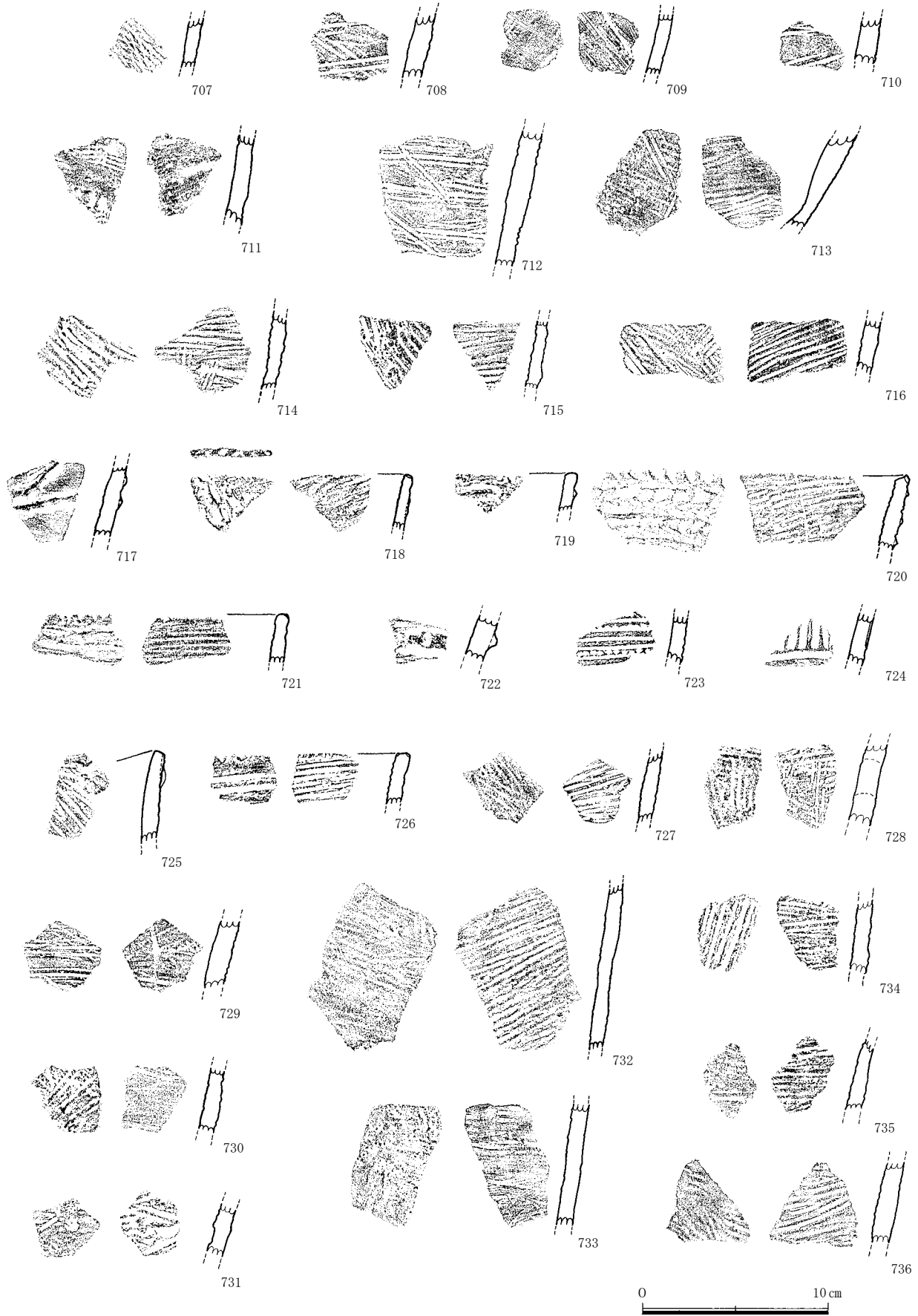
7 T出土土器 (第91図)

貝層の表面検出までしか行っていない7 Tの出土遺物は、表土から攪乱層にかけて出土した3点のみである。

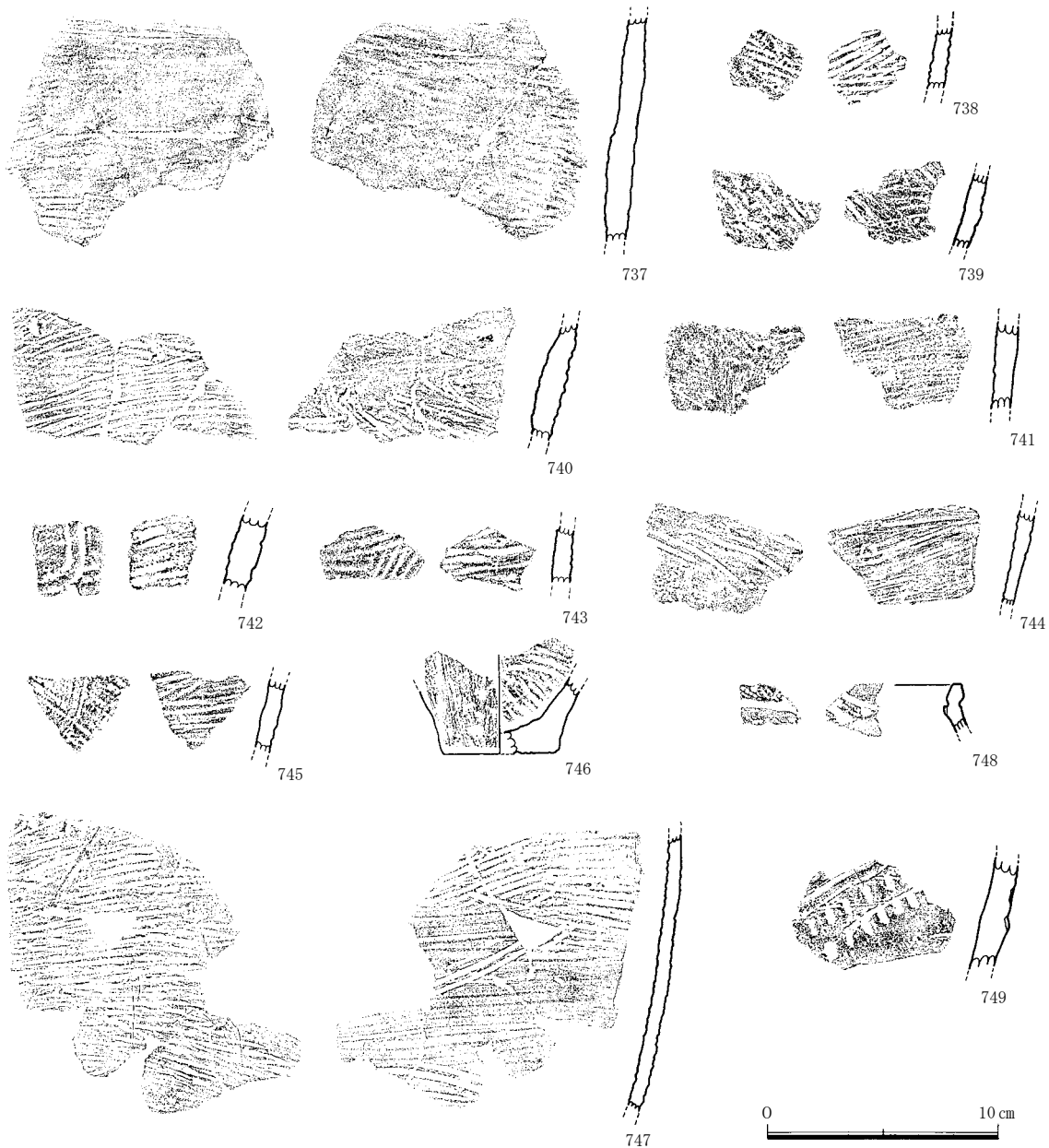
781は頸部で、屈曲し外傾して立ち上がる口縁部片である。口縁部外面に横方向を主体とする凹線文を施し、頸部には太い凹線を施す。Ⅳb2類に分類される。

782は大きく外に開きながら立ち上がる鉢の底部である。器面のほとんどがナデにより調整され、目立った文様は無いが、内面の一部にごく薄く貝殻条痕が残る。底部は内外面ともに使用によるとみられる二次焼成がみられ、内面は薄く剥離している。胴部外面には赤色顔料が残る。

783は円筒埴輪である。内外面とも縦方向の刷毛目を有し、貼り付けによる突帯と透孔の一部が確認できる。



第88図 5 TIV a層出土土器1 (1/3)



第89図 5 T IV a 層出土土器 2・IV b 層出土土器 (1 / 3)

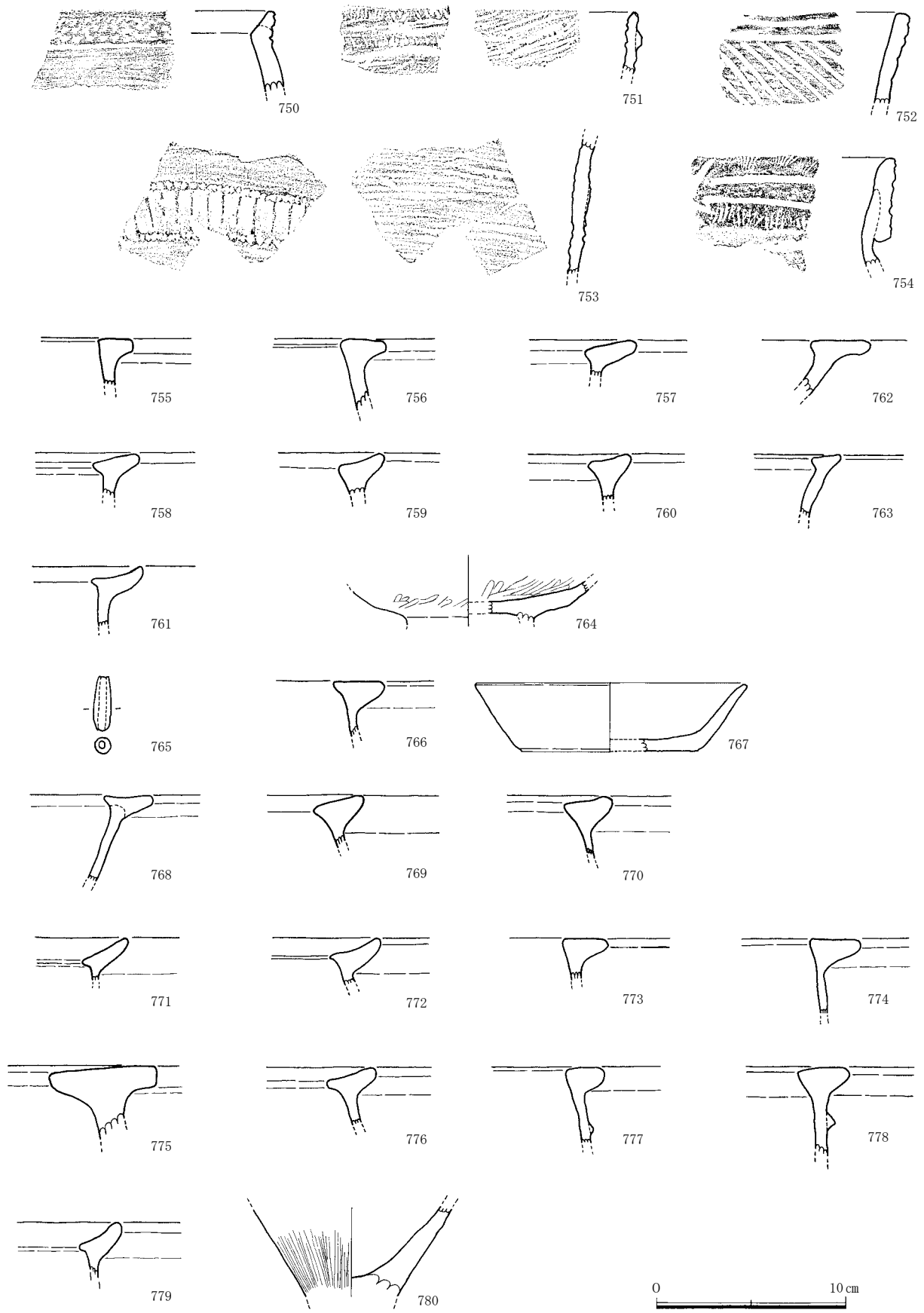
透孔は円形を呈す。

8 T I・II 層出土土器 (第92図)

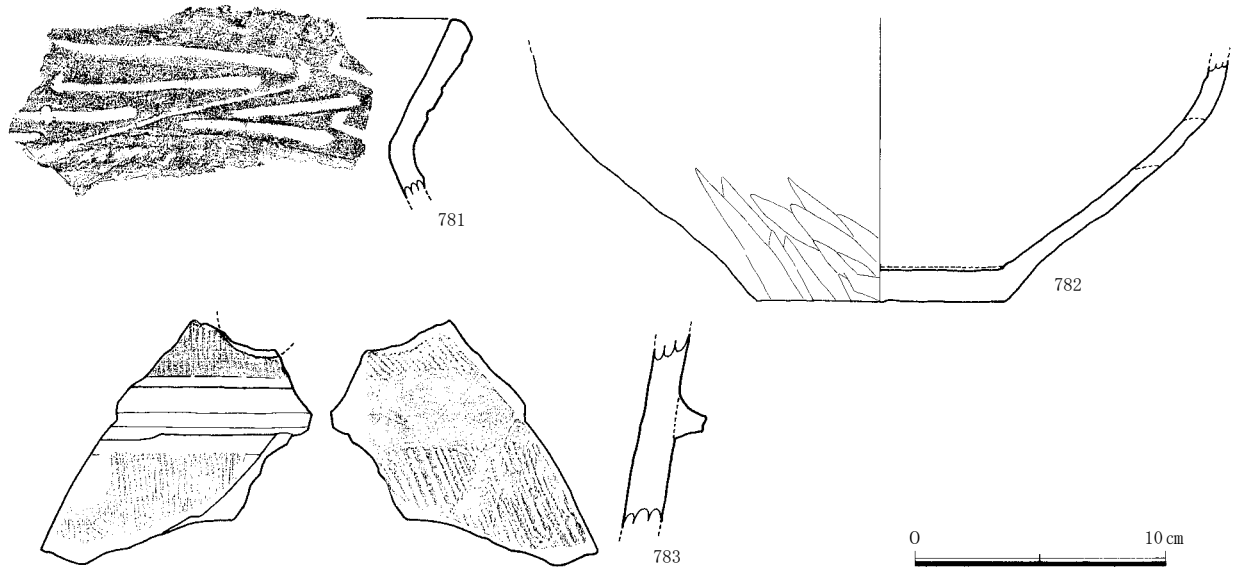
784は口唇部に刻目を施し、外面に抉るように施文された半円形～円形の刺突文が不規則に施される。口縁下部に1個所、内部まで貫通する円形の穿孔がみられる。II a 類に分類される。器面と穿孔部断面との比較から、穿孔は土器の焼成より後に行われたとみられ、かつ穿孔の内部にも二次焼成の痕跡がみられることから、穿孔後にも加熱等に使用されたことがわかる。

785・786はIII類である。785は口唇部に連続する刻目を施し、内外面に明瞭な貝殻条痕を施す。条痕には蛇行する曲線状のものが含まれ、III a 2類に分類される。786はIII b 7類である。やや湾曲しつつ立ち上がり、外面には多くの押引文を連ねて面的な施文とする。

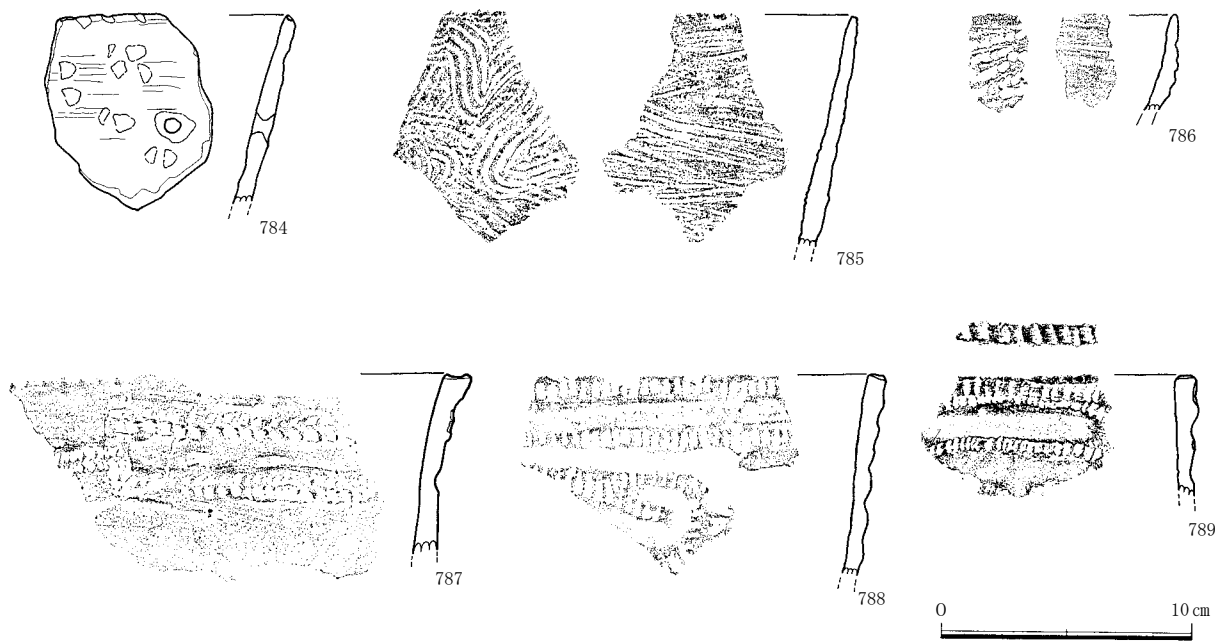
787～789はIV a 類である。787は口唇部の一部に刻目を有し、外面を横方向の押引文で施文する。788・



第90図 6T出土土器 (1/3)



第91図 7T出土土器 (1/3)



第92図 8T I・II層出土土器 (1/3)

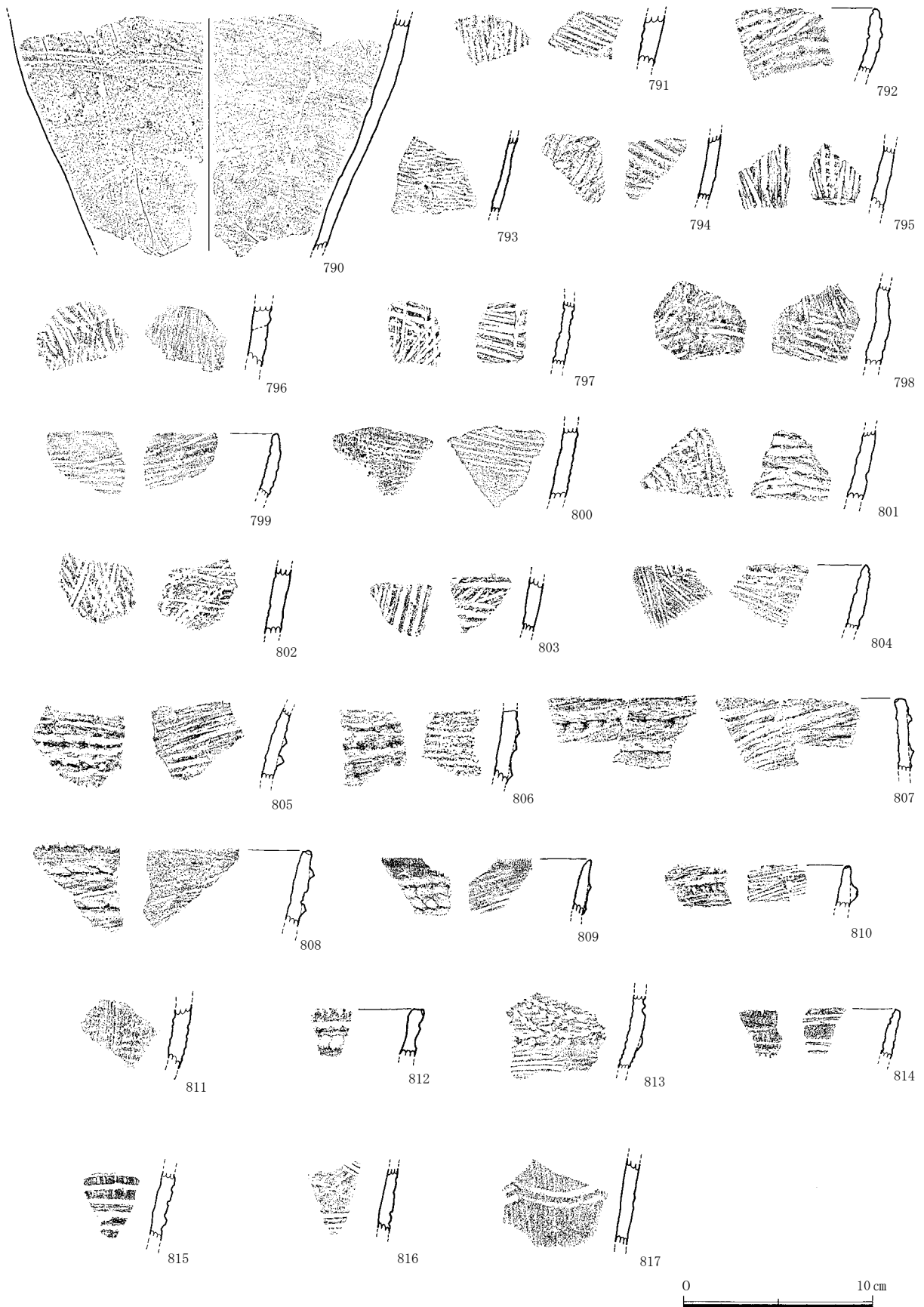
789 は口唇部に連続して刺突を施し、横方向を主体とする凹線の間を連続する刺突で施文する。胎土に滑石を顕著に含む。

8T III a層出土土器 (第93・94図)

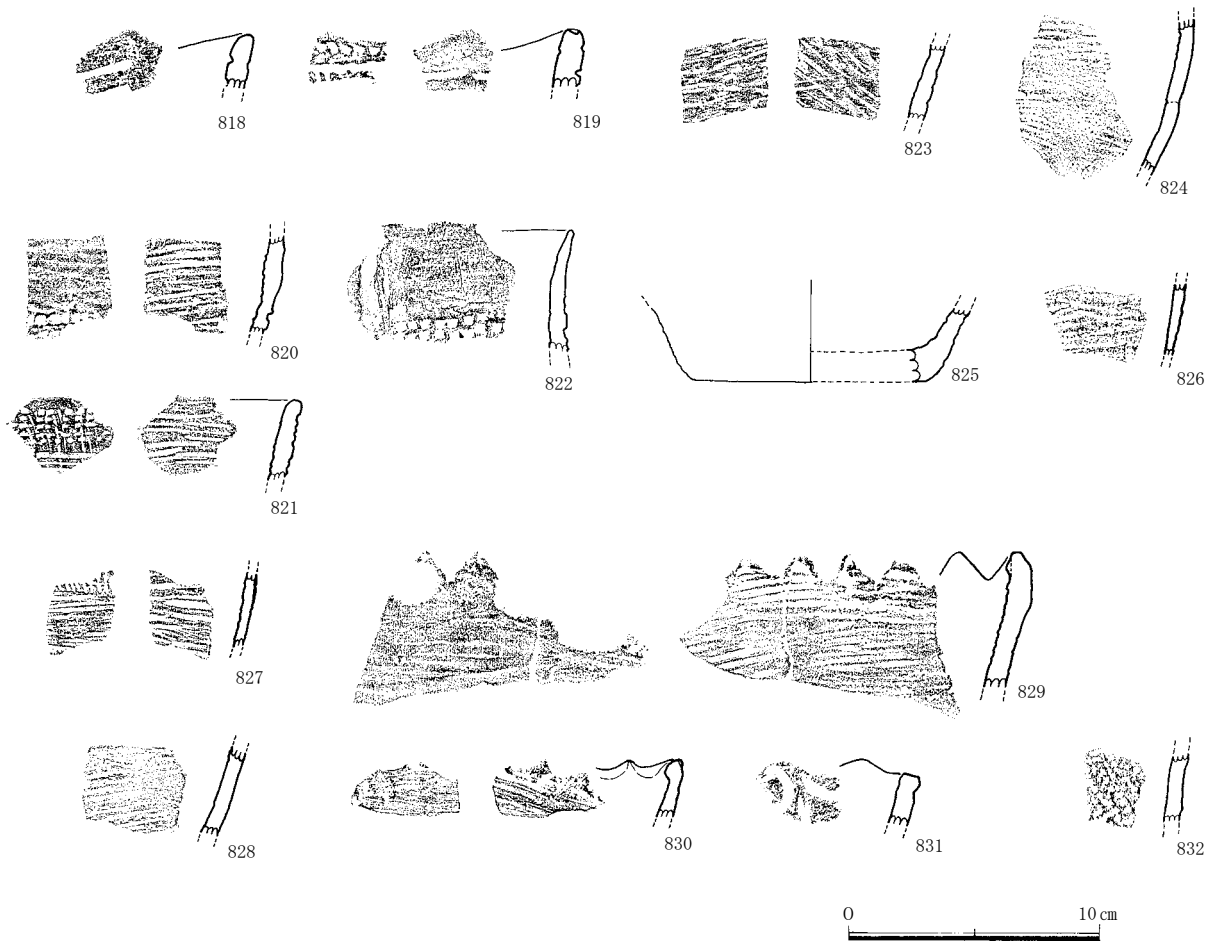
790 は貝殻条痕を施す深鉢の胴部片である。条痕はごく薄く、外面下部にはみられない。II b類とみられる。

791～804 は、内外面に比較的強い貝殻条痕を施すIII a類である。うち791～801 は、条痕に規則性や文様の意匠がみられないIII a 1類である。対して802～804 は交差する斜め方向の条痕を含むIII a 2類である。

805～813 は、貝殻条痕の上に隆帯を施すIII b類である。うち805～809 は、横方向の隆帯を複数平行に貼り付けるIII b 3類である。口縁部片である807・808 では口唇部に刺突がみられる。810 はIII b 2類である。



第93図 8 T III a層出土土器1 (1/3)



第94図 8T III a層出土土器2 (1/3)

口縁下部に高く突出する横方向の隆帯を施し、隆帯上と口唇部に連続して刺突を施す。811・812はⅢb 6類である。811は強いナデにより、812は平行する沈線と凹点状の押圧により微隆起帯文をつくり出している。813はⅢb 7類である。かすかに内湾して立ち上がる胴部片で、貝殻腹縁による刺突を施した隆帯の上部に押引文を施す。

814～819はⅢd類である。うち814～818は棒状工具による直線状や弧状の沈線が施されるⅢd 1類である。地文の貝殻条痕は薄く残るものと残らないものがある。819も概ね同様の沈線による施文だが、口縁端部付近に連続する刺突文を施す。

820～822はⅢg類である。貝殻腹縁による押引文がみられ、うち822は併せて隆帯を貼り付けるⅢg 1類である。

825は平底の底部片である。内外面に残る貝殻条痕によりⅢ類に分類される。

823・824・826～830はⅣa類である。器面に貝殻条痕を施し、胎土に滑石を含む。827にはごく一部だが連続する刺突文がみられる。口縁部片である829・830は口唇部に深い刺突を施す。

831はⅣb類である。外面に曲線状の凹線を施す。

832はⅥ類である。小片であり詳細不明だが外面に磨消縄文がみられる。

8T III b層出土土器 (第95～100図)

833～835はⅠ類である。833・834は山形押型文を施すⅠa類、835は楕円押型文を施すⅠc類に細分できる。

836はⅡa類である。貝殻による2本一単位の沈線を施す。

837～859は、内外面に強い条痕を残すⅢa類である。ほとんどが条痕に規則性が認められないⅢa 1類だ

が、858のみ文様としての意匠を持つⅢ a 2類の可能性はある。

860～909は外面に隆帯を施すⅢ b類である。うち860～865はⅢ b 1類で、縦・斜め方向や渦巻状といった多様な隆帯を含む。866はⅢ b 2類である。口縁部外面に顕著な隆帯を持ち、隆帯上及び口唇部に貝殻によるとみられる連続した刺突を施す。867～892はⅢ b 3類で、平行する横方向の隆帯を複数施す。隆帯は上下から細かくつまんで調整される。893・894も横方向の隆帯という点で共通するが、特に隆帯の規模が小さいことからⅢ b 4類に分類される。895～900は隆帯の上に連続して刺突を施すⅢ b 5類である。隆帯は横方向のものが多く、898・899は縦方向である。901～909はⅢ b 7類である。胴部で屈曲し、外面は屈曲部より上部を中心に刺突を施した隆帯や面的に施された押引文で施文される。

910はⅢ c類である。地文の貝殻条痕に混じって蛇行する曲線状の条痕が残る。

911～925はⅢ d類である。うち911～916は縦方向の条痕の上に横方向を基本とする沈線を施すⅢ d 1類である。沈線にはやや弧状を呈す短直線文や蛇行する曲線文を含む。口縁部片である912・913・915・916では口唇部に刺突が認められ、912・913では内面に押引文、915・916では沈線がみられる。また、912は口唇部をまたいで内外にかぶさるように粘土を貼り付ける。917はⅢ d 2類である。条痕の上に沈線を施す点でⅢ d 1類と共通するが、棒状工具による単純な沈線でなく、貝殻その他、幅広の施文具を用いたとみられる。918～920は隆帯に代えて連続する刺突を施したⅢ d 3類である。921～925はその他のⅢ d類である。921は横方向の沈線のみ確認され、地文の貝殻条痕はみられない口縁部片である。922は粘土貼り付けにより肥厚させた口唇部に押引文を施す。923は外面に沈線、内面に押引文を施す。小片だがⅢ d 1類の可能性が高い。924は比較的大型の胴部片で、地文の貝殻条痕の上に一部押引文が残る。925は粘土貼り付けにより口縁端部を肥厚させ、口唇部に沈線を施した上、内外の口縁端部に連続して刺突を施す。隆帯上に刺突を施したという点ではⅢ b 5類に近い要素ではあるが、口唇部の沈線を重視してⅢ d類の一種と理解する。

926は2本単位の弧状沈線と直線状の沈線を組み合わせたもので、Ⅲ e 2類とみられる。

927～930はⅢ f類である。平行する沈線を多数連ねて面的な施文としている。口縁部片である928では、口唇部に刺突がみられる。

931～944はその他のⅢ類である。貝殻条痕のみ確認され、隆帯その他の細分可能な特徴はみられなかった。

945はⅣ a類である。薄く貝殻条痕が残る以外に文様的な特徴に乏しいが、胎土に滑石を含む。

946は外面に縄文を施す。船元式に近いとみられるが、小片であり詳細は不明である。

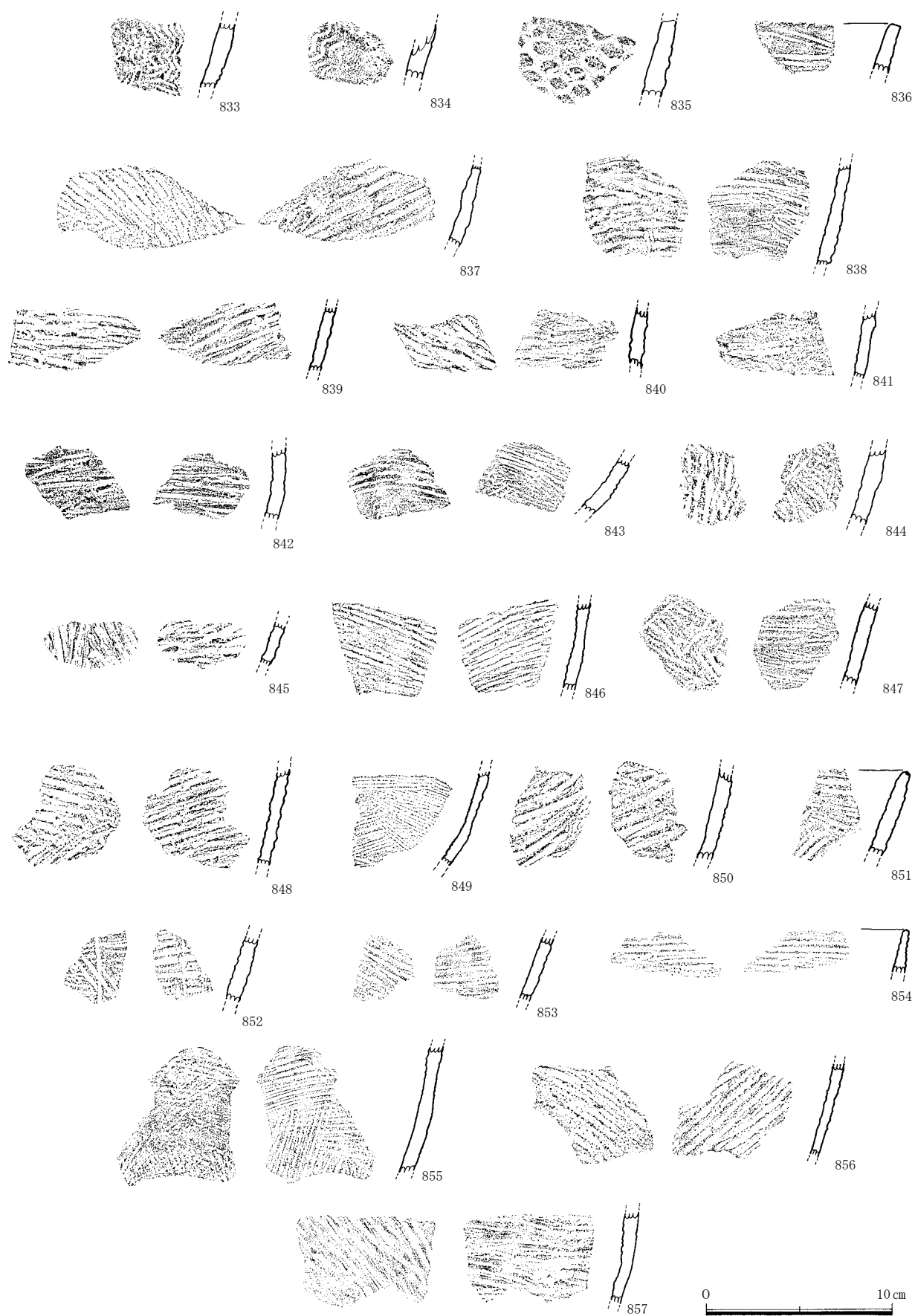
8 TIV a層出土土器（第101～110図）

947～949はⅠ類である。うち、947は山形押型文を施すⅠ a類、948・949は格子目状の押型文を施すⅠ b類である。

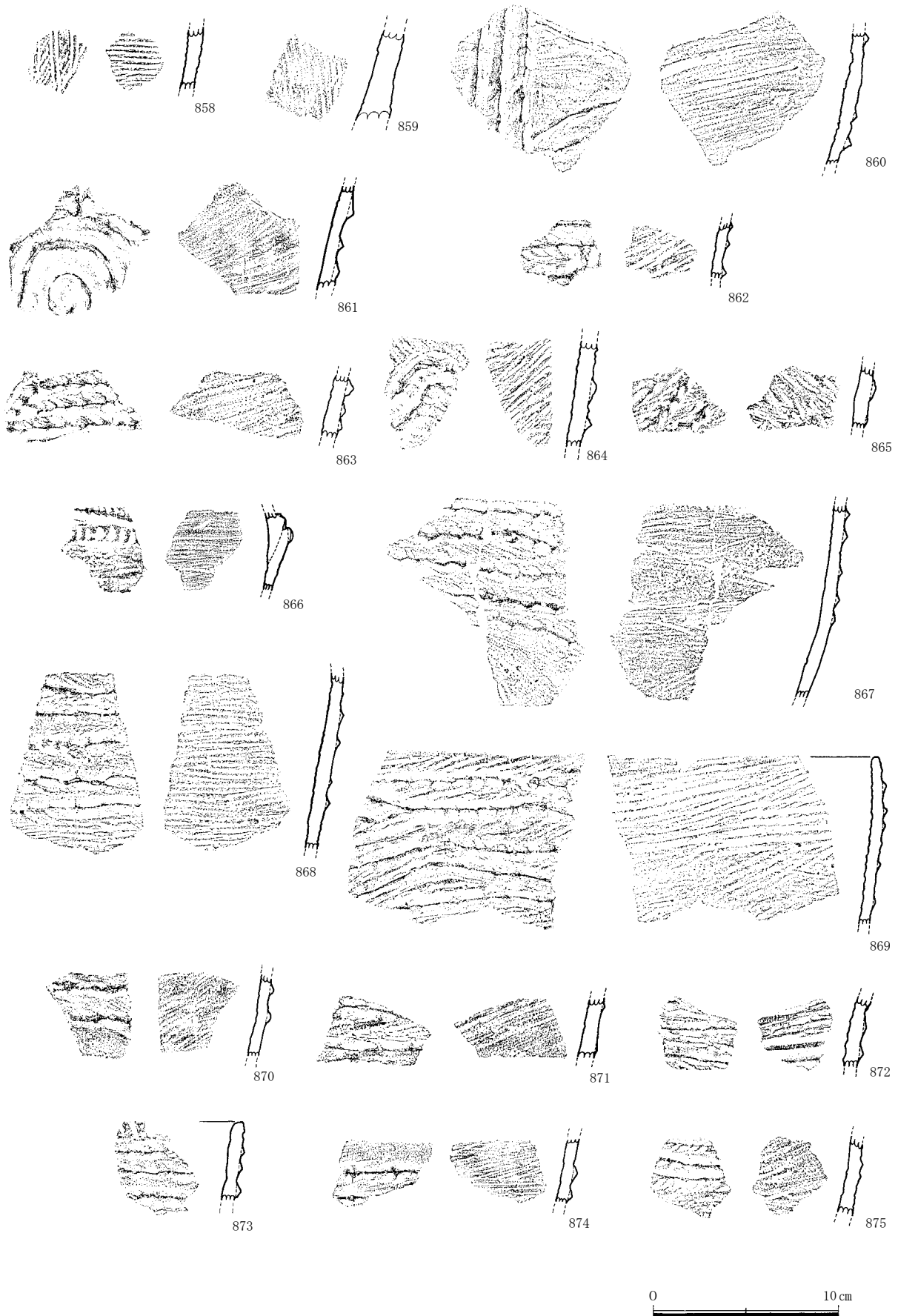
950～959はⅡ類である。貝殻腹縁による刺突・沈線を主文とし、950～953は地文として全面的な貝殻条痕を施さないⅡ a類、954～959は地文としての条痕を施すⅡ b類である。

960～1023はⅢ a類である。内外面全体に地文として強い貝殻条痕を施し、口唇部には刻目を施す。960～1005は条痕に規則性がみられないⅢ a 1類、1006～1023は曲線や斜行する沈線、綾杉状など文様としての意匠を持つ条痕を含むⅢ a 2類である。曲線文を含むのは1006～1008・1010・1011・1016・1019・1020の8点、斜行する沈線状の条痕を含むのは1009・1012～1015・1017・1018・1021～1023の10点である。

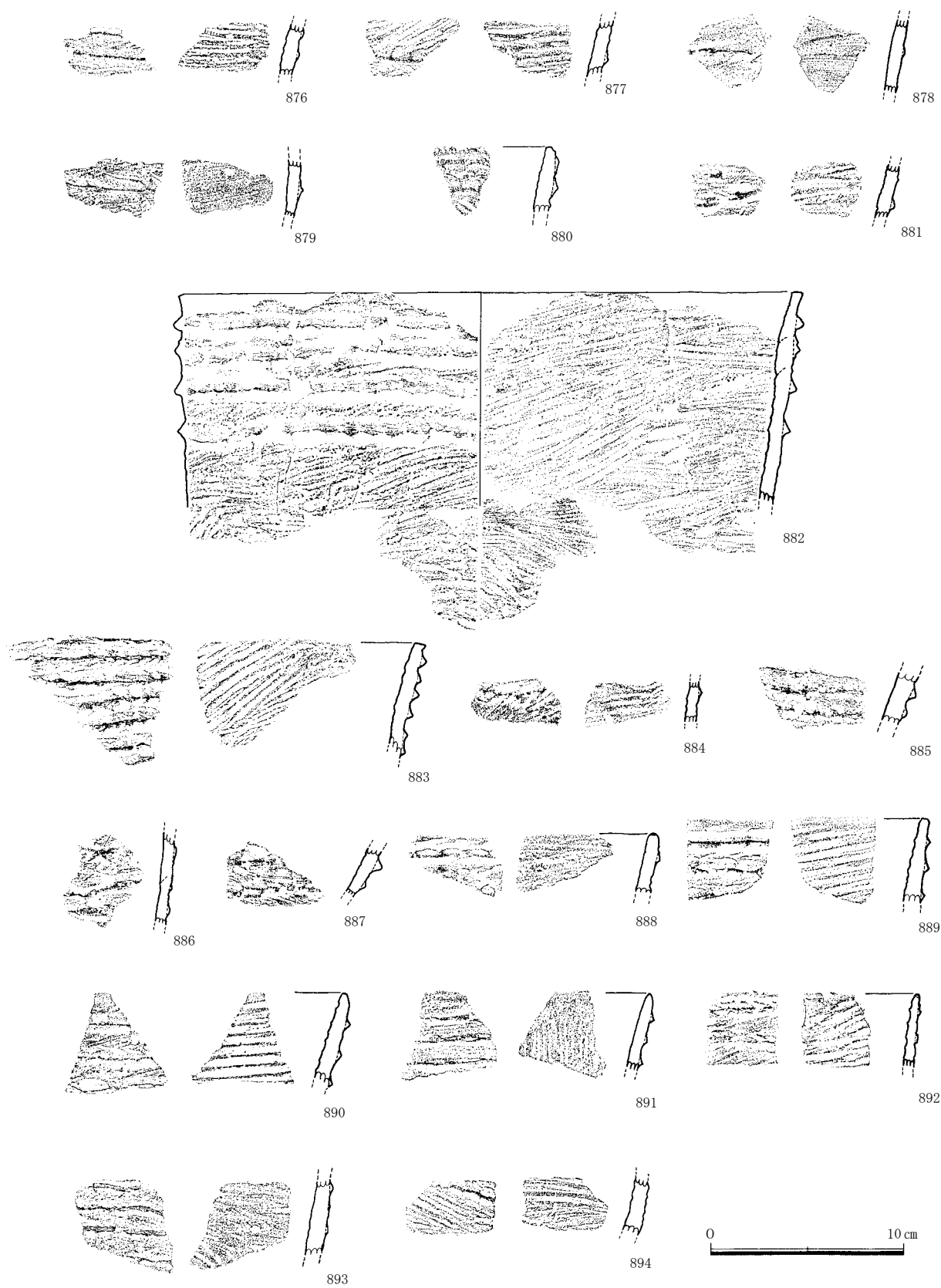
1024～1081は、貝殻条痕の上に隆帯を施すⅢ b類である。1024～1030は縦・斜め方向等の隆帯を施すⅢ b 1類である。隆帯には顕著に突出するものと小規模なものがある。1031～1051は、横方向の隆帯を複数連続して施すⅢ b 3類である。残りの良いもので比較すると、隆帯の数は1031で3本、1034で7本と、個体差がある。隆帯の断面形状も、山形のものが多く、1037をはじめ、丸みを帯びたものが含まれる。1052～



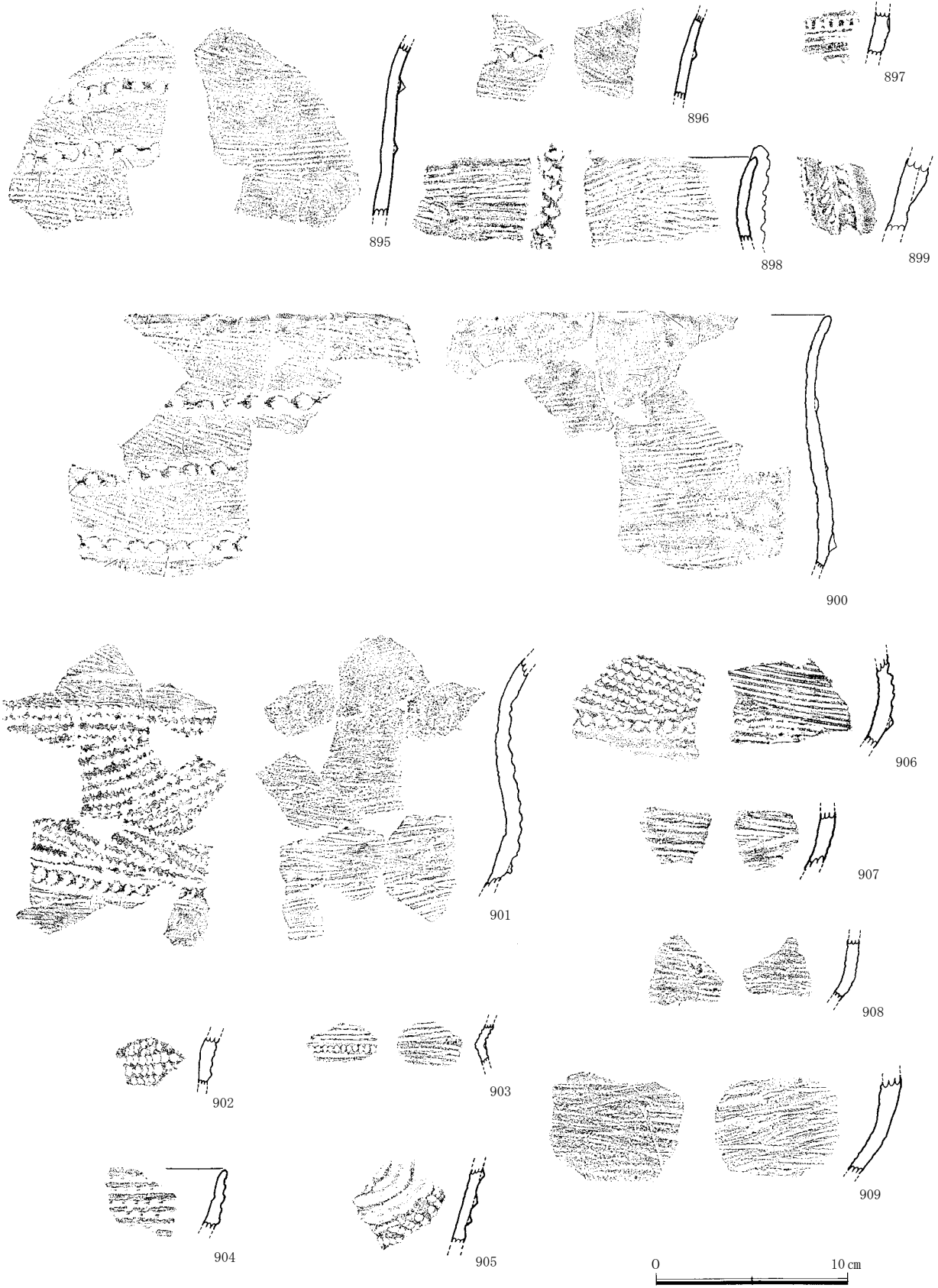
第95圖 8TⅢb層出土土器1 (1/3)



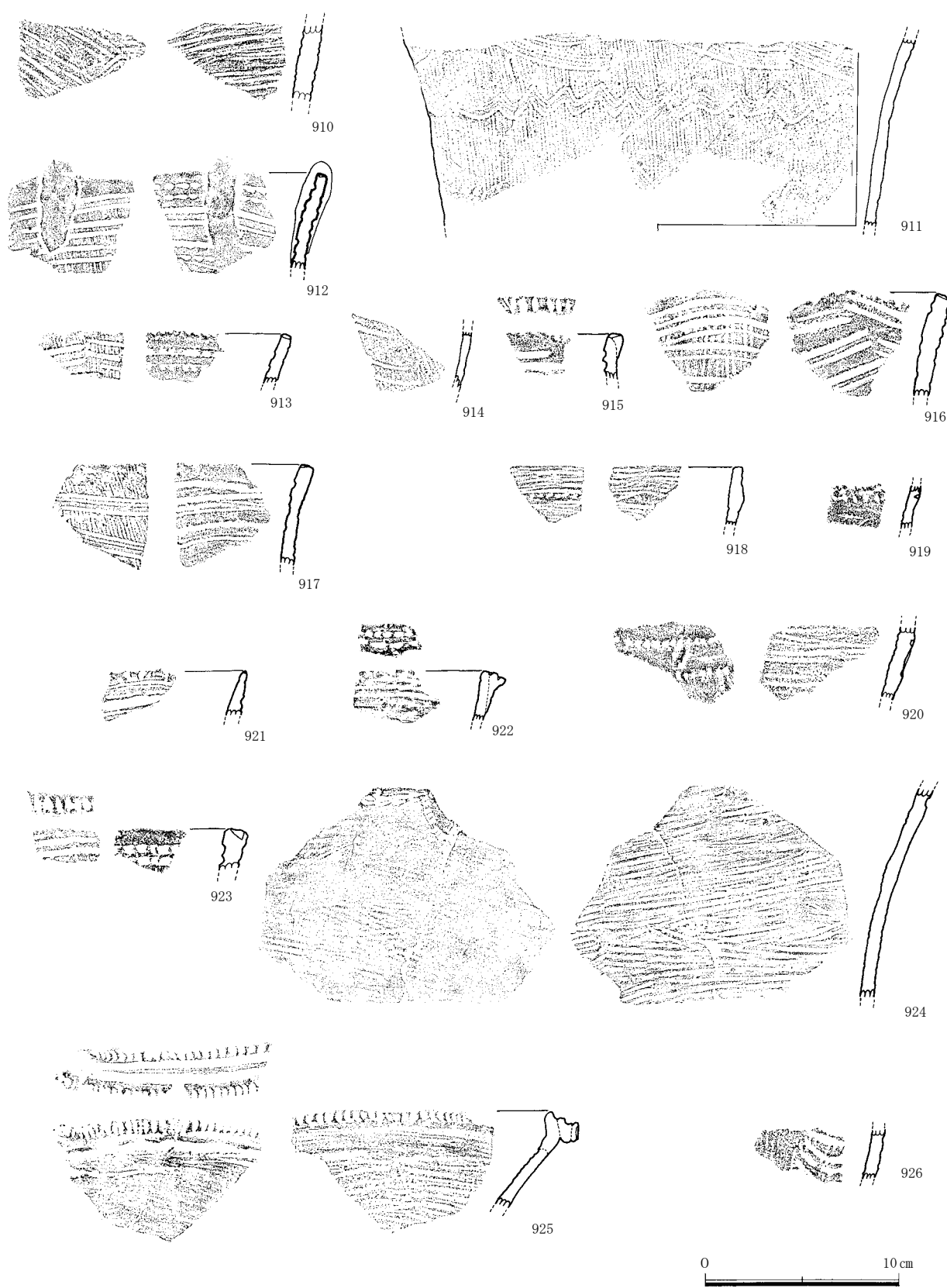
第96図 8 T III b層出土土器2 (1 / 3)



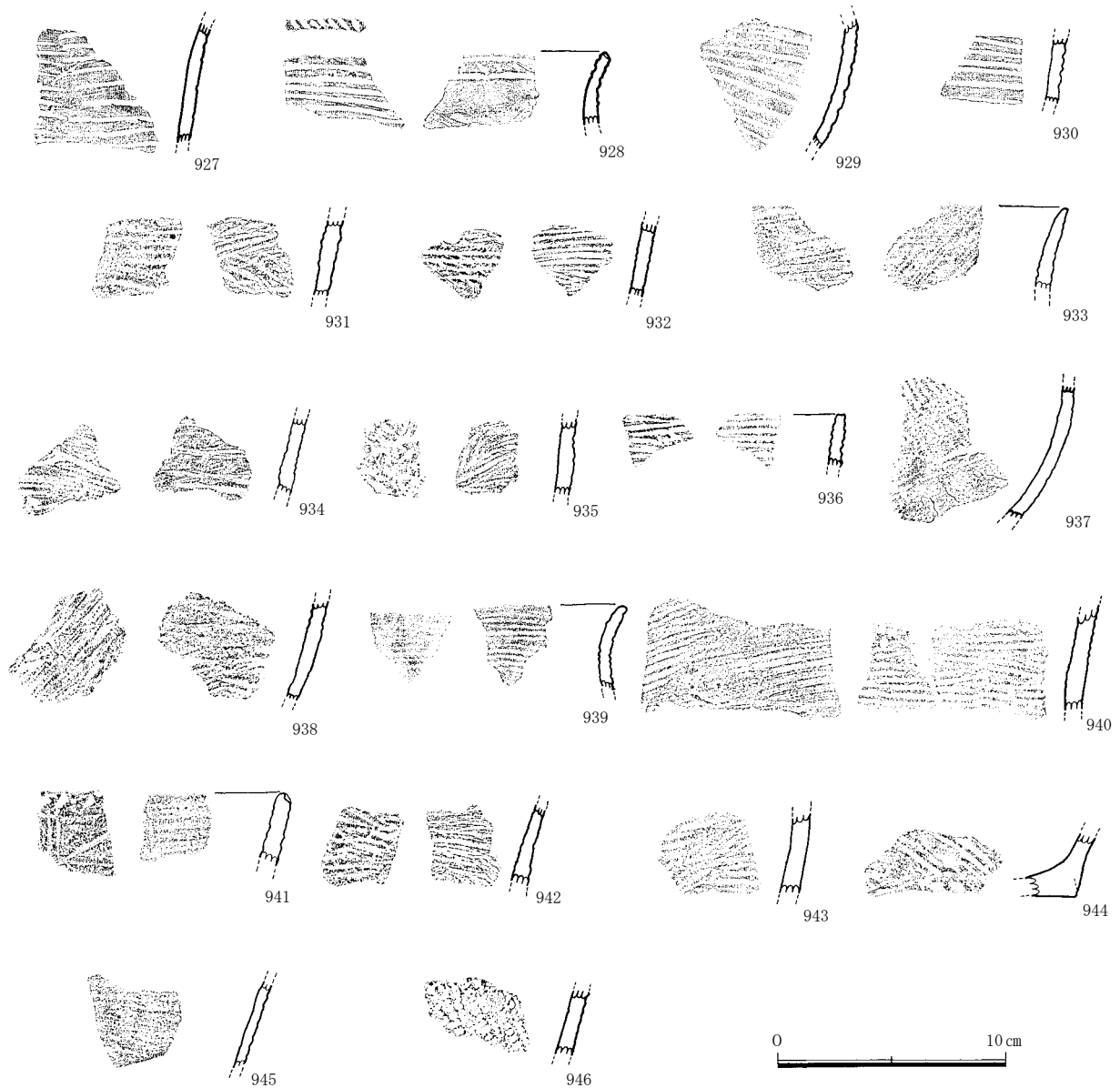
第97圖 8 T III b層出土土器3 (1 / 3)



第98図 8 T III b層出土土器4 (1 / 3)



第99圖 8 T III b層出土土器5 (1 / 3)



第100図 8 T III b 層出土土器6 (1 / 3)

1061は同じく横方向の隆帯を複数施すもので、隆帯の規模が小さいことからIII b 4類に分類される。ただし、基本的な文様構成はIII b 3類と変わらない。直線状の隆帯が多くを占める中、1056では最下段の隆帯のみ蛇行する点特徴的である。1062～1065は隆帯上に連続して刻み・刺突を施したIII b 5類である。隆帯上の刺突は丸い凹点状のものと断面V字型の切り込み風のものがある。隆帯状に刺突を施すという点では1101も類似するが、1062～1065と比べると器壁がやや厚く焼成が甘い。早期の手向山式との類似も指摘されるが詳細は不明である。1066～1072はIII b 6類である。押引文風の連続した押圧により隆帯状の突出部を作り出す。口唇部には刻目を施す。1073～1081はIII b 7類である。胴部中央や頸部で屈曲する器形に、隆帯・刺突・押引文によって施文する。

1082～1089・1092は、貝殻条痕の上に同じく貝殻による曲線状の文様を施すIII c類である。曲線の振幅は比較的大きく、いずれもIII c 1類に分類される。ただし1083のみ、条痕の強さや堅い焼成などからIII a 2類である可能性がある。

1090・1091・1093～1100はIII d類である。1091・1094・1095は縦方向の貝殻条痕の上にやや弧状の沈線を

施すⅢ d 1 類である。1090 は押引文，1093 は押引文と沈線で施文される。1097～1100 は押引文を面的に施文するもので，Ⅲ b 7 類に近いものと考えられる。

1102・1103 は連続する沈線及び刺突で器面を埋めるように施文するⅢ f 類である。

1104～1172・1177 は貝殻条痕のみ確認されるその他のⅢ類である。残存部では判別できないが，本来は様々な細分が可能とみられる。

1173～1176 は，前述した分類に当てはまらないものである。1173・1176 はやや湾曲しながら垂直に近い角度で立ち上がる深鉢形土器で，口唇部に連続して刻目を施し，内面はナデ調整，外面には薄い縄文が全面的に施される。1174 は口唇部外側に連続する刺突を施し，その下部に隆帯を貼り付ける。Ⅲ b 類に似た要素を持つが，内外面ともナデで調整され，貝殻条痕はみられない。

8 T V b 層出土土器 (第 111～113 図)

1178 は I c 類である。外傾する胴部の外面に楕円押型文を施す。

1179～1191 はⅡ類である。うち1179～1183 は貝殻腹縁による刺突・沈線により施文され，一部沈線状に施されるものを除き，地文としての貝殻条痕は施さない。対して1184～1191 は，ごく薄く散漫ではあるが，地文といえる貝殻条痕がみられる。

1192～1212 はⅢ a 類である。内外面に強い貝殻条痕を施す。破片資料であるため判別は難しいが，1192～1204 は条痕に規則性がみられないⅢ a 1 類，1205～1212 は貝殻による曲線文や直線文等，文様としての施文がみられるⅢ a 2 類である。

1213～1221 はⅢ b 類である。1213 はⅢ b 2 類で，口縁下部に顕著な隆帯を2本貼り付け，隆帯上及び口唇部に連続して刺突を施す。1214・1215 は口縁下部に横方向の隆帯を平行して複数貼り付けるⅢ b 3 類である。1216～1218 も同様に複数の隆帯を持つが，隆帯の規模が小さいⅢ b 4 類である。1219 はⅢ b 5 類で，隆帯上に刺突を施す。1220・1221 は沈線・押圧により隆帯状の弱い突出部をつくり出すⅢ b 6 類である。

1222～1224 はⅢ c 類である。地文の貝殻条痕の上から貝殻による蛇行する沈線を，1222 は縦方向に，1223・1224 は横方向の波状に施す。口縁部片である1224には口唇部に連続する刺突文がみられる。

1225・1226 はⅢ d 類である。1225 は縦方向の貝殻条痕の上に，横方向の弧状沈線を施す。1226 には沈線はみられず，やや不規則に刺突を施す。

1227～1250 はその他のⅢ類である。いずれも貝殻条痕がみられるが，残存部位からは細分できない。

8 T V 層出土土器 (第 114 図)

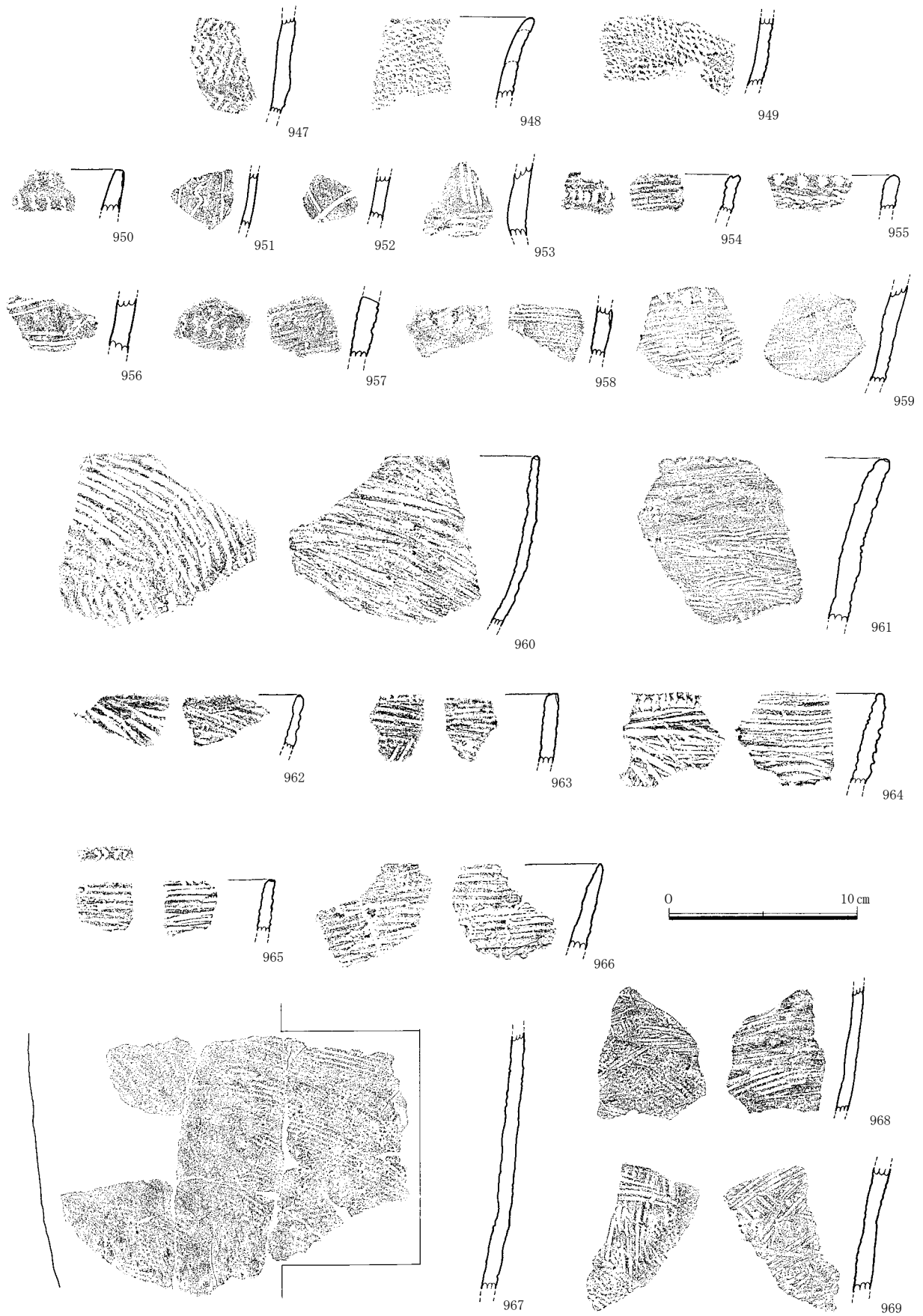
1251～1253 はⅡ b 類である。1251・1252 は同一個体の可能性があり，口唇部及び外面に刺突を施す口縁部片である。1251 ではわからないが，1252 では内面にごく薄く貝殻条痕がみられる。1253 は口唇部外側に連続して貝殻腹縁による刺突を施す。外面はナデ調整により顕著な文様がみられないが，内面には貝殻条痕が確認できる。

1254～1258 はⅢ a 1 類である。厚手の器壁に貝殻条痕を明瞭に施す。条痕の方向に規則性はみられない。

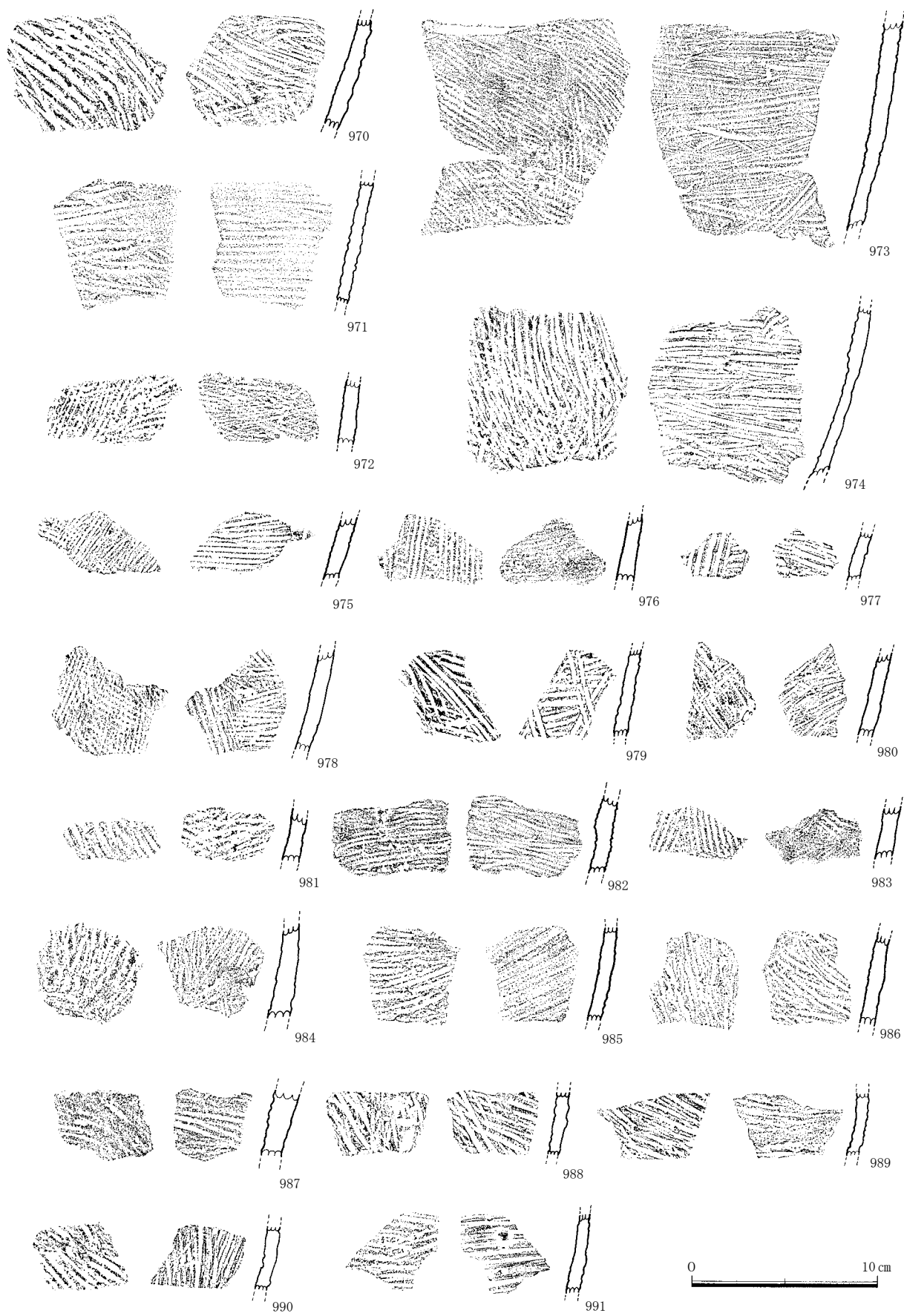
1259 はⅢ b 2 類である。器壁は堅く焼き締まり，内外面に曲線文を含む強い貝殻条痕が施される。外面の口縁下部には断面の丸い隆帯が2本貼り付けられ，隆帯上及び口唇部に連続して刻目が施される。

1260 はⅢ b 5 類である。貝殻条痕の薄く残る器壁に隆帯を貼り付け，隆帯上に連続して刻目を施す。

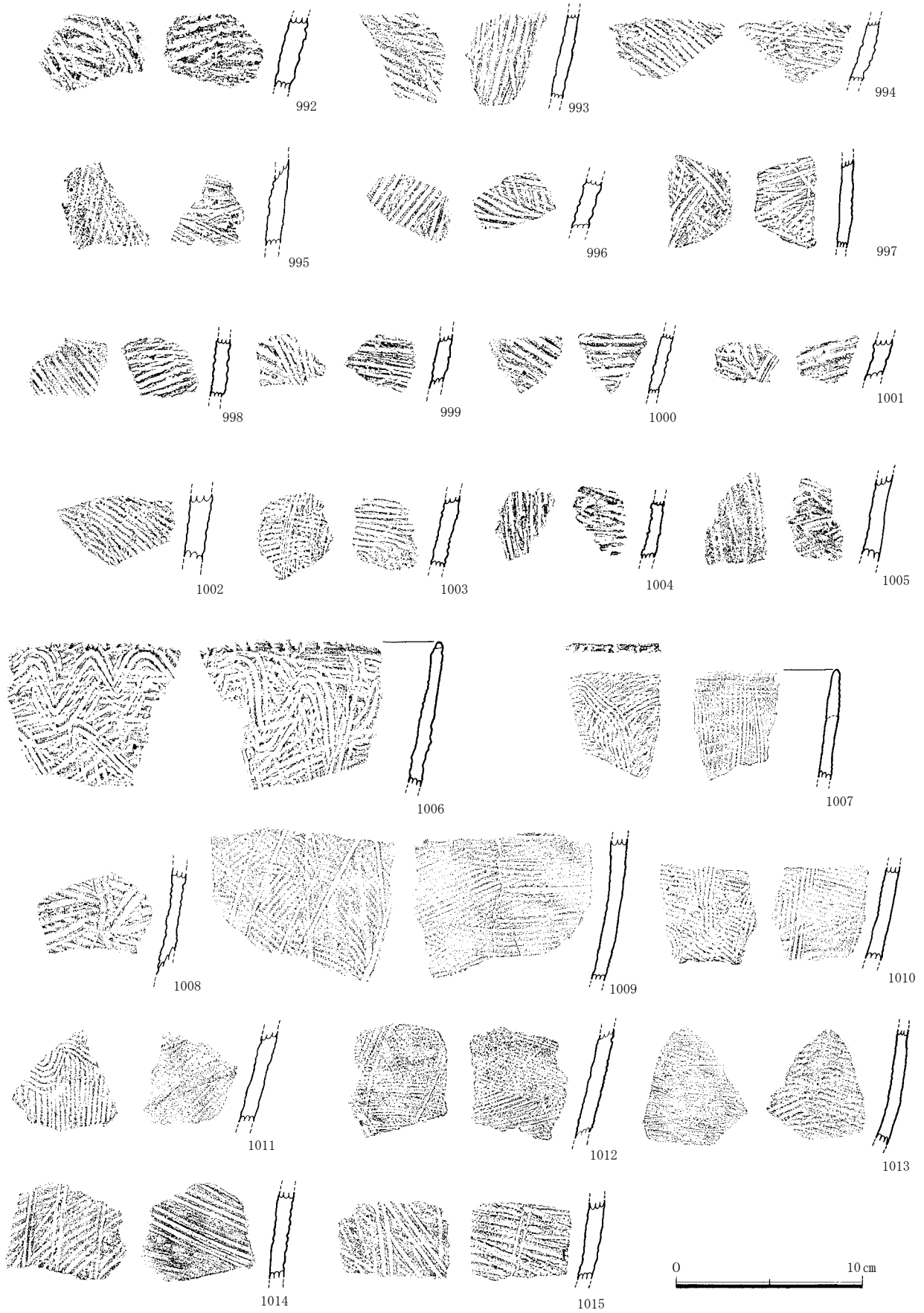
1261 は平底の底部片である。小片であり，文様等が残存しないため分類不能である。底部は平滑で，製作台を推定できるような圧痕の類はみられない。



第101図 8 TIV a層出土土器1 (1/3)



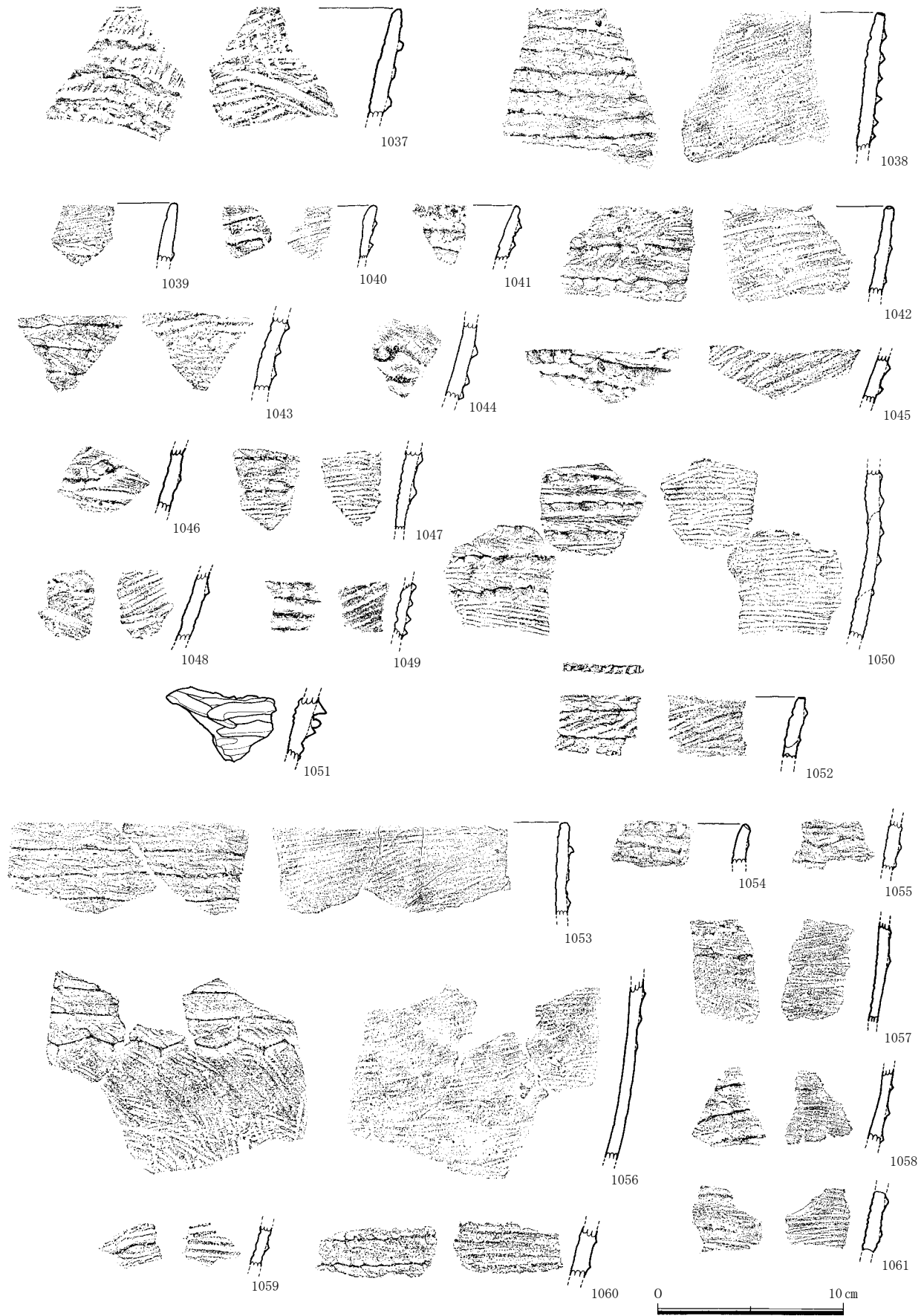
第102圖 8 TIV a層出土土器2 (1 / 3)



第103図 8 T IV a層出土土器3 (1 / 3)



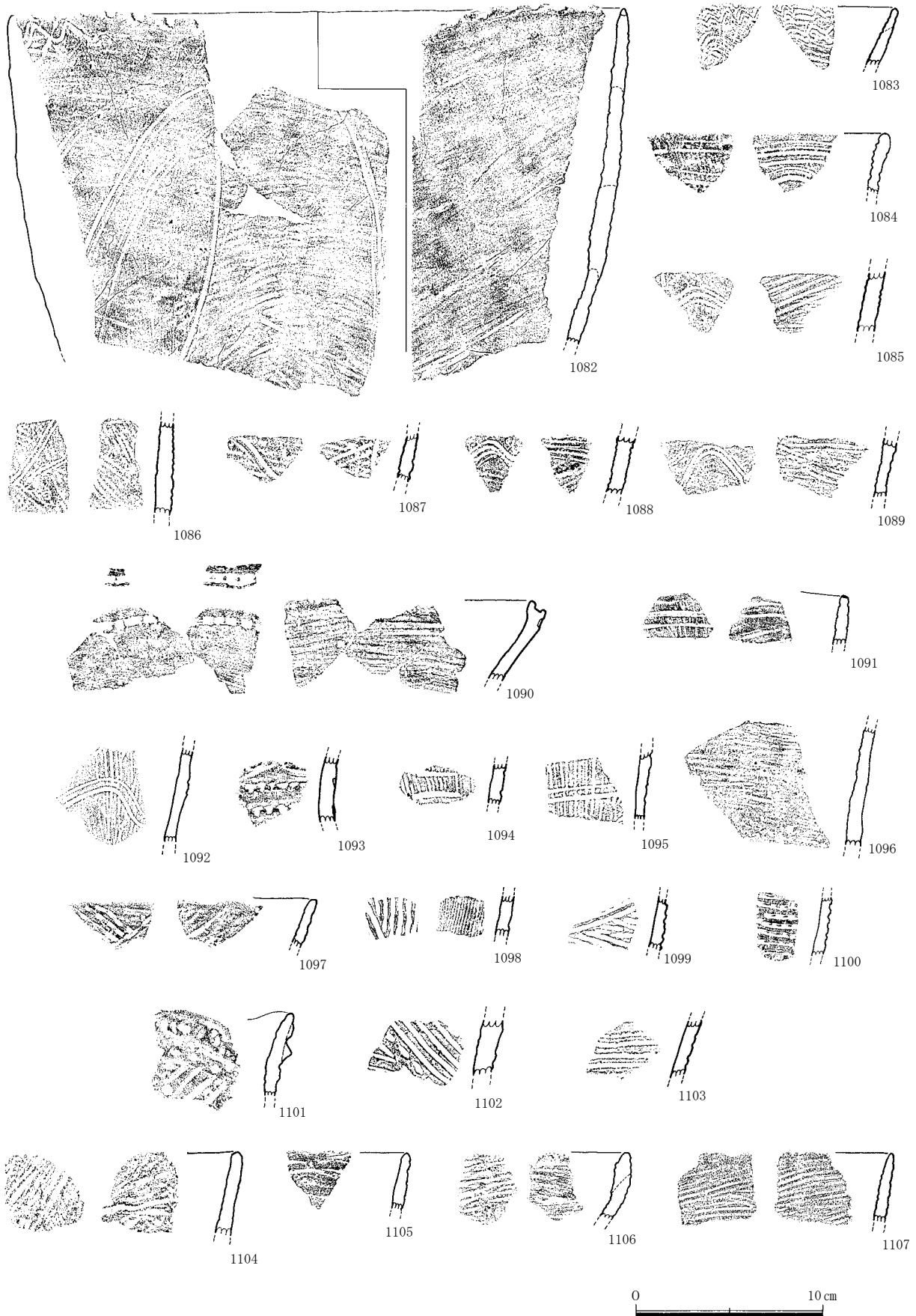
第104圖 8 T IV a層出土土器4 (1 / 3)



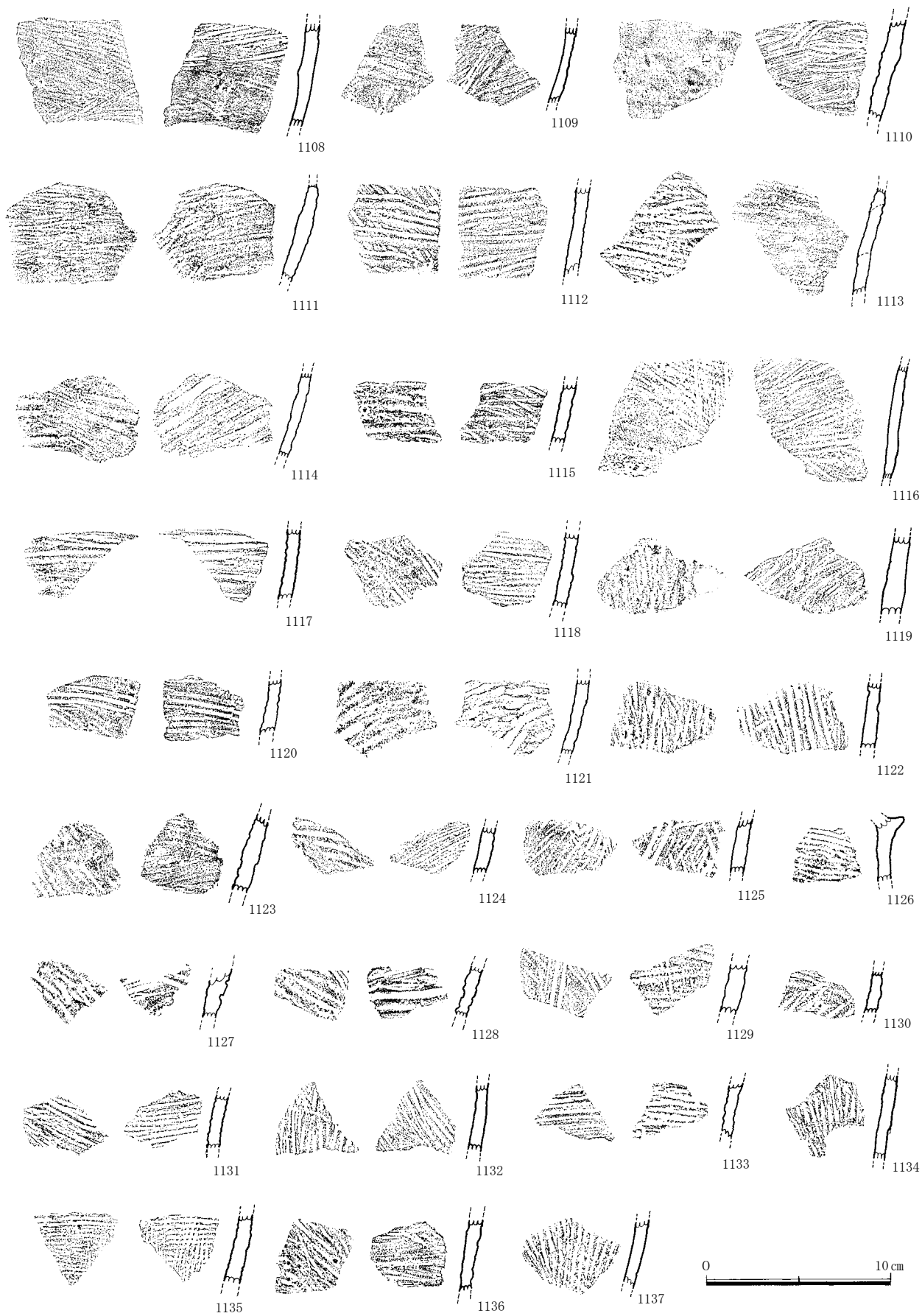
第105図 8 TIV a層出土土器5 (1/3)



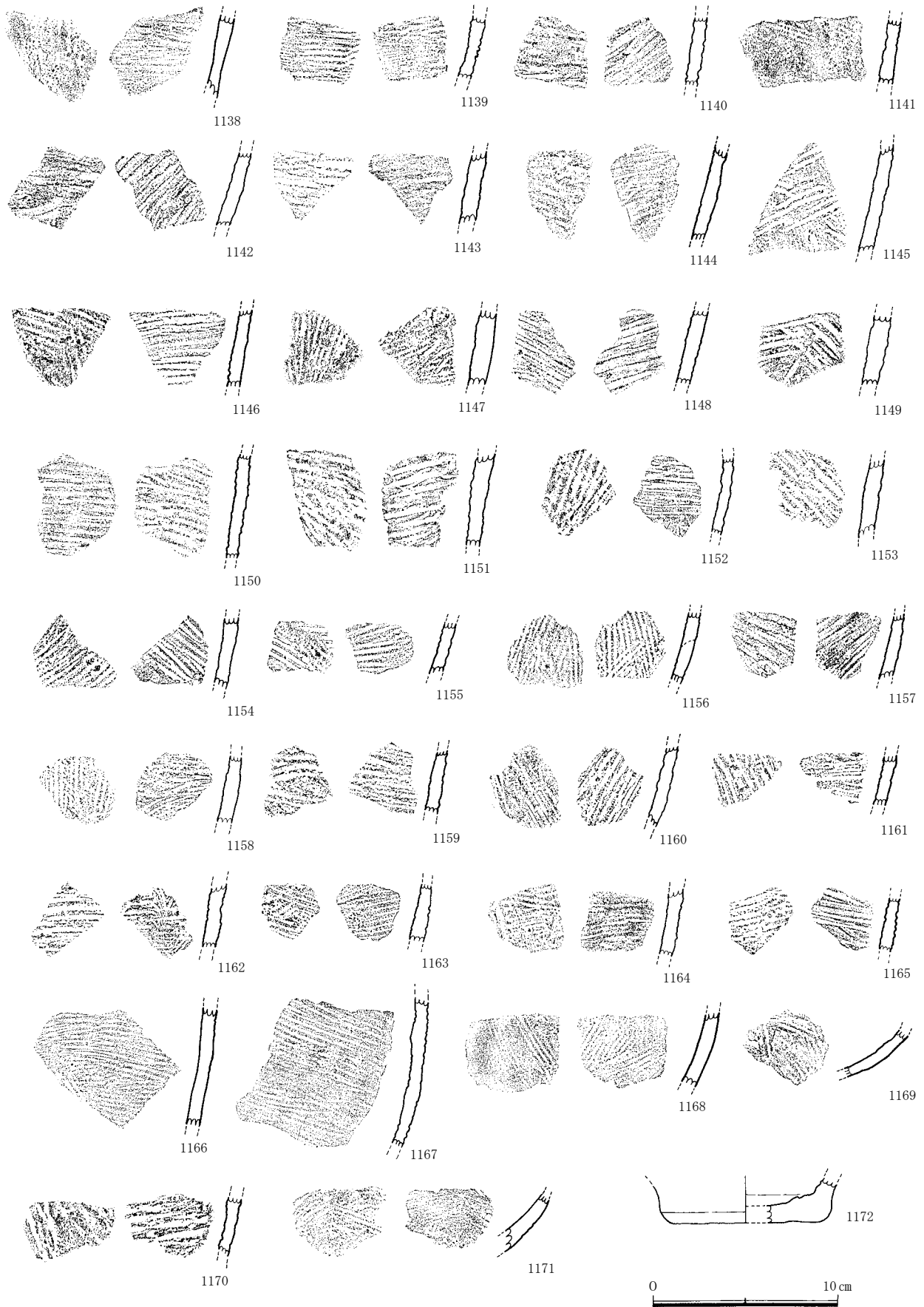
第106圖 8 T IV a層出土土器6 (1 / 3)



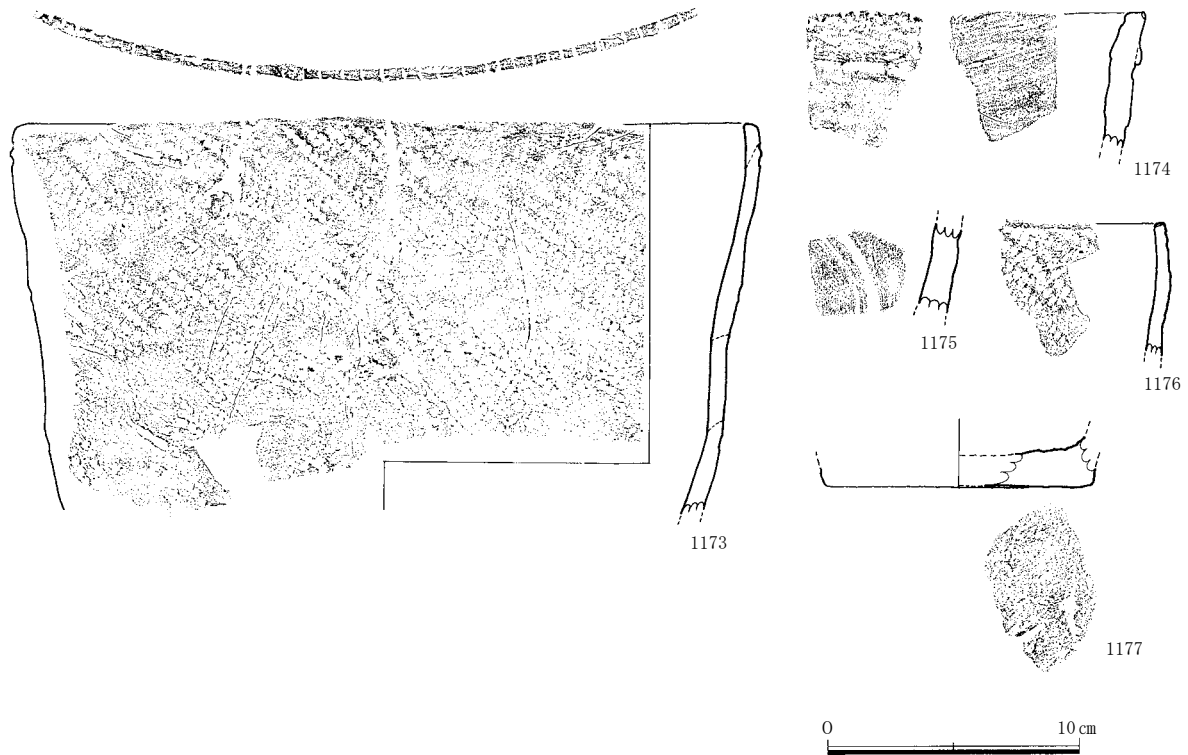
第107図 8 TIV a層出土土器7 (1/3)



第108圖 8 TIV a層出土土器8 (1 / 3)



第109図 8 TIV a層出土土器9 (1/3)



第110図 8TIVa層出土土器10 (1/3)

8TVI層出土土器 (第115図)

1262はⅡb類である。内外面に地文として貝殻条痕を施し、外面に貝殻腹縁による連続する刺突を施す。

1263・1264はⅢa1類である。比較的厚手の器壁の内外に貝殻条痕を施す。条痕に文様の意匠や規則性はみられない。

1265は平底の底部である。内外面とも文様等は残存しない。底部には不規則な細かい凹凸から成る不明圧痕が残る。

8T SK01 出土土器 (第115図)

1266はⅡa類である。内外面ともナデ調整をした後、外面に連続して刺突を施す。

1267～1271はⅢ類である。うち1267～1270は横方向の隆帯を平行に複数施すⅢb3類である。1271は貝殻条痕のみ確認できるが、その他の特徴に乏しく細分できない。

1272～1275はⅣb類である。1272～1274は横方向の凹線文が口縁部に集中するⅣb2類で、うち口縁部片である1272・1273は口唇部に凹点を施し、また胴部に対し口縁部が肥厚する。1275は平底の底部で、底部外面は強くなでられることにより凹んでいる。胎土に少量の滑石を含む。

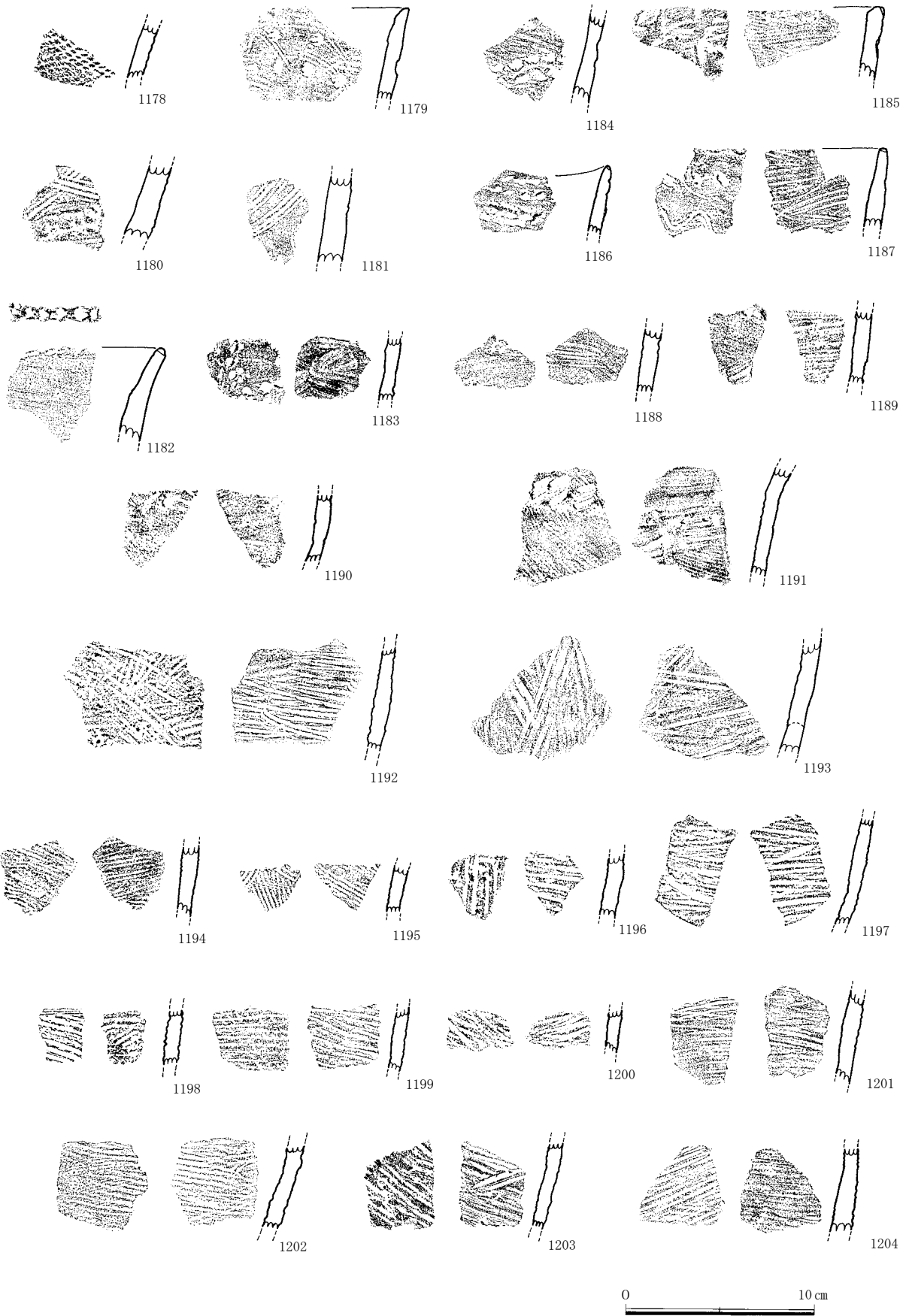
8T SK02 出土土器 (第116・117図)

1276は貝殻による斜め方向の沈線を交差するように施すⅡa類である。

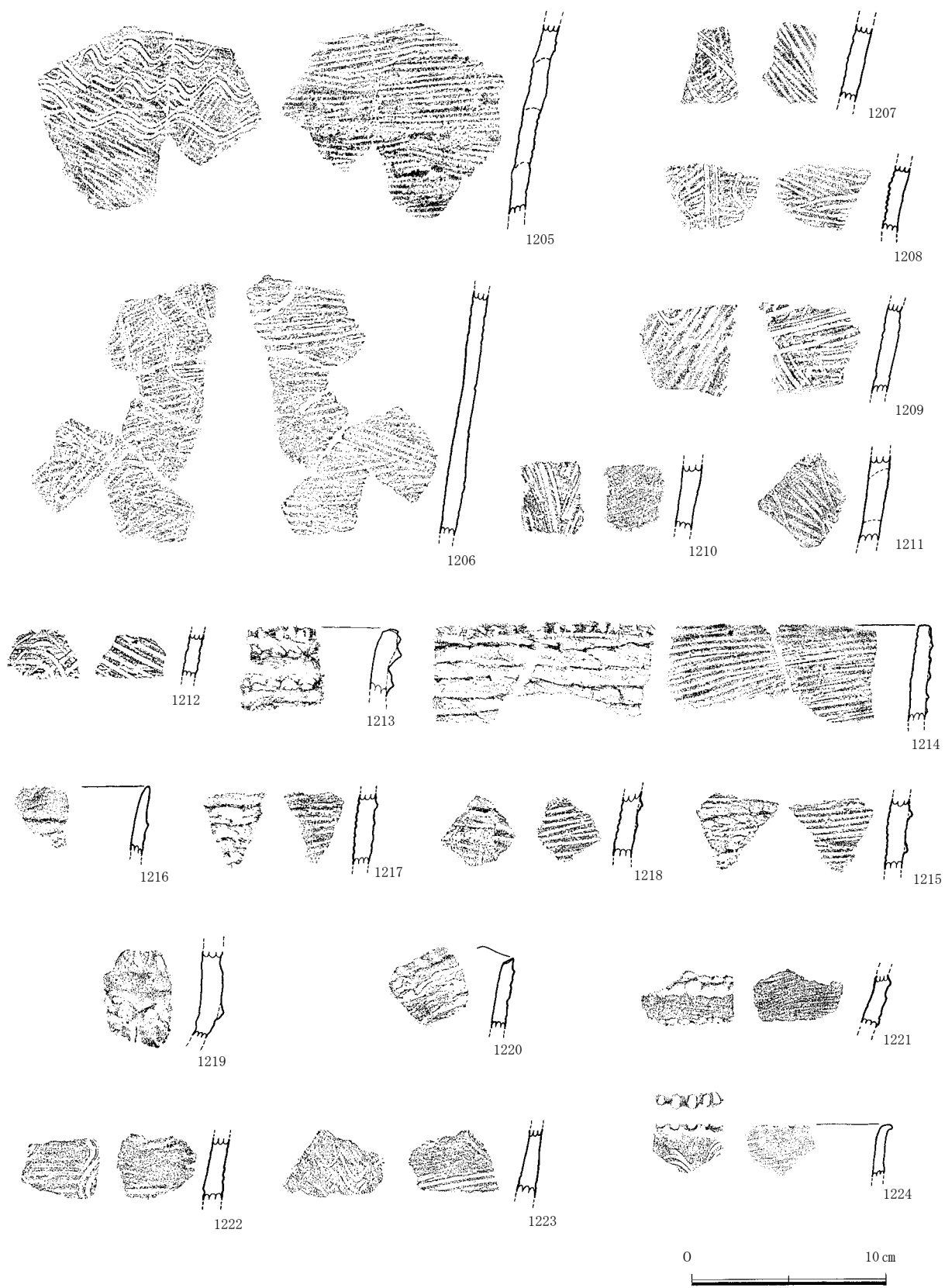
1277～1280は内外面に強い貝殻条痕を施すⅢa類である。うち1277～1279は条痕に規則性などがみられないⅢa1類、1280は曲線状の条痕を含むⅢa2類である。

1281～1285は、縦方向や斜め方向の隆帯を伴うものである。うち1283はⅢb1類とみられ、その他の1281・1282・1284・1285は器形に若干の屈曲がみられることからⅢb7類と考えられる。

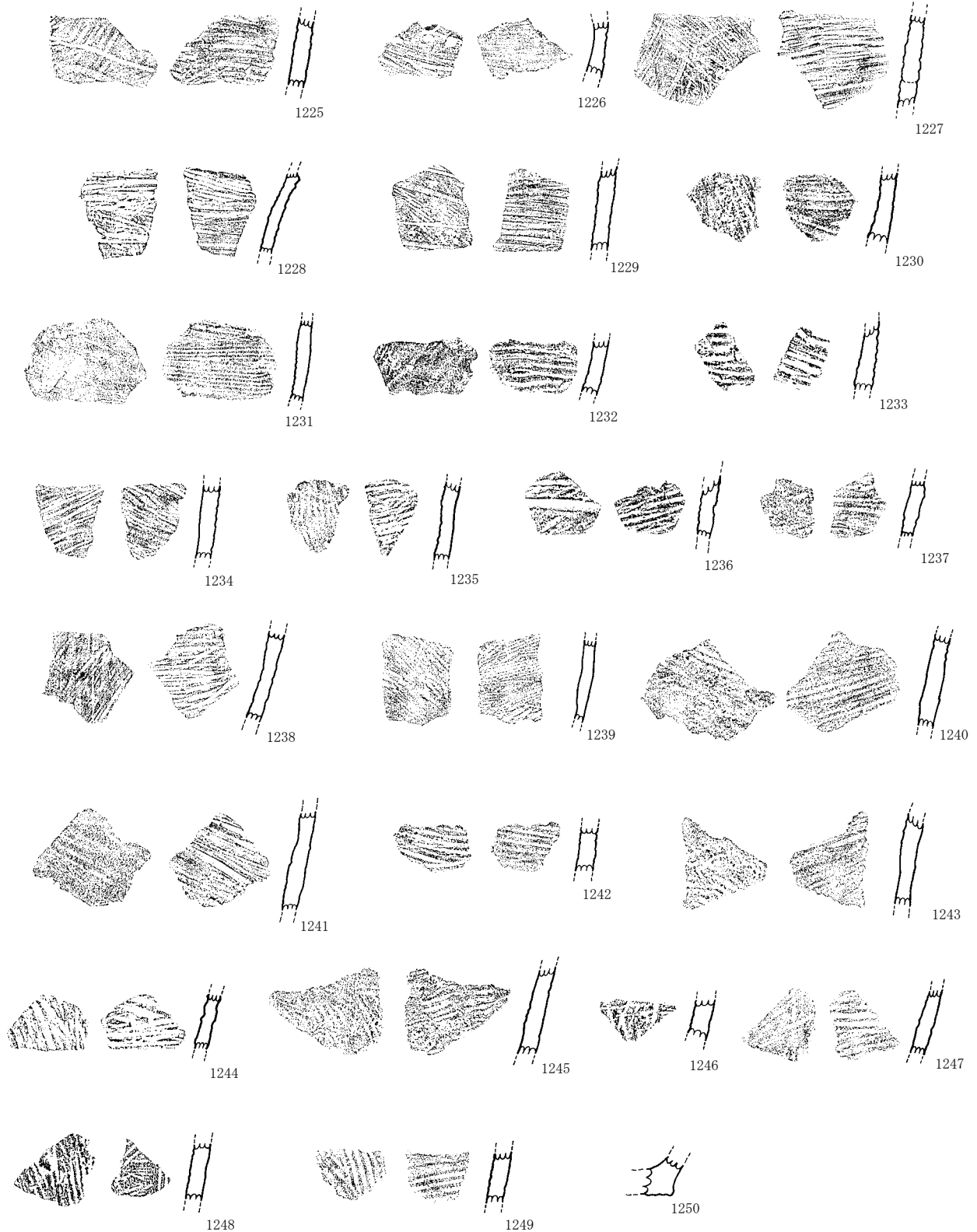
1286～1294は外面に横方向の隆帯を複数施す。隆帯はいずれも粘土貼り付け後に上下から摘まれる断面



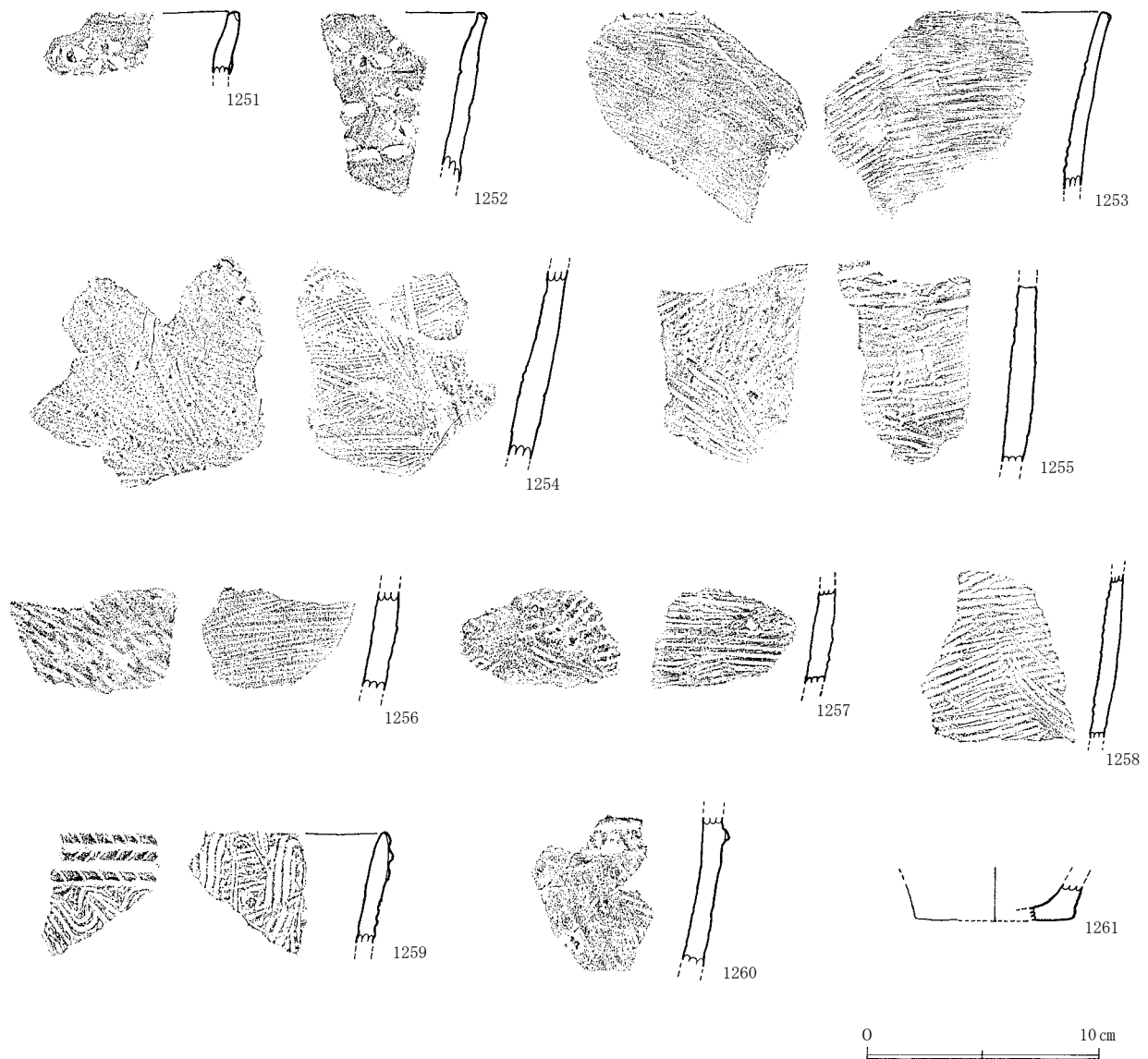
第111図 8 TIV b 層出土土器 1 (1 / 3)



第112圖 8 TIV b層出土土器2 (1 / 3)



第113図 8 TIV b 層出土土器3 (1 / 3)



第114図 8TV層出土土器 (1/3)

三角形をなす。隆帯の規模により 1286～1291 はⅢ b 3類, 1292～1294 はⅢ b 4類に細分できる。

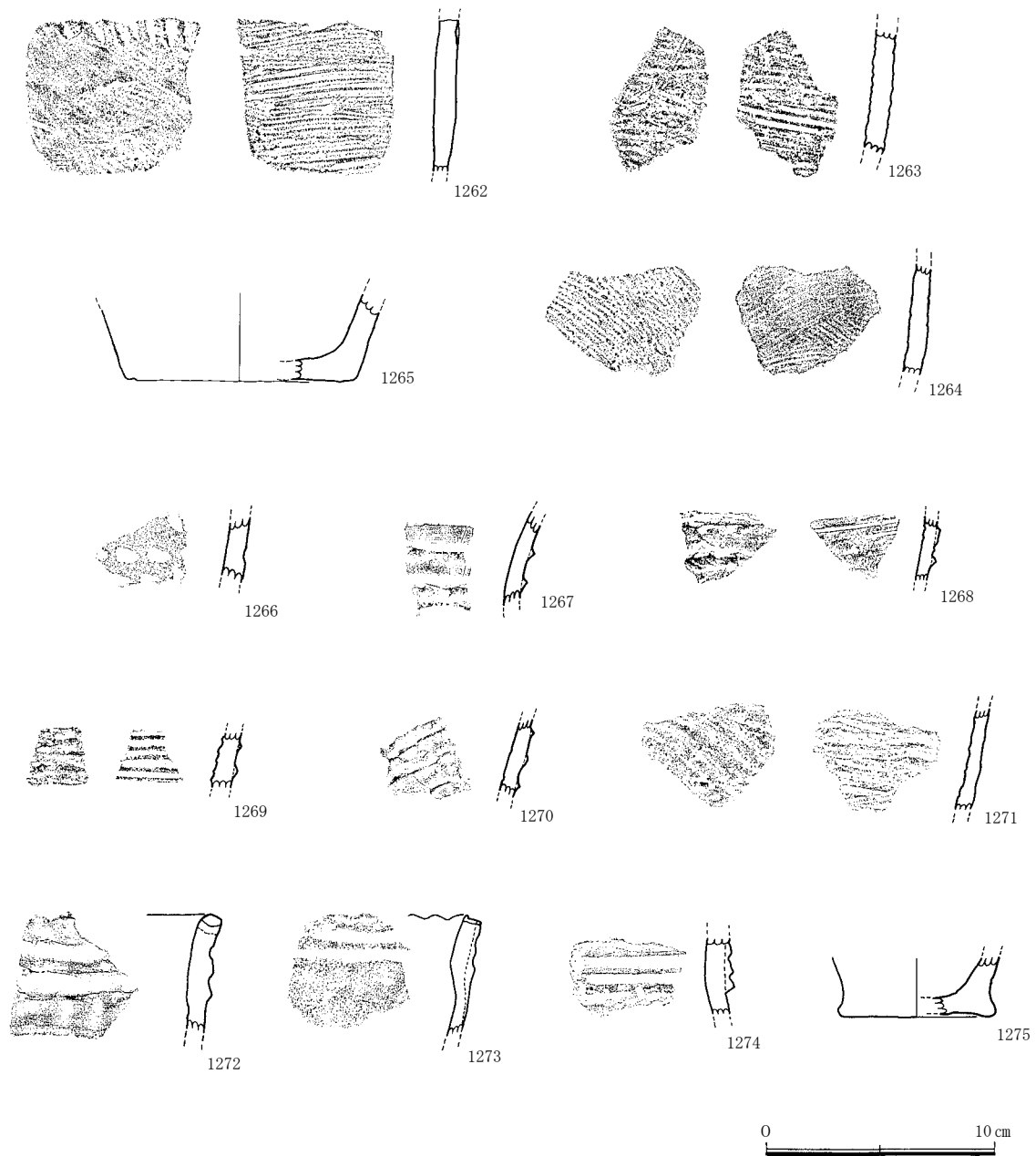
1295 は内外面に貝殻条痕を施した後、横方向に連続して刺突を施す口縁部片である。Ⅲ d 3類に分類するが、胴部に向かい径が大きくなる様子から、胴部中央で屈曲するⅢ b 7類の可能性も考えられる。

1296・1297 は隆帯上に刺突を施すⅢ b 5類である。1297 は大型の破片で、隆帯は口縁下部から胴部上半に集中する。地文の貝殻条痕は横方向の波状を呈す。

1298・1299 はⅢ b 6類である。1298 は押引文に近い連続する押圧を上下から施すことで隆帯状の突出部をつくり出す。1299 は顕著な突出部を持たないが、1298 と似た押圧による施文がみられる。

1300～1303 はⅢ b 7類である。押引文による施文がみられ、1301・1303 では胴部で屈曲する様子が見える。

1304～1315 はその他のⅢ類である。いずれも貝殻条痕を有するが、それ以外の特徴に乏しく細分できなかったものである。1306・1309 は条痕が明瞭で、Ⅲ a類の可能性もある。1314 はやや尖底気味の、1315 は丸底の底部片である。



第115図 8 T VI層・SK01 出土土器 (1 / 3)

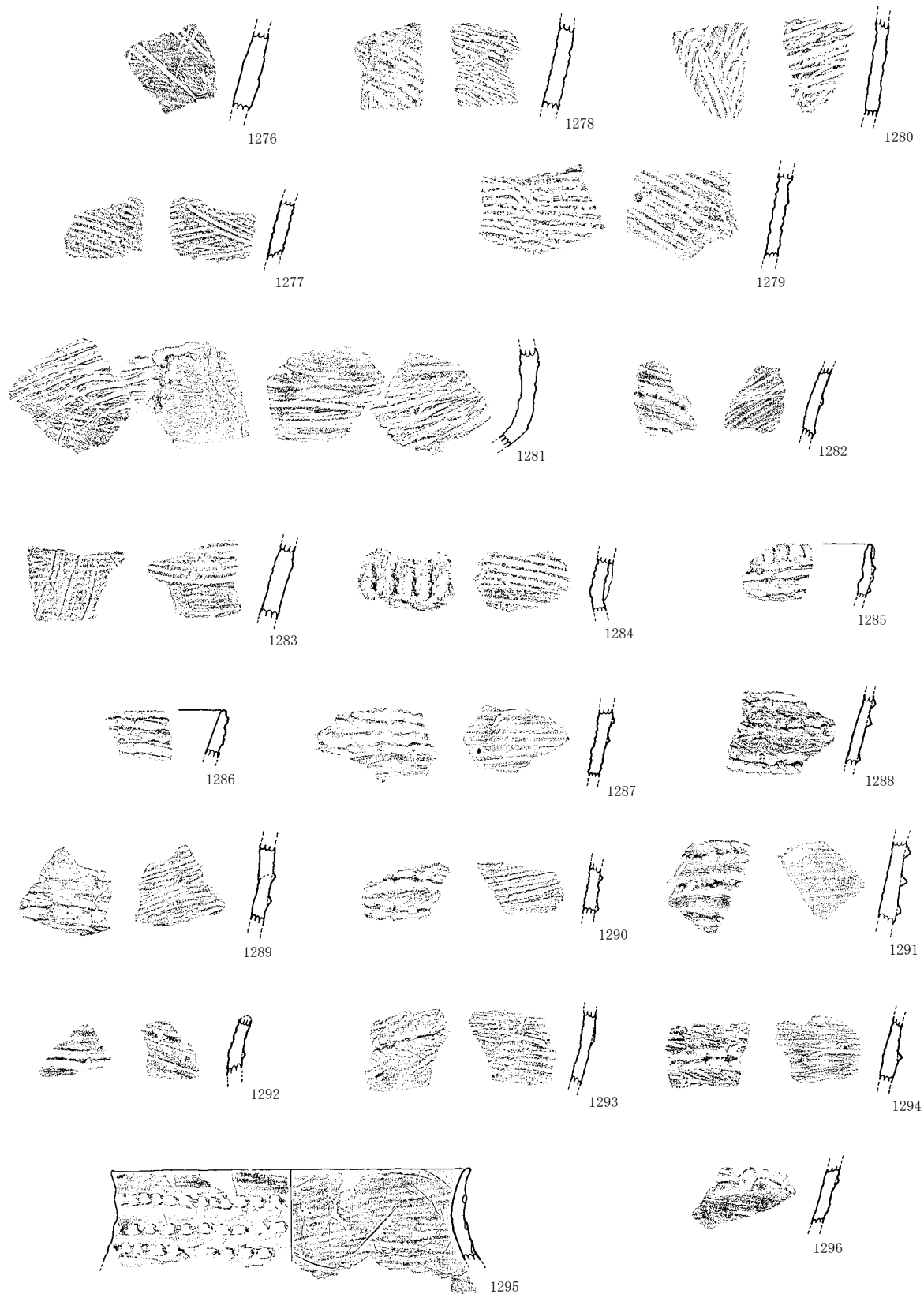
8 T SK03 出土土器 (第118図)

1316・1317の2点のみ出土した。どちらも貝殻条痕がみられるⅢ類だが、その他細分するだけの特徴がみられず、詳細は不明である。

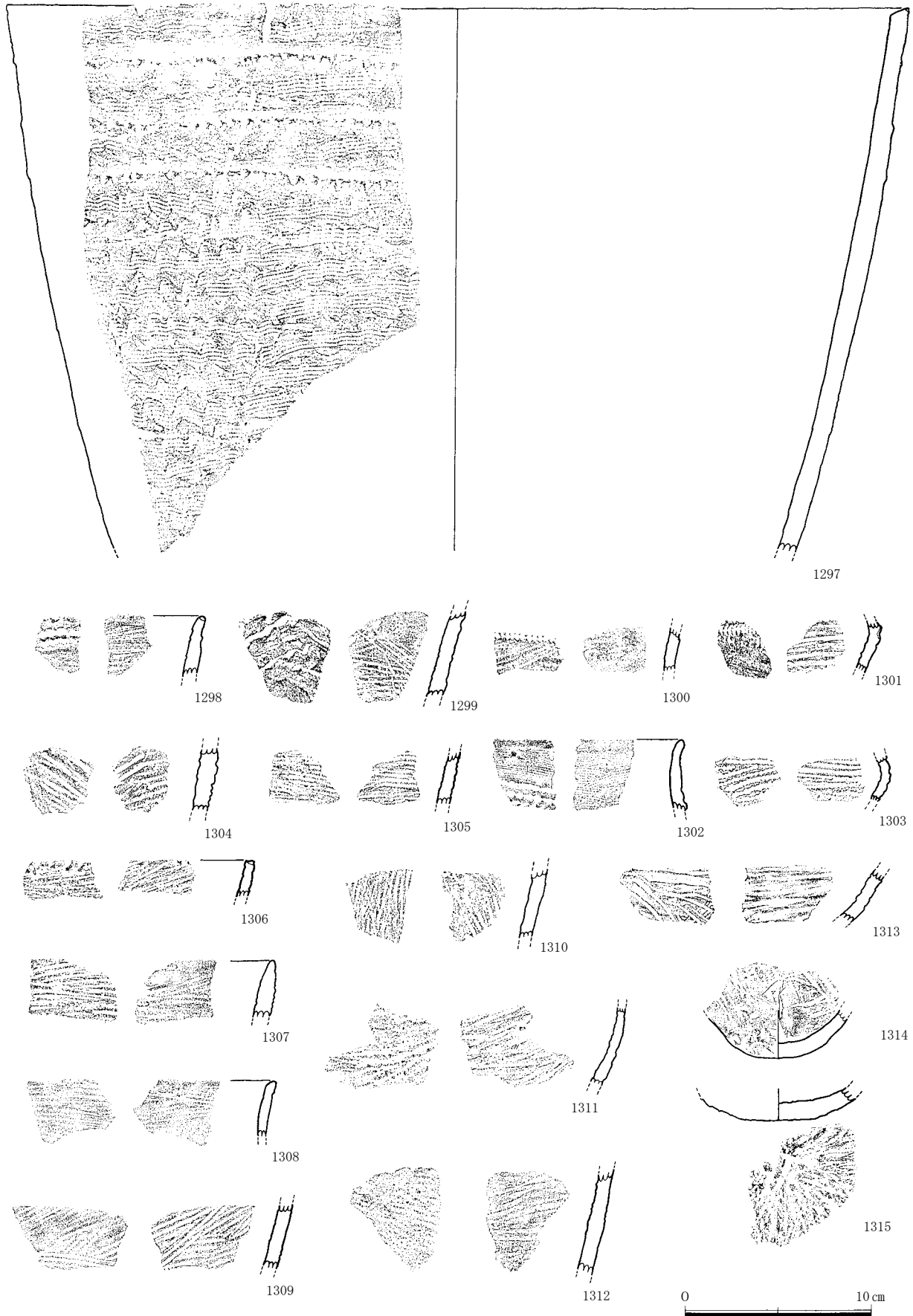
8 T ST01 出土土器 (第119図)

1318・1319はⅡ類である。どちらも内外面はナデにより調整され、1318は外面に貝殻による条痕を横方向の沈線状に施し、口唇部には連続する刺突を施す。1319は外面に斜め方向の細い沈線を交差させて施す。

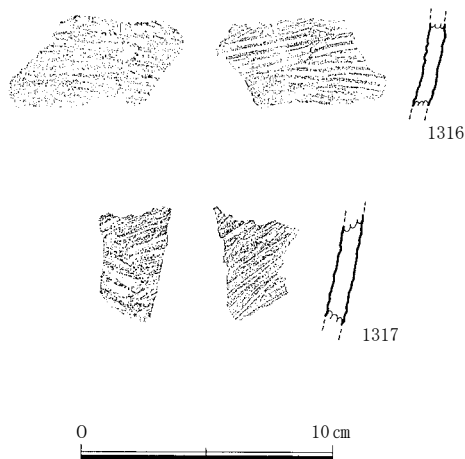
1320～1331は内外面に明瞭な貝殻条痕が残るⅢ a類である。うち1320～1329は条痕の方向に規則性が見出せないⅢ a 1類、1330・1331は施文の仕方に文様としての要素がみられるⅢ a 2類である。ただし、1323・1325・1327は欠損している周囲の条痕次第でⅢ a 2類と言える可能性がある。Ⅲ a 2類のうち、1330は斜行



第116圖 8 T SK02 出土土器 1 (1 / 3)



第117図 8T SK02 出土土器2 (1/3)



第118図 8 T SK03 出土土器 (1 / 3)

(4) 石器の分類

轟貝塚第12次・13次調査で出土した石器・石製品は、石鏃・石匙・削器・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石・石皿・凹石・砥石・石錘・双角状礫器と若干の石製品である。石材はほとんどの器種で安山岩が多く、他に黒曜石・蛇紋岩・砂岩等が含まれる。調査では石核や剥片も出土しており、遺跡内で石器の加工が行われたことを示唆しているが、これら成品以外のものについては一部を除き図化していない。

以下に、まず器種ごとの分類案を示し、次いで調査区・層位別の出土遺物について詳述する。

石 鏃

総数76点を図示した。全体の平面形からⅠ～Ⅲ類に分類し、正三角形もしくはそれに近いものをⅠ類、縦長の二等辺三角形を呈するものをⅡ類、横長の二等辺三角形を呈するものをⅢ類とした。また、それぞれについて基部の形状により細分し、浅く抉れる、もしくは抉れがほとんど無いものをa類、V字形に抉れるものをb類、U字形に抉れるものをc類とし、これらの組み合わせにより分類した。

石 匙

総数13点を図示した。刃部を下にした時の全体の形状から、横長になるものをⅠ類、縦長になるものをⅡ類とした。また、つくり出されたつまみの大小により細分し、比較的大きいものをa類、小さいものをb類とした。

削 器

総数7点を図示した。うち片刃のものをⅠ類、両刃のものをⅡ類とした。

石 斧

打製石斧と磨製石斧が存在するが、轟貝塚12次・13次調査で出土した打製石斧は刃部のみ残存する破片資料1点のみである。よって、ここでは計13点を図示した磨製石斧について次のとおり分類する。まず石器全体の平面形から、長方形を呈し、端部（刃部）の幅が特に広がらないものをⅠ類、刃部が広がり全体として台形を呈すものをⅡ類とした。またそれぞれについて、断面が扁平なa類と、丸みを帯び比較的厚いb類に細分した。

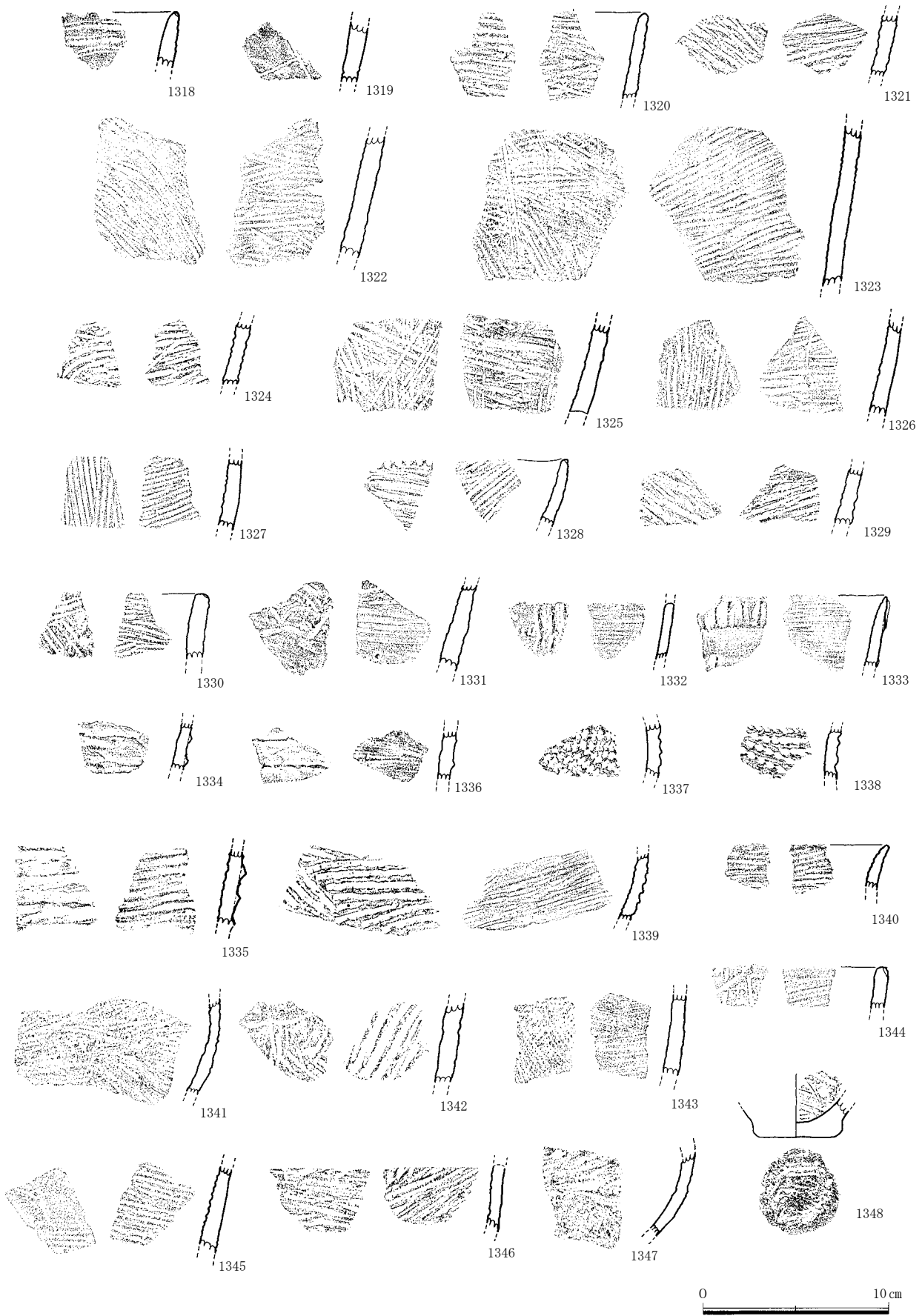
磨石・敲石

同じ石材に磨痕と敲打痕の両方が残るものも多く、磨石と敲石とを明確に区別するのは困難とみられたため、一括で記述する。図化した総数は57点である。置いた際の断面が扁平なものをⅠ類、表裏に平面が乏し

する条痕を互い違いに施す綾杉状の条痕がみられる。1331は貝殻で引いたとみられる曲線状の沈線を含む。

1332～1339はⅢb類である。1332・1333はⅢb1類で、口縁直下に縦方向の細い隆帯を施す。1334・1335はⅢb3類で、横方向の隆帯を複数施す。1336はⅢb6類である。貼り付けでなく器面の摘み上げによるとみられる小規模な隆帯が作り出される。1337～1339はⅢb7類である。外面全体を埋めるように押引文が施される。

1340～1348はその他のⅢ類である。いずれも貝殻条痕がみられる。1348は平底の底部片で、底部外面には貝殻条痕と似た圧痕が残る。



第119図 8 T ST01 出土土器 (1 / 3)

く、厚みがあるものをⅡ類、どちらともつかない不整形のものをⅢ類とし、さらに平面形が円形又はそれに近いものをa類、楕円形のものをb類、不整形のものをc類とした。

石皿・凹石

磨滅した面を持つ石器のうち、磨石として手に持って使用するのが困難とみられる大型品を、置いて使用する石皿と判断した。欠損により全体形が不明なものが多く、また類型化できるほどの数が出土していないため細かな分類は行わない。磨滅により一面が陥没するようなものはほぼ無く、やや厚みのある扁平な板状のものが多い。一方、小型品の中に一面が陥没するものが若干みられたが、これらは磨石とセットをなして製粉などに用いる石皿とは異なるものとみて、凹石とした。

砥石

一般に磨石とは呼べない不整形のもので、人為的とみられる擦過・磨滅の痕跡がみられるものを総じて砥石とした。総数16点を図示した。磨滅の仕方や部位は様々だが、全体の形状から細長い棒状のものをⅠ類、扁平な板状のものをⅡ類、その他不整形のものをⅢ類とした。

石錘

計4点を図示した。礫の両端に小剥離を施すものをⅠ類、礫の周縁に溝を設ける、いわゆる有溝石錘をⅡ類とした。

双角状礫器

礫の一端に抉りを設け、2個所の突出部をつくり出すものである。抉りが1個所に留まらない十字形のもの等も存在する点を考慮すれば、広く「挟入礫器」と呼称する必要性も考えられたが、12次・13次調査で出土した中にそうした特徴を持つものは含まれず、全て「双角状」と呼べるものであったため、この呼称で報告する。計11点を図示した。抉り部分を除き全体が三角形を呈すものと四角形を呈すもの、極端な小型品、抉りが深いものと浅いもの等がみられるが、細分はしていない。

その他

以上の各器種に属さない石製品が若干出土している。玦状耳飾りの可能性があるものを含む。詳細は個別に記述する。

(5) 轟貝塚第12・13次調査出土の石器・石製品

1 T I・II層出土石器・石製品 (第120・121図)

1349～1352は石鏃である。1349はⅠa類、1350はⅠc類、1351はⅡa類、1352はⅡb類である。石材は1349・1350・1352が安山岩で、1351が黒曜石である。

1353は石匙である。縦長の刃部に幅広のつまみを持つⅡa類で、石材は安山岩である。

1354～1357は磨石・敲石である。1354・1355は厚みがあり平面が楕円形のⅡb類、1356・1357は厚みがあり円形のⅡa類である。いずれも一面あるいは複数の面が磨滅により扁平になっている他、1356以外は敲打痕も併せて確認できる。

1358は砥石である。短い棒状を呈すⅠ類で、磨滅して凹んだ部分が複数個所にみられる。詳細な用途は不明だが、磨滅の形状から矢柄等、棒状製品の研磨に用いた可能性がある。

2 T I・II層出土石器・石製品 (第122図)

1359・1360は石鏃である。1359は正三角形に近い平面形にU字形の抉りを持つⅠc類、1360はかすかに縦長の平面形で明確な抉りが確認できないⅡa類である。1360は未成品の可能性はある。石材は1359が黒曜石、1360が安山岩である。

1361は磨製石斧である。刃部の幅が変わらない平面長方形を呈し、比較的厚いI b類である。半分程度を欠損している。刃部は表裏から研磨してつくり出す。石材は泥岩である。

1362・1363はやや不定形な棒状を呈し、表面が磨滅した様子からI類の砥石とした。1362はほぼ全面が平滑だが、一面が特に平滑で扁平に磨滅している。石材は蛇紋岩である。1363も表面が平滑だが、全体的に磨滅の程度は低い。先端がやや膨らむ棒状を呈す。石材は片岩である。

1364～1366は磨石・敲石である。いずれも磨痕と敲打痕の両方がみられる。1364は平面円形で扁平なI a類、1365は半分ほど欠損するが、円形で厚みのあるII a類、1366は楕円形で厚みのあるII b類である。石材は全て安山岩である。

1367は石錘で、扁平な石材の両端を打ち欠くI類である。両端の打ち欠きとは別に側面などに敲打痕もみられ、I b類の敲石を転用したとみられる。石材は安山岩である。

1368は棒状石材の先端に敲打痕が残るもので、III類の敲石である。石材は安山岩である。

3 T I・II層出土石器・石製品（第123～125図）

1369～1372は石鏃である。1369は正三角形に近い平面形に小規模ながらV字形の袢りがみられるI b類、1370・1371は縦長の平面形にV字形の袢りを持つII b類、1372は縦長の平面形にU字形の袢りを持つII c類である。石材は1369が黒曜石、1370～1372が安山岩である。

1373・1374は石匙である。両者とも刃部が横長のI類で、1373はつまみが大きいI a類、1374はつまみが小さいI b類である。石材はともに安山岩である。

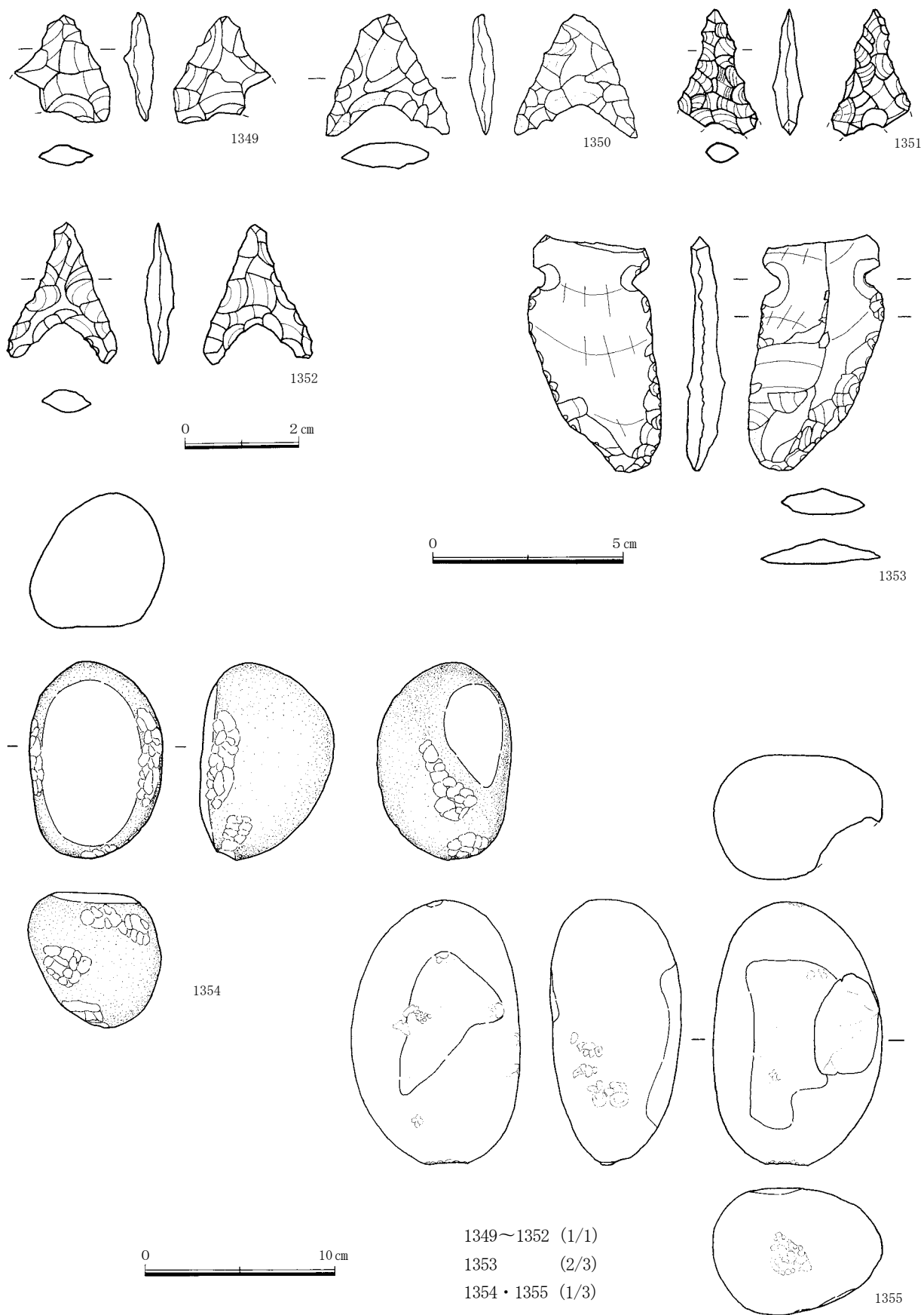
1375～1380は磨製石斧である。1375は扁平で刃部が広がらない平面長方形のI a類である。刃部は主に片側から研磨してつくり出す片刃を呈す。1376は刃部付近を残して全体を大きく欠損する。先端が広がらず、全体の大きさに対し比較的扁平なI a類である。刃部は片側から磨いてつくり出し、丸みを帯びる先端には使用によるとみられる敲打痕が多く残る。1377・1378は扁平で刃部幅がやや広がるII a類である。刃部は表裏両面から磨いてつくり出す。1379は扁平で刃部が顕著に広がらないI a類である。表裏両面から研磨して刃部をつくり出す。1380は扁平で刃部が幅広のII a類である。柄の結合と使用によるものか、刃部を下にした時の中央から上部にかけて大きな抉れがある。刃部は両面から研磨してつくり出される。石材は1375・1378・1379・1380が蛇紋岩で、1376・1377が安山岩である。

1381～1385は磨石・敲石で、石材は全て安山岩である。1381はI a類で、磨滅により一面が扁平となり、側面には複数個所に敲打痕が残る。1382も同じくI a類である。平面部分はよく磨滅し、また表裏とも中央が敲打により凹む。1383は半分ほど欠損するが、本来は楕円形を呈すとみられるI b類である。平面は磨滅し、側面にはあまり顕著ではないが敲打痕が残る。1384は厚みがあり円形を呈すII a類である。一面が磨滅により平たくなる他、断片的だが側面に敲打痕が残る。1385は厚みがあり楕円形を呈すII b類である。表面は全体的に平滑だが、これが磨石としての使用によるものかは判然としない。両端部には敲打痕が顕著に残る。石材は全て安山岩である。

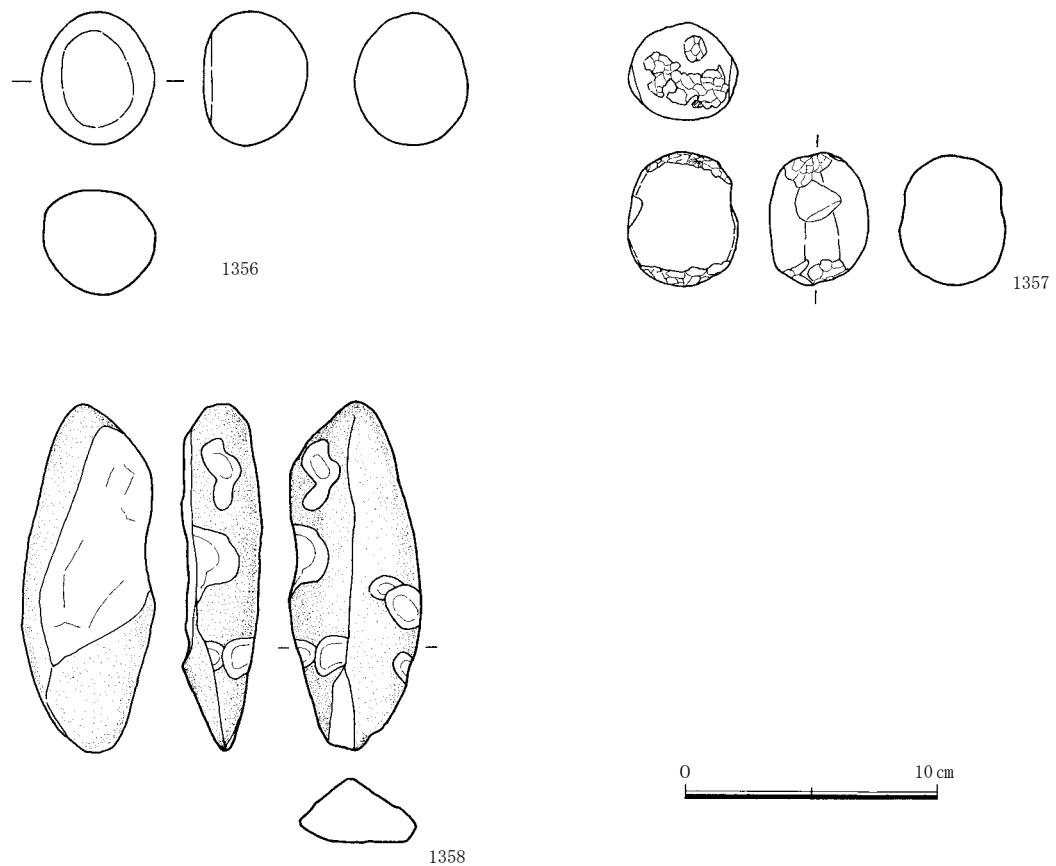
1386は石皿の一部とみられる。全体を大きく欠損しているが、平面部分はよく磨滅し、かすかに凹む。石材は安山岩である。

1387は不整な楕円形を呈す扁平な石で、平面中央が敲打により凹む。側面にも若干の敲打痕がみられ、握って使う敲石としての使用も想定できるが、やや大型過ぎるきらいがあるため、凹石とした。石材は角閃石安山岩である。

1388は安山岩の石核である。表裏両面に自然面を残し、側面の一部に薄く割り取った痕跡が複数みられる。



第120圖 1 T I・II層出土石器1 (1/3, 2/3, 1/3)



第121図 1T I・II層出土石器2 (1/3)

3T III b層出土石器 (第126図)

3T III b層出土で図化したものは1401のみである。1401は一端に挟りが入る安山岩で、小型だが双角状礫器とみられる。挟り部分以外に顕著な加工・使用の痕跡はみられない。

3T IV a層出土石器・石製品 (第126～131図)

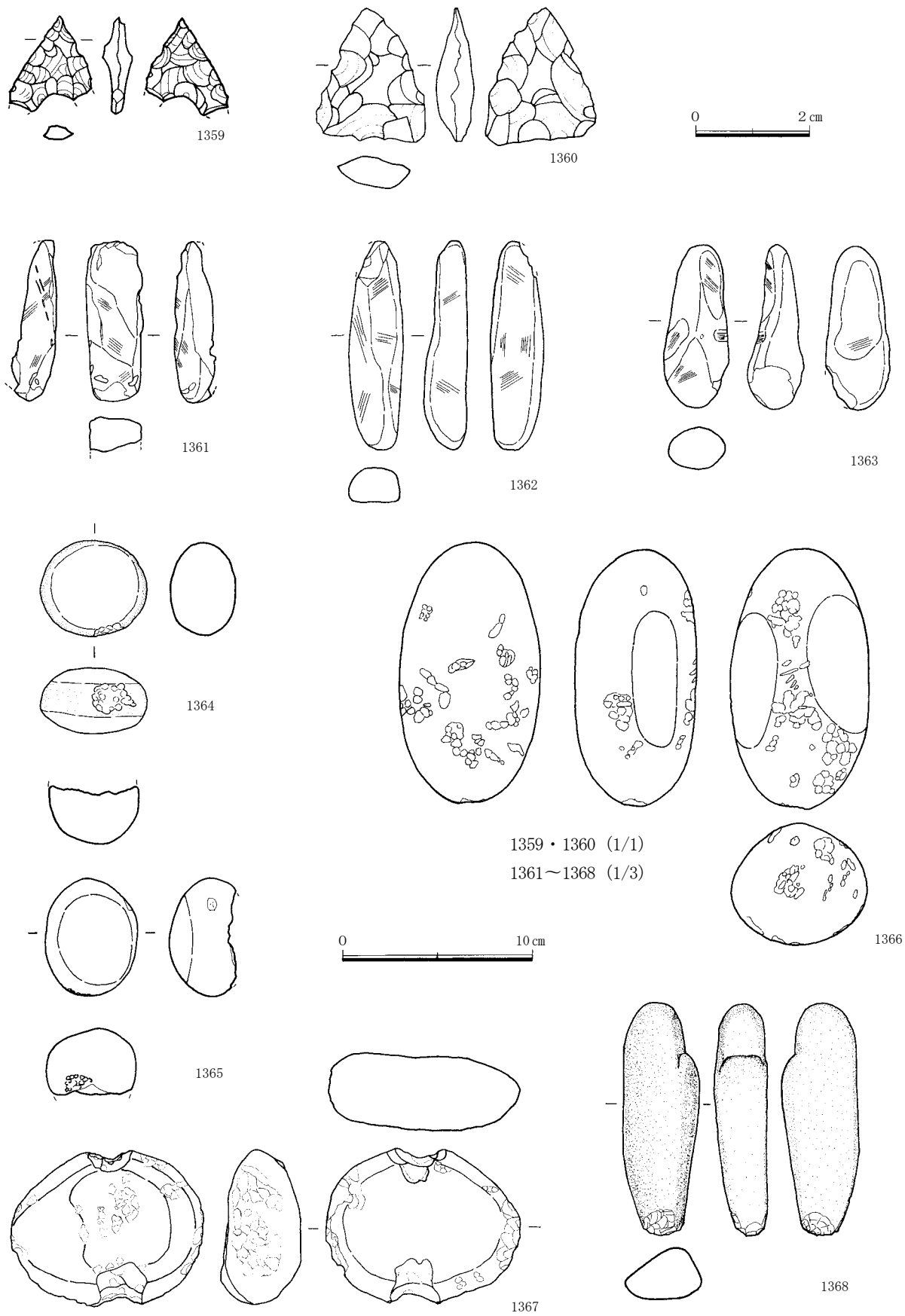
1389～1398は石鏃である。1389は3分の1ほどを欠損するが、比較的大型のI a類である。1390はU字形の挟りを有するI c類である。1391・1392はII a類である。1393～1397はII b類で、左右の刃部が挟り込むようにカーブする1395や比較的縦長の1396が特徴的である。1398はII c類である。大部分を片面からの加工で作り出し、全体が特に薄い。石材は1389～1393・1395・1397・1398が安山岩、1394・1396が黒曜石である。

1399は安山岩の棒状石製品で、顕著な加工痕はみられないが、一部柄に結合したような磨滅がみられる。小型だが、I b類の磨製石斧である可能性がある。1400はI a類の磨製石斧である。刃部は表裏両面から磨いて作り出される。石材は蛇紋岩である。

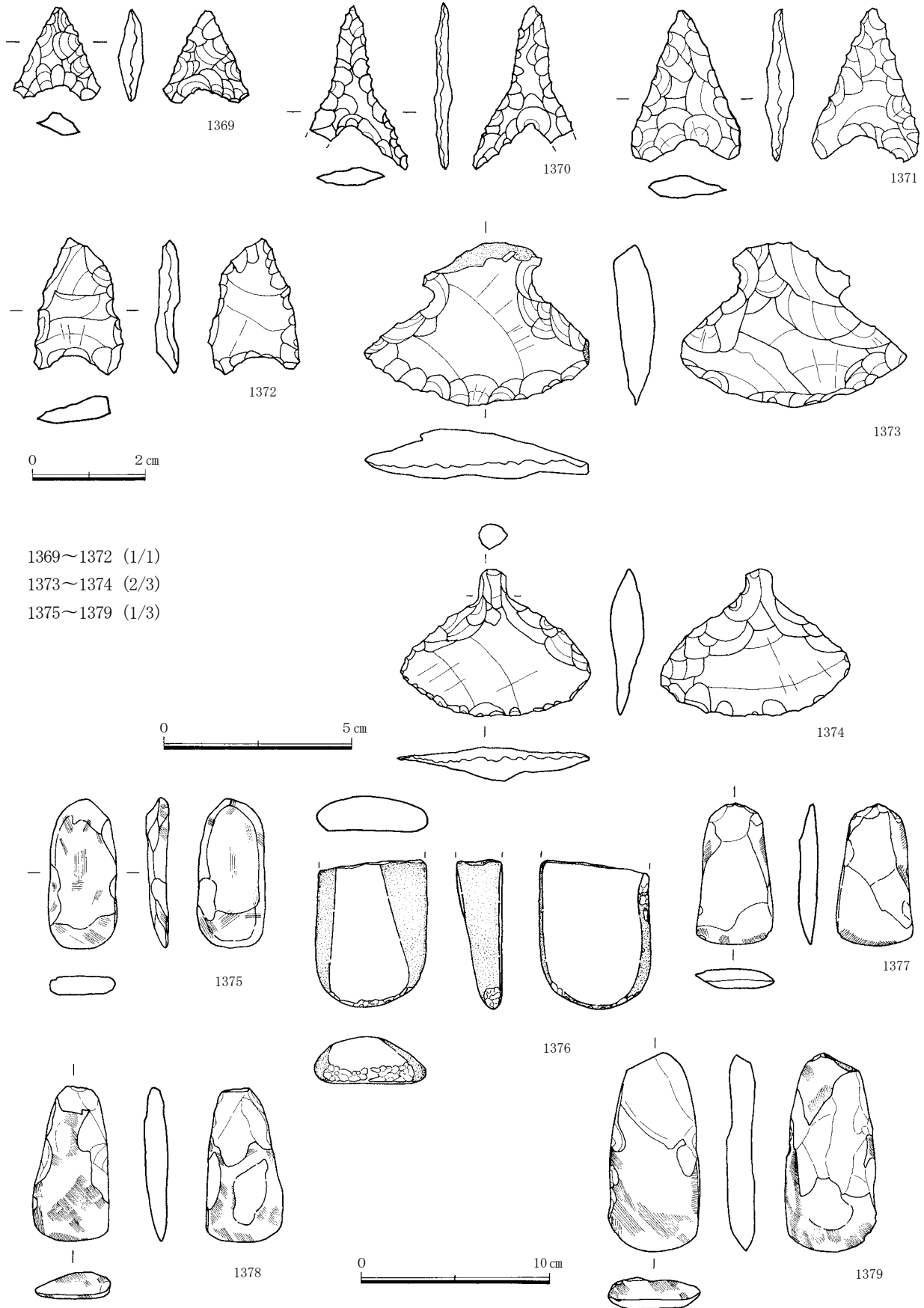
1402は石匙である。横長の刃部と小型のつまみを持つI b類で、刃部が縦にも広い点の特徴的である。石材は安山岩である。

1403は削器である。やや縦長の石材の片側に細かな剥離によって刃部を作り出したI類である。

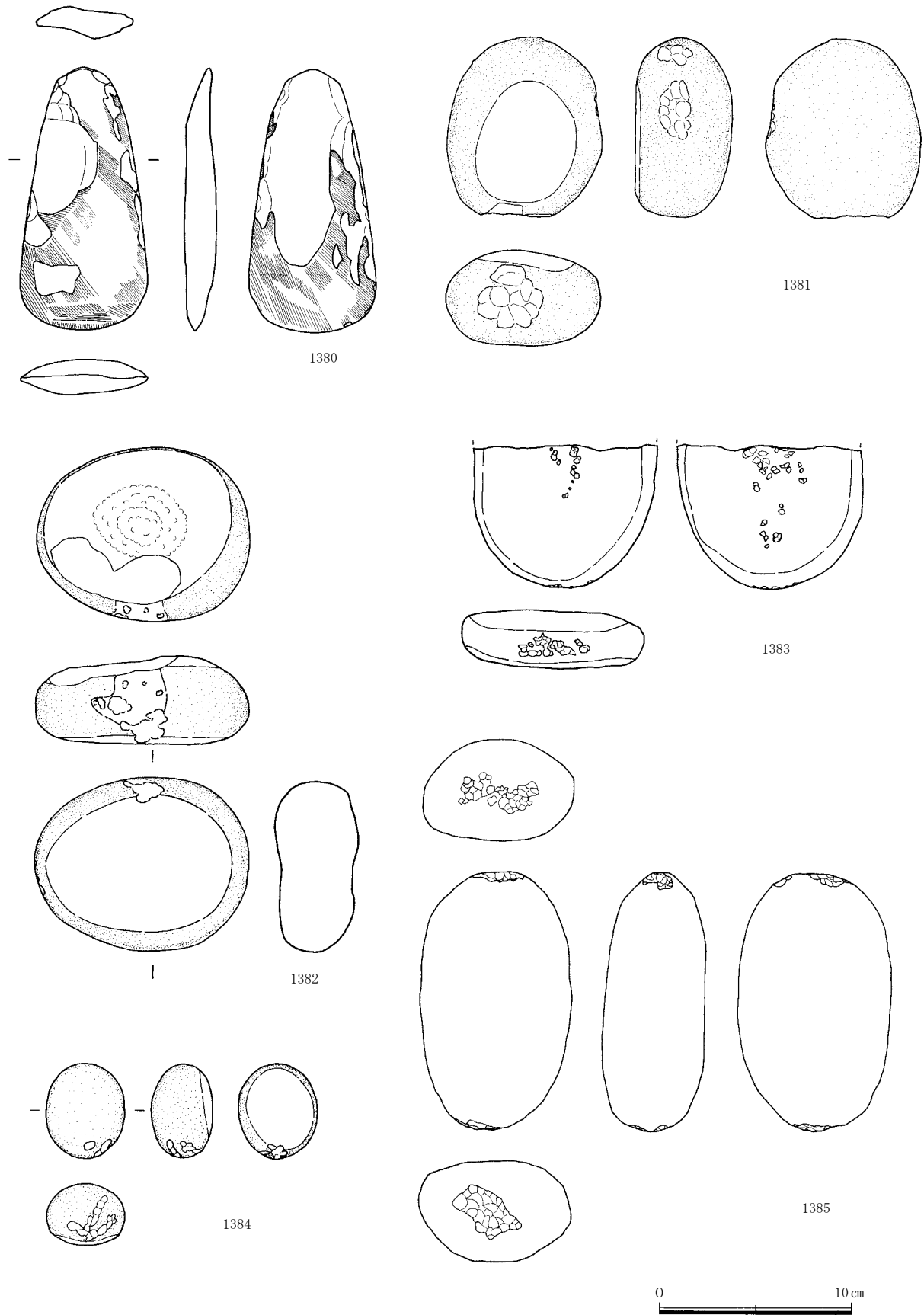
1404～1418は磨石・敲石である。うち1404～1406はI a類である。平面は磨滅により平滑であり、側面を中心に敲打痕がみられる。1407～1409はI b類である。1407は先端部に敲打痕が残る。1408は全体が平滑で、



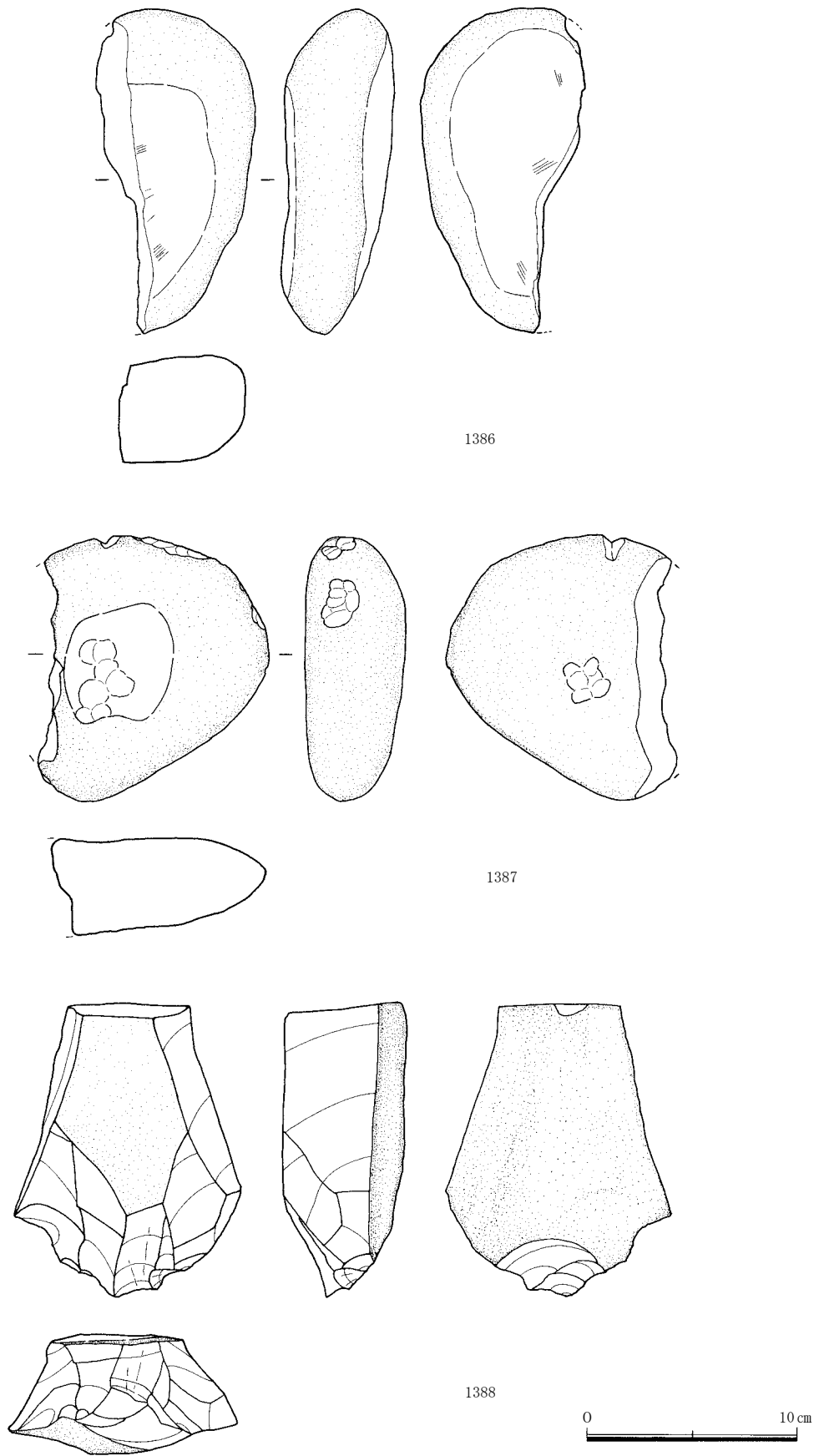
第122圖 2 T I · II層出土石器 (1/1, 1/3)



第123図 3 T I・II層出土石器1 (1/1, 2/3, 1/3)



第124図 3 T I・II層出土石器2 (1 / 3)



第125図 3 T I・II層出土石器3 (1 / 3)

敲打痕はみられない。1409 は比較的大型で、一方の平面のみ磨滅により平滑で、側面を中心に敲打痕が残る。1410～1414 はⅡ a 類である。1410 はほぼ全面が平滑だが、磨滅により特に平らになった面は存在しない。また顕著な敲打痕もみられない。1411 は一面が特に平らに磨滅している。小型品であり、敲打の痕跡は不明瞭である。1412 は磨痕は不明だが、側面を中心に敲打痕が多く残る。1413 は一面が平らに磨滅し、側面には敲打痕がみられる。1414 は全体的に平滑だが、磨滅により特に平らになった部位はみられない。側面には敲打痕が多数残る。1415～1417 はⅡ b 類である。1415・1417 は縦長の先端部に敲打痕がみられ、それ以外の多くの部分が磨滅して平滑である。1416 は一部磨滅した部分がみられるものの、全面的に多くの敲打痕が残る。1418 は厚みがあり、平面形が隅丸三角形を呈すⅡ c 類である。一面が平らに磨滅する他、やや尖った先端部に若干の敲打痕がみられる。石材は1405～1407・1410・1414～1418 が安山岩、1404・1408・1411・1413 が砂岩、1409・1412 が凝灰岩である。

1419～1421 は石皿である。いずれもやや厚手の板状の安山岩を使い、平面が磨滅して平滑になっている。側面は自然面を残し、特に加工は行われていない。

1422～1428 は、部分的に磨滅や擦過痕がみられる小型の石器で、厳密には用途不明だが砥石として報告する。1422～1426 は板状を呈するⅡ類である。1422 は表裏両面に磨滅により平滑になった部分がある安山岩片である。破片資料であり、本来の大きさ・形状は不明だが、石皿の一部である可能性がある。1423 は薄い板状の砂岩で、片方の平面が平滑に磨滅する。1424 は小型の砂岩片で、一面が磨滅している。本来の大きさ・形状等は不明である。1425 は板状の不整形な安山岩片である。石材の一端が細く凹み、表面が磨滅している。1426 は板状の凝灰岩で、一面が磨滅して浅いU字形に凹む。1427・1428 は不整形のⅢ類である。1427 はやや縦長の安山岩で、一面が磨滅して緩く凹む。1428 は不整形な凹凸があるものの、全体形は丸に近い。うち一面が磨滅し、かすかに凹んでいる。磨石と呼べなくもないが、磨痕部分が凹む点が他の磨石と異なるため区別して砥石とした。

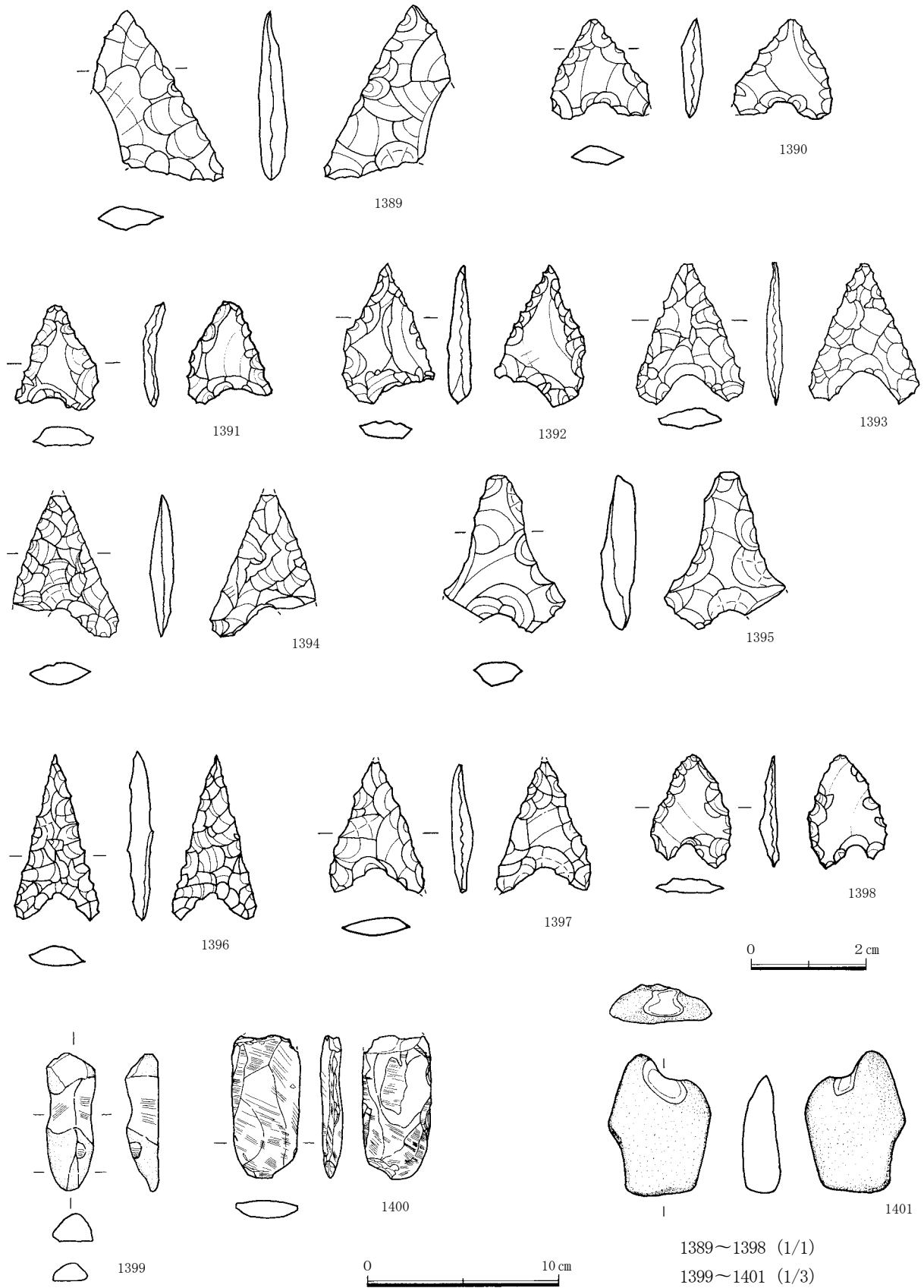
1429 は不整な角柱状を呈す安山岩で、複数の面が磨滅して平滑になっている。砥石としての側面も考えられるが、特筆すべきは角柱の小口部にある円形のやや深い凹みである。凹みの内部は磨滅しており、また熱を受けたように赤く変色している。火起こしに伴い火きり棒のおさえ等に用いたことが想定される凹石である。

1430 は石錘である。石の一端が深く抉られ、そこから結合の痕跡とみられる浅い帯状の凹みが長くのびる。ただし、この凹みは意図的に溝を彫ったものではなく、使用に伴ってついたものとみてⅠ類に分類する。

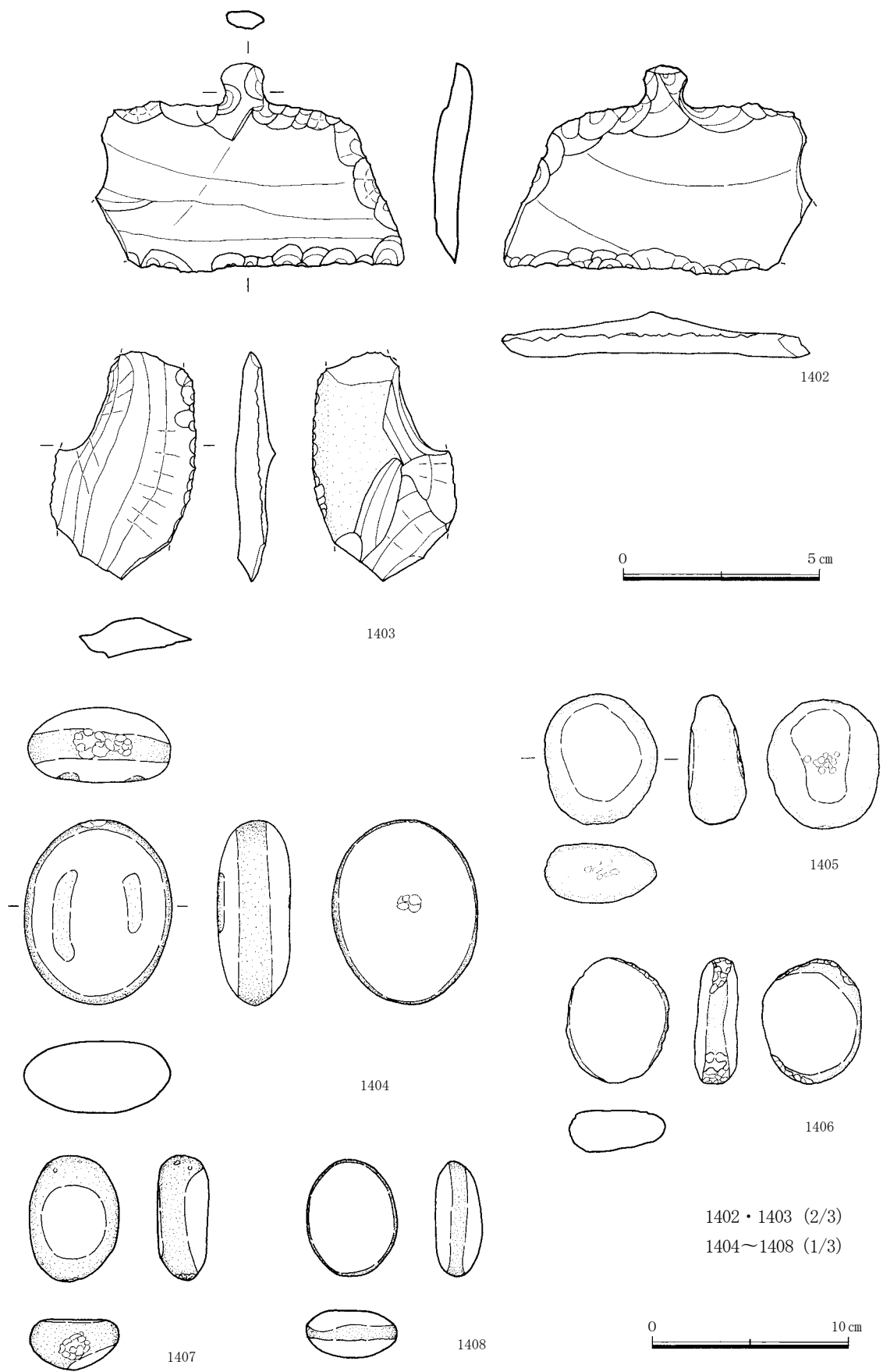
1431～1435 は双角状礫器である。1431 は安山岩の小型品で、細かな敲打による抉り部分以外に顕著な加工や使用の痕跡が乏しい。1432 は蛇紋岩製である。抉り以外の部分が一部を残して鋭く尖る刃部になっている点で、他のものと趣が異なる。削器等、別の石器を転用した可能性がある。1433 は安山岩製で、抉り部付近を除き自然面を多く残す。1434 も安山岩だが、対照的に外周のほぼ全てを打ち欠いている。また、抉りの反対側の突出部にもよく打痕が残る、こちら側も使用したことがうかがえる。1435 は安山岩のやや大型品である。多くの双角状礫器が平面三角形の石材を基本とする中、四角形の石材に抉りを入れている点の特異である。抉り部以外の広い範囲に加工が及ぶ。

1436 は片側の幅が広がる短冊状、あるいは剣菱形ともいえる石製品である。ほぼ全面が平滑に研磨される。石材は砂岩である。

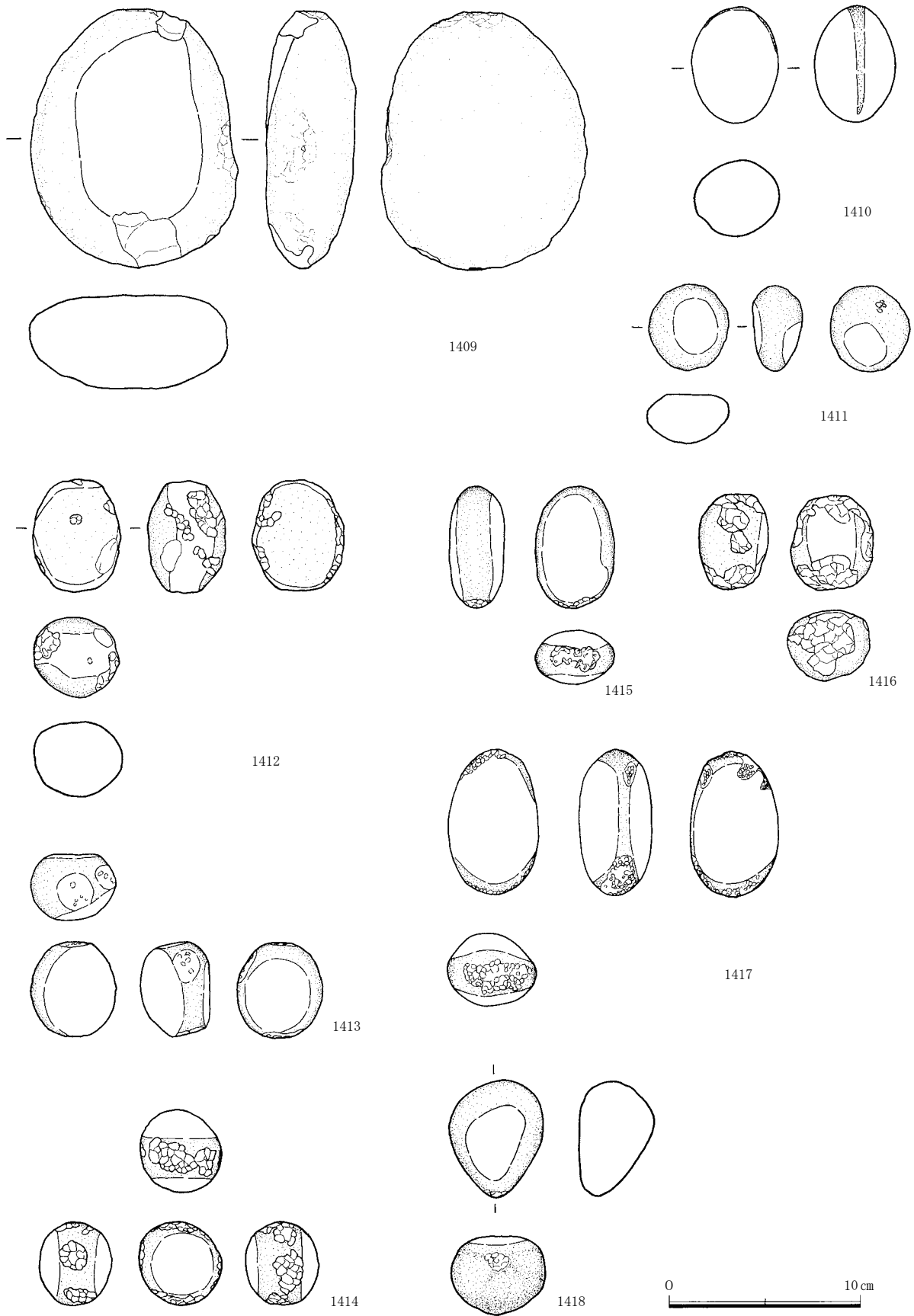
1437 は翡翠製で円形の穿孔を施した石製品である。大きく欠損し、残存するのはごく一部だが、大珠又は塊状耳飾の一部と推定される。



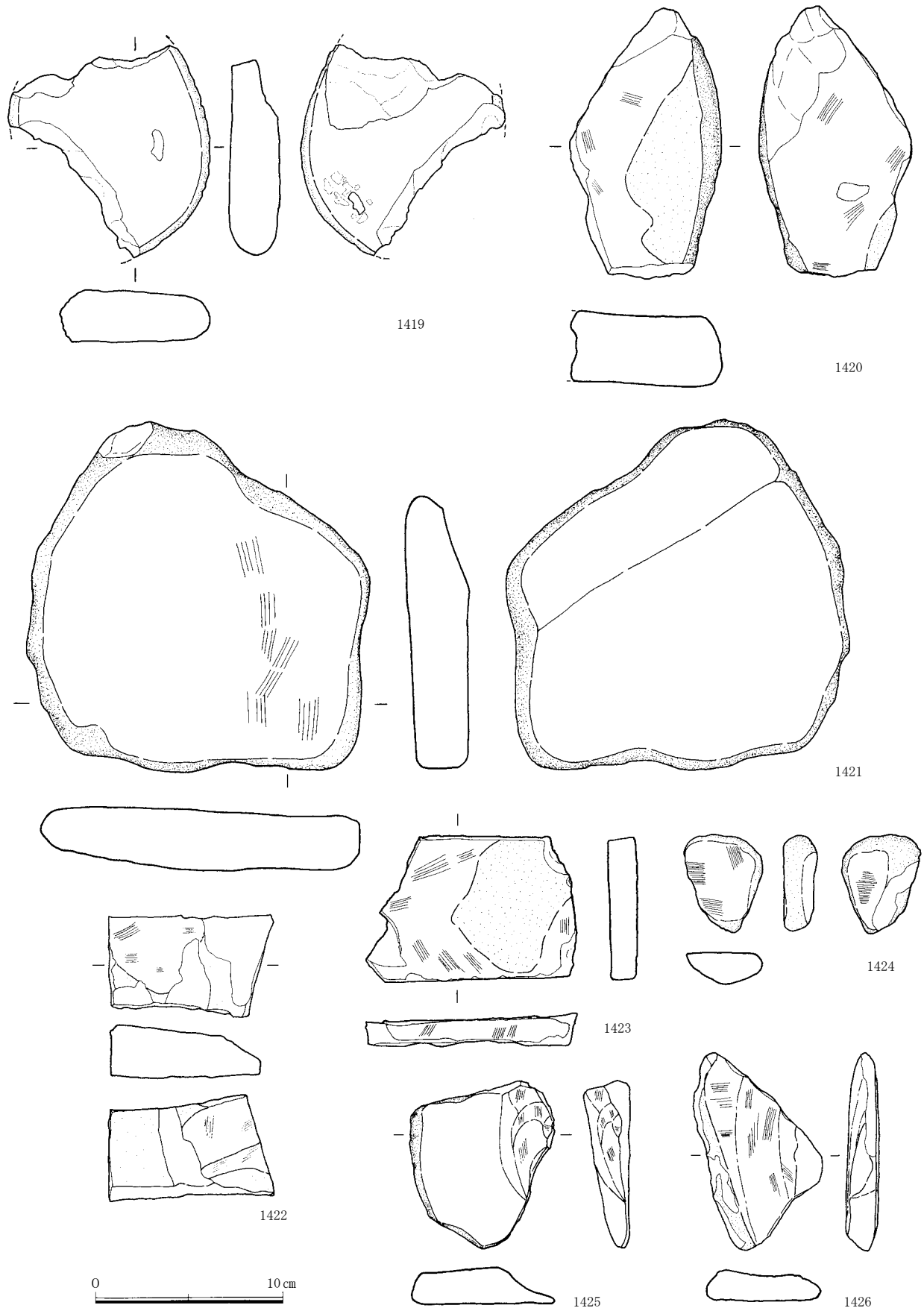
第126図 3 T III b層出土石器・IV a層出土石器1 (1/1, 1/3)



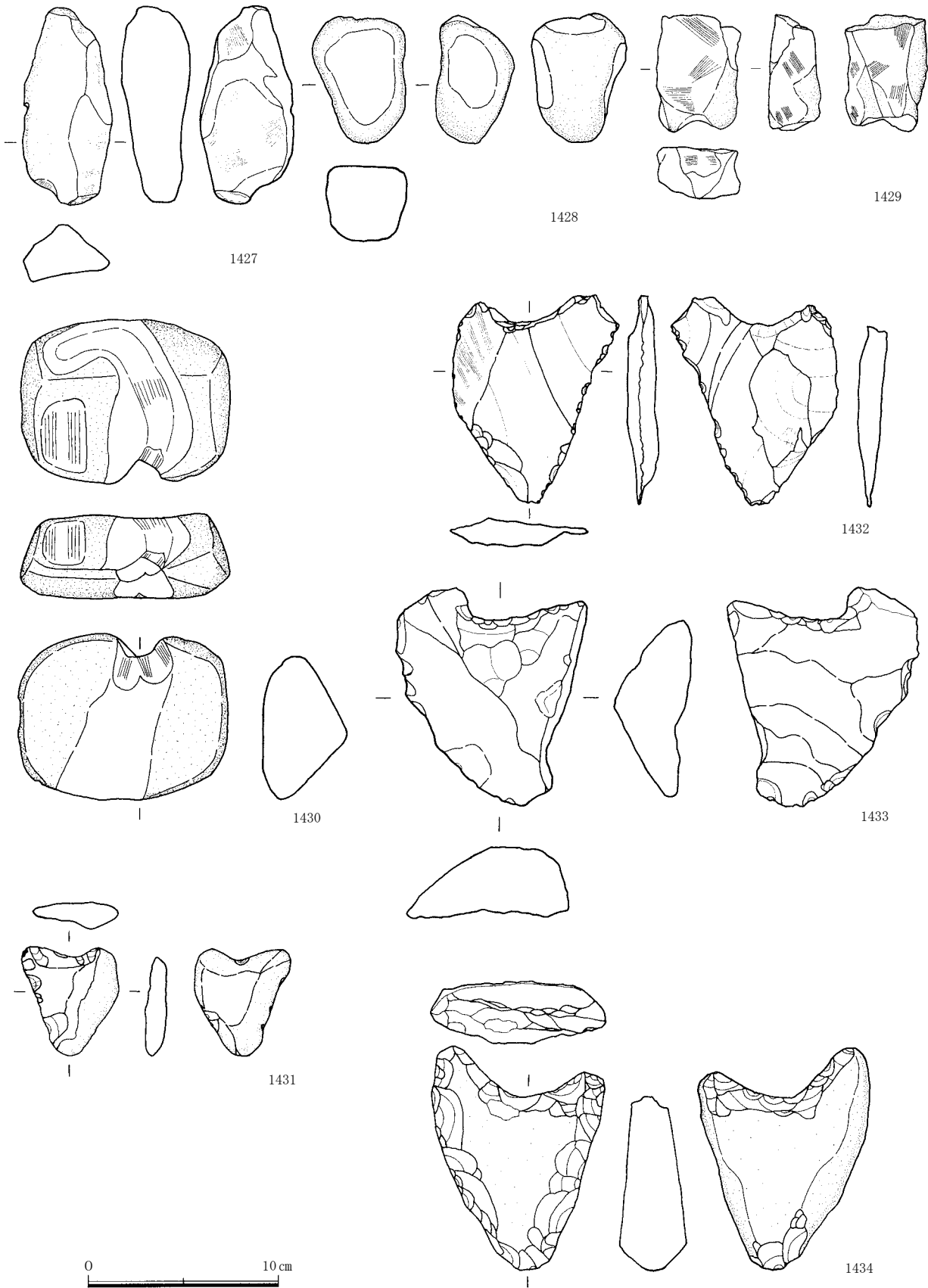
第127図 3 T IV a層出土石器2 (2/3, 1/3)



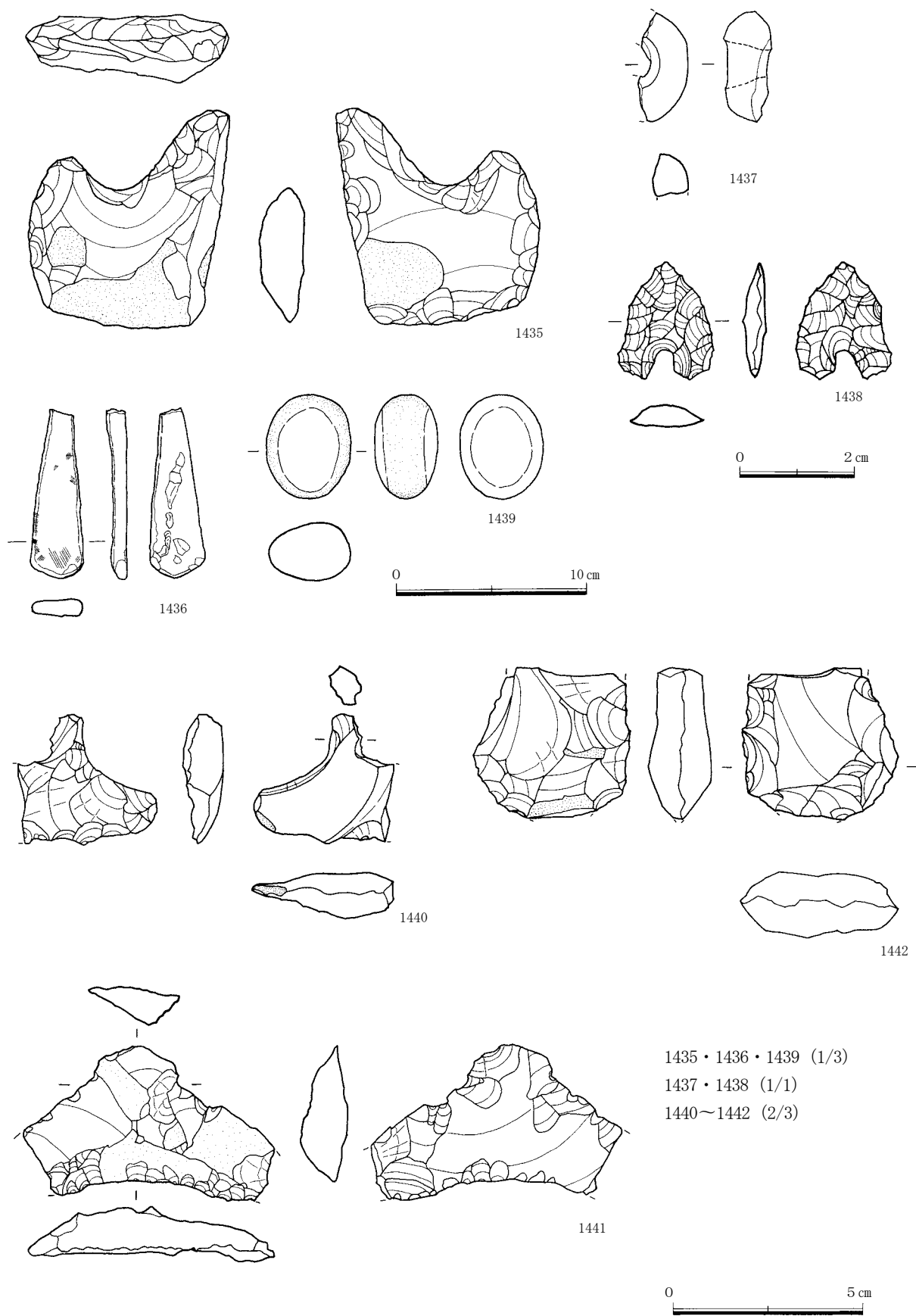
第128図 3 TIV a層出土石器3 (1 / 3)



第129圖 3 TIV a層出土石器4 (1 / 3)



第130図 3 TIV a層出土石器5 (1 / 3)



第131圖 3 T IV a層出土石器6・IV b層出土石器 (1/1, 2/3, 1/3)

3 TIV b層出土石器・石製品 (第131図)

1438は石鏃である。黒曜石製で、縦長の平面形にU字形の抉りを持つII c類である。

1439はII a類の磨石である。表裏両面によく磨滅した平坦面がある。打痕はみられず、敲石としての使用はなかったとみられる。石材は安山岩である。

1440・1441は石匙である。1440は黒曜石製で、横長でつまみの小さいI b類である。1441は横長のI類だが、つまみは明確につくり出されおらず、未成品の可能性もある。石材は安山岩である。

1442は打製石斧の刃部片とみられる。残存部が少なく全体の平面形は不明だが、磨製石斧の分類に照らせばややII類に近いとみられる。石材は安山岩である。

4 T I・II層出土石器・石製品 (第132図)

1443～1448は石鏃である。うち1443・1444はII a類、1445・1446はII b類、1447・1448はII c類である。石材は1443・1447が黒曜石で、1444～1446・1448は安山岩である。

1449は石匙である。横長でつまみが小さいI b類である。石材は安山岩である。

1450は磨石・敲石である。扁平で円形をなすI a類で、表裏の両平面を磨石として使用した後、平面・側面を問わず敲石として使用したとみられる。石材は安山岩である。

1451は円柱状の石製品である。全面に擦過痕があり、意識的に加工・成形した様子がうかがえる。石材は石英質砂岩である。

4 T III b層出土石製品 (第132図)

4 T III b層出土の石器・石製品で図化できたのは1452のみである。1452は穿孔のある石製品で、薄い板状砂岩の端部付近にはほぼ片側から穿孔している。垂飾の一種とみられる。

4 T IV a層出土石器・石製品 (第133・134図)

1453～1458は石鏃である。1453がI c類、1454・1455がII b類、1456がII c類、1458がIII b類である。1457は縦長のII類だが、抉りが全く無く、未成品とみられる。

1459～1461は石匙である。1459は横長で、細くつくり出したつまみが折れた痕跡がみられるI b類である。1460は横長で、小規模なつまみをつくり出す。これもI b類に分類される。1461は一見縦長の削器のようにもみられるが、不明瞭ながら長辺の一部にあったつまみが折れたものとみて、I類の石匙とした。石材は全て安山岩である。

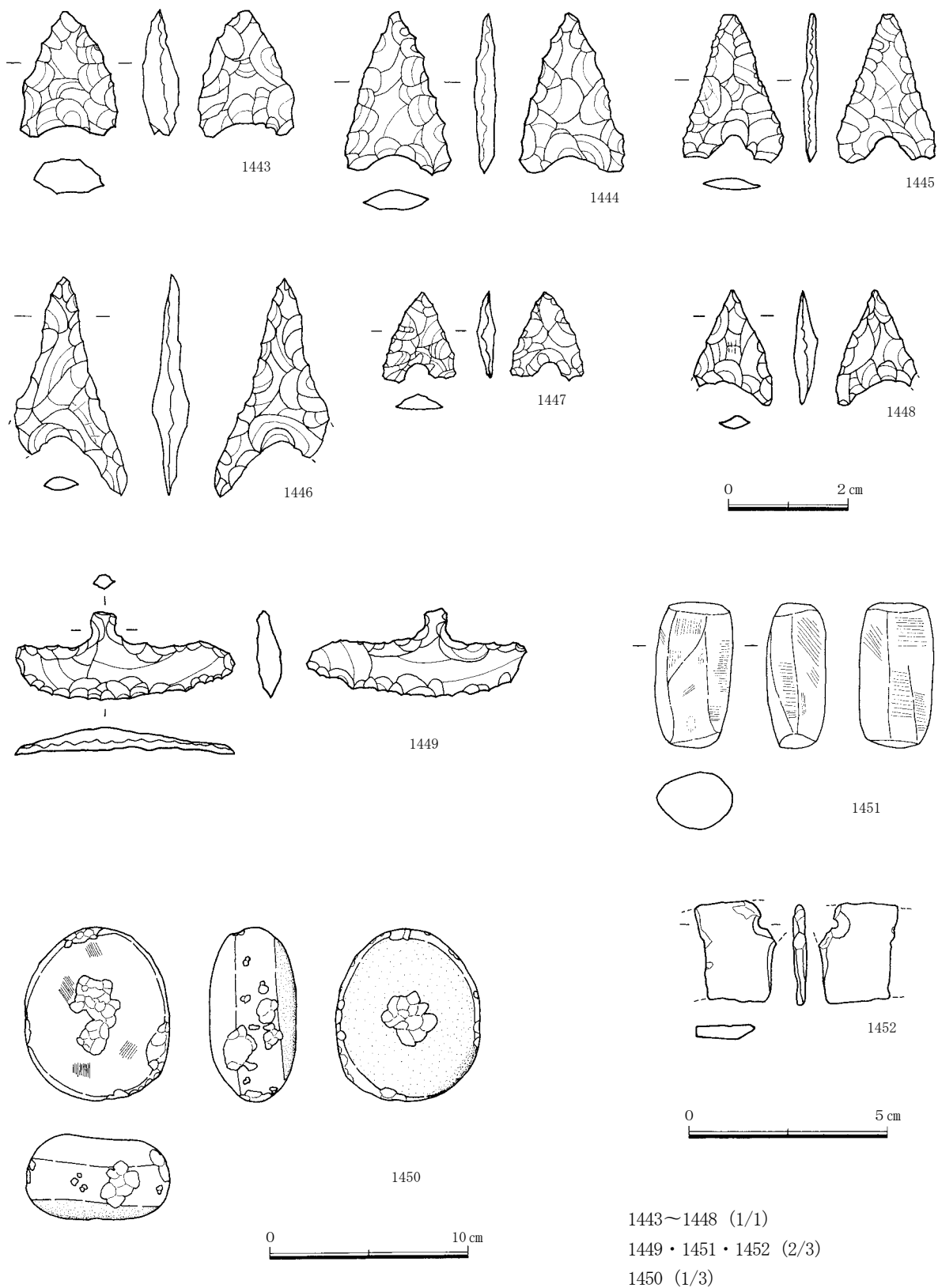
1462・1463は削器である。1462は縦長の石材の一辺に細かな剥離により刃部をつくり出すI類である。1463は片側の加工が曖昧だが、先端付近はごく薄く両刃と捉えられるII類である。石材はどちらも安山岩である。

1464は小型だが磨製石斧とみられる。薄く刃部幅が広がらないI a類である。刃部の少し上に、柄の結合に伴うとみられる溝状の抉れがみられる。石材は砂岩である。

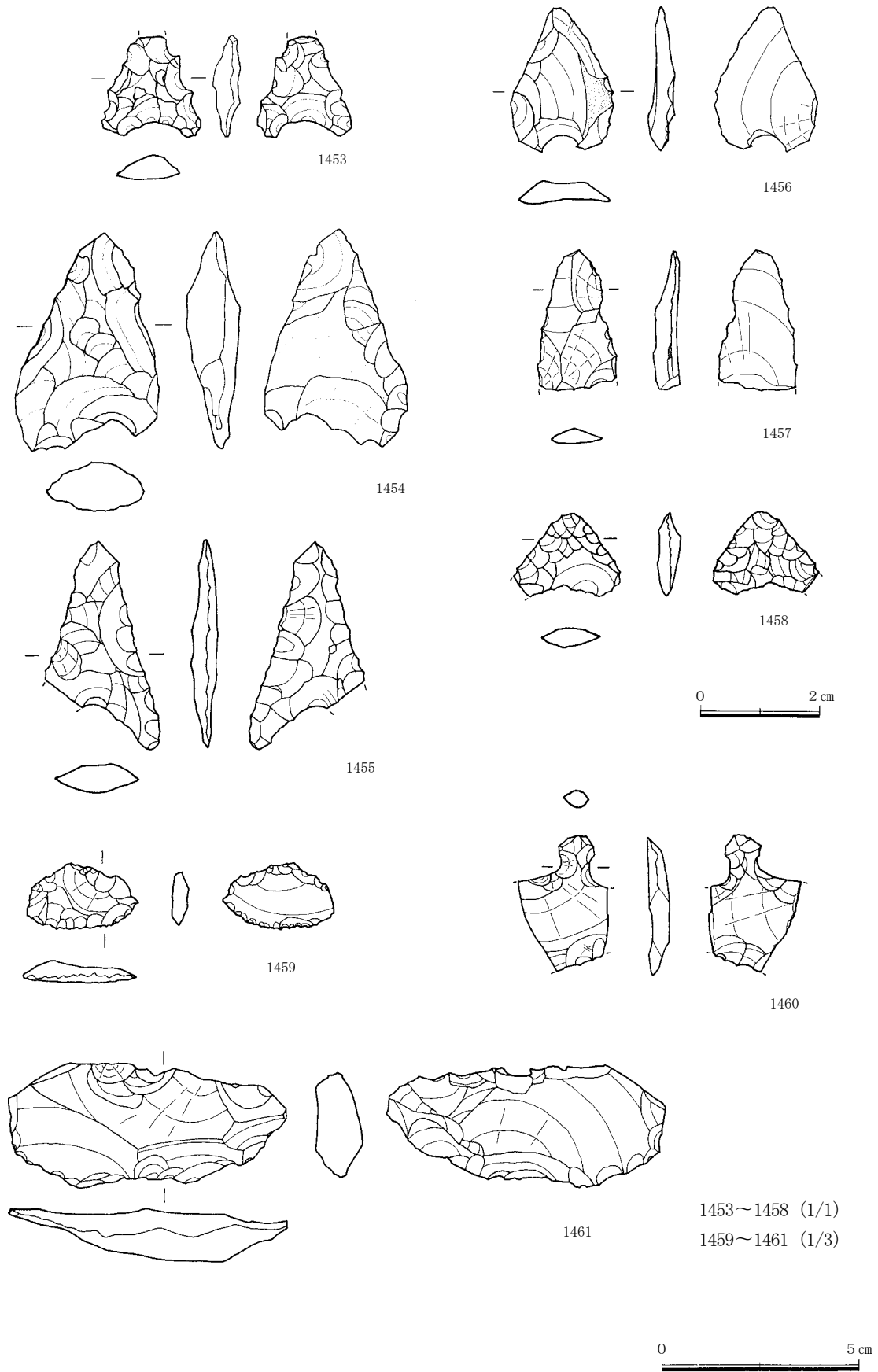
1465・1466は磨石・敲石である。1465はII a類で、敲石として使用した打痕はみられない。一方で被熱によるとみられる亀裂が入る。石材は砂岩である。1466はI c類である。平坦面に若干ではあるが磨滅がみられ、また突出した先端部をはじめ、複数個所に打痕が残る。

4 T V層出土石器 (第134図)

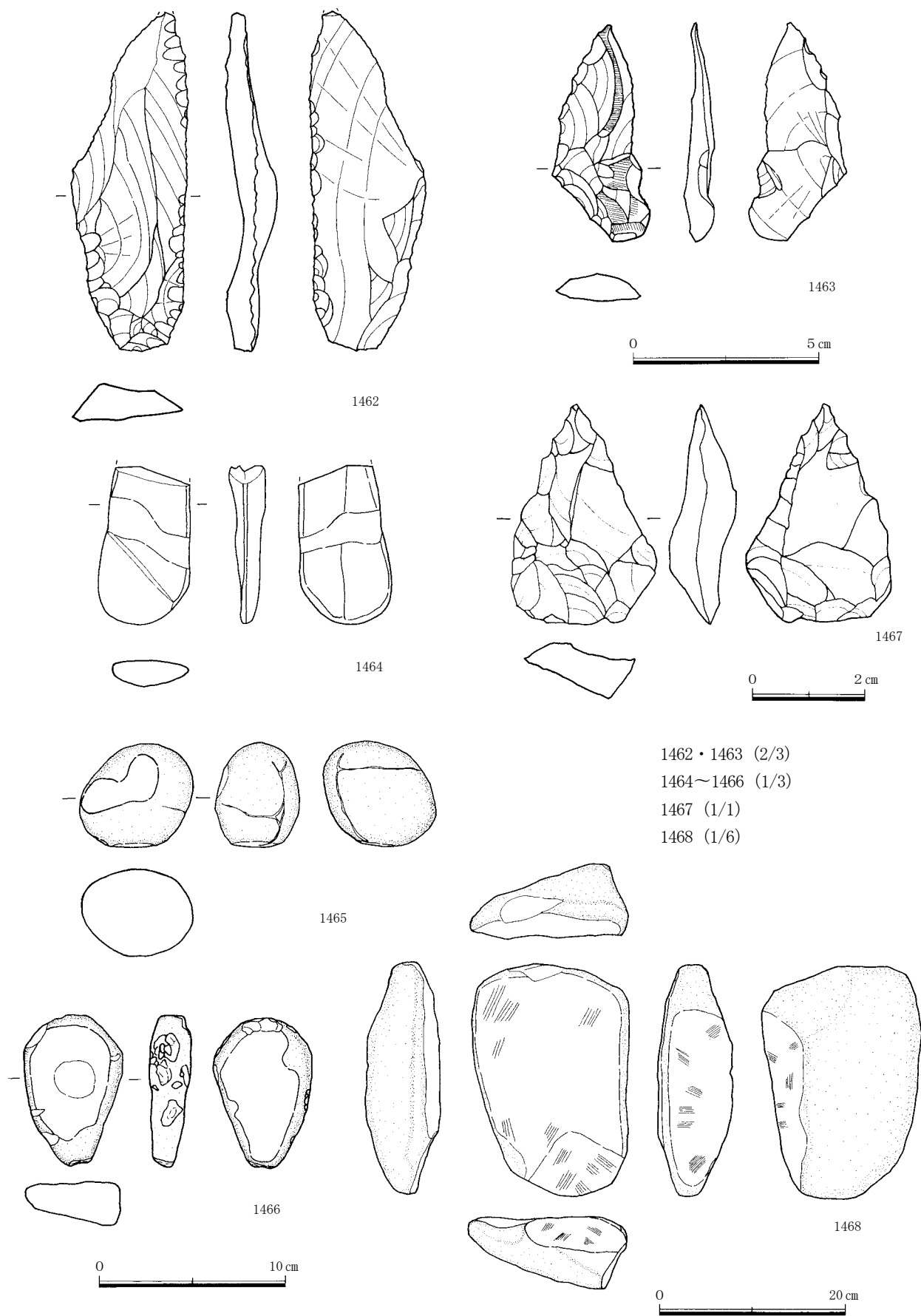
4 T V層出土の石器は1467のみである。やや大型だがII類の石鏃とみられる。基部の抉りがみられない他、片側の刃部に一部自然面を残す等、加工が不十分である。未成品の可能性もある。



第132圖 4 T I・II層・III b層出土石器・石製品 (1/1, 2/3, 1/3)



第133図 4 T IV a層出土石器1 (1/1, 1/3)



第134圖 4 T IV a層出土石器2・V層・SK01出土石器 (1/1,2/3,1/3,1/6)

4 T SK01 出土石器 (第 134 図)

出土した石器・石製品は 1468 のみである。1468 は安山岩製の石皿で、あまり顕著ではないが複数個所に磨滅がみられる。

5 T I・II 層出土石器・石製品 (第 135 図)

5 T II 層出土の石器として 1470 と 1472 の 2 点を図示した。

1470 は石鏃である。縦長で U 字形の抉りを持つ II c 類である。石材は安山岩である。

1472 は石匙である。横長でつまみが比較的小さい I b 類である。石材は安山岩を使用する。

5 T III b 層出土石器・石製品 (第 135 図)

1469・1471 は石鏃である。1469 は安山岩製で、縦長で小規模な抉りを持つ II a 類である。1471 は黒曜石製で、基部に U 字形の大きな抉りが入る II c 類である。

1473・1474 は磨石・敲石である。1473 は顕著な磨痕は無く、全面に多くの打痕が残る。形状は II a 類である。1474 はかなりの小型品である。全面的に平滑であり、一面が特に平らに磨滅している点から小型の磨石として図示した。II a 類に相当する。

5 T IV a 層出土石器・石製品 (第 136 図)

1475・1476 は石鏃で、ともに II b 類である。石材は 1475 が安山岩、1476 が黒曜石である。

1477・1478・1481～1483 は磨石・敲石である。1477 は I a 類である。扁平な小型品で、両平面が顕著に磨滅する。1478 は I a 類である。これもごく小型で、一面が特に磨滅し、わずかに凹む。1481 は半分程度欠損するが、II a 類とみられる。平面部分が磨滅し、また側面を中心に若干の打痕が残る。1482 も II a 類である。全体的に平滑で、顕著な打痕はみられない。1483 は II a 類とみられる磨石の破片である。ごく一部残存する器表面は非常に平滑である。欠損部付近に打痕はみられず、被熱により割れた可能性がある。石材は 1482 のみ砂岩であり、他は全て安山岩である。

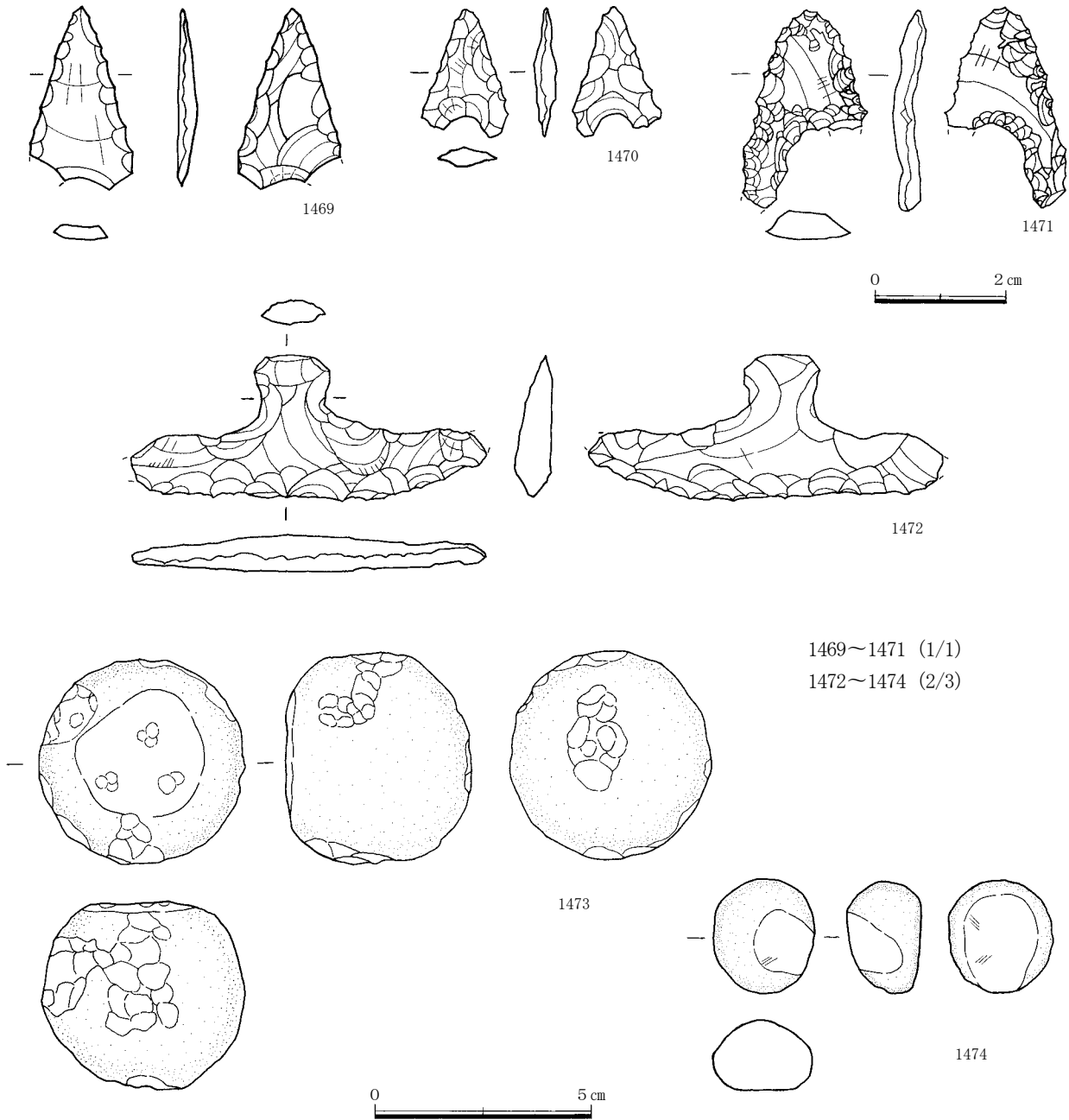
1479・1480 は不明石製品である。1479 は小型の円礫の表面に短い沈線状の溝が複数刻まれたものである。石は片側が比較的平坦になり、この面は反対側に比べ溝が少ない。1480 は断面が隅丸長方形を呈す角柱状の石に丸い穿孔を施すものである。孔は片側がラッパ状に開き、内面は平滑である。欠損しているため全体の形状は不明だが、轟貝塚第 6 次調査で出土し石笛と推定された石製品 (宇土市教育委員会 2008) に近いものと考えられる。

6 T 出土石器・石製品 (第 137 図)

1484～1486 は磨製石斧である。1484 は II a 類で、刃部は主に片面から削り出している。表面は欠損が多いが、全体がよく研磨される。石材は蛇紋岩である。1485 は同じく II a 類である。刃部は片面から削り出している。石材は泥岩である。1486 は II b 類である。両面から研磨して刃部をつくり出す。石材は蛇紋岩である。

1487 は石皿である。板状の安山岩の一面を使用し、部分的ではあるが顕著に磨滅する。それ以外の面には加工や使用の痕跡はみられない。

1488・1489 は双角状礫器である。石材はともに安山岩で、1488 は平面が三角形を呈す板状石材の一辺に抉りが入る。1489 は平面形が四角形に近く、幅広・厚手である。



第135図 5 T I・II層・III b層出土石器 (1/1,2/3)

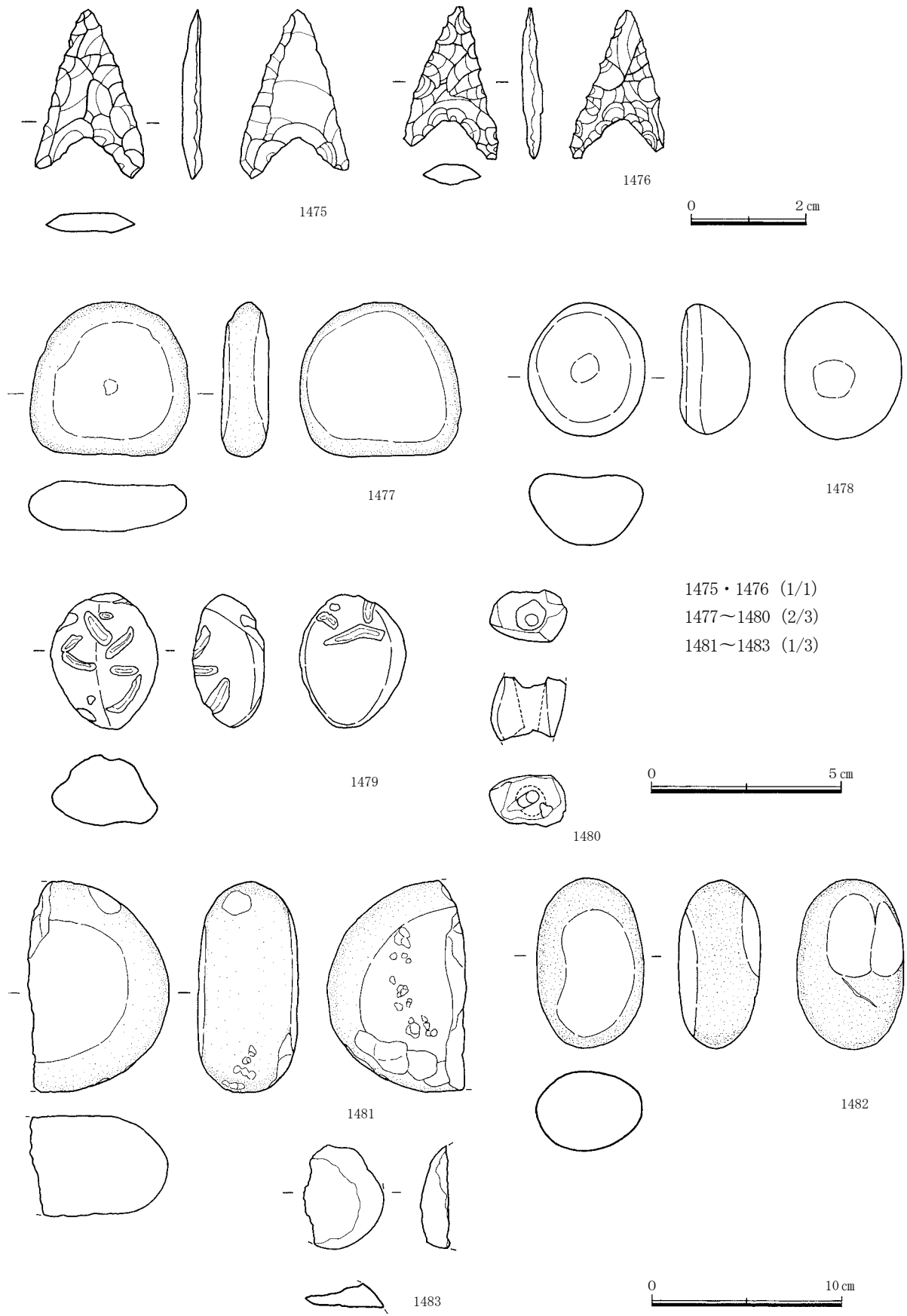
8 T III a層出土石器・石製品 (第138図)

1490～1493は石鏃である。石材は全て安山岩で、1490・1491はII b類、1492・1493はII c類である。
1494は石匙である。石材は安山岩で、横長で細いつまみがつくり出されるI b類である。

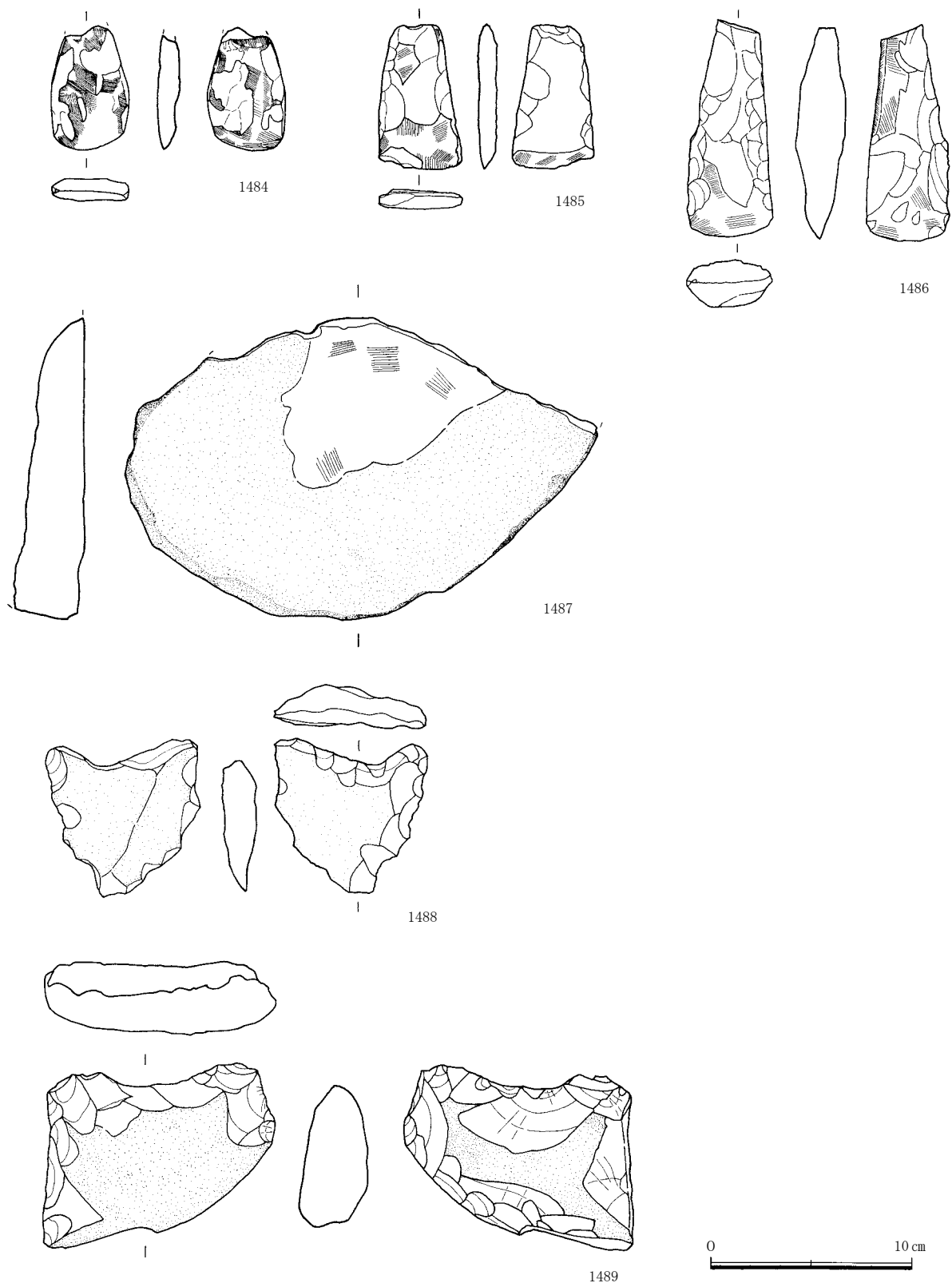
8 T III b層出土石器・石製品 (第139～141図)

1495～1506は石鏃である。1495・1496はI a類、1497・1498はI b類、1499はI c類、1500・1501はII a類、1502～1504はII b類、1506はII c類である。1505は挟りが無く未成品の可能性はある。やや縦長でII類に相当する。石材は1495・1497・1498・1502～1506が安山岩、1496・1499～1501が黒曜石である。

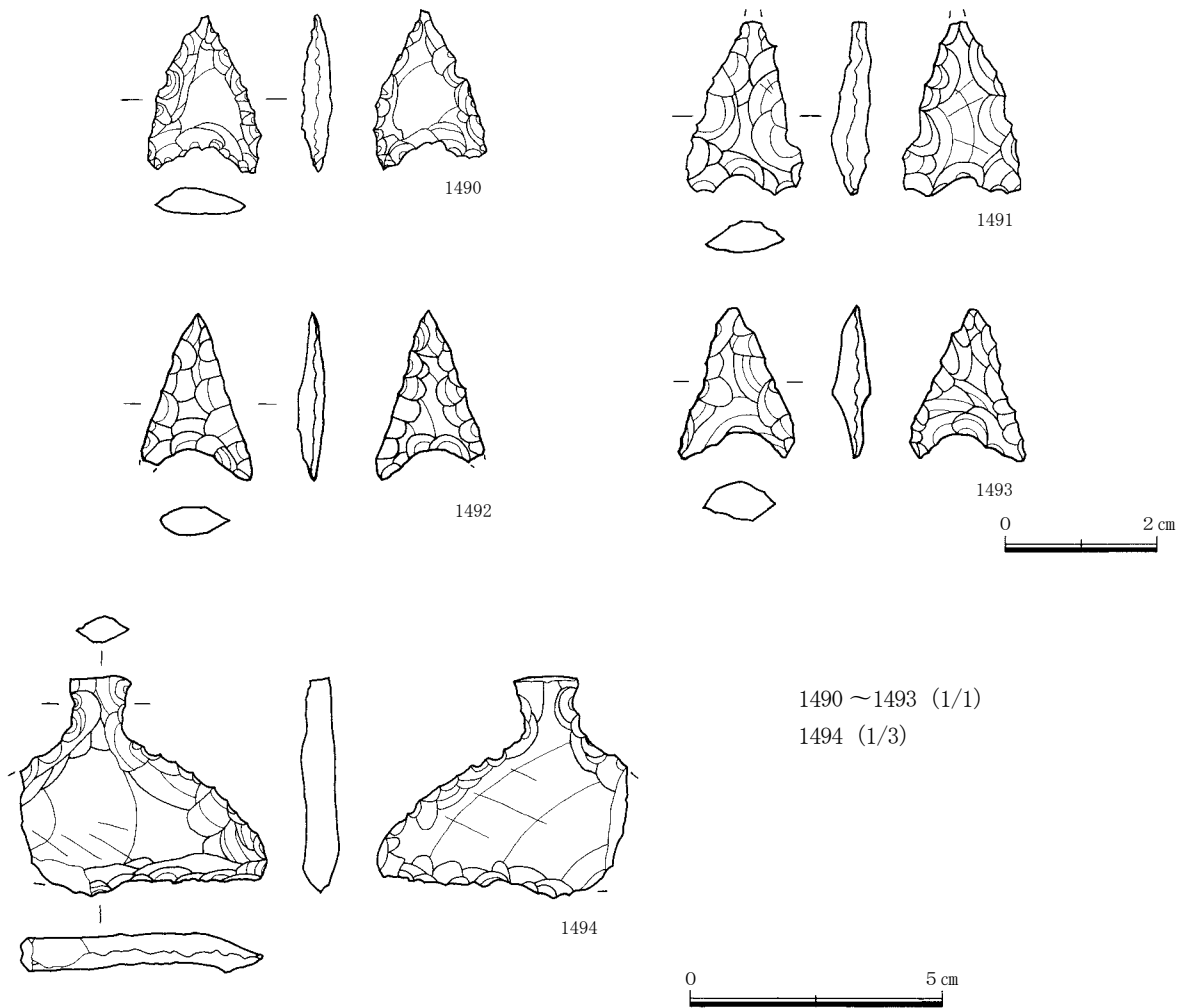
1507は削器である。安山岩製で、両側に刃部をつくり出すII類である。



第136図 5 TIV a層出土石器 (1/1, 2/3, 1/3)



第137圖 6T出土石器(1/3)



第138図 8TIII a層出土石器 (1/1, 1/3)

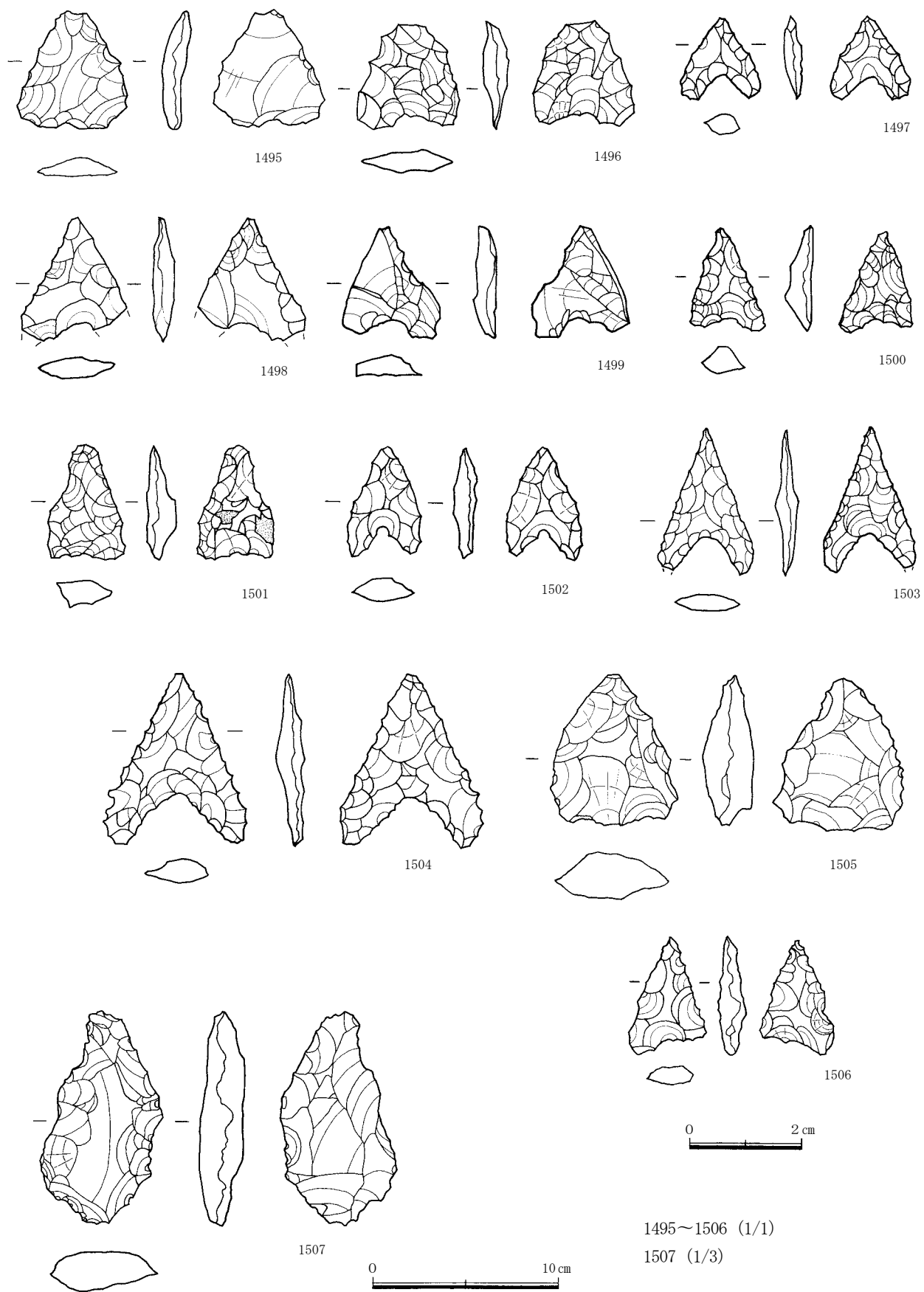
1508～1510・1513は磨石・敲石である。1508はI a類で、平面の中央に敲打による凹みを有する敲石である。磨痕は確認できない。1509はII a類で、片方の平面が顕著に磨滅し、反対側が1箇所大きく陥没する。陥没部分は打痕や磨滅が顕著でなく、使用や加工によるものかは不明である。1510はII b類で、全面が磨滅して平滑である。打痕はみられない。1513はI a類に近いが、磨滅や敲打により複数箇所が凹むIII類である。石材は、1508が凝灰岩、1509・1511・1513が安山岩、1510が砂岩である。

1512は不明石製品である。平面形は楕円形で、薄い板状の蛇紋岩製である。使用等の痕跡は不明だが、全体が研磨され非常に平滑である。

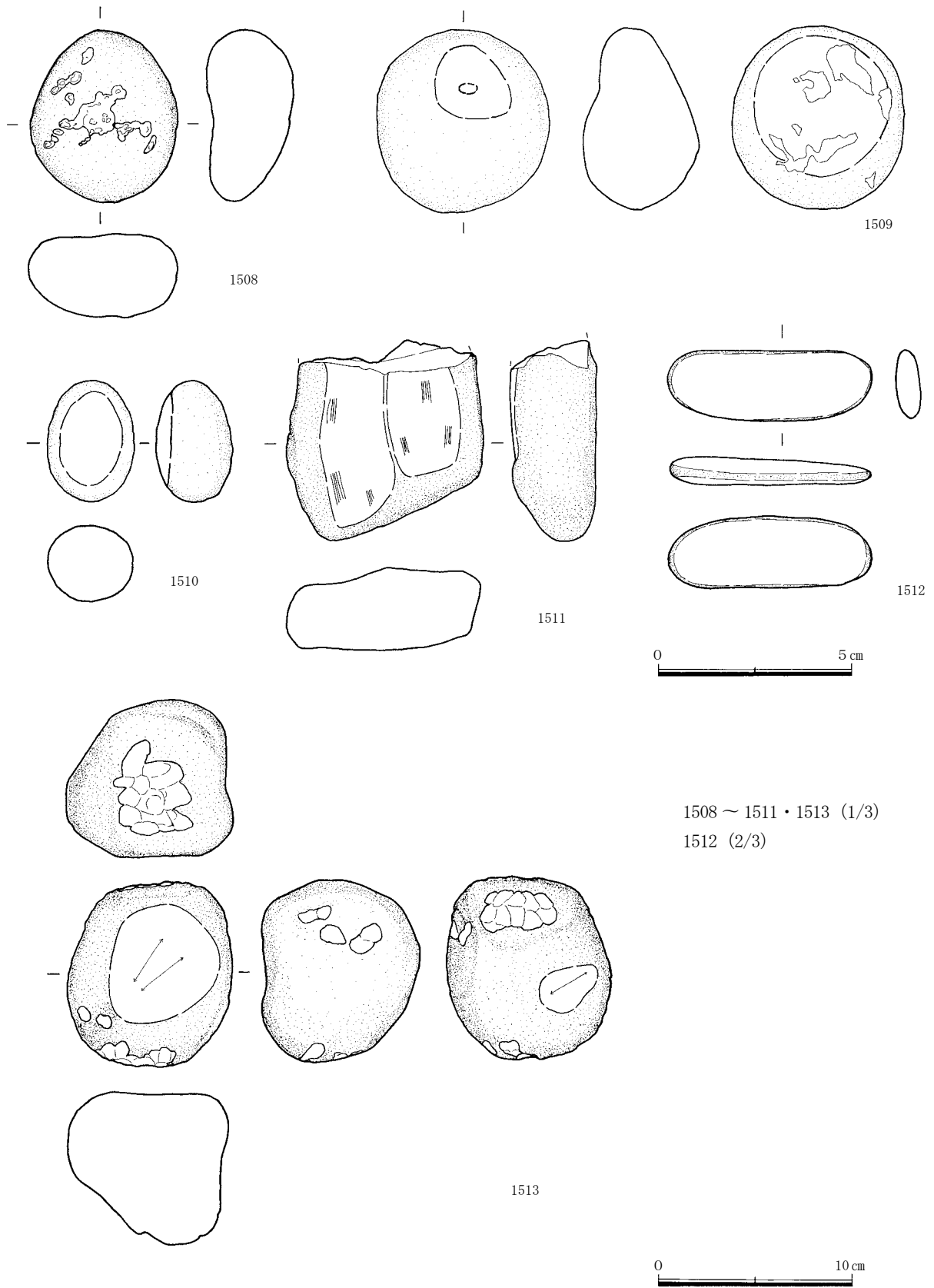
1511・1514～1516は砥石で、石材は全て安山岩である。1511は厚手ではあるが、板状のII類に分類できる。石材の一面に、断面U字形の浅い溝状の磨滅による凹みが2本平行して残る。1514は不定形なIII類で、器面全体に磨滅による凹みが無数に残る。1515はやや扁平な礫の側面に磨滅による凹みが残るIII類である。1516は板状の安山岩の両面が磨滅して平滑になったII類である。小型品のため砥石として扱うが、破片資料であり、場合によっては石皿の一部である可能性も考えられる。

1517はI類の石錘である。縦長の石材の中央が両側から大きく挟れる。石材は安山岩である。

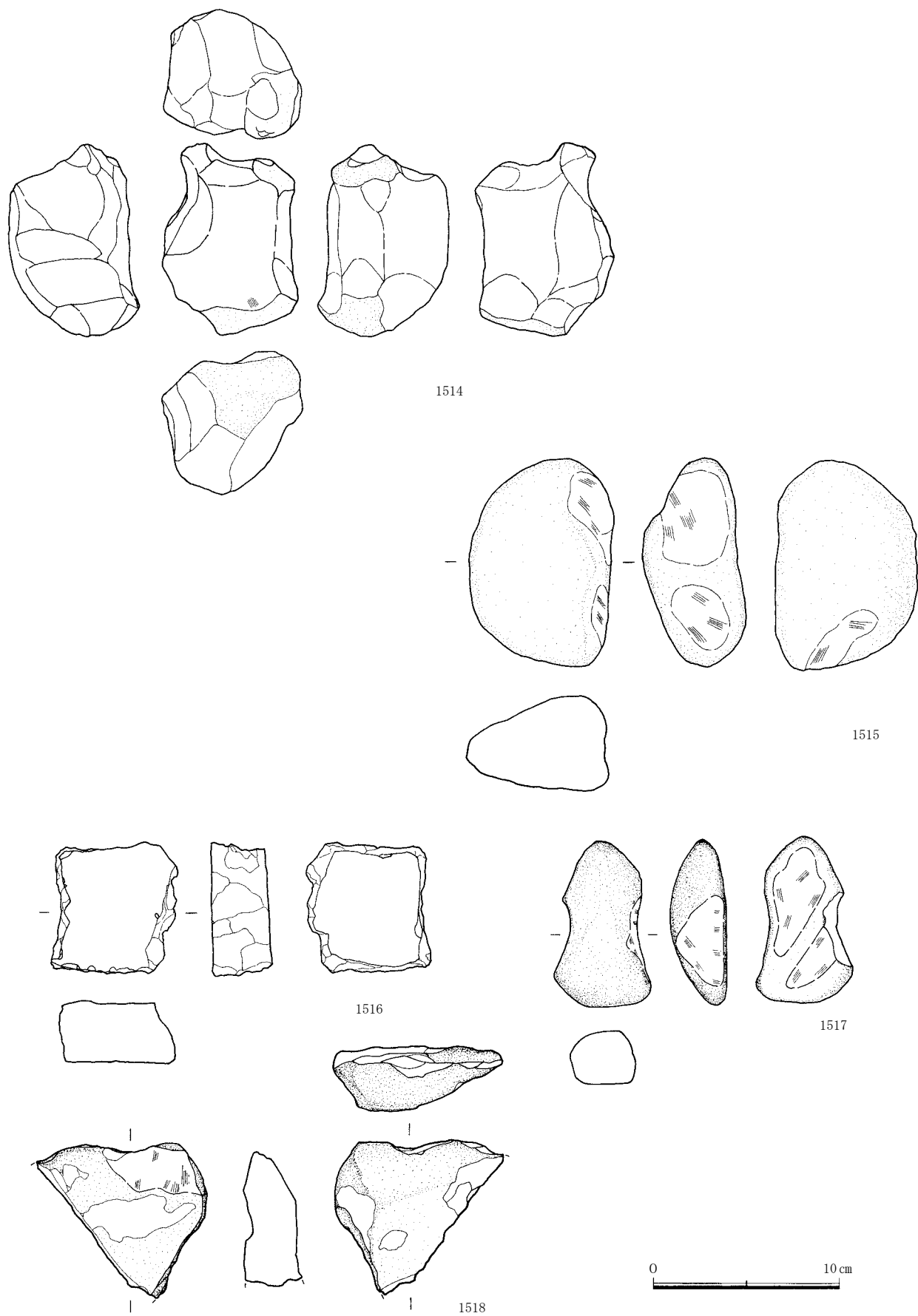
1518は全体として加工痕はほとんど無く、三角形を呈する平面形のうち一辺の中央に敲打によるとみられる浅い凹みがある。加工途中の未成品か、あるいは道具として使い始めの段階である可能性があるが、双角状礫器と判断した。石材は安山岩である。



第139圖 8 T III b層出土石器1 (1/1, 1/3)



第140図 8 T III b層出土石器2 (2/3, 1/3)



第141圖 8 T III b層出土石器3 (1 / 3)

8 TIV a層出土石器・石製品（第142～144図）

1519～1534は石鏃である。1519はI b類, 1520はI c類, 1521～1531はII b類, 1532～1533はII c類である。1534は抉りの無いII類で、未成品の可能性ある。石材は1519・1521・1527・1529・1531～1534が安山岩, 1520・1522～1526・1530が黒曜石, 1528がチャートである。

1535はやや縦長の石材の端部や側面に刃部をつくり出したもので、石匙のように明確なつまみを持たない。I類の削器とみられる。石材は安山岩である。1536も同様に、縦長の剥片の一方に刃部をつくり出したI類の削器である。石材は安山岩である。

1537～1544は磨石・敲石である。1537～1541はI a類で、平面に磨痕、主に側面に打痕が残る。ただし1540は磨痕のみで打痕はみられない。1542はII a類で、球形に近い石材の両端に打痕が残る。打痕に対する側面は平滑で、磨石としても使用されたとみられる。1543は一部がやや突出する不整な円形の平面形をなし、その突出部先端に打痕が残るII c類である。全体的に表面は平滑だが、磨痕は不明である。1544はIII類である。棒状石材の端部に打痕が残る、また側面は磨滅している。石材は全て安山岩である。

1545・1546は砥石又は石皿とみられる。1545は平面がおおよそ方形を呈す板状石材の一面が磨滅により凹むII類である。側面にも一部、細い溝状の凹みがみられる。1546も同じくII類で、不定形な板状石材の複数個所に磨痕がみられる。石材はどちらも安山岩である。

1547は石の両端に打ち欠きがみられるI類の石錘である。ただし、石錘としての打ち欠きとは別に大きく抉れた部分があり、双角状礫器を転用した可能性が考えられる。石材は安山岩である。

1548は双角状礫器である。不整楕円形の扁平な石材の一端が抉れるように凹む。石材は安山岩である。

1549・1550は凹石である。1549は円礫の一面が大きく陥没するように磨滅する。1550は不定形な石材の複数個所に磨滅による円形の凹みがみられる。石材はいずれも安山岩である。

8 TIV b～VI層出土石器・石製品（第145図）

8 TIV b層出土の石器は1551～1553の3点、V層出土の石器は無く、VI層出土のものは1554の1点である。器種は1551がII c類の石鏃で、石材は安山岩である。1552・1553は磨石・敲石で、石材は安山岩である。1552はII a類で、部位により程度の差はあるが全面が磨滅し、表面が平滑である。一方で打痕はみられない。1553はII b類で、平面部分がやや磨滅し、対して側面の多くの部分に打痕が残る。1554もII b類である。両端を大きく欠損する。磨痕は不明瞭だが、側面は細かな敲打により平らになっている。

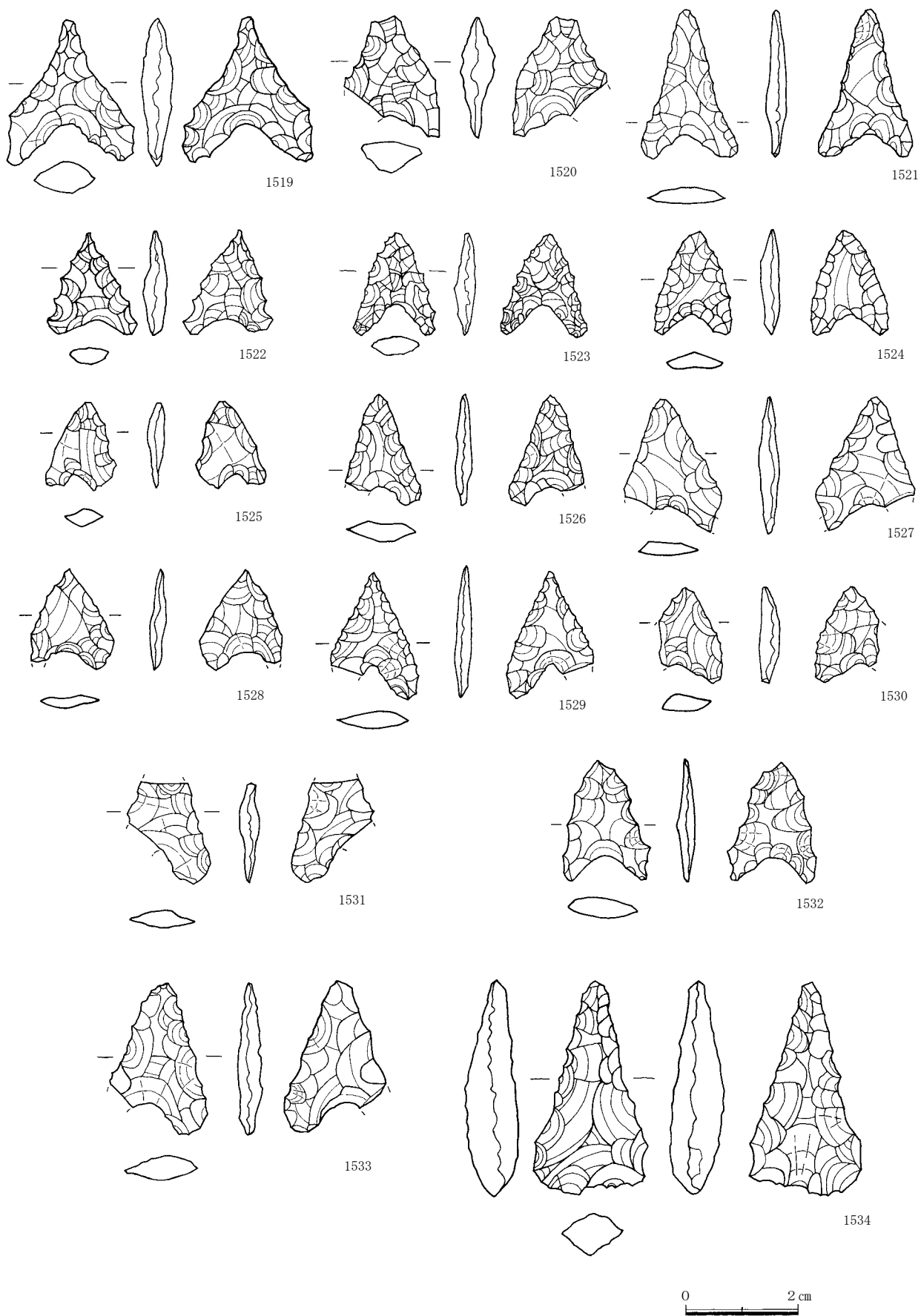
8 T遺構内出土石器（第145図）

遺構から出土した遺物として、SK02出土の1555～1558、ST01出土の1559を図示した。

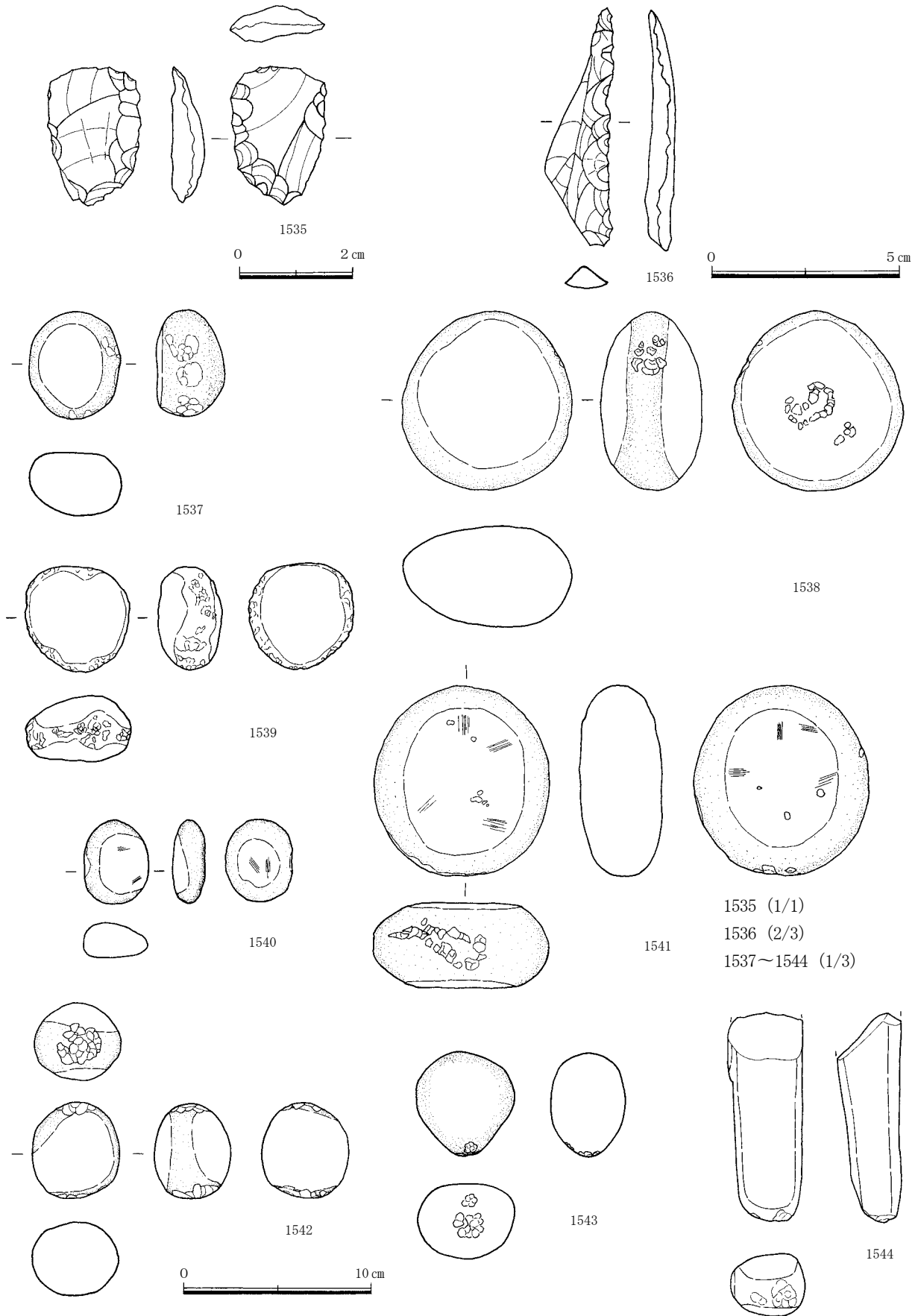
1555は大きく欠損するが、大型の石匙のつまみ部分とみられる。刃部が全く残存しないため不明瞭だが、縦長のII b類と推定される。石材は安山岩である。

1556は二等辺三角形の一部が欠損したような不定形の平面形を持ち、側面に刃部をつくり出す刃器である。一見石鏃の未成品のようでもあるが、基部の一端が欠損したものとしては、「欠損部」にもきれいに刃部がつくり出されている点が不自然であり、II類の削器と考える。石材は安山岩である。

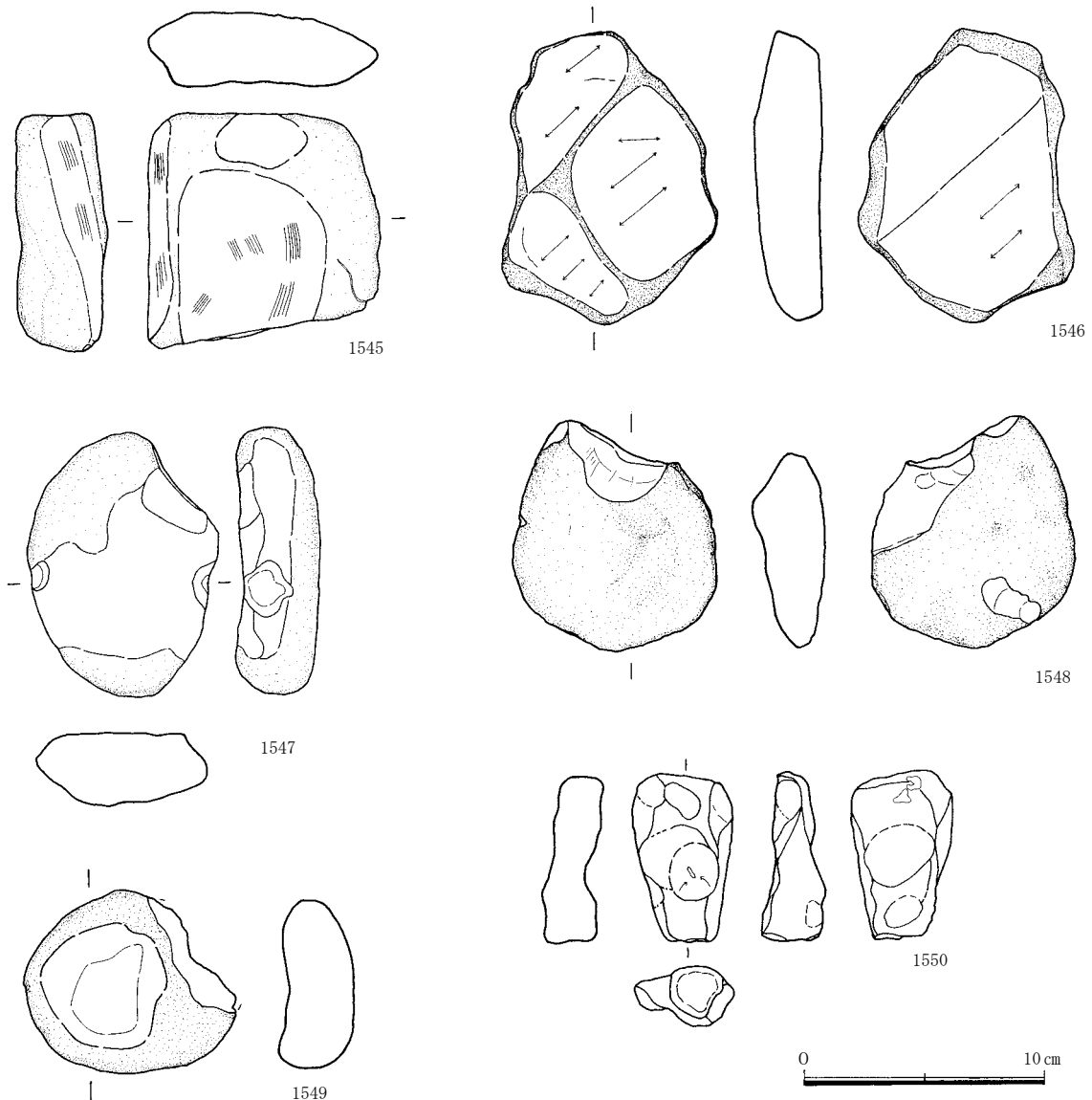
1557～1559は磨石・敲石である。1557は半分程度が欠損するが、扁平で隅丸方形の平面形をなすI c類である。平面部分が磨滅し、打痕はみられない。1558はII b類である。磨痕はみられず、両端部及び側面に多数の打痕が残る。1559はI b類である。平面部に磨り跡及び打痕が残る。石材は全て安山岩である。



第 142 圖 8 T IV a 層出土石器 1 (1 / 1)



第143図 8 T IV a層出土石器2 (1/1, 2/3, 1/3)



第144図 8TIV a層出土石器3 (1/3)

トレンチ外出土石器・石製品 (第146図)

調査中、トレンチ周辺における表採等により発見されたものの中から際立った石器・石製品を図示する。

1560～1563は石鏃である。うち1560・1561はI b類, 1562・1563はII b類である。石材は1561のみ黒曜石で、他は全て安山岩である。

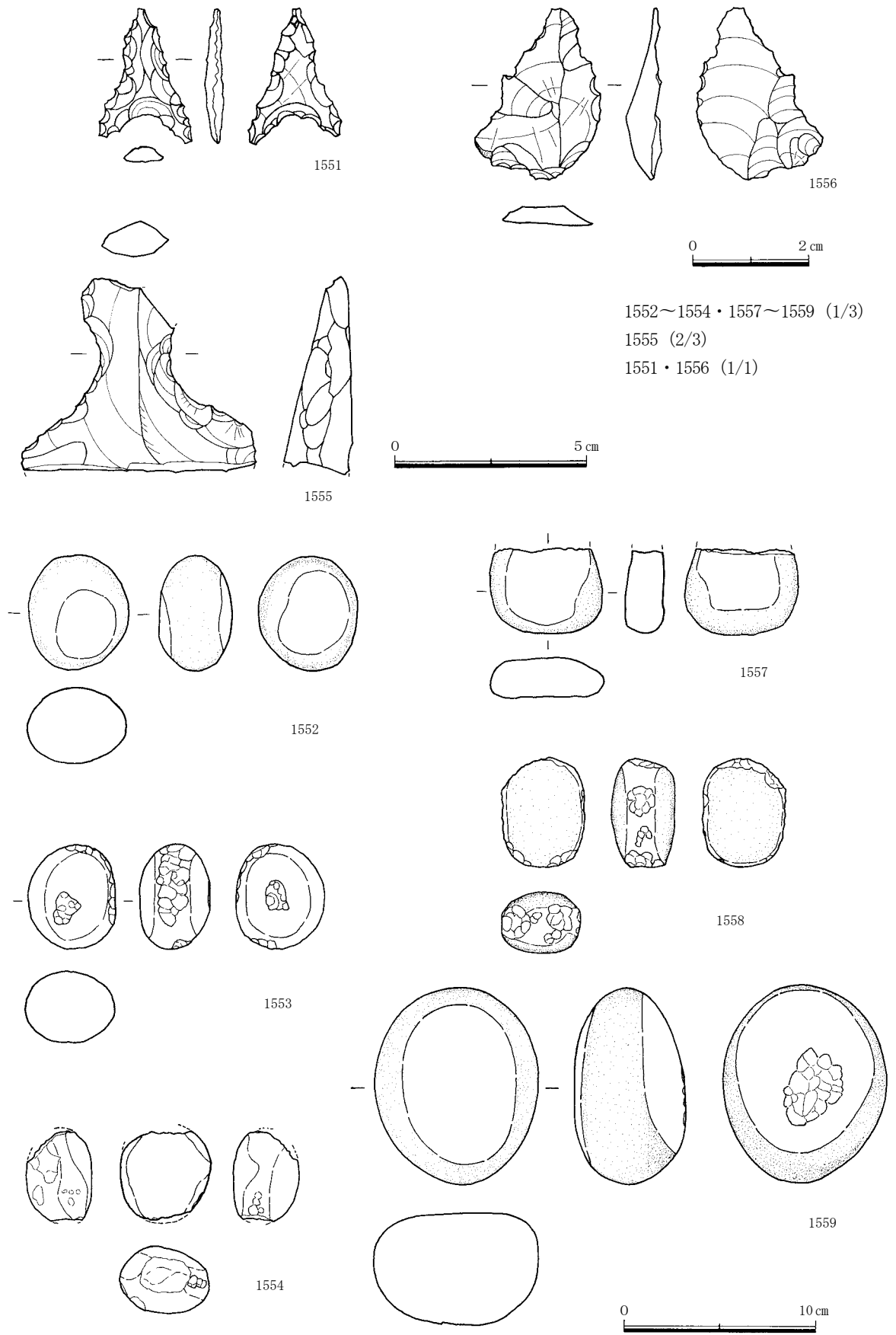
1564は磨石である。扁平・楕円形のI b類で、平面部分に磨滅がみられる。

1565は石皿である。やや厚みのある板状の安山岩の両平面部がよく磨滅して平滑になっている。磨痕の他、特に加工の痕跡はみられない。

1566は双角状礫器である。V字形の深い抉れを有し、その他にも側面全体に打痕が残る。石材は安山岩である。

(6) 骨角・貝製品

轟貝塚第12次・13次調査で出土した貝製品は1567～1573・1576の8点である。1576以外の全てが貝輪で、



第145図 8 T IV b層・VI層・遺構内出土石器 (1/1, 2/3, 1/3)

第4節 出土遺物

貝の種類は1567～1570・1573がサルボウ，1571がイタボガキ，1572がアカニシである。

サルボウ製の1567～1570・1573は全て貝の中ほどから殻頂部にかけて打ち欠いて穴としたものである。1567・1570は穴の内側を比較的きれいに調整しており，一方で1568・1569・1573は調整が粗く凹凸が残る。特に穴が不整な楕円形を呈する1573は穴の内側が未調整で，未成品の可能性がある。1567は3 T，1568～1570は4 Tの表土及び攪乱層から出土したもので，1573はトレンチ外の表採遺物である。

イタボガキ製の1571もサルボウ製のものと同様，中央を大きく打ち欠いて貝輪とする。全体的にやや磨滅しているため不明瞭だが，穴の内側まで比較的よく調整されている。5 T III a層から出土した。

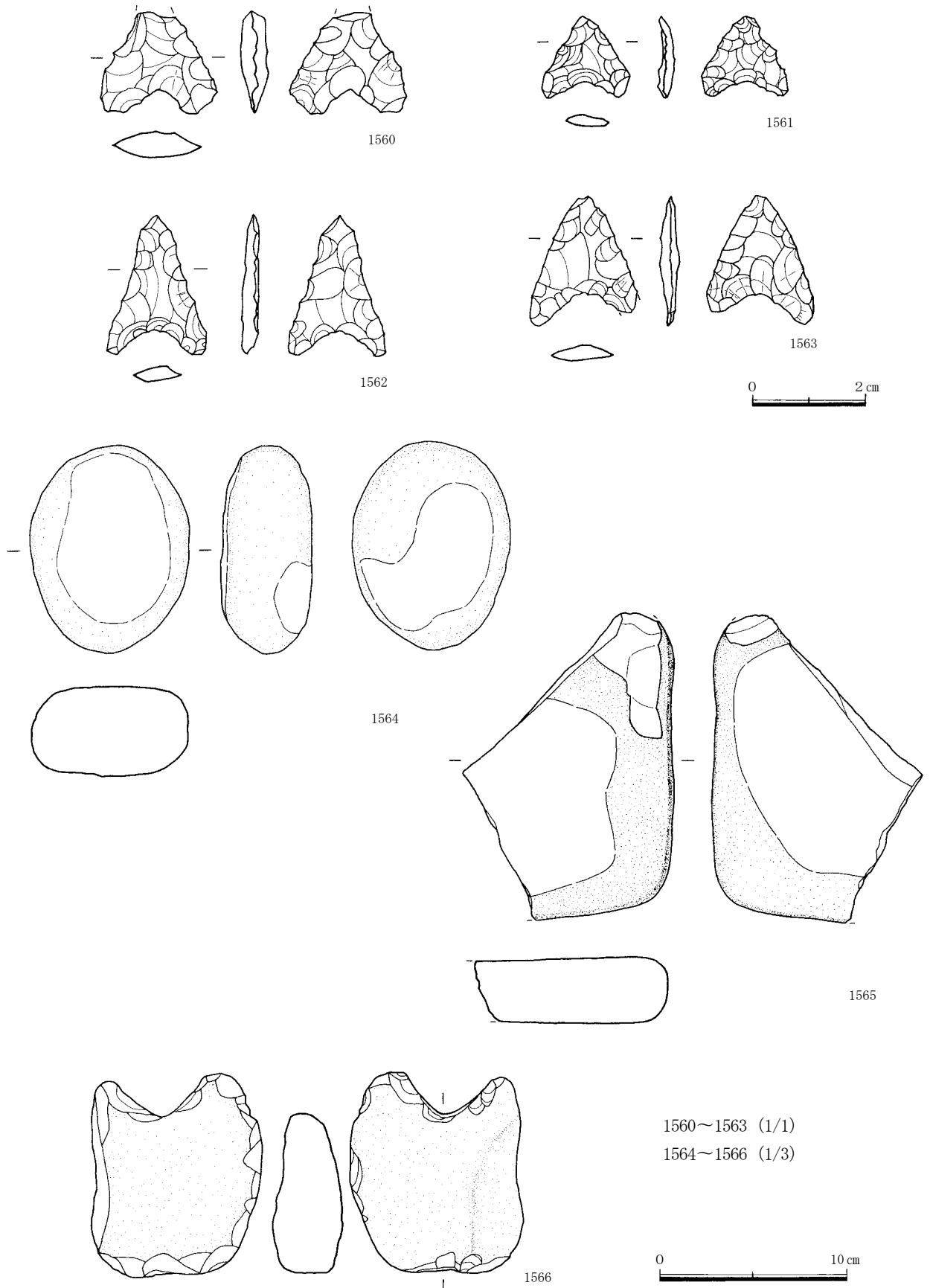
アカニシ製の1572は，今回の調査で出土した中で唯一の巻貝製貝輪である。殻口付近を縦に切って貝輪としており，上部の螺頭部をはじめ多くの部分を欠いている。切断面はやや粗い。8 T III b層から出土した。

1574・1575は骨器である。1574は骨の端部付近に穿孔がみられ，垂飾の一種とみられる。孔は表裏両面から開けられている。1575はカーブする骨片の内側が浅く抉れるように磨滅する。用途は不明である。

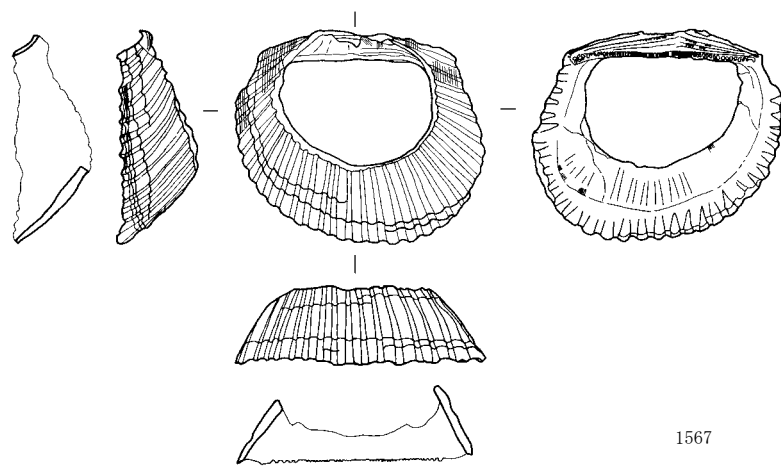
1576は4 T SK01の覆土サンプル中から発見されたもので，ヤカドツノガイの先端付近を折り取った管状の貝玉とみられる。端部は片方がほぼ直角に，反対側は斜めに折れている。小型品であるため不明瞭だが，この直角をなす端部について人為的な加工によるものである可能性がある。ただし，貝製品としてではなく，単に中身を吸い出すために先端部を折った可能性もあることを付け加えておく。

【註】

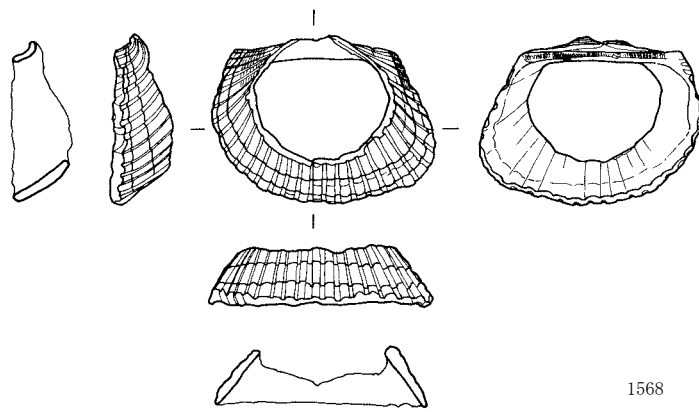
- 1) 平成28年度調査は前年度から継続するものとして4月から実施する予定だったが，同4月に発生した平成28年熊本地震の影響で調査を延期し，8月からの実施となった。
- 2) III b層は3 T・4 T・8 Tなど，6次調査の対象範囲外である台地先端付近の調査区で主に確認されたものであり，6次調査で記録されていないのは無理もない。ただし，6次調査を指揮した江坂輝彌は後に『日本考古学年報19』（1971年）の中で「マガキの多い中期の阿高式土器の時期の純貝層があり，その下の一部に轟式後半の時期のハイガイの多い薄い貝層」が認められるとして，阿高式より古い轟式期の貝層が存在することを示唆している。土層断面図等で明確に記録されていないが，この「轟式期の貝層」が12・13次調査で言うIII b層にあたる可能性は高い。



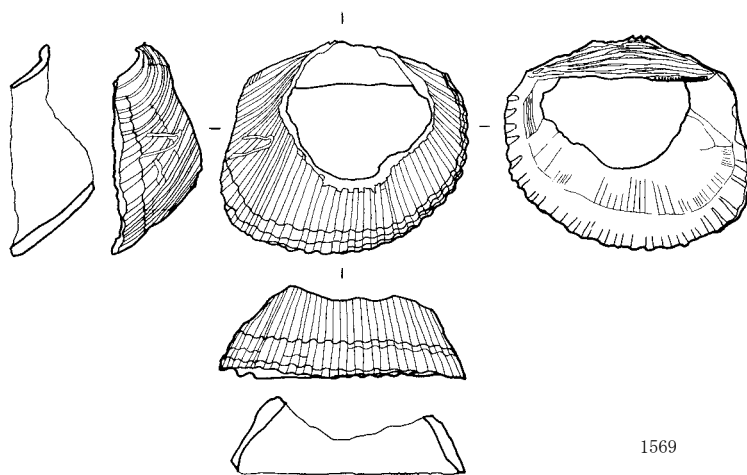
第146図 トレンチ外表採石器 (1/1, 1/3)



1567



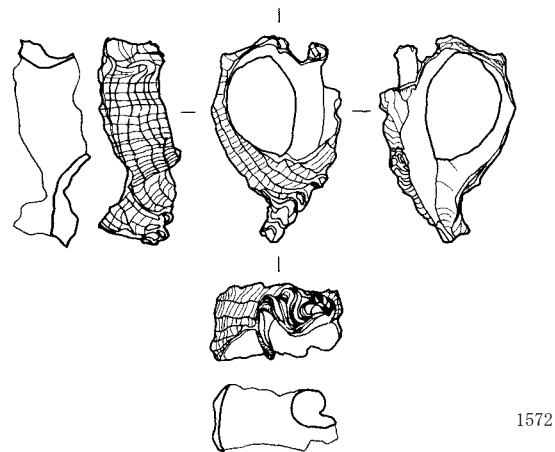
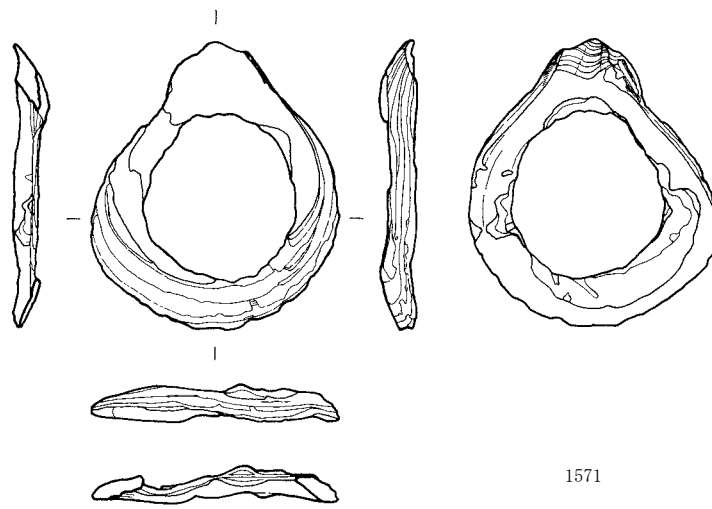
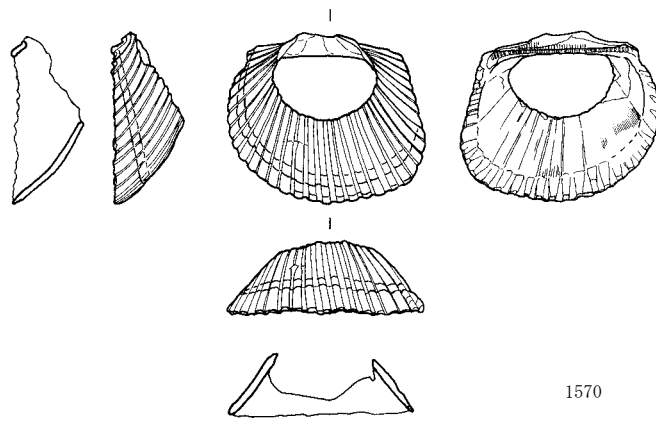
1568



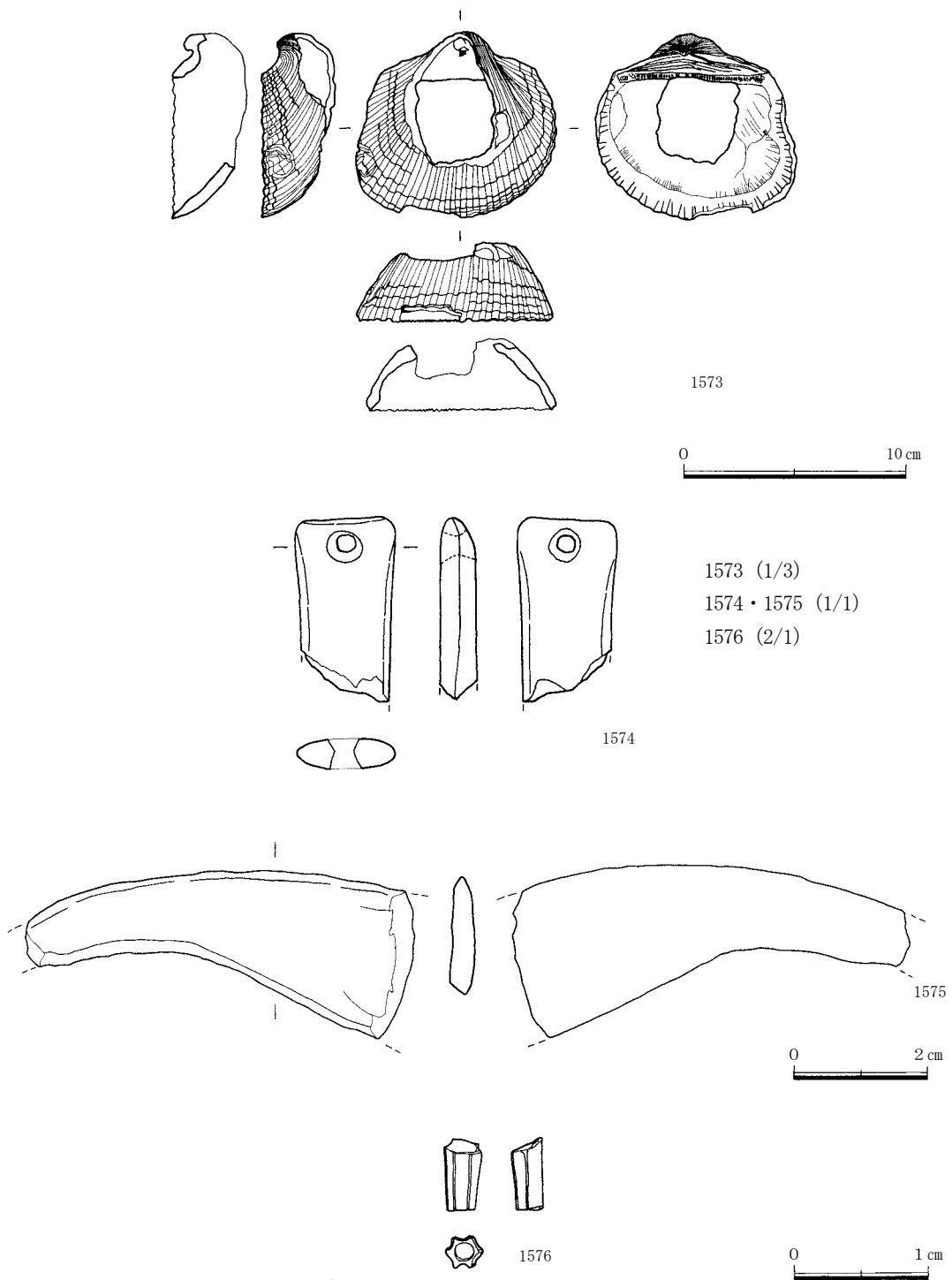
1569



第147図 骨角・貝製品1 (1/3)



第148図 骨角・貝製品2 (1/3)



第149図 骨角・貝製品3 (1/3, 1/1, 2/1)

第8表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表1

押図 番号	実測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
199	71	1 T	II層	II層	深鉢	ナデ	ナデ, 押引文	角閃石・石英やや多く含む	良	にぶい褐/暗褐	—	3.8	IIa	
200	75	1 T	II層	II層	深鉢	ナデ	ナデ, 沈線	雲母・角閃石少量含む	良	褐/褐	—	3.4	IIa	
201	70	1 T	II層	II層	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	角閃石多量, 石英少量, 径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	4.5	IIb	
202	111	1 T	II~IIIa層	II層	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	径1mm程度の白色砂粒多量含む	良	灰黄褐/褐灰	不明	5.5	IIIa 2	
203	67	1 T	II層	II層	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 粘土紐貼付	石英・雲母・角閃石・径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	4.7	IIIb 1	
204	106	1 T	カクラン	I層	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 粘土紐貼付 口唇部刻目	石英・雲母・角閃石少量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	6.5	IIIb 2	
205	57	1 T	II層	II層	鉢	貝殻条痕	隆帯貼付, 刻目	角閃石・石英・径1~3mmの小礫少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.1	IIIb 2	
206	84	1 T	II層	II層	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 粘土紐貼付 刻目	雲母・石英少量含む	良	赤褐/にぶい赤褐	不明	3.6	IIIb 2	
207	7	1 T	表土	I層	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・雲母・1~2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい橙/黒褐	20	3.8	IIIb 3	
208	109	1 T	II~IIIa層	II層	深鉢	ナデ	押引文	雲母・角閃石・径1~3mm程度の小礫多量含む	良	灰黄褐/にぶい褐	—	5.8	IIIb 5	
209	79	1 T	II層	II層	深鉢	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刺突	石英・雲母やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	3.2	IIIb 5	
210	36	1 T	表土	I層	深鉢?	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刺突	角閃石・石英やや多く含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	2.1	IIIb 5	
211	24	1 T	表土	I層	深鉢?	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刺突	角閃石微量, 白色・橙色の小礫 (~1mm) 少量含む	良	灰褐/にぶい褐	—	2.5	IIIb 5	
212	22	1 T	表土	I層	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕 (曲線文含)	角閃石・石英・直径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	6.2	IIIc 1	
213	13	1 T	表土	I層	深鉢	ナデ	ナデ, 沈線, 波状文	白色・褐色砂粒 (~1mm) 少量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	4.3	IIIc 2	
214	19	1 T	I~II層	I・II層	深鉢	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英やや多く, 小礫 (2~4mm) 多く含む	良	明赤褐/明赤褐	—	4.4	IIIc	
215	8	1 T	表土	I層	深鉢	口縁部	ナデ, 貝殻条痕	角閃石・雲母やや多く含む	良	にぶい褐/にぶい黄褐	不明	3.4	III d 1	
216	17	1 T	表土	I層	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	不明	4.2	III d 1	
217	43	1 T	表土	I層	深鉢	胴部	貝殻条痕, 波状沈線	角閃石多量含む	良	灰褐/にぶい橙	—	2.3	III d 1	
218	9	1 T	表土	I層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい褐	不明	4.6	III d 1	
219	3	1 T	表土	I層	深鉢	胴部 (上半か)	ナデ, 条痕, 沈線	角閃石・長石多量含む	良	褐灰/灰褐	—	5.9	III d 1	
220	110	1 T	II~IIIa層	II層	深鉢	口縁部	ナデ, 押引文	金雲母・石英・径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	7.4	III d 2	
221	94	1 T	II層	II層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	灰黄褐/黒褐	—	3.6	III d 3	
222	29	1 T	表土	I層	鉢	口縁部	ナデ, 刺突文	角閃石・石英・砂粒 (~1mm)・小礫 (~3mm) 少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	2.3	III d 3	
223	69	1 T	II層	II層	深鉢	胴部	貝殻条痕, 刺突, 沈線	雲母・石英微量, 径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	灰褐/褐灰	—	3.5	III d	
224	30	1 T	表土	I層	鉢	胴部	ナデ, 沈線, 刺突	角閃石・雲母・石英多量含む	良	にぶい黄褐/にぶい橙	—	2.5	III d	
225	31	1 T	表土	I層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	3.8	III d	
226	14	1 T	表土	I層	深鉢	口縁部	ナデ, 貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	灰黄褐/黒褐	(16.5)	5.3	III d 3	
227	86	1 T	II層	II層	深鉢	胴部	ナデ, 波状文, 押引文	雲母・角閃石やや多く含む	良	灰褐/灰褐	—	7.3	III e	
228	80	1 T	II層	II層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英微量含む	良	にぶい黄褐/黒	—	3.0	III e	
229	97	1 T	II層	II層	深鉢	胴部	ナデ, 貝殻条痕	雲母・角閃石微量含む	良	たぶん黄橙/灰黄褐	—	3.6	III f	
230	60	1 T	II層	II層	鉢	口縁部	貝殻条痕, 刺突文	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	1.6	III f	
231	61	1 T	II層	II層	鉢	胴部	ナデ, 沈線, 刺突	雲母・角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/灰褐	—	2.8	III f	
232	23	1 T	表土	I層	深鉢	口縁部	刺突, 沈線	角閃石・石英少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	不明	4.1	III f	
233	90	1 T	II層	II層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石少量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	3.3	III	
234	72	1 T	II層	II層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	石英やや多量, 角閃石少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	2.1	III	
235	91	1 T	II層	II層	深鉢	口縁部	口唇部: 刻目	雲母多量含む	良	にぶい黄褐/褐灰	不明	2.4	III	
236	27	1 T	表土	I層	鉢?	胴部	貝殻条痕	角閃石・白色砂粒やや多く含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	2.3	III	
237	59	1 T	II層	II層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	雲母・角閃石・1mm未満の砂粒やや多く含む	良	灰黄褐/にぶい褐	不明	3.1	III	
238	44	1 T	表土	I層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・雲母やや多く含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	2.5	III	

第9表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表2

標圖 番号	実測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種		器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
					器種	残存部位	器面調整								
							内面	外面							
239	16	1 T	表土	I	鉢	底部	貝殻条痕		雲母や多く含む	良	黒褐色/にぶい黄褐色	—	1.7	III	
240	32	1 T	表土	I	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・雲母・石英少量, 1~3mm程度の砂粒多量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	不明	4.1	III	
241	76	1 T	II層	II	深鉢	胴部	ナデ, 貝殻条痕		石英・角閃石や多く含む	良	褐色/灰褐色	—	2.8	III	
242	28	1 T	表土	I	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英・チャート・小礫 (~3mm) 多く含む	良	褐色/灰褐色	—	4.0	III	
243	55	1 T	II層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕		雲母・石英・径2mm程度の小礫少量含む	良	褐色/明赤褐色	—	4.5	III	
244	52	1 T	II層	II	深鉢	胴部 (下部)	貝殻条痕, ナデ		雲母・角閃石・1~3mm程度の小礫やや多く含む	良	黒褐色/橙	—	6.7	III	
245	37	1 T	表土	I	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・小礫 (~3mm) 微量含む	良	褐色/にぶい黄褐色	—	5.2	III	
246	54	1 T	II層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英・角閃石・1~3mm程度の砂粒多量含む	良	黒褐色/橙	—	6.3	IIIb5	
247	58	1 T	II層	II	深鉢	胴部	ナデ, 爪形文		滑石混入	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	—	3.0	IVa	
248	1	1 T	表土	I	深鉢?	胴部	回線		黒雲母・金雲母・角閃石・砂粒少量含む	良	灰黄褐色/にぶい褐色	—	3.4	IVb1	
249	4	1 T	表土	I	深鉢	胴部 (下半)	ナデ, 回線		角閃石少量, 白色・赤褐色などの砂粒やや多く含む	良	にぶい褐色/灰褐色	—	5.9	IVb1	
250	18	1 T	表土	I・II	深鉢	胴部	ナデ, 回線		角閃石少量, 白色・黒色砂粒 (~1mm) 含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	—	5.2	IVb1	
251	108	1 T	II~IIIa層	II	鉢	口縁部	ナデ, 回線 口唇部: 凹点		角閃石・滑石片微量, 径1~2mmの砂粒ナデが多く含む	良	褐色/にぶい赤褐色	不明	5.7	IVb1	
252	41	1 T	表土	I	鉢	胴部	ナデ, 回線		石英・角閃石・雲母少量, 1~3mm程度の小礫多量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい褐色	—	2.4	IVb1	
253	25	1 T	表土	I	深鉢	胴部 口縁付近	ナデ, 回線		角閃石・白色・橙色砂粒 (1mm) 少量含む	良	にぶい褐色/橙	—	4.2	IVb1	
254	107	1 T	II~IIIa層	II	深鉢	胴部	ナデ, 回線		角閃石・滑石片少量含む	良	褐色/灰褐色~灰黄褐色	—	9.5	IVb1	
255	56	1 T	II層	II	深鉢	口縁部	ナデ, 回線 口唇部: 凹点		石英・径1mm程度の砂粒少量含む	良	褐色/にぶい明赤褐色	不明	4.1	IVb2	
256	2	1 T	表土	I	深鉢	口縁部	ナデ, 回線, 凹点		角閃石少量, 全体にきめ細かく砂粒少ない	良	にぶい褐色/にぶい褐色	(21)	4.9	IVb2	
257	42	1 T	表土	I	鉢	胴部	ナデ, 回線, 凹点		雲母・角閃石・1~2mm程度の砂粒やや多く含む	良	灰褐色/にぶい褐色	—	3.6	IVb2	
258	38	1 T	表土	I	鉢	胴部	ナデ, 沈線		角閃石・石英・1~2mm程度の砂粒多量含む	不良	褐色/橙	—	2.3	IVb2	
259	11	1 T	表土	I	鉢	頸部	ナデ, 沈線		石英少量, 黒色・白色砂粒 (~1mm) 含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	—	3.0	IVb	
260	12	1 T	表土	I	浅鉢	口縁部	ナデ, ケズリ		雲母・角閃石・1mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい褐色/灰褐色	不明	3.1	IVb	
261	47	1 T	II層	II	鉢	口縁部	ナデ, 回線		滑石多量含む	良	にぶい赤褐色/にぶい赤褐色	不明	4.1	IVb	
262	46	1 T	II層	II	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線 口唇部: 凹点		雲母・角閃石やや多く, 1~2mm程度の砂粒多量含む	良	灰褐色/灰褐色	不明	4.5	IVb	
263	68	1 T	II層	II	深鉢	胴部	ナデ, 回線		角閃石・雲母多量, 径1~2mm程度の滑石片少量含む	良	にぶい褐色/明赤褐色	—	3.8	IVb	
264	64	1 T	II層	II	深鉢	口縁部	ナデ, 凹点		角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい黄褐色/褐色	—	2.6	IVb	
265	10	1 T	表土	I	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線		石英微量, 砂粒少量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい褐色	不明	2.8	IVb	
266	63	1 T	II層	II	深鉢	口縁部	ナデ, 口唇部: 凹点		径1~2mmの砂粒多量含む	良	赤褐色/にぶい赤褐色	—	3.4	IVb	
267	48	1 T	II層	II	鉢	胴部	ナデ, 回線		雲母・1~2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	—	3.9	IVb	
268	62	1 T	II層	II	浅鉢	口縁部	ナデ, 指おさえ		角閃石・雲母・石英多量含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	—	2.7	IVb	
269	74	1 T	II層	II	深鉢	口縁部	ナデ		石英・角閃石やや多く含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	不明	3.0	IVb	
270	87	1 T	2層	II	深鉢	口縁部	ナデ, 刻目		雲母・角閃石少量含む	良	にぶい褐色/灰褐色	不明	4.1	IVb	
271	5	1 T	表土	I	深鉢	口縁部	ナデ, 刻目 口唇部: 刻目		角閃石・白色砂粒 (1mm) 少量含む	良	にぶい黄褐色/暗灰黄	不明	5.3	IVd	
272	20	1 T	I~II層	I・II	鉢	口縁部	ナデ, ケズリ		角閃石・雲母やや多く, 白色砂粒 (~2mm) 少量含む	良	にぶい黄褐色/灰褐色	不明	2.9	IV	
273	77	1 T	II層	II	鉢	胴~頸部	ミガキ, 縄文, 沈線		角閃石・石英少量含む	良	褐色/黒	—	2.6	VI	
274	35	1 T	表土	I	深鉢	底部	ナデ 底部: 鯨骨・木葉痕		角閃石・雲母微量, 2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	—	5.8		外面一部赤色顔 径13.2cm
275	50	1 T	II層	II	深鉢	底部	ナデ 底部: 鯨骨圧痕か		角閃石・石英・径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい赤褐色/にぶい赤褐色	—	2.4		底径13.0cm (復元)

第10表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表3

挿図 番号	类别 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	残存部位	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
							内面	外面							
							胎土								
276	88	1 T	2層	II	深鉢	底部	ナデ, ケズリ	ケズリ 底部; 觥骨圧痕	雲母・石英少量, 滑石片微量, 径1~2mmの小礫やや多く含む	良	明赤褐/灰褐	—	6.4	—	内面底部炭化物 付着
277	89	1 T	2層	II	深鉢	底部	ナデ	ケズリ 底部; 觥骨圧痕	角閃石多量, 石英少量, 径1~2mmの小礫多量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	3.0	—	底径13.0cm (復元)
278	15	1 T	表土	I	鉢	底部	ナデ	ナデ; 指頭圧痕 底部; 不明圧痕	雲母・角閃石・石英含む	良	にぶい橙/灰褐	—	3.8	—	底径11.8cm (復元)
279	49	1 T	II層	II	深鉢	底部	ナデ	ナデ, ケズリ	角閃石・雲母・石英・1~2mm程度の砂粒多量含む	良	にぶい黄褐/灰黄褐	—	3.8	—	
280	40	1 T	表土	I	浅鉢	底部	ナデ	ナデ, 指おさえ	角閃石・雲母少量, 1mm程度の砂粒多量含む	良	橙/にぶい褐	—	3.9	—	
281	21	1 T	I~II層	I・II	深鉢	底部	ナデ	ナデ, 指おさえ	石英・径1mm程度の砂粒多量含む	良	灰黄褐/にぶい橙	—	2.1	—	
282	65	1 T	II層	II	鉢	底部	ナデ, 刺突	不明圧痕	雲母微量, 径1~2mmの砂粒少量含む	良	にぶい褐/にぶい赤褐	—	1.4	—	底径10.2cm (復元)
283	39	1 T	表土	I	深鉢	底部	ナデ, 指おさえ	ナデ, 指おさえ	角閃石・石英・径1~3mmの小礫少量含む	良	にぶい橙/にぶい赤褐	—	3.9	—	
284	95	1 T	II層	II	深鉢	口縁部	ナデ, 指おさえ	貼付把手 ナデ, 指おさえ	1mm程度の砂粒少量含む	良	褐灰/褐灰	不明	6.2	—	
285	6	1 T	表土	I	深鉢	底部	ナデ	ナデ	角閃石・石英・白色砂粒(~1mm)多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	3.4	—	
286	73	1 T	II層	II	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 刺突, 沈線	石英少量含む	良	にぶい褐/褐	—	1.9	—	
287	78	1 T	II層	II	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, ナデ	雲母・角閃石多量含む	良	灰褐/にぶい赤褐	—	2.9	—	
288	33	1 T	表土	I	小皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	混入物少ないきめ細かい粘土	良	灰黄褐/にぶい橙	—	1.6	—	
289	34	1 T	表土	I	小皿	底部	回転ナデ	回転ナデ	混入物少ないきめ細かい粘土	良	暗黄灰/にぶい黄橙	—	1.2	—	底径4.6cm
290	85	1 T	II層	II	壺形土器	頸部	ナデ	底部: 回転糸切	角閃石・石英微量, 径1mm程度の小礫少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	4.6	—	
291	53	1 T	II層	II	円筒埴輪	タガ	刷毛目	ナデ, 突帯貼付	角閃石・石英少量, 褐色砂粒(1~2mm)やや多く含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.1	—	
292	115	1 T	IIIa層 上半部	IIIa	鉢	胴部	ミガキ	縄文, 沈線	径1mm程度の砂粒微量含む	良	褐灰/にぶい黄橙	—	2.7	—	外面に一部赤色 顔料付着
293	104	1 T	IVa層 下半部	IVa	鉢	胴部	ナデ	押型文	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	3.7	—	I a
294	102	1 T	IVa層 上半部	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 隆帯貼付	雲母・角閃石少量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	3.9	—	III b
295	100	1 T	IVa層 上半部	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石少量, 径1~2mmの小礫多量含む	良	にぶい赤褐/明赤褐	—	3.0	—	III
296	98	1 T	IVa層 上半部	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ, 沈線	貝殻条痕	角閃石・石英・径1mm程度の白色粒多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	3.6	—	III d
297	101	1 T	IVa層 下半部	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい黄褐/灰黄褐	—	2.8	—	III f
298	103	1 T	IVa層 下半部	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 貝殻条痕	雲母・角閃石少量含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	4.6	—	III f
299	99	1 T	IVa層 上半部	IVa	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕 押印文, 刻目	雲母・角閃石・径1mm程度の砂粒多量含む	良	にぶい褐/灰褐	不明	3.9	—	III d
300	152	2 T	II層	II	鉢	胴部	ナデ	押型文	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい灰黄褐/にぶい橙	—	3.3	—	I a
301	139	2 T	I~II層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	押型文, ナデ	雲母・角閃石・2mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい黄褐/橙	—	4.0	—	I a
302	138	2 T	I~II層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	ナデ, 刺突	雲母・径1~3mmの砂粒やや多く含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	3.3	—	II a
303	158	2 T	II層	II	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 爪形文, 波状文	角閃石多量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄橙	—	7.4	—	II a
304	160	2 T	II層	II	深鉢	口縁部	ナデ, 貝殻条痕	ナデ, 貝殻条痕	雲母・角閃石・径1~3mmの砂粒やや多く含む	良	にぶい黄褐/褐灰	不明	4.1	—	II a

第11表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表4

標本 番号	測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	残存部位	器面調整		胎土	焼成	色調 (内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
							内面	外面							
							胎土								
305	146	2 T	I~II層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい褐/にぶい赤褐	—	4.7	IIb		
306	143	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕 口唇部：刻目	径1~3mmの砂粒・小礫多量含む	良	黒褐/黒褐	不明	3.7	IIIa1		
307	159	2 T	II層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ 口唇部：刻目	角閃石多量, 石英少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	4.7	IIIa1		
308	130	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ 口唇部：刻目	雲母・径0.5mm程度の砂粒多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	2.7	IIIa1		
309	131	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・石灰・径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい褐/赤褐	—	4.2	IIIa1		
310	161	2 T	II層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕	長石・角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	4.2	IIIa1		
311	144	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	長石・角閃石少量含む	良	にぶい黄橙/褐灰	不明	5.3	IIIa1		
312	141	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕 口唇部：刻目	雲母少量, 径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	黒褐/黒褐	18.0 (復元)	7.3	IIIa1		
313	129	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・石英少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	3.2	IIIa2		
314	153	2 T	II層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ 口唇部：ナデ, 刻目	角閃石・雲母やや多く, 径1~3mmの小礫少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	不明	3.8	IIIa2		
315	154	2 T	II層	II	深鉢	胴下部	貝殻条痕	雲母・石英・長石・角閃石含む, 径2~3mmの小礫少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい褐	—	5.6	IIIa2		
316	135	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ	金雲母・径1mm程度の砂粒多量含む	良	にぶい褐/褐	不明	4.9	IIIb1		
317	142	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕, 押引文 口唇部：押突	雲母・長石少量含む	良	褐灰/にぶい橙	不明	3.5	IIIb2		
318	156	2 T	II層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕 隆帯貼付, 刻目 押引文	径1~3mmの小礫多量含む	良	褐灰/黒褐	—	4.5	IIIb6		
319	137	2 T	I~II層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	滑石・角閃石多量含む	良	褐灰/黒褐	—	6.3	IIId3		
320	134	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	ナデ, 押引文	雲母・角閃石少量, 径1mm程度の砂粒含む	良	にぶい褐/灰褐	不明	4.0	III d		
321	123	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	胴部	ナデ	雲母・角閃石やや多く含む	良	にぶい黄褐/褐	—	5.6	IIIe2		
322	136	2 T	I~II層	I	鉢	底部	貝殻条痕	径1~2mmの砂粒多量含む	良	オリーブ黒/暗灰黄	—	3.6	III		
323	147	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	ナデ, 貝殻条痕	角閃石・雲母・径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.6	III		
324	133	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	口縁部	ナデ, 凹線 口唇部：凹点	雲母少量, 径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	不明	5.6	IVb1		
325	121	2 TB4-dGr D4-eGr	表土	I	深鉢	口縁部	指おさえ	滑石やや多く含む	良	灰褐/褐灰	不明	6.3	IVb1		
326	118	2 TB4-dGr D4-dGr	表土 I~II層 (表土)	I	深鉢	口縁部	ナデ, 凹線	径1~2mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい橙	41.6 (復元)	6.8	IVb1		
327	124	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	口縁部	ナデ, 凹線, 凹点	滑石・金曇母少量含む	良	褐灰/褐	不明	5.2	IVb2		
328	127	2 T 南西部	I~II層	I	浅鉢	底部 ~胴下部	ナデ, 凹線	雲母・角閃石・径1~3mmの砂粒多量含む	良	灰黄褐/褐	—	4.9	IVb		
329	120	2 T東部	表土	I	浅鉢	底部 ~胴下部	ナデ, 沈線	滑石・径1mm程度の砂粒多量含む	良	褐灰/灰黄褐	—	5.3	IVb	外面に一部赤色 顔料付着	
330	126	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	口縁部	ナデ, 指おさえ	径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/黒褐	不明	3.4	IVb		
331	145	2 T	I~II層	I	深鉢	口縁部	ナデ, 凹線 口唇部：凹点	雲母・滑石少量含む	良	褐灰/灰褐	不明	4.6	IVb		
332	132	2 T 南西部	I~II層	I	深鉢	口縁部	ナデ, 凹線, 凹点	径1~2mm程度の砂粒多量含む	良	褐灰/にぶい赤褐	不明	4.6	IVb		
333	125	2 T 南西部	I~II層	I	鉢	口縁部	ケズリ, ナデ, 指おさえ	滑石微量, 径2mm程度の小礫やや多く含む	良	褐/褐	不明	6.5	IVb		

第12表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表5

器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径(cm)	残存高(cm)	分類	備考
	内面	外面							
334	深鉢	ナデ	ナデ, 凹線	ナデ, 凹線	良	不明	6.2	IVb	
335	浅鉢	ナデ	ナデ	ナデ, 貝殻条痕	良	—	7.7		
336	深鉢	貝殻条痕, ナデ	ナデ	ナデ	良	—	3.7		
337	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	底部: 縄圧痕	良	—	2.6		底径10.6cm (復元)
338	深鉢	ナデ, 沈線	ナデ, 沈線	ナデ, 沈線, 刺突	良	—	6.5	III f	
339	深鉢	ナデ	ナデ	ナデ, 刺突	良	—	8.5	II a	
340	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	押圧文	良	—	7.9	II b	
341	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	良	—	5.9	II b	
342	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	良	—	4.9	III a 2	
343	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	12.2	III b 3	343~345, 348
344	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	7.6	III b 3	同一個体?
345	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	6.9	III b 3	
346	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	隆帯貼付	良	—	3.9	III b 3	
347	深鉢	貝殻条痕, ナデ	ナデ	ナデ, 隆帯貼付	良	—	7.5	III b 3	
348	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	8.1	III b 3	343~345, 348 同一個体?
349	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	11.6	III b 3	
350	深鉢	カクラン	カクラン	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	4.4	III b 3	
351	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	5.1	III b 3	
352	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	7.1	III b 3	
353	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	6.8	III b 3	
354	深鉢	カクラン	カクラン	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	6.2	III b 4	
355	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 押引文	良	—	4.8	III b 7	
356	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 刺突	良	—	4.7	III b 7	
357	深鉢	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, ナデ	隆帯貼付	良	—	4.8	III b 7	
358	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刺突	良	—	3.4	III b 7	
359	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	ナデ, 刺突, 隆帯貼付	良	—	4.9	III b 7	
360	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	—	7.4	III b 7	
361	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	ナデ, 刺突	良	—	6.5	III b 7	
362	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 押引文	良	—	4.6	III b 7	
363	深鉢	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刻目	良	—	5.6	III b 7	
364	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	良	—	3.7	III b 7	
365	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刻目	良	—	5.1	III b 7	
366	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	ナデ, 刺突	良	—	5.7	III b 7	
367	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	ナデ, 刺突	良	—	4.9	III b 7	
368	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	縄文, 隆帯貼付	良	—	6.5	III b 7	
369	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	ナデ, 刺突	良	—	3.8	III b 7	
370	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	良	—	8.8	III b 7	
371	深鉢	ナデ, 沈線	ナデ, 沈線	貝殻条痕, 沈線	良	—	4.4	III d 1	
372	深鉢	ナデ, 沈線	ナデ, 沈線	貝殻条痕, 沈線	良	—	6.3	III d 1	
373	深鉢	ナデ, 沈線	ナデ, 沈線	貝殻条痕, 沈線	良	—	3.2	III d 1	
374	深鉢	ナデ, 沈線	ナデ, 沈線	貝殻条痕, 沈線	良	—	4.2	III d 1	
375	深鉢	SK01	SK01	貝殻条痕, 沈線	良	—	5.7	III d 1	
376	深鉢	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 沈線	良	—	9.3	III d 1	
377	深鉢	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 沈線	良	—	4.7	III d 1	

第13表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表6

器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径(cm)	残存高(cm)	分類	備考
	器面調整								
	内面	外面							
深鉢	胴部	ナデ	角閃石・長石少量含む	良	にぶい褐/灰褐	—	6.2	III d1	
深鉢	胴部	ナデ	角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	5.3	III d1	
深鉢	口縁部	ナデ・沈線	角閃石・長石少量含む	良	にぶい褐/灰褐	不明	5.8	III d1	
鉢	口縁部	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	灰黄褐/褐灰	不明	4.7	III d3	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	雲母・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	不明	7.9	III d3	
深鉢	口縁部	ナデ	角閃石やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい黒褐	不明	4.0	III d3	
深鉢	口縁部	ナデ・刺突	角閃石微量, 径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい褐/黒褐	不明	3.4	III d	
深鉢	胴部	ナデ	雲母・角閃石少量含む	良	黒褐/黒褐	—	9.9	III d1	
深鉢	胴部	ナデ	雲母・角閃石少量含む	良	にぶい橙/灰褐	—	2.8	III d1	
深鉢	口縁部	ナデ・沈線	砂粒少量含む	良	褐灰/褐灰	不明	8.0	III f	
深鉢	口縁部	ナデ	砂粒少量含む	良	明赤褐/明赤褐	不明	4.6	III f	
鉢	口縁部	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	褐灰/にぶい褐	不明	6.5	III	
鉢	口縁部	ナデ	滑石多量含む	良	橙/にぶい赤褐	不明	3.9	IV a	
深鉢	口縁部	ナデ	滑石・雲母・砂粒多量含む	良	橙/にぶい赤褐	不明	7.7	IV b2	
深鉢	口縁部	ナデ	滑石・砂粒少量含む	良	にぶい褐/灰褐	不明	6.3	IV b	
深鉢	口縁部	ナデ	角閃石微量含む	良	橙/にぶい赤褐	不明	2.9	—	
深鉢	口縁部	ナデ	角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.0	IV	弥生土器
甕	口縁部	ナデ	角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.0	VI	弥生土器
甕	口縁部	ナデ	混入物少なく緻密	良	にぶい橙/にぶい橙	8.0	1.6	—	土師器
坏	底部	ナデ	砂粒微量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.0	—	土師器
深鉢	胴部	貝殻条痕	径2~3mmの小礫やや多く含む	良	にぶい褐/にぶい赤褐	—	3.4	III b1	
深鉢	胴部	貝殻条痕	砂粒多量含む	良	明褐/灰褐	—	2.4	III b1	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	石英少量・角閃石・砂粒多量含む	良	褐/黒褐	—	2.7	III b3	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・石英多量含む	良	灰黄褐/黒褐	—	3.1	III b4	
深鉢	口縁部	ナデ	角閃石・長石含む	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	2.4	III d3	
深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母少量, 砂粒多量含む	良	にぶい褐/にぶい赤褐	—	3.2	III	
深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・石英・径2~3mmの小礫少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	2.7	III	
深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・雲母少量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	2.7	III	
深鉢	口縁部	条痕	角閃石・雲母・石英少量含む	良	褐灰/褐灰	不明	2.8	III	
深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英多量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	4.2	II b	
深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・砂粒多量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.6	III a2	
深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・径2~3mmの小礫多量含む	良	—	—	2.7	III b1	
深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英多量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	2.8	III b3	
深鉢	胴部	ナデ	角閃石・石英やや多く含む	良	にぶい赤褐/黒褐	—	3.2	III b3	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	雲母・角閃石微量含む	良	にぶい黄褐/褐灰	不明	5.5	III b7	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	不明	2.1	III b7	
鉢	口縁部	ナデ	砂粒・小礫少量含む	良	黒褐/黒褐	不明	2.4	III b7	
深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・径2mm程度の小礫少量含む	良	灰黄褐/黒褐	—	3.5	III b7	
深鉢	胴部	ナデ	角閃石・雲母少量, 砂粒多量含む	良	にぶい褐/黒褐	—	3.4	III b7	同一個体か、
深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・長石多量含む	良	にぶい橙/黒褐	—	6.5	III b7	
深鉢	口縁部	ナデ・沈線	角閃石・雲母・砂粒やや多く含む	良	にぶい褐/褐灰	不明	3.8	III d1	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石微量, 砂粒・小礫やや多く含む	良	灰黄褐/褐灰	不明	6.0	III b7	
深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母少量, 砂粒やや多く含む	良	褐灰/褐灰	—	4.4	III b7	
深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	黒褐/にぶい黄橙	—	5.0	III	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・雲母少量, 砂粒多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	4.7	III	
深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石多量含む	良	灰黄褐/褐灰	不明	3.3	III	
深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・砂粒やや多く含む	良	黒褐/褐	—	3.8	III	

第14表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表7

標頭 番号	実測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考	
					内面	外面								
					器種	残存部位								
427	878	3 T-186r.	IIIb層 下半部	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	—	—	3.0	III	褐灰/褐灰	良
428	415	3 T-136r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	押型文	—	—	2.9	Ic	灰黄褐/灰黄褐	良
429	328	3 T-76r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ, 貝殻条痕	押型文	—	—	3.9	Ic	にぶい黄橙/にぶい橙	良
430	332	3 T-186r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 刺突	角閃石多量, 雲母少量含む	—	2.9	IIa	にぶい黄橙/にぶい橙	良
431	317	3 T-156r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 刺突	角閃石・径1~2mmの砂粒少量含む	—	2.7	IIa	灰褐/褐灰	良
432	417	3 T-136r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 刺突	角閃石・径2~3mmの小礫少量含む	—	2.4	IIa	にぶい黄橙/にぶい黄褐	良
433	353	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 刺突	角閃石・雲母少量含む	—	3.0	IIa	灰黄褐/にぶい橙	良
434	385	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ, 刺突	ナデ, 貝殻条痕	角閃石・雲母やや多く含む	不明	3.1	IIa	にぶい橙/橙	良
435	481	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 押引文,	角閃石・石英・雲母少量含む	—	4.8	IIa	にぶい黄橙/にぶい黄橙	良
436	327	3 T-76r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 刺突	角閃石・石英・径1~2mmの砂粒多量含む	—	3.1	IIa	にぶい橙/橙	良
437	371	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	—	2.6	IIa	にぶい褐/黒褐	良
438	378	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	角閃石・雲母多量含む	—	2.7	IIa	灰褐/にぶい褐	良
439	367	3 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線	貝殻条痕, ナデ	角閃石・雲母多量含む	不明	4.2	IIa	褐灰/灰褐	良
440	419	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	角閃石・長石・雲母少量含む	—	3.1	IIa	にぶい黄橙/にぶい橙	良
441	365	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	ナデ, 沈線	角閃石・石英多量含む	—	4.7	IIa	黒褐/にぶい黄褐	やや不良
442	471	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, ナデ	石英・長石・角閃石やや多く含む	—	3.8	IIa	にぶい橙/橙	良
443	391	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 沈線	角閃石・径1~2mmの砂粒多量含む	—	3.3	IIa	褐/黒褐	良
444	472	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, ナデ	長石・径1mm程度の砂粒少量含む	—	3.1	IIa	にぶい橙/橙	良
445	319	3 T-156r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	雲母・角閃石少量含む	—	3.1	IIa	にぶい橙/にぶい黄橙	良
446	374	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	角閃石・雲母・石英・径2mm程度の砂粒多量含む	—	4.5	IIa	黒褐/にぶい橙	良
447	388	3 T-16r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, ナデ	雲母・角閃石微量含む	—	5.9	IIa	にぶい橙/にぶい橙	良
448	350	3 T-16r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	角閃石・雲母少量含む	—	3.2	IIa	橙/にぶい橙	良
449	345	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	ナデ, 沈線	雲母・角閃石微量, 径1mm程度の砂粒少量含む	—	2.6	IIb	灰褐/褐灰	良
450	355	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 刺突	雲母・角閃石微量, 径1mm程度の砂粒多量含む	—	4.9	IIb	にぶい褐/黒褐	良
451	358	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	雲母・長石・角閃石・径2~3mmの砂粒多量含む	—	5.1	IIb	灰褐/灰褐	良
452	397	3 T-56r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 沈線	角閃石・雲母・径1mm程度の砂粒多量含む	—	3.5	IIb	にぶい橙/灰褐	良
453	326	3 T-76r.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	長石多量, 角閃石少量含む	—	3.3	IIIa 1	灰黄褐/褐灰	良
454	361	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・雲母・径1~2mmの砂粒やや多く含む	—	5.6	IIIa 2	にぶい褐/黒褐	良
455	329	3 T-76r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・雲母・径1~2mmの砂粒少量含む	—	2.1	IIIa 2	灰黄褐/にぶい橙	良
456	366	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	ナデ	雲母少量含む	—	3.1	IIIb 1	灰黄褐/褐灰	良
457	177	3 T-146r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・長石少量含む	—	5.0	IIIb 3	にぶい褐/にぶい褐	良
458	339	3 T	1~2層 IVa層上半	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	—	7.2	IIIb 3	褐/黒褐	良
459	356	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ, 隆帯貼付	貝殻条痕, 隆帯貼付	雲母・角閃石微量, 径2mm程度の小礫少量含む	—	3.3	IIIb 3	黒褐/黒褐	良
460	309	3 T-186r.	IVa層 下半部	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	径1~2mmの砂粒少量含む	—	9.8	IIIb 3	褐/灰褐	良
461	330	3 T-186r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	雲母・長石・径2~5mmの小礫多量含む	—	4.2	IIIb 3	黒褐/褐	やや不良
462	372	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	ナデ, 隆帯貼付	雲母・角閃石・長石多量含む	—	3.2	IIIb 3	にぶい褐/にぶい褐	良
463	412	3 T-166r.	IVa層	IVa	鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	径2mm程度の小礫多量含む	—	2.2	IIIb 3	にぶい褐/灰褐	良
464	464	3 T	IVa~IVb層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・径1~2mmの砂粒少量含む	—	2.9	IIIb 3	灰黄褐/灰褐	良
465	359	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付	雲母・石英・角閃石・径1~2mmの砂粒多量含む	—	3.5	IIIb 4	灰黄褐/灰黄褐	良
466	360	3 T-176r.	IVa層	IVa	鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石微量, 径1mm程度の砂粒少量含む	—	3.7	IIIb 4	黒褐/にぶい黄褐	良
467	320	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・角閃石少量含む	—	4.7	IIIb 4	にぶい黄橙/黒褐	良
468	324	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ, 刺突	角閃石・雲母・径1~5mmの小礫少量含む	—	2.1	IIIb 5	にぶい赤褐/にぶい褐	良
469	465	3 T	IVa~IVb層	IVa	鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, ナデ	角閃石・長石少量含む	—	3.2	IIIb 5	にぶい黄橙/にぶい黄橙	やや不良

第15表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表8

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考	
						内面									外面
						残存部位	内面								外面
470	363	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕 隆帯貼付, 刻目	胎土	良	—	3.7	IIIb5		
471	461	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・角閃石・径1~3mmの砂粒多量含む	やや 不良	—	8.2	IIIb5		
472	307	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 刻目	角閃石・石英・径2mm程度の小礫多量含む	良	—	7.6	IIIb7		
473	178	3 T-13Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕 隆帯貼付, 刺突	雲母・角閃石少量, 径1mm程度の小礫多量含む	良	—	4.2	IIIb7		
474	322	3 T-16Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	石英・角閃石少量含む	良	—	2.3	IIIb7		
475	379	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	雲母多量, 角閃石・径2mm程度の小礫少量含む	良	—	2.4	IIIb7		
476	477	3 T-1Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	不明	2.5	IIIb7		
477	357	3 T-17Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	長石・角閃石・径1~2mmの砂粒含む	良	不明	2.6	IIIb7		
478	377	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・雲母多量含む	良	不明	3.2	IIIb7		
479	382	3 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	雲母・長石・径1~2mmの砂粒少量含む	良	不明	2.9	IIIb7		
480	411	3 T-16Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付	径1~2mmの小礫少量含む	良	不明	2.5	IIIb7		
481	405	3 T-14Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 隆帯, 刻目	角閃石・長石少量含む	良	不明	2.6	IIIb7		
482	390	3 T-1Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・長石少量含む	良	不明	2.0	IIIb7		
483	325	3 T-18Gr.	IVa層 上半部	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕 隆帯貼付, 刻目	雲母・角閃石少量含む	良	不明	4.4	IIIb7		
484	331	3 T-16Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・径1~3mmの小礫やや多く含む	良	不明	6.2	IIIb7		
485	341	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石多量含む	良	不明	5.5	IIIc1		
486	176	3 T-5Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕 (直線文)	角閃石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	不明	3.5	IIIc1		
487	399	3 T-8Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・石英少量含む	良	不明	2.9	IIIc1		
488	386	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	雲母・角閃石多量含む	良	不明	2.8	IIIc1		
489	383	3 T-1Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英少量含む	良	不明	3.1	IIIc1		
490	349	3 T-1Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石微量, 径1mm程度の砂粒少量含む	良	不明	2.3	IIIc1		
491	171	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕 (直線文・波状文)	雲母微量, 径1mm程度の砂粒少量含む	良	不明	4.9	IIIc1		
492	394	3 T-1Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英多量含む	良	不明	3.2	IIIc1		
493	468	3 T-6Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	不明	2.9	IIIc1		
494	395	3 T-1Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	不明	3.0	IIIc1		
495	392	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石・径2~3mmの小礫少量含む	良	不明	3.4	IIIc1		
496	343	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石少量含む	良	不明	4.2	IIIc1		
497	344	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石少量含む	良	不明	3.0	IIIc1		
498	384	3 T-3Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石少量含む	良	不明	3.1	IIIc1		
499	369	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	不明	2.8	IIIc1		
500	318	3 T-15Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	雲母少量含む	良	不明	2.3	IIIc1		
501	466	3 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	ナデ	刺突	角閃石・雲母・径2mm程度の砂粒少量含む	良	不明	1.2	IIIc1		
502	323	3 T-16Gr.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ	角閃石・径1~2mmの砂粒やや多く含む	良	不明	2.6	IIIc1		
503	463	3 T	IVa~IVb層	IVa	鉢	胴部	沈線	沈線	雲母少量含む	良	不明	2.7	IIIc1		
504	351	3 T-1Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	雲母多量含む	良	不明	3.5	III		
505	381	3 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	雲母・角閃石多量含む	良	不明	2.3	III		
506	398	3 T-5Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕 口唇部: 刻目	角閃石・長石少量含む	良	不明	2.6	III		
507	310	3 T-15Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	雲母微量, 径1~2mmの砂粒少量含む	良	19.0 (復元)	5.0	III		
508	362	3 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	19.0 (復元)	6.9	III		
509	413	3 T-16Gr.	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	長石少量含む	良	不明	2.2	III		
510	316	3 T-15Gr.	IVa層	IVa	鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	角閃石微量含む	良	不明	2.9	III		
511	462	3 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕 口唇部: 刻目	角閃石・石英・長石多量含む	良	不明	4.3	III		

第16表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表9

標圖 番号	実測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	残存部位		器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面	内面	外面							
512	383	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	内面	外面	角閃石・長石少量含む	良	橙/明赤褐	—	3.0	III	
513	407	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・径1~2mmの砂粒少量含む	良	灰黄褐/にぶい橙	—	4.3	III	
514	476	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			石英・角閃石・径1~2mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	4.1	III	
515	404	3 T-146r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ			角閃石・長石少量含む	良	にぶい黄褐/明赤褐	—	2.7	III	
516	414	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・径1~2mmの砂粒やや多く含む	良	黒褐/黒褐	—	3.0	III	
517	387	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・長石少量含む	良	にぶい橙/にぶい黄褐	—	2.4	III	
518	406	3 T-146r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	灰褐/灰褐	—	2.2	III	
519	410	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			長石やや多く含む	良	にぶい黄褐/灰黄褐	—	3.3	III	
520	321	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・径1~2mmの砂粒少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	3.1	III	
521	312	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石やや多く含む	良	褐灰/褐灰	—	4.2	III	
522	418	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ			角閃石少量, 径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	4.5	III	
523	400	3 T-86r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・長石・白色粘土粒多量含む	良	橙/褐	—	3.2	III	
524	474	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			長石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	5.4	III	
525	313	3 T-156r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石少量, 径1mm程度の砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	5.6	III	
526	352	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石少量, 径1~3mm程度の小礫多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	5.0	III	
527	373	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・雲母少量含む	良	褐/にぶい褐	—	3.5	III	
528	380	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・雲母少量含む	良	灰褐/褐灰	—	3.2	III	
529	354	3 T-176r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・石英・径1~3mmの砂粒やや多く含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	3.1	III	
530	408	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石微量含む	良	灰黄褐/にぶい赤褐	—	4.1	III	
531	315	3 T-156r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			長石多量含む	良	褐灰/灰黄褐	—	4.1	III	
532	473	3 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	貝殻条痕			長石・径1~2mmの小礫少量含む	良	黒褐/褐灰	—	3.3	III	
533	403	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ			長石少量含む	不良	にぶい橙/褐灰	—	3.0	III	
534	396	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			雲母少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	2.0	III	
535	416	3 T-136r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・長石少量, 径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい橙/灰黄褐	—	2.9	III	
536	370	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			長石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい橙/褐	—	2.1	III	
537	467	3 T-66r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・径1~3mmの砂粒多量含む	良	赤褐/にぶい褐	—	4.8	III	
538	409	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・雲母多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	4.6	III	
539	402	3 T-36r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・長石微量含む	良	黒褐/明赤褐	—	3.8	III	
540	347	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・雲母少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	4.0	III	
541	314	3 T-156r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ			角閃石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	褐灰/灰褐	—	5.0	III	
542	478	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			径1mm程度の砂粒多量含む	良	灰褐/灰褐	—	2.8	III	
543	179	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕			角閃石・雲母・径1~2mmの砂粒やや多く含む	良	にぶい黄褐/褐灰	—	3.6	III	径約5mm 穿孔あり
544	346	3 T-186r.	IVa層上半	IVa	鉢	底部	ナデ			角閃石・径2~4mmの白色粘土粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.9	III	
545	308	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴下部 ~底部	貝殻条痕			角閃石・雲母・径1~3mmの砂粒やや多く含む	良	にぶい黄褐/褐灰	—	3.2	III	
546	375	3 T	IVa層	IVa	鉢	底部	貝殻条痕			角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	褐/にぶい黄褐	—	4.5	III	
547	364	3 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	ナデ			角閃石・径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	1.9	III	
548	389	3 T-166r.	IVa層	IVa	鉢	口縁部	ナデ			滑石多量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	—	3.2	IVa	
549	348	3 T-166r.	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ			長石・径2mm程度の小礫やや多く含む	良	にぶい橙/灰褐	—	2.7	III	
550	368	3 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ			角閃石やや多く含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	3.5	III	
551	376	3 T	IVa層	IVa	深鉢	底部	貝殻条痕			長石・角閃石・径2~4mmの小礫多量含む	良	灰褐/灰褐	—	3.2	III	底径6.4cm (復元)
552	311	3 T-156r.	IVa層	IVa	深鉢	底部	貝殻条痕			雲母・角閃石・径1mmの砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	2.5	III	底径7.0cm
553	201	3 T-56r.	IVb層	IVb	深鉢	口縁部	ナデ			径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.7	IIa	
554	211	3 T-1・36r.	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕			雲母・角閃石・径1mm程度の砂粒含む	良	褐/黒褐	不明	3.1	IIIa.1	
555	197	3 T	IVb層	IVb	深鉢	口縁部	貝殻条痕			角閃石・雲母やや多く含む	良	黒褐/にぶい褐	不明	5.2	IIIa.1	
556	200	3 T-56r.	IVb層	IVb	深鉢	口縁部	貝殻条痕			雲母・角閃石・径1~3mmの小礫多量含む	良	灰黄褐/黒褐	不明	4.0	IIIa.1	
557	204	3 T-56r.	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕			雲母・径1~2mmの砂粒少量含む	良	にぶい橙/褐灰	不明	2.4	IIIb.1	
558	198	3 T-56r.	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕			雲母・角閃石・径1mm程度の砂粒微量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	4.8	IIIb.3	

第17表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表10

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	残存部位	器面調整		胎土	焼成	色調 (内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
							内面	外面							
559	205	3 T-5Gr.	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刻目	石英少量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	3.2	IIIb5	
560	210	3 T-1・3Gr.	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ, 刺突	雲母・角閃石含む	良	にぶい黄橙/褐灰	不明	3.0	IIIb7	
561	301	3 T	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕; 刺突	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい褐/黒褐	不明	3.4	IIIc1	
562	212	3 T-5Gr.	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線 口唇部: 刻目	貝殻条痕, 押引文 口唇部: 刻目	石英微量, 径1mm程度の砂粒少量含む	良	褐灰/灰褐	不明	2.8	IIIc1	
563	199	3 T-5Gr.	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	沈線 (短直線文)	貝殻条痕, ナデ, 沈線	雲母・角閃石・径1~2mmの小礫微量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	4.6	III f	
564	202	3 T-5Gr.	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付, 刻目	角閃石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄	—	6.4	III f	
565	203	3 T-5Gr.	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・長石・角閃石少量含む	良	灰黄褐/にぶい黄褐	不明	2.9	III	
566	302	3 T	IVb層	IVb層	鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・径1mm程度の砂粒微量含む	良	明褐/褐	—	2.5	III	
567	1335	4 T西部	1~2層	I	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付	石英・砂粒少量含む	良	にぶい褐/にぶい橙	—	4.8	IIa	
568	1336	4 T西部	1~2層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・砂粒少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	5.5	IIIa2	
569	1357	4 T	IIb~IVa層	IIb	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	砂粒少量含む	良	にぶい橙/灰褐	不明	9.6	IIIb1	
570	502	4 T	西部1~2層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・雲母・径1~3mmの砂粒多量含む	良	黒褐/にぶい黄橙	—	4.1	IIIb3	
571	539	4 T西部	1~2層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	砂粒多量含む	良	褐灰/黒褐	—	3.7	IIIb3	
572	1332	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	ナデ	隆帯貼付	角閃石少量含む	良	にぶい橙/褐灰	不明	8.2	IIIb3	
573	1331	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	長石少量, 砂粒多量含む	良	にぶい橙/褐灰	不明	6.6	IIIb3	
574	1334	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ	ナデ, 隆帯貼付	石英・砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい黄橙	不明	8.2	IIIb3	
575	1333	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・石英少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい橙	不明	7.9	IIIb3	
576	1337	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石少量含む	良	にぶい橙/褐灰	不明	12.3	IIIb3	
577	1351	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部 ~胴部	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石少量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	36.0 (復元)	17.9	IIIb3	
578	1344	4 T	2層	II	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, ナデ, 隆帯貼付	角閃石・長石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	8.2	IIIb4	
579	1329	4 T西部	1~2層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 押引文	石英・砂粒多量含む	良	にぶい橙/灰褐	—	12.7	IIIb7	胴部最大径49, 5cm (復元)
580	1341	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, ナデ 押引文	雲母・砂粒少量含む	良	灰褐/灰褐	不明	5.4	IIIb7	
581	1339	4 T	1~2層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕 隆帯貼付, 刻目	石英・雲母少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	8.4	IIIb7	
582	1342	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕 ナデ, 刺突	角閃石・砂粒やや多く含む	良	褐灰/黒褐	不明	6.1	IIIb7	
583	1356	4 T	II層	II	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	押引文 隆帯貼付, 刻目	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい橙/にぶい赤褐	—	7.0	IIIb7	
584	1340	4 T	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	雲母・砂粒少量含む	良	にぶい橙/黒褐	不明	8.1	IIIb7	
585	508	4 T	IIb~IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・径1~3mmの砂粒少量含む	良	黒褐/灰褐	—	5.3	III	
586	538	4 T西部	1~2層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母少量, 砂粒多量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	3.2	III	
587	543	4 T西部	1~2層	I	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母微量, 径2mm程度の小礫少量含む	良	暗灰黄/黒褐	—	4.5	III	
588	1355	4 T	II~IVa層	II	深鉢	底部	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・小礫多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	6.1	III	底径10.1cm
589	1338	4 T西部	1~2層	I	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕 口唇部: 刻目	滑石多量含む	良	にぶい橙/にぶい赤褐	不明	4.3	IVa	
590	915	4 T	IIIa層下半	IIIa	深鉢	胴部	ナデ	ナデ, 刺突	砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	2.1	IIIc3	
591	914	4 T	IIIa層上半	IIIa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・長石少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい褐	—	3.9	III	
592	920	4 T	IIIa層上半	IIIa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石微量含む	良	にぶい黄橙/褐灰	—	3.1	III	
593	921	4 T	IIIa層上半	IIIa	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	ナデ	滑石やや多く含む	良	灰褐/灰褐	—	2.0	IVa	
594	919	4 T	IIIa層上半	IIIa	深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	褐灰/黒褐	—	6.4	III	
595	916	4 T	IIIb層上半	IIIa	深鉢	口縁部	貝殻条痕	突帯, 刻目	滑石多量含む	良	灰褐/褐灰	不明	3.5	IVa	
596	922	4 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	ナデ	細文	角閃石微量, 石英・砂粒多量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	2.8	IVa	船元式系?
597	918	4 T	IIIb層上半	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/灰褐	—	2.7	IIIa2	

第18表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表11

測号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径(cm)	残存高(cm)	分類	備考
					内面	外面							
588	4 T	IIIb層下半	IIIb	深鉢	口縁部	胎土	胎土	良	にぶい黄褐/灰黄褐	不明	2.6	IIIb-3	
589	4 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰黄褐/灰黄褐	—	3.6	IIIb-4	
600	4 T	IIIb層下半	IIIb	深鉢	口縁部	胎土	胎土	良	橙/灰褐	不明	2.4	IIId-1	
601	4 T	IIIb層下半	IIIb	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	褐灰/褐灰	—	3.5	III	
602	4 T	IIIb層下半	IIIb	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	褐灰/灰褐	—	3.6	III	
603	4 T	IIIb層上半	IIIb	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	褐灰/灰褐	—	4.6	IVa	
604	4 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	2.4	Ia	
605	4 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	胎土	胎土	やや不良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	3.1	Ia	
606	547	4 T	IVa層	鉢	口縁部	胎土	胎土	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	4.3	IIa	
607	550	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰褐/灰褐	—	4.2	IIa	
608	519	4 T	IVa層	深鉢	口縁部	胎土	胎土	良	にぶい褐/にぶい褐	不明	3.9	IIa	
609	492	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	明赤褐/灰褐	—	3.1	IIb	
610	494	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい褐/褐灰	—	2.3	IIb	
611	566	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	黒褐/黒褐	—	3.0	IIb	
612	548	4 T	IIb~IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい黄褐/明赤褐	—	3.5	IIb	
613	558	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰褐/灰褐	—	4.0	IIb	
614	482	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	赤褐/にぶい黄褐	—	11.9	IIIa-1	
615	488	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰褐/褐灰	—	2.8	IIIa-1	
616	489	4 T	IVa層	深鉢	口縁部	胎土	胎土	良	褐灰/褐灰	不明	3.5	IIIa-1	
617	490	4 T	IVa層	深鉢	口縁部	胎土	胎土	良	黒褐/にぶい赤褐	不明	2.1	IIIa-1	
618	504	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰黄褐/にぶい褐	—	5.8	IIIa-1	
619	513	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰黄褐/にぶい橙	—	4.8	IIIa-1	
620	493	4 T	IVa層	深鉢	底部	胎土	胎土	良	明赤褐/赤褐	—	2.4	IIIa-1	
621	511	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	5.7	IIIa-1	
622	520	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	4.3	IIIa-1	
623	521	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.0	IIIa-1	
624	522	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	褐灰/褐灰	—	3.2	IVa?	
625	527	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	黒褐/灰褐	—	3.7	IIIa-1	
626	541	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	黒褐/灰黄褐	—	4.5	IIIa-1	
627	542	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	黄灰/暗灰黄	—	5.6	IIIa-1	
628	530	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰黄褐/灰黄褐	—	2.6	IIIa-1	
629	546	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	4.0	IIIa-1	
630	553	4 T	IVa層	深鉢	口縁部	胎土	胎土	良	黒褐/黒褐	不明	3.6	IIIa-1	
631	549	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	褐灰/灰黄褐	—	5.0	IIIa-1	
632	552	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	黒褐/灰褐	—	5.0	IIIa-1	
633	556	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい橙/褐灰	—	4.7	IIIa-1	
634	557	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい黄橙/にぶい褐	—	3.1	IIIa-1	底径6.1cm(復元)
635	533	4 T	IVa層	深鉢	底部	胎土	胎土	良	にぶい橙/にぶい褐	—	2.0	IIIa-1	底径10cm(復元)
636	562	4 T	IVa層	深鉢	底部	胎土	胎土	良	にぶい橙/明褐灰	—	4.2	IIIa-1	
637	503	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	灰黄褐/にぶい橙	—	6.0	IIIa-2	
638	505	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい褐/灰褐	—	3.9	IIIa-2	
639	516	4 T	IVa層	深鉢	口縁部	胎土	胎土	良	灰褐/灰褐	不明	3.4	IIIa-2	
640	515	4 T	IVa層	深鉢	胴部	胎土	胎土	良	にぶい橙/褐灰	—	4.3	IIIa-2	

第19表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表12

標圖 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	残存部位	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残高 (cm)	分類	備考
							内面	外面							
641	506	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	5.0	IIIc 2	
642	518	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	5.3	IIIa 2	
643	524	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.9	IIIa 2	
644	526	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ケズリ		胎土	良	色調(内面/外面)	—	2.2	IIIa 2	
645	531	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.2	IIIa 2	
646	563	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	4.0	IIIa 2	
647	528	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	やや 不良	色調(内面/外面)	—	5.8	IIIa 2	
648	536	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	不良	色調(内面/外面)	—	3.9	IIIa 2	
649	529	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	4.9	IIIa 2	
650	545	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	7.5	IIIa 2	
651	551	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	—	6.9	IIIa 2	
652	484	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.9	IIIb 1	
653	487	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.3	IIIb 1	
654	535	4 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	2.5	IIIb 7	
655	532	4 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	不明	3.4	IIIb 3	
656	523	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.7	IIIb 3	
657	501	4 T	西部1~2 IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	14.3	IIIb 3	
658	537	3 T 4 T	IVa層 1~2層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	16.1	IIIb 3	
659	491	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.1	IIIb 3	
660	525	4 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	2.5	IIIb 5	
661	534	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.0	IIIb 5	
662	514	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.2	IIIb 5	
663	509	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	4.5	IIIb 6	
664	510	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	2.9	IIIb 6	
665	559	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	4.1	IIIb 6	
666	485	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	5.8	IIIc 1	
667	483	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	5.0	IIIc	
668	486	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	4.4	IIIc	
669	560	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.1	IIIb 7	
670	512	4 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.4	IIIc 1	
671	507	4 T	IVa層	IVa	深鉢	底部	貝殻条痕	隆帯貼付	胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.2	III	底径6.2cm
672	216	4 T	IVb層 上半部	IVb	深鉢	胴部	押型文		胎土	良	色調(内面/外面)	—	3.2	I a	同一個体か
673	215	4 T	IVb層 上半部	IVb	深鉢	口縁部	押型文		胎土	良	色調(内面/外面)	不明	5.6	I a	
674	214	4 T	IVb層 上半部	IVb	深鉢	口縁部	ナデ		胎土	良	色調(内面/外面)	不明	5.8	II a	
675	217	4 T	IVb層 上半部	IVb	鉢	口縁部	ナデ		胎土	良	色調(内面/外面)	不明	2.8	III b 2	
676	1147	4 T	SK01 I層	IVb	深鉢	胴部	ナデ		胎土	良	色調(内面/外面)	—	6.1	I a	
677	1148	4 T	SK01 I層	IVb	深鉢	口縁部	貝殻条痕		胎土	良	色調(内面/外面)	不明	4.0	II b	
678	1150	4 T	SP01	IVb	深鉢	胴部	ナデ		胎土	良	色調(内面/外面)	—	2.3	III b 7	

第20表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表13

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
					内面	外面							
679	1359	5 T	I ~ II層	I	口縁部	ナデ	貝殻条痕 ナデ, 刺突	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.5	IIa	
680	946	5 T	IIb~IVa層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	やや 不良	にぶい赤褐/灰褐	—	5.8	IIb	
681	1362	5 T	IIa~IIb層	II	口縁部	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	不明	5.2	IIIb3	
682	1360	5 T	I ~ II層	I	口縁部	ナデ	ナデ, 刺突	良	にぶい黄橙/褐灰	不明	4.5	IVa	
683	956	5 T	IIIa層	IIIa	胴部	ナデ	貝殻条痕, ナデ	良	灰黄褐/黒褐	—	5.1	III	
684	932	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	ナデ	刺突, 沈線	良	褐/黒褐	不明	8.5	IIa	
685	934	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	ナデ	角閃石・石英・雲母・径3mm程度の小礫多量含む	良	褐灰/にぶい黄褐	不明	2.2	IIa	
686	927	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	良	灰黄褐/褐灰	—	4.9	IIb	
687	953	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	ナデ, 隆帯	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	2.7	IIIb1	
688	930	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	黒褐/褐	—	3.2	IIIb1	
689	944	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	褐/褐	—	2.3	IIIb1	
690	939	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	黒褐/にぶい橙	—	4.0	IIIb1	
691	947	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	貝殻条痕	隆帯貼付	やや 不良	にぶい褐/黒褐	不明	3.8	IIIb4	
692	933	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	灰黄褐/黒褐	—	3.3	IIIb3	
693	942	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	ナデ	ナデ, 隆帯貼付	良	にぶい黄褐/にぶい褐	不明	3.5	IIIb4	
694	941	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	ナデ	隆帯貼付, 沈線, 刺突	良	にぶい黄橙/にぶい赤褐	不明	2.8	IIIb5	
695	924	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	5.1	IIIc1	
696	925	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	口唇部; 刻目	良	褐灰/褐	—	4.6	IIIc1	
697	923	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	ナデ	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	4.8	IIIc1	
698	936	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻による曲線文	良	にぶい黄褐/にぶい褐	—	4.2	IIIc1	
699	926	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	にぶい橙/褐灰	—	3.1	IIIc1	
700	935	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	ナデ, 貝殻条痕	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	4.1	IIIc1	
701	954	5 T	IIIb層	IIIb	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	黒褐/黒褐	不明	1.5	IIIc	
702	948	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	褐灰/にぶい褐	—	2.5	III	
703	601	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	黒褐/にぶい褐	—	5.1	III	
704	937	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕, 凹線	やや 不良	灰褐/灰褐	—	5.3	III	
705	931	5 T	IIIb層	IIIb	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	褐/にぶい褐	—	5.4	III	
706	938	5 T	IIIb層	IIIb	底部	貝殻条痕	ナデ	良	灰黄褐/にぶい橙	—	7.9	III	底径10.6cm (復元)
707	620	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	押型文	良	灰褐/褐	—	2.7	Ic	
708	602	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕(刺突)	ナデ, 沈線	良	灰黄褐/にぶい橙	—	3.5	IIa	
709	571	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ	ナデ, 沈線	良	灰黄褐/にぶい褐	—	3.2	IIa	
710	594	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ	ナデ, 貝殻条痕	良	褐灰/にぶい黄橙	—	2.4	IIa	
711	573	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ	ナデ, 貝殻条痕	良	黒褐/黒褐	—	4.8	IIa	
712	610	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ	貝殻条痕	良	黒褐/にぶい褐	—	7.2	IIa	
713	621	5 T	IVa層	IVa	胴下部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	灰黄褐/にぶい橙	—	5.7	IIb	
714	585	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	黒褐/黒褐	—	4.1	IIIa1	
715	598	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	褐灰/灰黄褐	—	3.5	IIIa1	
716	605	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	灰黄褐/にぶい褐	—	2.9	IIIb1	
717	586	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ	ナデ, 隆帯貼付	良	灰黄褐/にぶい橙	不明	3.8	IIIb1	
718	608	5 T	IVa層	IVa	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	良	黒褐/黒褐	不明	2.9	IIIb1	
719	591	5 T	IVa層	IVa	口縁部	貝殻条痕	ナデ, 隆帯貼付	やや 不良	にぶい赤褐/橙	不明	1.7	IIIb3	
720	583	5 T	IVa層	IVa	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付 口唇部; 刻目	良	にぶい橙褐灰	不明	4.0	IIIb3	

第21表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表14

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
					内面	外面							
721	607	5 T	IVa層	IVa	口縁部	貝殻条痕 口唇部; 刻目	胎土	良	灰褐/黒褐	不明	2.6	IIIb4	
722	581	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ 貝殻条痕 隆帯貼付	胎土	良	にぶい赤褐/にぶい橙	—	2.4	IIIb5	
723	590	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ 貝殻条痕, 刺突	胎土	良	にぶい橙/にぶい褐	—	2.5	IIId3	
724	619	5 T	IVa層	IVa	胴部	ナデ 凹線	胎土	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	2.8	IIIf	
725	618	5 T	IVa層	IVa	口縁部	ナデ 貝殻条痕	胎土	良	灰褐/灰褐	不明	5.0	III	口唇部内外 に刻目
726	587	5 T	IVa層	IVa	口縁部	貝殻条痕 口唇部; 刻目	胎土	良	にぶい赤褐/にぶい褐	—	2.7	III	
727	572	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	黒褐/にぶい黄褐	—	3.8	III	
728	574	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	褐灰/褐	—	4.2	III	
729	604	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	褐灰/褐	—	3.6	III	
730	579	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	褐灰/褐灰	—	3.4	III	
731	577	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	黒褐/褐灰	—	2.9	III	
732	588	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	やや 不良	灰黄褐/にぶい褐	—	8.9	III	
733	570	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	6.6	III	
734	576	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	灰褐/にぶい褐	—	4.0	III	
735	578	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	不良	にぶい褐/褐	—	3.9	III	
736	575	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	にぶい褐/橙	—	4.3	III	
737	612	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	9.7	III	
738	593	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	明赤褐/灰黄褐	—	2.4	III	
739	606	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	黒褐/にぶい褐	—	3.2	III	
740	600	5 T	IIb IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	灰褐/灰褐	—	5.1	III	
741	603	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	黒褐/にぶい黄褐	—	3.8	III	
742	580	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	やや 不良	灰褐/にぶい褐	—	3.3	III	
743	599	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕, ナデ	胎土	良	灰褐/灰褐	—	2.4	III	
744	611	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	灰褐/にぶい橙	—	4.0	III	
745	609	5 T	IVa層	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	やや 不良	黒褐/にぶい褐	—	3.1	III	
746	584	5 T	IVa層	IVa	底部	貝殻条痕	胎土	良	褐灰/にぶい褐	—	3.3	III	
747	592	5 T	II~IVa (接合)	IVa	胴部	貝殻条痕	胎土	良	にぶい橙/灰褐	—	11.3	III	
748	596	5 T	IVa層	IVa	口縁部	磨消細文	胎土	良	褐/褐	不明	2.2	VI	
749	218	5 T	IVb層	IVb	胴部	ナデ, 刺突, 沈線	胎土	良	黒褐/にぶい褐	—	4.8	IIa	
750	1364	6 T	II層	II	口縁部	ナデ, 刺突	胎土	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	不明	4.2	IIIb2	
751	1378	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	貝殻条痕 隆帯貼付, 刻目	胎土	良	灰褐/灰褐	不明	4.8	IV	
752	1376	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ, 沈線	胎土	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	7.0	IIIb7	
753	1374	6 T	3~5層	3~5層	胴部	貝殻条痕, ナデ, 刺突	胎土	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	5.7	Vb1	
754	1375	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	貝殻条痕 沈線	胎土	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	3.7	I	弥生土器
755	1372	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	にぶい橙/にぶい黄橙	不明	2.5	II	弥生土器
756	1373	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	浅黄橙/にぶい橙	不明	3.7	IV	弥生土器
757	1368	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	浅黄橙/にぶい橙	不明	1.8	IV	弥生土器
758	1379	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	浅黄橙/浅黄橙	不明	2.4	V	弥生土器
759	1371	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.1	VI	弥生土器
760	1370	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.4	V	弥生土器
761	1369	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.4	VII	弥生土器
762	1366	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	3.1	VIII	弥生土器
763	1367	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	橙/橙	不明	3.0	IIb	弥生土器
763	1367	6 T	3~5層	3~5層	口縁部	ナデ	胎土	良	橙/橙	不明	3.3	V	弥生土器

第22表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表15

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
764	1377	6 T	3~5層		坑	底面	ミガキ	ケズリ, ミガキ	良	黒/にぶい黄橙	—	2.2		黒色土器 (内黒)
766	1386	6 T	5層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	浅黄橙/橙	不明	3.0	IIb	弥生土器
767	1387	6 T	5層		坏	口縁部	ナデ	ナデ 底面: 静止糸切	良	にぶい橙/にぶい橙	14.0	3.6		土師器
768	1392	6 T	8層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	4.6	IIb	弥生土器
769	1391	6 T	8層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.8	IV	弥生土器
770	1390	6 T	8層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.2	IV	弥生土器
771	1389	6 T	8~9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.2	IV	弥生土器
772	1388	6 T	8~9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	浅黄橙/浅黄橙	不明	2.5	VII	弥生土器
773	1394	6 T	9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/明褐灰	不明	2.2	IIa	弥生土器
774	1398	6 T	9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/浅黄橙	不明	3.9	IIa	弥生土器
775	1393	6 T	9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.8	IIb	弥生土器
776	1395	6 T	9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	浅黄橙/にぶい橙	不明	3.1	VI	弥生土器
777	1399	6 T	9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ, 隆帯貼付	良	浅黄橙/にぶい黄橙	不明	4.0	I	弥生土器
778	1396	6 T	9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	4.8	IIb	弥生土器
779	1400	6 T	9層		甕	口縁部	ナデ	ナデ	良	浅黄橙/浅黄橙	不明	2.9	VII	弥生土器
780	1397	6 T	9層		台付甕	底面	ナデ	刷毛目	良	浅黄橙/にぶい橙	不明	4.8	VII	弥生土器
781	1402	7 T	表土		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ, 凹線	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	7.1	IVb2	弥生土器
782	1401	7 T	表土		浅鉢	底面	ナデ	ナデ, ケズリ	良	橙/橙	不明	9.7		外面丹塗り
783	1403	7 T	表土		凹筒埴輪	底面	ナデ	ナデ, タテハケ, 突帯貼付	良	橙/橙	不明	7.8		
784	1408	8 T	カクラン		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ, 押圧	良	明赤褐/明赤褐	不明	7.5	IIa	口縁下部に 穿孔あり
785	1407	8 T	II層		深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	良	灰黄褐/褐灰	不明	9.1	IIIa2	
786	1233	8 T	II層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	灰褐/褐灰	不明	3.8	IIIb7	
787	1404	8 T	II層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄褐/黒褐	不明	7.1	IVa	
788	1405	8 T	II層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	灰黄褐/褐灰	不明	7.0	IVa	
789	1406	8 T	II層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	4.8	IVa	
790	957	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい褐/灰褐	不明	11.9	IIb	
791	958	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	灰黄褐/褐灰	不明	2.6	IIIa1	
792	961	8 T	IIIa層		鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	3.3	IIIa1?	
793	963	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.9	IIIa1	
794	966	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい褐/褐灰	不明	3.3	IIIa1	
795	1004	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい橙/にぶい褐	不明	3.5	IIIa1	
796	978	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい赤褐	不明	3.3	IIIa1	
797	991	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	灰褐/褐灰	不明	3.3	IIIa1	
798	998	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい褐	不明	4.3	IIIa1	
799	1000	8 T	IIIa層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	3.4	IIIa1	
800	1002	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	褐灰/褐灰	不明	3.8	IIIa1	
801	1003	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	3.6	IIIa1	
802	993	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい褐/にぶい褐	不明	3.5	IIIa2	
803	976	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい橙/にぶい褐	不明	2.9	IIIa2	
804	999	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	褐灰/褐灰	不明	3.4	IIIa2	
805	990	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.7	IIIb3	
806	983	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	明赤褐/にぶい褐	不明	3.8	IIIb3	
807	989	8 T	IIIa層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい橙/褐灰	不明	3.7	IIIb3	
808	969	8 T	IIIa層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	4.1	IIIb3	
809	986	8 T	IIIa層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	褐灰/褐灰	不明	2.9	IIIb3	
810	971	8 T	IIIa層		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	2.1	IIIb2	
811	960	8 T	IIIa層		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	不明	3.3	IIIb6	

第23表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表16

標本 番号	測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
812	995	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	ナデ	口唇部; 刺突 貝殼条痕, 隆帯, 押引 文	良	灰褐/灰褐	不明	2.5	IIIb6	
813	962	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	貝殼条痕	貝殼条痕, 隆帯, 押引 文	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	—	3.8	IIIb7	
814	997	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	貝殼条痕	雲母少量含む	良	にぶい褐/灰褐	不明	2.6	IIId1	
815	979	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	ナデ	石英・金雲母少量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	—	3.6	IIId1	
816	965	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	ナデ	滑石多量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	3.4	IIId1	
817	996	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	ナデ	角閃石・長石多量含む	良	明褐/にぶい褐	—	4.4	IIId1	
818	987	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線	角閃石・砂粒多量含む	良	灰黄褐/褐灰	不明	2.1	IIId1	
819	994	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	刺突, 沈線	角閃石・砂粒多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	2.3	IIId2	
820	992	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	貝殼条痕	雲母・角閃石多量含む	良	褐灰/褐灰	—	3.9	IIIg	
821	980	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	貝殼条痕	ナデ, 押引文	良	にぶい赤褐/にぶい橙	不明	3.2	IIIg	
822	970	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	貝殼条痕, ナデ	ナデ, 押引文, 隆帯貼付	良	にぶい橙/にぶい褐	不明	4.7	IIIg1	
823	977	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	貝殼条痕	滑石多量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	3.0	IVa	
824	975	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	貝殼条痕	滑石・砂粒多量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	6.2	IVa	
825	1001	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	底部	貝殼条痕	角閃石・石英・砂粒多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	3.0	III	底径0.2cm (復元)
826	964	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	ナデ	滑石多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	2.8	IVa	
827	984	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	貝殼条痕	滑石やや多く含む	良	褐灰/褐灰	—	3.0	IVa	
828	985	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	胴部	貝殼条痕	滑石多量含む	良	にぶい褐/灰褐	—	3.6	IVa	
829	988	8 T	IIIa層	IIIa	鉢	口縁部	貝殼条痕	雲母・石英・砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/褐灰	不明	5.2	IVa	
830	981	8 T	IIIa層	IIIa	鉢	口縁部	貝殼条痕	滑石多量含む	良	褐灰/褐灰	不明	2.3	IVa	
831	982	8 T	IIIa層	IIIa	深鉢	口縁部	ナデ	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	不明	2.1	IVb	
832	959	8 T	IIIa層	IIIa	鉢	胴部	ナデ	石英・砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	2.7	VI	
833	1101	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	胴部	ナデ	石英多量, 雲母少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	3.4	Ia	
834	1117	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	胴部	ナデ	石英, 砂粒多量含む	やや 不良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	3.0	Ia	
835	1112	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	胴部	ナデ	押型文	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.1	Ic	
836	1100	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	ナデ	押型文	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.6	IIa	
837	1009	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	貝殼条痕, ナデ	良	褐灰/褐灰	—	4.4	IIIa1	
838	1010	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・雲母・砂粒多量含む	良	暗灰/暗灰黄	—	5.3	IIIa1	
839	1013	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい褐/灰黄褐	—	3.3	IIIa1	
840	1014	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	褐灰/黒褐	—	3.2	IIIa1	
841	1016	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・雲母少量含む	良	黒褐/灰褐	—	3.5	IIIa1	
842	1017	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	石英・砂粒多量含む	良	褐灰/褐	—	3.8	IIIa1	
843	1046	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	胴部	貝殼条痕	雲母・角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.0	IIIa1	
844	1058	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・石英・砂粒多量含む	良	褐灰/にぶい赤褐	—	4.0	IIIa1	
845	1061	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石少量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	2.4	IIIa1	
846	1098	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石微量, 砂粒少量含む	良	黒褐/褐灰	—	4.7	IIIa1	
847	1102	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・雲母・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい褐	—	4.5	IIIa1	
848	1114	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・石英・砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	5.0	IIIa1	
849	1113	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	胴部	貝殼条痕	雲母少量, 砂粒多量含む	良	褐灰/褐灰	—	4.9	IIIa1	
850	1119	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	砂粒少量含む	良	褐灰/にぶい褐	不明	4.9	IIIa1	
851	1120	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	貝殼条痕	石英・角閃石多量含む	良	にぶい橙/灰褐	—	4.6	IIIa1	
852	1123	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	石英・砂粒やや多く含む	良	にぶい橙/褐灰	—	3.6	IIIa1	
853	1125	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・砂粒多量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	3.5	IIIa1	
854	1124	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・石英・砂粒少量含む	良	にぶい褐/褐	不明	2.3	IIIa1	
855	1135	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・石英・砂粒少量含む	良	灰褐/にぶい赤褐	—	6.7	IIIa1	
856	1137	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	石英・角閃石少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	4.9	IIIa1	
857	1131	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	4.9	IIIa1	
858	1051	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殼条痕	角閃石・砂粒多量含む	良	褐灰/灰褐	—	3.3	IIIa2	
859	1106	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	底部付近	貝殼条痕	角閃石・石英・砂粒多量含む	良	にぶい黄橙/明赤褐	—	4.8	IIIa	

第24表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表17

測号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径(cm)	残存高(cm)	分類	備考
					内面	外面							
					残存部位								
860	1008	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・雲母・石英やや多く含む	良	にぶい橙/褐灰	—	7.0	IIIb1	
861	1040	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	角閃石・石英少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	5.6	IIIb1	
862	1066	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	石英・角閃石やや多く含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.0	IIIb1	
863	1094	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕、ナデ	隆帯貼付	角閃石・雲母・長石多量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	3.4	IIIb1	
864	1093	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・雲母・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	—	5.7	IIIb1	
865	1099	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	石英多量含む	良	灰黄褐/赤黄褐	—	3.3	IIIb1	
866	1041	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	長石・砂粒少量含む	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	4.2	IIIb2	
867	1006	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・雲母・砂粒多量含む	良	褐/褐	—	10.2	IIIb3	
868	1005	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・角閃石・砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	9.4	IIIb3	
869	1007	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	砂粒多量含む	良	黒褐/黒褐	不明	8.9	IIIb3	
870	1011	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	4.2	IIIb3	
871	1012	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・長石少量含む	良	黒褐/黒	—	3.2	IIIb3	
872	1015	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕、ナデ	隆帯貼付	角閃石・砂粒やや多く含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄橙	—	3.8	IIIb3	
873	1018	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	石英・角閃石・砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	4.2	IIIb3	
874	1019	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・砂粒・径2mm程度の小礫少量含む	良	褐灰/黒褐	—	3.3	IIIb3	
875	1020	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕、ナデ	隆帯貼付	角閃石・雲母・砂粒やや多く含む	良	褐/灰褐	—	4.3	IIIb3	
876	1022	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	石英・角閃石少量、径2mm程度の小礫多量含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	2.6	IIIb3	
877	1023	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・長石やや多く含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄	—	2.9	IIIb3	
878	1035	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	雲母・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.7	IIIb3	
879	1049	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	石英・径2~3mmの小礫少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.1	IIIb3	
880	1055	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	石英・砂粒やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	不明	3.4	IIIb3	
881	1060	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・角閃石やや多く含む	良	褐灰/灰黄褐	—	2.8	IIIb3	
882	1079	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・石英多量含む	良	褐/褐	33.0(復元)	10.9	IIIb3	
883	1083	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	石英・砂粒少量含む	良	褐/黒褐	不明	5.9	IIIb3	
884	1062	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	石英・角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	2.0	IIIb3	
885	1084	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	径2~3mmの小礫やや多く含む	良	灰黄褐/褐灰	—	2.7	IIIb3	
886	1085	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	雲母・角閃石少量含む	良	灰褐/灰褐	—	4.7	IIIb3	
887	1086	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	角閃石・雲母やや多く含む	良	にぶい褐/褐灰	—	2.5	IIIb3	
888	1095	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕、ナデ	隆帯貼付	角閃石・石英多量、径3mm程度の小礫少量含む	良	にぶい橙/褐灰	不明	3.1	IIIb3	
889	1110	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・石英少量含む	良	灰黄褐/褐灰	不明	4.3	IIIb3	
890	1111	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・石英微量、砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/灰褐	不明	4.9	IIIb3	
891	1116	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ、貝殻条痕	隆帯貼付	砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/灰褐	不明	4.0	IIIb3	
892	1118	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・石英微量含む	良	黄灰/黄灰	不明	3.7	IIIb3	
893	1092	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕、ナデ	隆帯貼付	角閃石・石英少量、砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	—	3.9	IIIb4	
894	1021	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯	雲母・石英・砂粒少量含む	良	灰褐/灰褐	—	3.0	IIIb4	
895	1033	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	8.9	IIIb5	
896	1034	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.5	IIIb5	
897	1050	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	2.3	IIIb5	
898	1081	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・長石・石英やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい褐	不明	5.1	IIIb5	
899	1122	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	ナデ、隆帯貼付	角閃石・雲母・砂粒やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	3.8	IIIb5	
900	1036	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕、ナデ	隆帯貼付	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	不明	13.1	IIIb5	
901	1037	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	11.8	IIIb7	
902	1045	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい褐	—	2.4	IIIb7	
903	1048	8 T	IIIb層	深鉢	頸部	隆帯貼付	角閃石微量、砂粒少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	2.1	IIIb7	
904	1053	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕、ナデ	隆帯貼付	雲母・砂粒多量含む	良	黒褐/黒褐	不明	3.1	IIIb7	
905	1115	8 T	IIIb層	深鉢	ナデ	隆帯貼付	雲母・石英やや多く含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	4.0	IIIb7	
906	1038	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・石英やや多く含む	良	にぶい褐/黒褐	—	4.8	IIIb7	
907	1042	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・石英少量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.0	IIIb7	
908	1043	8 T	IIIb層	深鉢	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	3.2	IIIb7	

第25表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表18

押図 番号	実測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
909	1082	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	黒/褐灰	—	4.8	IIIb7	
910	1105	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕 貝殻条痕 (波状文, 曲線文)	角閃石・雲母やや多く含む	良	灰黄褐/にぶい赤褐	—	4.0	IIIc1	
911	1024	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	雲母・石英・角閃石多量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	9.7	IIIc1	
912	1027	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	沈線, 押引文	角閃石・長石多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	5.0	IIIc1	
913	1064	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	ナデ, 押引文	角閃石・雲母・石英多量含む	良	にぶい褐/灰褐	不明	2.5	IIIc1	
914	1032	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	雲母・角閃石多量含む	良	にぶい褐/黒褐	不明	3.1	IIIc1	
915	1059	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線	角閃石・雲母・砂粒やや多く含む	良	黒褐/にぶい黄褐	不明	2.4	IIIc1	
916	1096	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線	角閃石・石英多量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄	不明	5.3	IIIc1	
917	1025	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	貝殻条痕	雲母・角閃石やや多く含む	良	褐灰/褐灰	不明	5.1	IIIc2	
918	1031	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	貝殻条痕	石英・雲母少量含む	良	にぶい褐/灰黄褐	不明	3.1	IIIc3	
919	1054	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ, 刺突	角閃石・石英やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	2.1	IIIc3	
920	1097	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ, 刺突	角閃石・雲母・石英多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	不明	3.9	IIIc3	
921	1134	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線	角閃石・石英少量含む	良	にぶい褐/灰褐	不明	2.5	IIIc3	
922	1139	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	不明	2.5	IIIc3	
923	1121	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	口縁部	ナデ, 沈線	角閃石・石英多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい赤褐	不明	2.1	IIIc3	
924	1089	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ, 刺突	角閃石多量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	10.7	IIIc3	
925	1090	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	貝殻条痕	石英・砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/灰褐	不明	5.0	IIIc3	
926	1138	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ, 沈線	角閃石やや多く含む	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	2.6	IIIc2	
927	1026	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	角閃石・雲母少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	5.3	IIIc3	
928	1028	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	ナデ, 沈線, 刺突	角閃石・雲母微量含む	良	灰黄褐/灰黄橙	不明	3.1	IIIc3	
929	1029	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	5.6	IIIc3	
930	1030	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	2.8	IIIc3	
931	1044	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	角閃石・雲母少量含む	良	褐灰/褐灰	—	3.5	IIIc3	
932	1052	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・砂粒少量含む	良	褐灰/にぶい褐	—	3.3	IIIc3	
933	1056	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	貝殻条痕	雲母・石英多量含む	良	褐灰/黒褐	不明	3.3	IIIc3	
934	1057	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・径2mm程度の小礫やや多く含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	3.4	IIIc3	
935	1063	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石やや多く含む	良	褐灰/にぶい褐	—	3.2	IIIc3	
936	1065	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英多量含む	良	褐灰/にぶい褐	不明	2.3	IIIc3	
937	1068	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	5.8	IIIc3	
938	1067	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	雲母多量含む	良	褐灰/にぶい褐	—	4.4	IIIc3	
939	1087	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母多量含む	良	黒褐/褐灰	不明	3.5	IIIc3	
940	1091	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	角閃石・雲母・石英少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	4.5	IIIc3	
941	1104	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・砂粒多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	4.5	IIIc3	
942	1108	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・砂粒多量含む	良	にぶい褐/褐灰	不明	3.2	IIIc3	
943	1126	8 T	IIIb層	IIIb	深鉢	胴部	ナデ	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	—	3.5	IIIc3	
944	1132	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	底部	ナデ, 指おさえ	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	3.5	IIIc3	
945	1107	8 T	IIIb層	IIIb	鉢	胴部	ナデ	石英・径2~3mmの小礫多量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	—	2.8	IIIc3	
946	1133	8 T	IIIb~IVa層	IIIb	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ 縄文	石英多量含む	良	褐灰/褐灰	—	3.7	IVa	
947	640	8 T	IVa層	IVa	鉢	胴部	ナデ	石英少量, 砂粒多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	2.7	IVa	
948	873	8 T	SS-P4	IVa	深鉢	胴部	押型文	砂粒やや多く含む	良	にぶい黄橙/橙	—	5.1	Ia	
949	734	8 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	押型文	角閃石・雲母多量含む	良	褐灰/にぶい黄橙	—	4.4	Ib	
950	765	8 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	押型文	雲母・長石・角閃石多量含む	良	褐灰/にぶい黄橙	—	3.6	Ib	
951	853	8 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ, 刺突	角閃石多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	不明	2.3	IIa	
952	823	8 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ	雲母少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	3.0	IIa	
953	859	8 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	ナデ, 刺突	金雲母多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	2.4	IIa	
954	714	8 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	ナデ	石英・小礫多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	3.8	IIa	
955	833	8 T	IVa層	IVa	深鉢	口縁部	刺突	角閃石・石英含む	良	にぶい黄褐/灰黄褐	—	2.7	IIb	
956	687	8 T	IVa層	IVa	深鉢	胴部	押型文, 刺突 貝殻条痕	石英・径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	不明	1.8	IIb	
								金雲母・石英多量含む	良	にぶい黄褐/褐	—	2.9	IIb	

第26表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表19

標圖 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	残存部位	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
							内面	外面							
957	653	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	刺突	角閃石・長石・砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.0	IIb	
958	851	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	刺突	角閃石・石英多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	2.7	IIb	
959	865	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	雲母・石英多量含む	良	黒褐/褐灰	—	5.2	IIb	
960	633	個別P1	IVa層	SS-P1	鉢	口縁部 ~胴部	貝殻条痕		雲母・角閃石・径2~3mmの小礫やや多く含む	良	にぶい黄褐/褐灰	16.2 (復元)	9.1	IIIa1	
961	628	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕		角閃石・雲母・砂粒多量含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	不明	8.7	IIIa1	
962	809	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	口唇部：刻目	雲母・角閃石少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	2.9	IIIa1	
963	656	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	刺突	角閃石・石英多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	不明	3.6	IIIa1	
964	705	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	口唇部：刻目	角閃石・石英少量含む	良	灰褐/にぶい褐	不明	4.8	IIIa1	
965	842	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕		角閃石・雲母少量、石英多量含む	良	褐灰/灰褐	不明	2.8	IIIa1	
966	796	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕		角閃石・長石少量、砂粒多量含む	良	灰褐/にぶい赤褐	—	4.5	IIIa1	
967	627	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	角閃石・砂粒多量含む	良	灰褐/にぶい赤褐	—	13.7	IIIa1	最大径26.2cm (復元)
968	635	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	角閃石・雲母多量、砂粒少量含む	良	褐灰/にぶい黄橙	—	6.6	IIIa1	
969	644	8 T	IVa層	SS-P12	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英・径1~5mmの小礫少量含む	良	暗灰黄/暗灰黄	—	6.7	IIIa1	
970	634	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英・砂粒多量含む	良	褐灰/黒褐	—	6.0	IIIa1	
971	864	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英・砂粒多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	6.5	IIIa1	
972	726	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		径2~5mmの小礫やや多く含む	良	黒/灰黄褐	—	3.4	IIIa1	
973	637	8 T	IVa層	SS-P5	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英微量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	11.2	IIIa1	
974	730	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・雲母少量含む	良	灰黄褐/にぶい赤褐	—	9.1	IIIa1	
975	702	8 T	IVa層	IVa層	鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英・砂粒多量含む	良	黒褐/灰黄褐	—	3.1	IIIa1	
976	718	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英多量含む	良	灰褐/黒褐	—	3.6	IIIa1	
977	877	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英・砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	2.6	IIIa1	
978	724	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英・砂粒やや多く含む	良	灰褐/にぶい橙	—	5.5	IIIa1	
979	674	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英・角閃石・径2mm程度の小礫多量含む	良	褐灰/黒褐	—	4.5	IIIa1	
980	868	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		雲母少量、石英・小礫多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	4.6	IIIa1	
981	869	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		径1~5mmの小礫多量含む	良	褐灰/灰黄褐	—	2.8	IIIa1	
982	661	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		雲母・角閃石多量、石英少量含む	良	にぶい黄橙/褐灰	—	4.0	IIIa1	
983	776	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	長石・角閃石やや多く含む	良	にぶい褐/褐灰	—	2.8	IIIa1	
984	760	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英多量含む	良	黒褐/にぶい褐	—	5.0	IIIa1	
985	753	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石多量、石英少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	5.0	IIIa1	
986	867	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英少量、砂粒多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	3.5	IIIa1	
987	778	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・砂粒・径2~3mmの小礫少量含む	良	褐灰/にぶい褐	—	3.6	IIIa1	
988	738	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		雲母・角閃石少量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	3.3	IIIa1	
989	858	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英多量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	3.5	IIIa1	
990	808	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・雲母・長石多量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	4.2	IIIa1	
991	795	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	4.9	IIIa1	
992	807	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・雲母・小礫多量含む	良	にぶい褐/黒褐	—	4.6	IIIa1	
993	737	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英少量含む	良	にぶい橙/にぶい赤褐	—	3.2	IIIa1	
994	781	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石微量、砂粒少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	4.6	IIIa1	
995	780	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石微量、砂粒少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	4.6	IIIa1	
996	848	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英多量含む	良	灰黄褐/にぶい赤褐	—	2.8	IIIa1	
997	838	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石微量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	4.8	IIIa1	
998	650	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・雲母多量含む	良	黒褐/灰褐	—	3.1	IIIa1	
999	652	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		角閃石・石英多量含む	良	明赤褐/赤灰	—	2.8	IIIa1	
1000	720	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		石英やや多く含む	良	褐灰/にぶい橙	—	3.2	IIIa1	
1001	686	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕		径2~3mmの小礫多量含む	良	黒/灰黄褐	—	2.3	IIIa1	

第27表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表20

標頭 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
1002	704	8 T		IVa層	深鉢	胴部	ナデ	貝殻条痕	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.7	IIIa.1	
1003	866	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	3.9	IIIa.1	
1004	659	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石・径2~3mmの小礫少量含む	良	灰褐/橙	—	3.1	IIIa.1	
1005	677	8 T		IVa層	深鉢	胴下部	貝殻条痕	雲母・石英やや多く含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	4.7	IIIa.1	
1006	717	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石微量, 砂粒少量含む	良	黒褐/黒褐	不明	7.7	IIIa.2	
1007	854	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	褐灰/灰黄褐	不明	5.9	IIIa.2	
1008	863	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	5.7	IIIa.2	
1009	731	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・石英・径2mm程度の小礫少量含む	良	褐灰/にぶい赤褐	—	7.5	IIIa.2	
1010	862	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/黒褐	—	5.0	IIIa.2	
1011	828	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・石英微量, 砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	4.5	IIIa.2	
1012	703	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	角閃石・石英多量含む	良	にぶい黄橙/褐灰	—	5.8	IIIa.2	
1013	755	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石少量, 砂粒やや多く含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	6.2	IIIa.2	
1014	645	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・径1~3mmの小礫やや多く含む	良	褐灰/にぶい褐	—	4.6	IIIa.2	
1015	764	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・砂粒多量含む	良	にぶい黄褐/黒褐	—	4.2	IIIa.2	
1016	639	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・長石少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	4.0	IIIa.2	
1017	647	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・長石・径2~3mmの小礫多量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	2.9	IIIa.2	
1018	706	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・砂粒多量含む	良	にぶい褐/にぶい橙	—	4.5	IIIa.2	
1019	667	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	角閃石・雲母微量, 径2~3mmの小礫少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄褐	—	3.7	IIIa.2	
1020	662	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量, 石英少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい褐	—	3.2	IIIa.2	
1021	663	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母微量, 砂粒少量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	3.4	IIIa.2	
1022	668	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石少量, 砂粒多量含む	良	明褐/褐	—	2.9	IIIa.2	
1023	713	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英やや多く含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	3.3	IIIa.2	
1024	794	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	長石・角閃石やや多く含む	良	黒褐/褐灰	不明	3.8	IIIb.1	
1025	840	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・長石少量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	不明	2.9	IIIb.1	
1026	837	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	褐灰/にぶい黄橙	—	2.6	IIIb.1	
1027	772	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	角閃石・雲母多量, 径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい橙/灰褐	—	3.4	IIIb.1	
1028	671	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・砂粒多量含む	良	黒褐/灰褐	—	5.6	IIIb.1	
1029	723	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	4.9	IIIb.1	
1030	701	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・径2mm程度の小礫少量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.5	IIIb.1	
1031	623	8 T		SK02	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	褐灰/褐灰	不明	11.3	IIIb.3	
1032	812	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	不明	2.6	IIIb.3	
1033	761	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石微量含む	良	褐灰/灰褐	不明	4.6	IIIb.3	
1034	636	8 T	個別P7・P13	IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・雲母・石英・径2~3mmの小礫多量含む	良	にぶい橙/にぶい褐	44.0 (復元)	10.6	IIIb.3	
1035	624	8 T		ST01 付近	深鉢	口縁部	貝殻条痕	雲母・角閃石含む	良	褐灰/黒褐	不明	4.0	IIIb.3	
1036	666	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	黒褐/黒褐	—	2.7	IIIb.3	
1037	716	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・石英やや多く含む	良	褐灰/褐灰	—	5.8	IIIb.3	
1038	721	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕, ナデ	角閃石・雲母・長石少量含む	良	にぶい赤褐/灰黄褐	不明	7.4	IIIb.3	
1039	816	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	雲母・角閃石少量含む	良	にぶい黄橙/灰黄褐	不明	3.2	IIIb.3	
1040	815	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石・長石少量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	—	3.0	IIIb.3	
1041	849	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	ナデ	角閃石微量, 径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	不明	3.0	IIIb.3	
1042	792	8 T		IVa層	深鉢	口縁部	貝殻条痕	角閃石少量, 小礫多量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	不明	4.7	IIIb.3	
1043	856	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/黒褐	—	3.9	IIIb.3	
1044	803	8 T		IVa層	深鉢	胴部	ナデ	角閃石・長石多量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	4.1	IIIb.3	
1045	777	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・径2mm程度の小礫多量含む	良	黒褐/黒褐	—	2.6	IIIb.3	
1046	762	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	3.3	IIIb.3	
1047	759	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・径2~3mmの小礫少量含む	良	灰褐/にぶい黄褐	—	4.2	IIIb.3	
1048	741	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・長石多量含む	良	にぶい褐/黒褐	—	3.9	IIIb.3	
1049	813	8 T		IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・長石少量, 砂粒多量含む	良	褐灰/にぶい赤褐	—	3.0	IIIb.3	

第28表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表21

標図 番号	実測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
					内面	外面							
1050	855	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	胎土	灰黄褐/灰黄褐	—	9.0	IIIb3	
1051	649	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	雲母・角閃石少量含む	にぶい褐/にぶい黄褐	—	3.2	IIIb3	
1052	767	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・小礫含む	にぶい赤褐/褐灰	不明	3.3	IIIb4	穿孔あり
1053	748	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	隆帯貼付	雲母・角閃石少量含む	にぶい褐/にぶい褐	34.0 (復元)	4.8	IIIb4	
1054	683	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	隆帯貼付	角閃石・石英・砂粒含む	明赤褐/にぶい赤褐	不明	2.1	IIIb4	
1055	802	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	口唇部: 刻目	角閃石・雲母・砂粒少量含む	褐灰/にぶい赤褐	—	2.7	IIIb4	
1056	700	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	隆帯貼付	角閃石・雲母・砂粒少量含む	灰黄褐/にぶい黄褐	—	10.6	IIIb4	
1057	303	8 T	胴部	IVa-2層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	黒褐/褐灰	—	5.4	IIIb4	
1058	798	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	隆帯貼付	角閃石・雲母少量含む	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.0	IIIb4	
1059	693	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石少量含む	黒褐/黒褐	—	2.2	IIIb4	
1060	872	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	隆帯貼付	角閃石・砂粒少量含む	にぶい褐/褐	—	2.7	IIIb4	
1061	651	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・長石やや多く含む	灰黄褐/にぶい褐	—	3.2	IIIb4	
1062	824	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・長石少量含む	にぶい黄橙/灰黄褐	—	2.6	IIIb5	
1063	835	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・砂粒少量含む	灰黄褐/褐灰	—	3.7	IIIb5	
1064	820	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石少量含む	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.3	IIIb5	
1065	655	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・雲母少量含む	灰黄褐/褐灰	—	2.3	IIIb5	
1066	630	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 押引文, 隆帯	角閃石・長石・雲母少量含む	灰褐/にぶい赤褐	18.0 (復元)	12.8	IIIb6	
1067	629	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母微量, 砂粒やや多く含む	褐灰/褐灰	不明	9.0	IIIb6	
1068	740	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	つまみ上げ隆帯	角閃石・雲母少量含む	にぶい黄橙/黒褐	不明	1.7	IIIb6	
1069	306	8 T	胴部	IVa-2層	IVa	深鉢	口唇部: 刻目	全雲母少量, 径1~5mmの小礫多量含む	灰褐/にぶい赤褐	—	3.5	IIIb6	
1070	688	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 沈線	角閃石・石英多量含む	黒褐/褐	—	1.9	IIIb6	
1071	631	8 T	胴部	IVa-2層	IVa	深鉢	ナデ, 押引文	角閃石・雲母・砂粒多量含む	黒褐/灰褐	—	2.9	IIIb6	
1072	825	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	ナデ, 押引文	雲母多量含む	褐灰/黒褐	—	2.9	IIIb6	
1073	766	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	ナデ, 隆帯貼付	角閃石少量含む	にぶい橙/にぶい褐	不明	2.3	IIIb7	
1074	641	8 T	口縁部	IVa層	IVa	鉢	貝殻条痕	径2~3mmの小礫少量含む	にぶい橙/灰褐	18.0 (復元)	5.1	IIIb7	
1075	841	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	押引文, 隆帯貼付	雲母・長石少量含む	黒褐/灰黄褐	—	5.2	IIIb7	
1076	743	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	明褐/にぶい褐	—	5.1	IIIb7	
1077	806	8 T	胴部	IIIb層	IVa	深鉢	隆帯貼付, 刺突	角閃石・径2mm程度の小礫少量含む	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.9	IIIb7	
1078	800	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	押引文	角閃石微量含む	にぶい褐/灰褐	—	2.1	IIIb7	
1079	672	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	ナデ, 押引文, 隆帯貼付	角閃石多量含む	灰黄褐/褐灰	—	3.9	IIIb7	
1080	847	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	押引文, 隆帯貼付	角閃石・石英少量含む	にぶい黄橙/灰黄褐	—	3.2	IIIb7	
1081	770	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・雲母少量含む	灰黄褐/褐灰	—	3.1	IIIb7	
1082	632	8 T	口縁~胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, ナデ	角閃石・雲母・金雲母・砂粒多量含む	橙/橙	32.4 (復元)	17.5	IIIc1	
1083	797	8 T	口縁部	IVa層	IVa	鉢	貝殻条痕	雲母・小礫微量含む	灰黄褐	不明	3.1	IIIa2?	
1084	811	8 T	口縁部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, ナデ	角閃石・雲母多量含む	褐灰/にぶい褐	不明	3.2	IIIc1	
1085	735	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, ナデ	石英・長石・角閃石やや多く含む	灰褐/褐灰	—	3.2	IIIc1	
1086	673	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, ナデ	砂粒多量含む	灰褐/にぶい橙	—	4.9	IIIc1	
1087	728	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕, 沈線	石英・砂粒多量含む	褐灰/褐灰	—	2.7	IIIc1	
1088	658	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	褐/にぶい赤褐	—	3.3	IIIc1	
1089	874	8 T	胴部	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	金雲母・砂粒少量含む	にぶい黄褐, 黒褐	—	3.0	IIIc1	
1090	750	8 T	口縁部	IIIa層	IVa	鉢	ナデ, 押引文	金雲母・径2~3mmの小礫多量含む	にぶい褐, 灰褐	不明	4.7	IIIc1	
1091	654	8 T	口縁部	IVa層	IVa	鉢	貝殻条痕	角閃石多量含む	明赤褐, 明赤褐	不明	2.4	IIIc1	

第29表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表22

標圖 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
1092	782	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	胎土	胎土	良	にぶい黄橙、灰黄褐	—	5.0	IIIc	
1093	751	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石・石英多量含む	角閃石・石英多量含む	良	灰黄褐、にぶい黄褐	—	3.5	III d1	
1094	822	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石・雲母少量含む	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい橙/灰褐	—	2.2	III d1	
1095	810	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石・雲母多量含む	角閃石・雲母多量含む	良	灰黄褐/灰褐	—	3.7	III d1	
1096	749	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕、ナデ	金雲母多量含む	金雲母多量含む	良	にぶい橙/灰黄褐	—	6.3	III d1	
1097	799	8 T	IVa層	IVa	鉢	ナデ	角閃石・雲母・石英やや多く含む	角閃石・雲母・石英やや多く含む	良	黄灰/にぶい黄	—	2.6	III b7	
1098	657	8 T	IVa層	IVa	鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母・径2mm程度の小礫少量含む	角閃石・雲母・径2mm程度の小礫少量含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	2.1	III b7	
1099	870	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	砂粒少量含む	砂粒少量含む	良	黄灰/にぶい黄橙	—	2.9	III b7	
1100	801	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石・雲母微量含む	角閃石・雲母微量含む	良	褐灰/にぶい黄橙	—	3.1	III b7	
1101	679	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・長石・石英多量含む	角閃石・長石・石英多量含む	良	灰褐/にぶい褐	—	4.5	III b5?	
1102	830	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	雲母・角閃石多量含む	雲母・角閃石多量含む	良	にぶい褐/灰褐	—	2.9	III f	
1103	763	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石多量含む	角閃石多量含む	良	明赤褐/明褐	—	3.3	III f	
1104	710	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	雲母・角閃石・砂粒多量含む	雲母・角閃石・砂粒多量含む	良	にぶい褐/黒褐	不明	4.3	III	
1105	839	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石微量含む	角閃石微量含む	良	灰黄褐、にぶい黄橙	不明	3.1	III	
1106	773	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石・雲母多量含む	角閃石・雲母多量含む	良	黒褐/黒	不明	3.7	III	
1107	646	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい褐/褐灰	不明	3.7	III	
1108	625	8 T	ST01上部	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	角閃石・雲母多量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	5.4	III	
1109	648	8 T	IVa層	IVa	鉢	ナデ	角閃石・石英多量含む	角閃石・石英多量含む	良	灰褐/黒褐	—	4.0	III	
1110	681	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・石英・径3～5mmの小礫少量含む	角閃石・石英・径3～5mmの小礫少量含む	良	にぶい黄橙	—	5.5	III	
1111	826	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母・角閃石・径2～3mmの小礫多量含む	雲母・角閃石・径2～3mmの小礫多量含む	良	にぶい褐/にぶい橙	—	5.3	III	
1112	725	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母・砂粒多量含む	角閃石・雲母・砂粒多量含む	やや不良	にぶい褐/にぶい褐	—	4.8	III	
1113	843	8 T	IVa層 (IIIb)	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石少量含む	角閃石少量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	4.8	III	
1114	827	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母・砂粒多量含む	角閃石・雲母・砂粒多量含む	良	黒褐/灰褐	—	4.5	III	
1115	626	8 T	ST01上部	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母・角閃石少量含む	雲母・角閃石少量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.2	III	
1116	707	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・長石少量含む	角閃石・長石少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	7.1	III	
1117	745	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母微量含む	角閃石・雲母微量含む	良	にぶい黄/黄褐	—	3.8	III	
1118	719	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	長石・雲母少量含む	長石・雲母少量含む	良	橙/灰褐	—	4.1	III	
1119	754	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石少量含む	角閃石・雲母・長石少量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	4.1	III	
1120	829	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母少量、砂粒多量含む	雲母少量、砂粒多量含む	良	褐灰/にぶい褐	—	2.8	III	
1121	857	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石多量含む	角閃石多量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	4.0	III	
1122	732	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石少量含む	角閃石少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	4.6	III	
1123	305	8 T	IVa-2層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母・径1～3mmの小礫少量含む	雲母・径1～3mmの小礫少量含む	やや不良	黒褐/にぶい赤褐	—	4.3	III	
1124	861	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母・砂粒多量含む	角閃石・雲母・砂粒多量含む	良	黒褐/にぶい褐	—	2.6	III	
1125	819	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・石英少量、径2～4mm小礫多量含む	角閃石・石英少量、径2～4mm小礫多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	2.9	III	
1126	709	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	角閃石・径2～3mmの小礫少量含む	角閃石・径2～3mmの小礫少量含む	良	にぶい赤褐/橙	不明	4.2	III	
1127	692	8 T	IVa層	IVa	鉢	貝殻条痕	石英多量含む	石英多量含む	良	黒褐/にぶい橙	—	2.7	III	
1128	712	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母・角閃石微量含む	雲母・角閃石微量含む	良	灰黄褐/にぶい赤褐	—	3.4	III	
1129	727	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	雲母・石英少量含む	雲母・石英少量含む	良	にぶい黄橙/褐灰	—	2.7	III	
1130	660	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母・角閃石多量含む	雲母・角閃石多量含む	良	灰褐/灰褐	—	2.2	III	
1131	694	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・石英やや多く含む	角閃石・石英やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	2.8	III	
1132	715	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	石英・雲母・角閃石多量含む	石英・雲母・角閃石多量含む	良	灰黄褐/橙	—	3.7	III	
1133	729	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	径2mm程度の小礫多量含む	径2mm程度の小礫多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.1	III	
1134	708	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・石英少量含む	角閃石・石英少量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	4.7	III	
1135	664	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母・角閃石・砂粒少量含む	雲母・角閃石・砂粒少量含む	良	灰黄褐/にぶい橙	—	3.7	III	
1136	304	8 T	IVa-2層	IVa	深鉢	貝殻条痕	雲母微量、径1mm程度の砂粒少量含む	雲母微量、径1mm程度の砂粒少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	3.9	III	
1137	744	8 T	IVa層	IVa	鉢	ナデ	角閃石少量、砂粒多量含む	角閃石少量、砂粒多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい赤褐	—	4.5	III	
1138	852	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石多量含む	角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	3.6	III	
1139	768	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・雲母・長石含む	角閃石・雲母・長石含む	良	にぶい橙/褐灰	—	3.3	III	
1140	769	8 T	IVa層	IVa	深鉢	貝殻条痕	角閃石・砂粒多量含む	角閃石・砂粒多量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	—	3.7	III	
1141	670	8 T	IVa層	IVa	深鉢	ナデ	雲母・角閃石・砂粒多量含む	雲母・角閃石・砂粒多量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	3.4	III	

第30表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表23

標号	測測番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径(cm)	残存高(cm)	分類	備考
						内面	外面							
1142	779	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・長石・角閃石少量含む	良	黒褐色/褐色	—	3.9	III	
1143	860	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	—	3.8	III	
1144	774	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・長石多量含む	良	灰黄褐色/灰黄褐色	—	5.1	III	
1145	736	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	ナデ, 貝殻条痕	角閃石・雲母・長石多量含む	良	黒褐色/にぶい褐色	—	5.8	III	
1146	733	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・長石少量含む	良	明赤褐色/にぶい赤褐色	—	4.2	III	
1147	821	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・径2mm程度の小礫多量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	—	4.0	III	
1148	685	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石微量含む	良	明褐色/褐色	—	4.4	III	
1149	722	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石少量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	—	3.7	III	
1150	678	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石多量含む	良	灰褐色/にぶい黄褐色	—	5.3	III	
1151	793	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石多量含む	良	にぶい黄褐色/灰黄褐色	—	5.0	III	
1152	832	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・石英微量含む	良	にぶい黄褐色/灰黄褐色	—	4.6	III	
1153	739	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・角閃石多量含む	良	灰黄褐色/にぶい黄褐色	—	4.1	III	
1154	675	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・砂粒やや多く含む	良	灰褐色/にぶい赤褐色	—	3.8	III	
1155	836	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	砂粒多量含む	良	黒褐色/褐色	—	2.1	III	
1156	676	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	褐色/にぶい黄褐色	—	3.8	III	
1157	682	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい褐色/黒褐色	—	3.5	III	
1158	691	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・石英・角閃石やや多く含む	良	にぶい赤褐色/にぶい褐色	—	3.5	III	
1159	665	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石多量含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	—	3.4	III	
1160	831	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・石英少量含む	良	褐色/灰褐色	—	4.2	III	
1161	871	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	黒褐色/黒褐色	—	2.7	III	
1162	711	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・石英・長石多量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	—	3.5	III	
1163	875	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・石英少量含む	良	黒褐色/明赤褐色	—	3.1	III	
1164	814	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石少量含む	良	にぶい褐色/褐色	—	3.2	III	
1165	696	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石多量含む	良	にぶい褐色/褐色	—	3.1	III	
1166	643	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	褐色/褐色	—	6.4	III	
1167	638	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石多量含む	良	にぶい褐色/にぶい褐色	—	8.0	III	
1168	752	8 T	個別P14	SS-P14	鉢	胴部	貝殻条痕	雲母多量含む	良	黒褐色/褐色	—	4.0	III	
1169	742	8 T	IVa層	IVa層	鉢	底部付近	貝殻条痕	雲母・角閃石少量含む	良	黒/灰黄褐色	—	1.5	III	
1170	680	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・径2~3mmの小礫少量含む	良	灰黄褐色/褐色	—	3.2	III	
1171	818	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	底部付近	貝殻条痕	角閃石・金雲母多量含む	良	灰黄褐色/褐色	—	3.2	III	
1172	834	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	底部	貝殻条痕	雲母少量, 砂粒多量含む	良	にぶい褐色/褐色	—	2.1	III	底径9.2cm(復元)
1173	844	8 T	IIIb~IVa層	IVa層	深鉢	口縁部 ~胴部	ナデ	角閃石多量含む	良	灰黄褐色/黒褐色	29.6(復元)	15.4		
1174	850	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	口縁部	ナデ, 隆帯貼付	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	不明	5.3		
1175	775	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	胴部	ナデ, 沈線	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	—	3.5		
1176	845	8 T	III層	IVa層	深鉢	口縁部	細文	角閃石・石英多量含む	良	にぶい褐色/黒褐色	—	5.2		1173と同一個体小
1177	695	8 T	IVa層	IVa層	深鉢	底部	ナデ	角閃石・長石・砂粒多量含む	不良	褐色/にぶい褐色	—	2.0		底径10.6cm(復元)
1178	290	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	押型文	雲母・角閃石・径2mm程度の小礫多量含む	良	灰黄褐色/にぶい黄褐色	—	3.0	I c	
1179	225	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	貝殻条痕, 刺突	角閃石・径1mm程度の砂粒多量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	不明	4.9	II a	
1180	226	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	ナデ	角閃石・石英・径1~2mmの砂粒やや多く含む	良	灰黄褐色/にぶい黄褐色	—	4.6	II a	
1181	238	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	ナデ	雲母・石英・長石・径1~3mmの小礫多量含む	良	にぶい褐色/にぶい黄褐色	—	4.6	II a	
1182	265	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	ナデ	角閃石・雲母・径1~2mmの砂粒含む	良	灰黄褐色/褐色	不明	5.0	II a	
1183	246	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	ナデ, 刺突	角閃石・雲母・径1~2mmの砂粒少量含む	良	灰褐色/褐色	—	3.2	II a	
1184	227	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	胴部	貝殻条痕, ナデ	角閃石・雲母・長石少量, 径1~2mmの砂粒多量含む	良	灰褐色/褐色	—	4.5	II a	
1185	233	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	貝殻条痕, 刺突	角閃石多量含む	良	灰黄褐色/にぶい黄褐色	不明	3.8	II b	
1186	228	8 T	IVb層	IVb層	深鉢	口縁部	ナデ, 隆帯貼付	雲母・長石微量, 径1mmの砂粒少量含む	良	にぶい黄褐色/にぶい黄褐色	不明	4.6	II b	

第31表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表24

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
1187	253	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	ナデ, 貝殻条痕, 刺突	胎土	良	黒褐/褐	不明	4.3	IIb	
1188	254	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	ナデ, 刺突	雲母・角閃石・径2~4mmの小礫少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.3	IIb	
1189	293	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 凹点	角閃石・雲母・径2mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	3.8	IIb	
1190	298	8 T	IVb層	IVb	深鉢	ナデ, 貝殻条痕	貝殻条痕, 凹点	角閃石・径1mm程度の砂粒多量含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	3.5	IIb	同一個体か,
1191	292	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	凹点	角閃石多量含む	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	5.8	IIb	
1192	230	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・長石・径1~3mmの小礫少量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	5.4	IIIa1	
1193	237	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・長石・径2~5mm程度の小礫やや多く含む	良	灰褐/灰褐	—	6.1	IIIa1	
1194	244	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.8	IIIa1	
1195	259	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・角閃石・長石・径1~3mmの砂粒含む	良	褐灰/黒褐	—	2.4	IIIa1	
1196	262	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・長石・角閃石・径2~3mmの小礫含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	3.4	IIIa1	
1197	243	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・角閃石・径1~2mmの小礫少量含む	良	黒褐/褐	—	5.6	IIIa1	
1198	268	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	径2mm程度の小礫微量含む	良	褐灰/褐灰	—	2.9	IIIa1	
1199	271	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・径1~2mmの砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.4	IIIa1	
1200	264	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・石英・径1~2mmの砂粒やや多く含む	良	褐/黒褐	—	2.2	IIIa1	
1201	274	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・径1~2mm程度の小礫少量含む	良	灰黄褐/褐	—	4.9	IIIa1	
1202	285	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	金雲母・角閃石多量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	4.5	IIIa1	
1203	286	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・石英少量含む	良	褐灰/にぶい黄橙	—	4.7	IIIa1	
1204	299	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・雲母少量, 径2mm程度の小礫多量含む	良	黒褐/灰黄褐	—	4.4	IIIa1	
1205	220	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石少量, 径1mm程度の砂粒多量含む	良	灰黄褐/にぶい褐	—	9.6	IIIa2	
1206	223	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	沈線(波状文)	角閃石・長石・径1~2mmの小礫少量含む	良	にぶい赤褐/明赤褐	—	12.5	IIIa2	
1207	222	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	沈線(曲線文)	角閃石・長石・径1~2mmの小礫少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.8	IIIa2	1206~08 同一個体か,
1208	221	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	沈線(直線・曲線文)	角閃石・長石・径1~2mmの小礫少量含む	良	にぶい赤褐/明赤褐	—	3.4	IIIa2	
1209	236	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	沈線(直線・曲線文)	雲母・径1~3mm程度の砂粒含む	良	褐灰/黒褐	—	4.6	IIIa2	
1210	261	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・長石・径1~2mmの小礫多量含む	やや 不良	明赤褐/にぶい褐	—	3.6	IIIa2	
1211	266	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕	角閃石・径1~3mm程度の砂粒やや多く含む	良	灰褐/褐灰	—	4.8	IIIa2	
1212	255	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	褐/灰褐	—	2.2	IIIa2	
1213	231	8 T	IVb層	IVb	深鉢	ナデ	隆帯貼付, 刻目	角閃石・雲母・長石やや多く含む	やや 不良	にぶい橙/にぶい褐	不明	3.5	IIIb2	
1214	224	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付 口唇部: 刺突	雲母・角閃石微量, 石英少量含む	良	にぶい赤褐/赤褐	不明	4.9	IIIb3	
1215	251	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・石英・径2mm程度の小礫少量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.7	IIIb3	
1216	248	8 T	IVb層	IVb	深鉢	ナデ	貝殻条痕, 隆帯貼付 つまみ上げ隆帯	雲母・長石・角閃石・径1~3mmの砂粒やや多く含む	良	明褐/にぶい褐	不明	3.6	IIIb4	
1217	239	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	隆帯	雲母・石英・径1~3mm程度の小礫やや多く含む	良	明赤褐/明赤褐	—	3.7	IIIb4	
1218	252	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 隆帯貼付	角閃石・長石少量, 径2~3mmの小礫多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.4	IIIb4	
1219	276	8 T	IVb層	IVb	深鉢	ナデ	隆帯貼付, 刺突	雲母・角閃石多量, 径2~3mmの小礫やや多く含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	4.4	IIIb5	
1220	235	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	ナデ	雲母・角閃石・径1~2mmの小礫少量含む	良	褐/黒褐	不明	3.7	IIIb6	
1221	278	8 T	IVb層	IVb	深鉢	ナデ	ナデ, 刺突	角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい褐/にぶい黄褐	—	2.8	IIIb6	
1222	241	8 T	IVb層	IVb	深鉢	ナデ, 貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・角閃石・径2mm程度の小礫多量含む	良	明褐/灰褐	—	3.2	IIIc1	
1223	242	8 T	IVb層	IVb	深鉢	ナデ, 貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・角閃石・径1mm程度の砂粒含む	良	黒褐/褐	—	3.5	IIIc1	
1224	277	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕, ナデ	ナデ, 貝殻条痕	角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	褐灰/褐灰	不明	2.7	IIIc1	
1225	295	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕, ナデ	口唇部: 凹点	雲母・径2mm程度の小礫少量含む	良	明褐/にぶい褐	—	3.6	IIIc1	
1226	281	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕, ナデ	貝殻条痕, 沈線	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	2.9	IIIc3	
1227	232	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, ナデ, 刺突	雲母・角閃石・径1mm程度の砂粒少量含む	良	黒褐/にぶい橙	—	4.6	III	
1228	240	8 T	IVb層	IVb	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕, 刺突	金雲母・径1~2mmの小礫やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	4.1	III	

第32表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表25

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
1229	245	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	金雲母・白色砂粒多量含む	良	褐/褐	—	4.3	III	
1230	247	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	長石・径1~2mmの砂粒多量含む	良	にぶい黄褐/褐	—	3.6	III	
1231	250	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石多量, 径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい黄褐/黒褐	—	4.2	III	
1232	256	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	金雲母・長石多量含む	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	2.8	III	
1233	257	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石微量含む	良	黒褐/にぶい褐	—	3.5	III	
1234	258	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・径1mm程度の砂粒少量含む	良	褐/褐	—	3.8	III	
1235	260	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母多量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	3.9	III	
1236	267	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石・径2~3mmの小礫少量含む	良	にぶい褐/黒褐	—	3.2	III	
1237	269	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石・石英少量含む	良	にぶい褐/灰褐	—	3.3	III	
1238	270	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・径1~2mmの砂粒少量含む	良	灰黄褐/にぶい橙	—	4.7	III	
1239	272	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・長石微量含む	良	灰褐/にぶい褐	—	4.2	III	
1240	273	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・角閃石多量含む	良	にぶい黄橙/明赤褐	—	4.8	III	
1241	275	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	径1~3mmの砂粒やや多く含む	良	にぶい褐/褐灰	—	4.9	III	
1242	279	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・長石・角閃石・雲母少量含む	良	にぶい褐/明褐	—	2.2	III	
1243	280	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・角閃石・径2~3mmの小礫少量含む	良	暗灰黄/明褐	—	4.8	III	
1244	288	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	径1~2mmの砂粒多量含む	良	褐灰/明褐	—	3.0	III	
1245	287	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石少量, 径2mm程度の小礫多量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	4.2	III	
1246	291	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	石英・長石少量含む	良	褐灰/灰褐	—	2.1	III	
1247	297	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・雲母・径2mm程度の砂粒少量含む	良	黄褐/橙	—	3.6	III	
1248	289	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・径1mm以下の砂粒微量含む	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	2.9	III	
1249	300	8 T	IVb層	IVb	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・石英少量含む	良	黒褐/褐	—	2.6	III	
1250	284	8 T	IVb層	IVb	深鉢	底部	ナデ	角閃石・長石・径1~3mm程度の小礫やや多く含む	良	褐灰/にぶい赤褐	—	2.0	III	
1251	187	8 T	V層	V	深鉢	口縁部	ナデ	雲母・径1~2mmの砂粒多量含む	良	黒褐/黒褐	不明	2.7	IIb	
1252	186	8 T	V層	V	深鉢	口縁部	ナデ	雲母少量, 径1mm程度の砂粒多量含む	良	褐/にぶい褐	不明	7.3	IIb	
1253	189	8 T	V層	V	深鉢	口縁部	ナデ	角閃石・径1mm程度の砂粒やや多く含む	良	灰褐/灰褐	不明	7.4	IIb	
1254	190	8 T	V層	V	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石・径1~5mm程度の砂粒多量含む	良	にぶい褐/黒褐	—	8.3	IIIa1	
1255	191	8 T	V層	V	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石微量, 径1mm程度の砂粒多量含む	良	灰黄褐/灰褐	—	7.6	IIIa1	
1256	192	8 T	V層	V	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石多量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	4.2	IIIa1	
1257	194	8 T	V層	V	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・径2~4mmの小礫やや多く含む	良	褐/灰褐	—	4.1	IIIa1	
1258	193	8 T	V層	V	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石微量, 径1mm程度の砂粒少量含む	良	にぶい褐/にぶい橙	—	6.8	IIIa1	
1259	185	8 T	V層	V	深鉢	口縁部	ナデ	雲母・径1~2mmの砂粒少量含む	良	褐/黒褐	不明	4.8	IIIb2	
1260	188	8 T	V層	V	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・径1~3mmの砂粒多量含む	良	褐/灰褐	—	6.4	IIIb5	
1261	195	8 T	V層	V	深鉢	底部	ナデ	雲母・径1mm程度の砂粒少量含む	良	明赤褐/明赤褐	—	1.6	IIb	
1262	180	8 T	VI層	VI	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石・径1~2mmの小礫含む	良	灰黄褐/にぶい黄橙	—	6.4	IIIa1	
1263	183	8 T	VI層	VI	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石微量含む	良	にぶい黄褐/にぶい褐	—	5.4	IIIa1	
1264	182	8 T	VI層	VI	深鉢	胴部	貝殻条痕	角閃石微量含む	良	灰黄褐/にぶい橙	—	4.7	IIIa1	
1265	181	8 T	VI層	VI	深鉢	底部	ナデ	雲母・径1~2mmの小礫含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	3.8	III	
1266	1159	8 T	SK01	SK01	深鉢	胴部	ナデ	金雲母・石英・砂粒少量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	—	2.8	IIa	
1267	1158	8 T	SK01	SK01	深鉢	胴部	ナデ	雲母少量含む	良	黒褐/褐灰	—	4.1	IIIb3	
1268	1160	8 T	SK01	SK01	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石・砂粒少量含む	良	黒褐/黒褐	—	2.8	IIIb3	
1269	1161	8 T	SK01	SK01	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・角閃石やや多く含む	良	にぶい黄褐/灰黄褐	—	2.9	IIIb3	
1270	1157	8 T	SK01	SK01	深鉢	胴部	貝殻条痕	雲母・砂粒少量含む	良	褐/褐灰	—	3.4	IIIb3	
1271	1154	8 T	SK01	SK01	深鉢	胴部	貝殻条痕	清石・角閃石・金雲母やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	4.5	III	
1272	1153	8 T	SK01	SK01	深鉢	口縁部	ナデ	角閃石微量, 砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい褐	不明	5.2	IVb2	
1273	1152	8 T	SK01	SK01	深鉢	口縁部	ナデ	角閃石・雲母少量, 砂粒含む	良	にぶい赤褐/灰褐	不明	5.3	IVb2	
1274	1155	8 T	SK01	SK01	深鉢	頸部	ナデ	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	3.3	IVb2	
1275	1156	8 T	SK01	SK01	深鉢	底部	ナデ	清石・角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい褐/にぶい赤褐	—	2.6	IVb	底径7.0cm

第33表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表26

標本 番号	測測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	残存部位		器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面	内面	外面							
1276	1166	8 T	SK02		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	貝殻条痕	角閃石多量含む 雲母・砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい橙	—	4.0	IIa	
1277	1180	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	黒褐/にぶい赤褐	—	3.0	IIIa1	
1278	1198	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	黒褐/灰褐	—	4.4	IIIa1	
1279	1179	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・砂粒多量, 角閃石少量含む	良	灰褐/にぶい橙	—	4.3	IIIa1	
1280	1173	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・石英微量, 砂粒少量含む	良	褐灰/灰褐	—	4.9	IIIa2	
1281	1185	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母・砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	4.9	IIIb7	
1282	1197	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	砂粒少量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.6	IIIb7	
1283	1163	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・石英・砂粒多量含む	良	にぶい褐/灰褐	—	3.8	IIIb1	
1284	1167	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・砂粒多量含む	良	にぶい橙/にぶい橙	—	2.8	IIIb7	
1285	1202	8 T	SK02		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	隆帯貼付	長石・雲母多量含む	良	黒褐/黒褐	不明	2.7	IIIb7	
1286	1175	8 T	SK02		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	隆帯貼付	角閃石・石英微量, 砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/灰黄褐	不明	2.4	IIIb3	
1287	1165	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい橙/にぶい黄褐	—	3.4	IIIb3	
1288	1162	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	隆帯貼付	雲母・石英少量, 砂粒多量含む	良	灰黄褐/黒褐	—	3.7	IIIb3	
1289	1174	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石少量, 径2mm程度の小礫多量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	4.1	IIIb3	
1290	1196	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	石英・角閃石少量, 砂粒多量含む	良	にぶい黄褐/褐灰	—	2.6	IIIb3	
1291	1199	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	隆帯貼付	雲母・石英・角閃石多量含む	良	にぶい褐/褐灰	—	4.2	IIIb3	
1292	1195	8 T	SK02		深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	隆帯貼付	石英・砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/褐灰	不明	2.9	IIIb4	
1293	1190	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	隆帯貼付	雲母・砂粒少量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.8	IIIb4	
1294	1164	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	隆帯貼付	角閃石・雲母やや多く含む	良	灰黄褐/褐灰	—	3.4	IIIb4	
1295	1184	8 T	SK02		深鉢	口縁部	貝殻条痕	ナデ	ナデ, 沈線, 刺突	雲母・砂粒やや多く含む	良	褐灰/褐灰	18.0 (復元)	4.6	IIId3	
1296	1182	8 T	SK02		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	隆帯貼付, 刺突	雲母・角閃石・石英少量含む	良	褐灰/褐灰	—	2.7	IIIb5	
1297	219	8 T	IVb層 SK02	IVb	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	隆帯貼付, 刺突 押圧, 波状文	角閃石・雲母・長石・径1~3mmの小礫多量含む	良	褐灰/にぶい褐	48.0 (復元)	28.8	IIIb5	
1298	1168	8 T	SK02		深鉢	口縁部	貝殻条痕	ナデ	ナデ, 押引文	雲母微量, 砂粒多量含む	良	にぶい褐/にぶい褐	3.3	IIIb6		
1299	1181	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	ナデ, 沈線	石英・砂粒多量, 角閃石・雲母少量含む	良	褐灰/褐灰	4.3	IIIb6		
1300	1194	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕, 押引文	石英・雲母微量, 砂粒やや多く含む	良	にぶい橙/にぶい褐	2.3	IIIb7		
1301	1176	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	ナデ, 刺突	砂粒多量含む	良	褐灰/黒褐	2.8	IIIb7		
1302	1192	8 T	SK02		深鉢	口縁部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕, 押引文	径2mm程度の小礫少量含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	不明	3.8	IIIb7	
1303	1171	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	刺突文	雲母・砂粒少量含む	良	褐灰/灰褐	2.5	IIIb7		
1304	1172	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・石英・砂粒微量含む	良	褐灰/にぶい赤褐	3.3	III		
1305	1177	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	雲母多量, 角閃石少量含む	良	にぶい黄褐/黒褐	—	2.5	III	
1306	1178	8 T	SK02		深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	口唇部: 刻目	石英・角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい褐/褐灰	不明	2.0	III	
1307	1191	8 T	SK02		深鉢	口縁部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	不明	3.0	III	
1308	1193	8 T	SK02		深鉢	口縁部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	角閃石・長石やや多く含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	不明	3.0	III	
1309	1189	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	角閃石・雲母・砂粒少量含む	良	灰黄褐/にぶい褐	—	3.4	III	
1310	1201	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	石英・砂粒多量含む	良	灰褐/にぶい褐	—	3.7	III	
1311	1200	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	石英・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/にぶい赤褐	—	4.1	III	
1312	1183	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	雲母・角閃石・砂粒多量含む	良	灰褐/明褐	—	5.7	III	
1313	1187	8 T	SK02		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	ナデ, 沈線	石英・雲母・砂粒少量含む	良	灰黄褐/褐灰	—	3.1	III	
1314	1204	8 T	SK02		鉢	底部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	褐灰/褐灰	2.7	III		
1315	1188	8 T	SK02		鉢	底部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	黒褐/灰黄褐	—	1.7	III	
1316	1206	8 T	SK03		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	金雲母・石英やや多く含む	良	にぶい黄橙/褐灰	—	3.2	III	
1317	1205	8 T	SK03		深鉢	胴部	貝殻条痕	ナデ	貝殻条痕	角閃石・石英やや多く含む	良	灰褐/にぶい褐	—	4.3	III	
1318	1217	8 T	ST01		深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	貝殻条痕	角閃石・長石多量含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	不明	3.0	IIa	
1319	1225	8 T	ST01		深鉢	胴部	ナデ	ナデ	貝殻条痕	角閃石・石英・雲母やや多く含む	良	褐/黒褐	—	2.9	IIa	
1320	1212	8 T	ST01		深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	石英多量含む	良	にぶい褐/灰褐	—	4.6	IIIa1	
1321	1213	8 T	ST01		深鉢	胴部	貝殻条痕	貝殻条痕	貝殻条痕	角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい赤褐/褐灰	—	3.2	IIIa1	

第34表 轟貝塚第12・13次調査出土土器・土製品観察表27

標図 番号	実測 番号	出土地点	遺構・層位	基本層位	器種	器面調整		胎土	焼成	色調(内面/外面)	口径 (cm)	残存高 (cm)	分類	備考
						内面	外面							
1322	1209	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・石英・径2~3mmの小礫少量含む	良	にぶい褐/灰黄褐	—	6.4	IIIa1	
1323	1218	8 T	ST01		胴部	貝殻条痕		角閃石・石英・雲母やや多く含む	良	褐/褐	—	8.6	IIIa1	
1324	1216	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		石英・角閃石少量, 砂粒少量含む	良	黒褐/にぶい褐	—	3.4	IIIa1	
1325	1219	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・石英微量, 砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/黒褐	—	4.8	IIIa1	
1326	1220	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		雲母・角閃石微量, 砂粒少量含む	良	黒褐/褐	—	5.1	IIIa1	
1327	1232	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・長石少量含む	良	黒褐/黒褐	—	3.9	IIIa1	
1328	1224	8 T	ST01		口縁部	貝殻条痕, 沈線		角閃石・雲母・石英含む	良	にぶい褐/にぶい橙	不明	3.7	IIIa1	
1329	1237	8 T	ST01		胴部	貝殻条痕		角閃石・雲母・長石含む	良	褐/黒褐	—	3.0	IIIa1	
1330	1234	8 T	ST01		口縁部	貝殻条痕		角閃石・雲母・長石含む	良	褐灰/橙	不明	3.5	IIIa2	
1331	1215	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・石英・雲母・砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/にぶい褐	—	4.5	IIIa2	
1332	1227	8 T	ST01		胴部	隆帯貼付, 刺突		雲母・砂粒多量含む	良	明赤褐/明赤褐	—	3.0	IIIb1	
1333	1235	8 T	ST01		口縁部	ナデ		角閃石・雲母・長石含む	良	褐灰/褐灰	不明	3.7	IIIb1	
1334	1236	8 T	ST01		深鉢	隆帯貼付		角閃石・金雲母・石英含む	良	灰褐/褐灰	—	2.5	IIIb3	
1335	1229	8 T	ST01		胴部	貝殻条痕, 隆帯貼付		角閃石・砂粒少量含む	良	にぶい黄橙/褐灰	—	4.0	IIIb3	
1336	1223	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕, つまみ上げ隆帯		砂粒少量含む	良	にぶい橙/褐灰	—	2.8	IIIb6	
1337	1239	8 T	ST01		鉢	貝殻条痕, ナデ		角閃石・雲母・長石含む	良	にぶい黄褐/にぶい黄褐	—	2.9	IIIb7	
1338	1221	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・金雲母少量, 小礫微量含む	良	にぶい橙/褐	—	2.6	IIIb7	
1339	1214	8 T	ST01		深鉢	ナデ		石英やや多く含む	良	にぶい黄橙/にぶい黄橙	—	3.6	IIIb7	
1340	1228	8 T	ST01		鉢	貝殻条痕		角閃石微量, 小礫やや多く含む	良	にぶい褐/にぶい褐	不明	2.4	III	
1341	1207	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石少量含む	良	褐灰/にぶい橙	—	5.1	III	
1342	1211	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・砂粒多量含む	良	褐/灰褐	—	4.2	III	
1343	1222	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・雲母・長石含む	良	褐/灰褐	—	4.3	III	
1344	1238	8 T	ST01		口縁部	貝殻条痕, 刻目		砂粒少量含む	良	にぶい黄褐/黒	不明	2.1	III	
1345	1226	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・砂粒多量含む	良	灰黄褐/にぶい黄褐	—	4.6	III	
1346	1231	8 T	ST01		深鉢	貝殻条痕		角閃石・小礫少量含む	良	灰褐/褐	—	3.5	III	
1347	1230	8 T	ST01		底部付近	貝殻条痕		角閃石少量含む	良	灰黄褐/灰黄褐	—	4.0	III	
1348	1210	8 T	ST01		底部	貝殻条痕		石英・砂粒多量含む	良	褐灰/褐灰	—	2.4	III	底径4.1cm

第35表 轟貝塚第12・13次調査出土遺物（石器・石製品・土製品・骨角器・貝製品）観察表 1

挿図 番号	実測 番号	出土地点	層位	基本 層序	器種	分類	材質	計 測 値				備 考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
765	1385	6 T	5層		土錘	—	粘土・角閃石・ 石英含む	2.9	1.0	—	2.1	土製品
1349	66	1 T	II層	II	石鏃	I a	安山岩	1.9	1.8 (復元)	0.35	4.0	一部欠損
1350	92	1 T	II層	II	石鏃	I c	安山岩	2.1	1.5	0.4	1.1	
1351	105	1 T	カクラン	I	石鏃	II a	黒曜石	2.2	1.4	0.6	0.7	
1352	82	1 T	II層	II	石鏃	II b	安山岩	2.5	1.9	0.5	1.0	
1353	113	1 T	II～IIIa層	II	石匙	II a	安山岩	6.3	3.2	0.85	20	
1354	116	1 T	II層	II	磨石・敲石	II b	安山岩	10.2	8.1	6.8	650	亀裂あり(被熱か)
1355	45	1 T	表土	I	磨石・敲石	II b	安山岩	13.8	8.6	6.6	1040	全体平滑,両端部打痕あり 片面に被熱の痕跡 一面が特に磨滅して扁平化 打痕なし
1356	51	1 T	II層	II	磨石	II a	安山岩	5.3	4.5	4.1	180	
1357	117	1 T	II層	II	磨石・敲石 石錘	II a	安山岩	5.4	4.3	3.8	120	
1358	81	1 T	II層	II	砥石	I	安山岩	13.9	5.3	3.2	240	石斧に似た細長い石の各所が局部的 に磨滅
1359	148	2 T	1～2層	I	石鏃	I c	黒曜石	1.7	1.5	0.6	0.5	
1360	163	2 T	II層	II	石鏃	II a?	安山岩	2.4	1.9	6.5	2.6	
1361	165	2 T	II層	II	磨製石斧	I b	泥岩	8.5	2.8	—	65	被熱による亀裂・欠損多い 全体磨滅,使用による不定形な凹み 複数あり
1362	151	2 T	1～2層	I	砥石	I	蛇紋岩	11	2.8	2.3	103	
1363	164	2 T	II層	II	砥石	I	片岩	8.6	3.0	2.3	112	全面が不定形に磨滅
1364	166	2 T	II層	II	磨石・敲石	I a	安山岩	5.6	5.1	3.4	130	両面に磨痕,側面の一部に打痕集中
1365	162	2 T	II層	II	磨石・敲石	II a	安山岩	6.1	4.9	—	150	全体磨滅,一部敲打痕あり
1366	149	2 T	1～2層	I	磨石・敲石	II b	安山岩	13.7	7.5	6.4	890	全面磨滅,広範囲に敲打痕あり
1367	150	2 T	1～2層	I	敲石・石錘	I	安山岩	7.4	10.1	3.9	375	敲石→石錘 転用か
1368	140	2 T	1～2層	I	敲石	III	安山岩	12.2	4.1	2.9	180	打面を除く全面が磨滅
1369	1321	3 T	IIb層	II	石鏃	I b	黒曜石	1.7	1.6	0.4	0.6	
1370	1307	3 T	I～II層	I	石鏃	II b	安山岩	2.9	1.3	3.0	0.65	
1371	1315	3 T	2層	II b	石鏃	II b	安山岩	2.7	1.9	4.5	1.4	
1372	1328	3 T	IIb～IVa層	II b	石鏃	II c	安山岩	2.5	1.6	0.4	1.2	
1373	1303	3 T	1～2層	I	石匙	I a	安山岩	4.4	6.0	1.3	22	
1374	1308	3 T	1～2層	I	石匙	I b	安山岩	3.9	5.0	9.0	12	
1375	1306	3 T	I～II層	I	磨製石斧	I a	蛇紋岩	8.0	3.5	1.3	55	
1376	1265	3 T	表土	I	磨製石斧	I a	安山岩	7.8	6.0	2.4	160	刃部先端のみ残存
1377	1327	3 T	カクラン	I	磨製石斧	II a	安山岩	7.5	4.1	1.1	46	
1378	1314	3 T	2層	II	磨製石斧	II a	蛇紋岩	8.2	4.1	1.4	59	
1379	1313	3 T	2層	II	磨製石斧	I a	蛇紋岩	10.6	4.8	1.6	120	
1380	1322	3 T	2～3層	II	磨製石斧	II a	蛇紋岩	13.7	6.8	1.9	190	
1381	1304	3 T	I～II層	I	磨石・敲石	I a	安山岩	6.3	5.4	3.4	175	
1382	1269	3 T	1～2層	I	磨石・敲石	I a	安山岩	11.1	9	4.6	650	
1383	1267	3 T	表土	I	磨石・敲石	I b	安山岩	7.5	7.5	2.5	352	
1384	1326	3 T	IIb層	II	磨石・敲石	II a	安山岩	5.0	4.1	2.4	880	
1385	1305	3 T	I～II層	I	敲石	II b	安山岩	13.4	7.9	5.3	892	
1386	1266	3 T	表土	I	石皿		安山岩	15.4	7.6	5.1	766	
1387	1268	3 T	1～2層	I	凹石		角閃石安山岩	11	12.6	4.8	600	側面に敲打痕,敲石としても使用か
1388	1309	3 T	1～2層	I	石核		安山岩	13.9	10.7	5.7	1005	石皿を転用か
1389	445	3 T	IVa層	IV a	石鏃	I a	安山岩	3.0	2.2	0.4	2.0	
1390	443	3 T	IVa層	IV a	石鏃	I c	安山岩	1.7	1.7	0.4	0.9	
1391	422	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II a	安山岩	1.8	1.5	0.3	0.65	
1392	452	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II a	安山岩	2.4	1.6	0.4	1.2	
1393	453	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II b	安山岩	2.4	1.9	0.3	0.995	
1394	469	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II b	黒曜石	2.5	1.9	0.4	1.1	
1395	444	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II b	安山岩	2.7	2.2	0.6	1.05	
1396	430	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II b	黒曜石	2.9	1.5	0.5	1.5	
1397	437	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II b	安山岩	2.3	1.7	0.4	0.7	
1398	442	3 T	IVa層	IV a	石鏃	II c	安山岩	1.9	1.4	2.0	0.48	
1399	338	3 T	IVa層	IV a	磨製石斧?	I b	安山岩	7.2	2.6	1.7	36	石斧に似た小形磨製石器 砥石の可能性?
1400	451	3 T	IVa層	IV a	磨製石斧	I a	蛇紋岩	7.5	3.6	1.1	47	
1401	881	3 T	IIIb層下半	III b	双角状礫器		安山岩	7.4	5.4	2.1	95	
1402	336	3 T	IVa層	IV a	石匙	I b	安山岩	5.4	7.9	1.0	35.8	
1403	454	3 T	IVa層	IV a	削器	I	安山岩	5.9	3.7	1.0	20	
1404	439	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	I a	砂岩	9.3	7.4	3.8	400	
1405	441	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	I a	多孔質安山岩	6.7	5.8	2.9	110	
1406	457	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	I a	安山岩	6.4	5.2	2.2	108	
1407	425	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	I b	多孔質安山岩	6.5	4.6	2.7	95	
1408	424	3 T	IVa層	IV a	磨石	I b	砂岩	5.9	5.1	2.4	95	打痕なし 敲石としては大型だが 側面に打痕あり
1409	434	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	I b	凝灰岩	13.5	10.7	4.9	864	
1410	459	3 T	IVa層	IV a	磨石	II a	安山岩	6.0	4.5	4.0	155	
1411	446	3 T	IVa層	IV a	磨石	II a	砂岩	4.6	4.2	1.7	62	
1412	450	3 T	IVa層	IV a	敲石	II a	凝灰岩	5.9	4.8	4.1	108	
1413	475	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	II a	砂岩	5.0	4.5	3.6	105	
1414	333	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	II a	安山岩	4.3	4.3	3.8	105	
1415	334	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	II b	安山岩	6.3	4.1	2.9	110	
1416	427	3 T	IVa層	IV a	敲石	II b	安山岩	4.9	4.3	3.6	107	
1417	449	3 T	IVa層	IV a	磨石・敲石	II b	安山岩	7.6	4.7	3.7	195	

第36表 轟貝塚第12・13次調査出土遺物（石器・石製品・土製品・骨角器・貝製品）観察表2

挿図 番号	実測 番号	出土地点	層位	基本 層序	器種	分類	材質	計 測 値				備 考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
1418	426	3 T	IVa層	IVa	磨石・敲石	IIc	安山岩	6.2	4.9	3.9	130	
1419	433	3 T	IVa層	IVa	石皿		安山岩	11.3	10.7	2.7	348	
1420	432	3 T	IVa層	IVa	石皿		安山岩	14.4	8.1	4.1	720	
1421	436	3 T	IVa層	IVa	石皿		安山岩	20.1	19.8	3.6	2300	3 T-3Gr. 個別取上No. 539
1422	429	3 T	IVa層	IVa	砥石	II	安山岩	5.4	8.8	2.5	235	
1423	431	3 T	IVa層	IVa	砥石	II	砂岩	7.8	11.2	1.7	240	
1424	455	3 T	IVa層	IVa	砥石	II	砂岩	5.2	4.2	1.8	4.5	
1425	421	3 T	IVa層	IVa	砥石	II	安山岩	8.9	7.7	2.5	180	
1426	420	3 T	IVa層	IVa	砥石	II	凝灰岩	10.6	6.8	1.8	79.3	
1427	440	3 T	IVa層	IVa	砥石	III	安山岩	4.9	10.1	3.3	193	
1428	447	3 T	IVa層	IVa	砥石	III	安山岩	6.7	5.1	4.3	140	
1429	456	3 T	IVa層	IVa	凹石	III	安山岩	6.1	4.3	2.8	98	
1430	448	3 T	IVa層	IVa	石錘	I	安山岩	4.4	5.5	2.2	70	
1431	337	3 T	IVa層	IVa	双角状礫器		安山岩	5.7	5.1	1.2	35	
1432	435	3 T	IVa層	IVa	双角状礫器		蛇紋岩	10.7	8.9	1.5	127	
1433	335	3 T	IVa層	IVa	双角状礫器		安山岩	11.3	9.9	3.9	410	
1434	458	3 T	IVa層	IVa	双角状礫器		安山岩	11.8	9.1	3.3	329	
1435	460	3 T	IVa層	IVa	双角状礫器		安山岩	11.4	10.6	3.6	400	
1436	479	3 T	IVa層	IVa	不明石製品		砂岩	8.9	2.8	1.1	35	全体磨滅
1437	438	3 T	IVa層	IVa	大珠?		ヒスイ	1.9	0.8	0.8	1.4	石斧に似るが先端は刃部なし
1438	206	3 T	IVb層	IVb	石鏃	IIc	黒曜石	2.0	1.7	0.4	1.2	大珠又は球状耳飾か
1439	208	3 T	IVb層	IVb	磨石	IIa	安山岩	5.5	4.4	3.3	115	
1440	207	3 T	IVb層	IVb	石匙	Ib	黒曜石	3.5	3.8	1.0	10.7	約1/3欠損
1441	213	3 T	IVb層	IVb	石匙	I	安山岩	4.1	6.6	1.2	28	未成品
1442	209	3 T	IVb層	IVb	打製石斧?		安山岩	4.0	4.1	1.7	33	先端部のみ残存
1443	1346	4 T	II~IVa層	II	石鏃	IIa	黒曜石	2.1	1.6	0.6	1.75	
1444	1347	4 T	II~IVa層	IIb	石鏃	IIa	安山岩	2.7	1.8	0.4	1.42	
1445	1348	4 T	II~IVa層	IIb	石鏃	IIb	安山岩	2.5	1.7	0.25	0.85	
1446	1349	4 T	II~IVa層	IIb	石鏃	IIb	安山岩	3.7	1.9	0.6	1.5	
1447	1345	4 T	II~IVa層	II	石鏃	IIc	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.4	
1448	1350	4 T	II~IVa層	IIb	石鏃	IIc	安山岩	1.9	1.4	0.4	0.6	
1449	1358	4 T	IIb, IVa	IIb	石匙	Ib	安山岩	2.2	5.6	6.0	5.2	
1450	1343	4 T西部	1~2層	I	磨石・敲石	Ia	安山岩	8.6	7.2	4.3	405	
1451	1330	4 T西部	1~2層	I	不明石製品		石英質砂岩	4.0	2.0	1.6	22	全面に擦過痕のある円柱形の石器 用途不明
1452	913	4 T	IIIb層上半	IIIb	有孔石製品		砂岩	2.6	2.1	0.3	1.95	垂飾か
1453	564	4 T	IVa層	IVa	石鏃	Ic	安山岩	1.7	1.7	5.0	0.8	
1454	565	4 T	IVa層	IVa	石鏃	IIb	安山岩	3.7	2.4	8.0	5.6	
1455	567	4 T	IVa層	IVa	石鏃	IIb	安山岩	3.5	1.9	0.5	1.6	
1456	496	4 T	IVa層	IVa	石鏃	IIc	安山岩	2.4	1.7	0.4	1.3	加工はほぼ片面のみ
1457	568	4 T	IVa層	IVa	石鏃	II	安山岩	3.6	2.0	0.7	3.9	未成品
1458	561	4 T	IVa層	IVa	石鏃	IIIb	黒曜石	1.4	1.8	0.4	0.65	
1459	499	4 T	IVa層	IVa	石匙	Ib	安山岩	2.7	1.7	5.0	2.35	未成品か
1460	497	4 T	IVa層	IVa	石匙	Ib	安山岩	3.5	2.3	0.6	32	
1461	500	4 T	IVa層	IVa	石匙	I	安山岩	7.1	2.7	1.3	251	ツマミが欠損した石匙の未成品か
1462	544	4 T	IVa層	IVa	削器	I	安山岩	9.2	3.1	2.9	25	
1463	498	4 T	IVa層	IVa	削器	II	安山岩	5.9	2.4	0.8	7.4	
1464	569	4 T	IVa層	IVa	不明石製品	Ia	砂岩	3.4	2.6	1.0	11.1	小型の磨製石斧状
1465	554	4 T	IVa層	IVa	磨石	IIa	砂岩	6.6	5.5	4.5	185	亀裂あり(被熱か)
1466	555	4 T	IVa層	IVa	磨石・敲石	Ic	安山岩	8.2	5.3	2.3	126	
1467	196	4 T	V層	V	石鏃	II	安山岩	3.9	2.6	1.0	7.4	未成品か
1468	1149	4 T	SK01 1層		石皿		安山岩	12.5	8.5	3.7	3500	
1469	952	5 T	IIIb~IVa層	IIIb	石鏃	IIa	安山岩	2.8	1.6	0.3	1.1	
1470	1361	5 T	層位不明	I	石鏃	IIc	安山岩	2.0	1.4	3.5	0.59	
1471	951	5 T	IIIb~IVa層	IIIb	石鏃	IIc	黒曜石	3.1	1.6	4.0	1.2	
1472	1363	5 T	IIb~IVa層	II	石匙	Ib	安山岩	3.4	8.2	0.9	15.7	
1473	949	5 T	IIIb層	IIIb	敲石	IIa	安山岩	4.7	4.8	4.3	133	
1474	945	5 T	IIIb層	IIIb	磨石	IIa	安山岩	2.7	1.4	1.7	15.7	
1475	613	5 T	IVa層	IVa	石鏃	IIb	安山岩	3.0	1.9	0.4	1.2	
1476	617	5 T	IVa層	IVa	石鏃	IIb	黒曜石	2.6	1.6	3.5	0.91	
1477	616	5 T	IVa層	IVa	磨石	Ia	安山岩	4.0	4.2	1.3	35	
1478	615	5 T	IVa層	IVa	磨石	Ia	安山岩	3.6	3.2	1.9	30.2	
1479	595	5 T	IVa層	IVa	不明石製品		凝灰岩	3.6	3.9	1.9	18.1	凹線状の凹み(刻み?) 複数あり
1480	614	5 T	IVa層	IVa	不明石製品		安山岩	1.2	2.0	1.4	2.8	穿孔あり, 大珠又は石笛か
1481	622	5 T	IVa層	IVa	磨石・敲石		安山岩	11.1	7.5	5.3	676	個別取上S75
1482	582	5 T	IVa層	IVa	磨石	IIb	砂岩	8.9	5.7	4.4	320	
1483	597	5 T	IVa層	IVa	磨石	IIa	安山岩	5.5	4.2	1.5	31.3	大半を欠損, 明確な打痕はなく被熱 に伴う割れとみられる
1484	1365	6 T	SP02		磨製石斧	IIa	蛇紋岩	6.1	3.9	1.2	35.6	
1485	1383	6 T	3~5層		局部磨製石斧	IIa	泥岩	7.2	4.1	1.0	43	
1486	1380	6 T	5層		磨製石斧	IIb	蛇紋岩	10.7	2.2	2.4	133	
1487	1384	6 T	5層		石皿		安山岩	23.5	14	3.6	1200	
1488	1382	6 T	5層		双角状礫器		安山岩	7.7	7.4	1.8	104	
1489	1381	6 T	5層		双角状礫器		安山岩	9.1	11.4	3.7	450	
1490	972	8 T	IIIa層	IIIa	石鏃	IIb	安山岩	2.1	1.6	4.0	0.8	
1491	968	8 T	IIIa層	IIIa	石鏃	IIb	安山岩	2.3	1.5	5.0	1.1	

第37表 轟貝塚第12・13次調査出土遺物（石器・石製品・土製品・骨角器・貝製品）観察表3

挿図 番号	実測 番号	出土地点	層位	基本 層序	器種	分類	材質	計 測 値				備 考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
1492	974	8 T	Ⅲa層	Ⅲa	石鏃	Ⅱc	安山岩	2.2	1.5	0.4	0.7	
1493	973	8 T	Ⅲa層	Ⅲa	石鏃	Ⅱc	安山岩	2.0	1.5	0.5	0.9	
1494	967	8 T	Ⅲa層	Ⅲa	石匙	I b	安山岩	4.4	4.7	7.0	15	
1495	1076	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	I a	安山岩	2.1	2.0	4.0	1.3	
1496	1072	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	I a	黒曜石	1.9	1.8	4.0	1.3	
1497	1129	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	I b	安山岩	1.5	1.5	0.4	0.5	
1498	1240	8 T	ST01	Ⅲb	石鏃	I b	安山岩	2.2	1.9	0.4	1.0	
1499	1070	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	I c	黒曜石	2.0	1.7	4.0	1.0	片側の刃部が未調整, 未成品か
1500	1127	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	Ⅱa	黒曜石	1.9	1.4	0.5	0.8	
1501	1073	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	Ⅱa	黒曜石	2.0	1.4	5.0	1.1	
1502	1130	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	Ⅱb	安山岩	2.0	1.3	0.4	0.8	
1503	1071	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	Ⅱb	安山岩	2.7	1.7	4.0	0.8	
1504	1109	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	Ⅱb	安山岩	3.1	2.6	0.5	2.1	
1505	1075	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	Ⅱ	安山岩	2.7	2.3	9.0	4.6	未成品か
1506	1074	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石鏃	Ⅱc	安山岩	2.1	1.4	5.0	0.8	
1507	1077	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	削器	Ⅱ	安山岩	5.7	3.0	1.1	17.5	未成品か
1508	1088	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	敲石	I a	凝灰岩	8.9	7.7	4.5	315	
1509	1144	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	磨石	Ⅱa	安山岩	9.4	8.9	6.0	725	
1510	1069	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	磨石	Ⅱb	砂岩	6.2	4.5	4.0	150	
1511	1146	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	砥石	Ⅱ	安山岩	10.4	10.2	4.6	655	
1512	1078	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	不明石製品		蛇紋岩	5.3	1.8	0.8	11.5	全体が平滑
1513	1128	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	磨石・敲石	Ⅲ	安山岩	5.0	4.3	4.1	100	
1514	1145	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	砥石	Ⅲ	安山岩	10.3	7.4	7.0	650	
1515	1141	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	砥石	Ⅲ	安山岩	11.2	7.7	5.1	535	個別取上S7
1516	1142	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	砥石	Ⅱ	安山岩	7.2	6.7	3.2	279	
1517	1140	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	石錘	I	安山岩	8.9	5.2	3.1	150	
1518	1143	8 T	Ⅲb層	Ⅲb	双角状礫器		安山岩	8.4	9.2	3.2	245	
1519	876	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	I b	安山岩	2.6	2.4	5.5	1.7	
1520	790	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	I c	黒曜石	2.2	1.7	0.6	0.95	
1521	746	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	安山岩	2.6	1.7	0.4	1.0	
1522	758	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	黒曜石	1.8	1.6	0.4	0.75	
1523	747	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	黒曜石	1.8	1.5	3.0	0.5	
1524	642	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	黒曜石	1.9	1.4	0.3	0.6	
1525	805	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	黒曜石	1.5	1.3	0.3	0.4	
1526	756	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	黒曜石	2.0	1.3	0.3	0.5	
1527	804	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	安山岩	2.5	1.8	0.4	0.9	
1528	785	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱc	チャート	1.8	1.5	0.3	0.6	
1529	783	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	安山岩	2.3	1.6	0.3	0.7	
1530	784	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	黒曜石	1.7	1.2	0.4	0.5	
1531	669	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱb	安山岩	1.8	1.5	0.4	0.7	
1532	757	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱc	安山岩	2.2	1.6	0.35	0.7	
1533	787	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱc	安山岩	2.7	1.7	4.0	1.3	
1534	788	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石鏃	Ⅱ	安山岩	3.8	2.0	0.9	4.7	
1535	786	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	削器	I	安山岩	3.7	2.4	8.0	7.7	
1536	698	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	削器	I	安山岩	6.4	1.9	0.8	6.2	
1537	791	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	磨石・敲石	I a	安山岩	5.8	4.9	3.7	145	
1538	1251	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	磨石・敲石	I a	安山岩	9.5	9.0	5.4	635	
1539	1243	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	磨石・敲石	I a	安山岩	5.7	5.5	3.5	124	
1540	771	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	磨石	I a	安山岩	4.5	3.5	1.9	36	
1541	699	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	磨石・敲石	I a	安山岩	10.1	9.3	4.5	662	
1542	697	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	磨石・敲石	Ⅱa	安山岩	5.1	4.6	4.1	120	
1543	1250	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	敲石	Ⅱc	安山岩	5.6	5.2	4.0	155	
1544	789	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	磨石・敲石	Ⅲ	安山岩	11.2	4.1	3.4	220	全面研磨, 先端部に打痕あり
1545	1253	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	砥石	Ⅱ	安山岩	9.8	9.6	3.0	556	
1546	1252	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	砥石	Ⅱ	安山岩	8.9	12.2	3.0	405	
1547	1245	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	石錘	I	安山岩	10.9	7.9	3.0	332	
1548	1242	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	双角状礫器		安山岩	9.6	8.5	3.2	260	
1549	1249	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	凹石		安山岩	7.6	8.7	4.3	295	一面に磨滅による凹みあり
1550	1244	8 T	Ⅳa層	Ⅳa	凹石		安山岩	7.0	4.1	2.5	85	
1551	300 -2	8 T	Ⅳb層	Ⅳb	石鏃	Ⅱc	安山岩	2.3	1.6	3.0	0.6	
1552	229	8 T	Ⅳb層	Ⅳb	磨石	Ⅱa	安山岩	6.0	5.2	4.0	175	
1553	234	8 T	Ⅳb層	Ⅳb	磨石・敲石	Ⅱb	安山岩	5.5	4.7	3.7	135	
1554	184	8 T	Ⅵ層	Ⅵ	磨石・敲石	Ⅱb	安山岩	4.8	4.7	3.5	90	
1555	1151	8 T	SK01		石匙	Ⅱb	安山岩	5.1	6.1	1.8	28.3	
1556	1170	8 T	SK02		削器	Ⅱ	安山岩	4.5	3.3	0.9	8.0	
1557	1169	8 T	SK02		磨石	I c	安山岩	4.5	5.9	2.1	85	半分程欠損
1558	1203	8 T	SK02		敲石	Ⅱb	安山岩	5.7	4.3	3.3	92	
1559	1208	8 T	ST01		磨石・敲石	I b	安山岩	10.3	8.5	5.8	730	
1560	1411	トレンチ外	表採	I	石鏃	I b	安山岩	1.8	2.1	0.5	1.4	
1561	1414	トレンチ外	表採	I	石鏃	I b	黒曜石	1.4	1.6	3.0	0.3	
1562	1416	トレンチ外	表採	I	石鏃	Ⅱb	安山岩	2.4	1.7	0.3	0.9	
1563	1412	トレンチ外	表採	I	石鏃	Ⅱb	安山岩	2.3	1.9	0.3	1.0	
1564	1264	トレンチ外	表採	I	磨石	I b	安山岩	11	8.4	4.8	678	
1565	1418	トレンチ外	表採	I	石皿		安山岩	32.6	22.6	9.2	7600	
1566	1410	トレンチ外	表採	I	双角状礫器		安山岩	10.8	9.3	3.7	465	
1567	1325	3 T	Ⅱb層	Ⅱb	貝輪		サルボウ	8.5	9.9	3.2	57	

第38表 轟貝塚第12・13次調査出土遺物（石器・石製品・土製品・骨角器・貝製品）観察表4

挿図 番号	実測 番号	出土地点	層位	基本 層序	器種	分類	材質	計 測 値				備 考
								長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
1568	1354	4 T	I～II層	I	貝輪		サルボウ	6.7	8.8	2.5	37	
1569	1353	4 T	I～II層	I	貝輪		サルボウ	8.5	9.7	3.7	85	
1570	1352	4 T	2層	II	貝輪		サルボウ	6.8	7.8	2.9	30.5	
1571	955	5 T	IIIa層	IIIa	貝輪		カキ	11.4	15	1.5	45	
1572	1136	8 T	IIIb・IVa層	IIIb	貝輪		アカニシ?	8.3	5.2	3.0	40	
1573	1415		表採	I	貝輪		サルボウ	8.4	9.0	3.6	85	
1574	83	1 T	II層	II	骨製品		獣骨	2.8	1.5	0.55	2.2	穿孔あり 垂飾か
1575	1241	8 T	V層	V	不明骨製品		獣骨	1.8	5.8	3.0	5.0	
1576	1419	4 T	SK01 2層	(IVa)	貝玉?		ヤカドツノガイ	5.3	3.0	2.4		SK01覆土サンプル中より検出

第39表 轟貝塚第12・13次調査 遺構出土土器 分類別集計表

一般的な型式名	分類名	特徴	4 T		8 T				合計
			SP01	SK01	SK01	SK02	SK03	ST01	
I類 (押型文土器)			0	1	0	0	0	0	1
押型文	I a類	山形押型文		1					1
	I b類	格子目押型文							0
	I c類	楕円押型文							0
II類 (貝殻文系土器)			0	1	1	1	0	2	5
塞ノ神式	II a類	条痕なし			1	1		2	4
	II b類	条痕あり		1					1
III類 (轟式系土器)			1	0	5	39	2	29	76
轟A式	III a 1類	条痕のみ 規則性なし				3		10	13
	III a 2類	文様の意匠を 持つ条痕				1		2	3
	III a類	その他							0
轟B式	III b 1類	縦・斜め等の条痕				1		2	3
	III b 2類	口縁に高い隆帯 西之菌式							0
	III b 3類	横方向に複数隆帯			2	6		2	10
	III b 4類	横方向に複数の微隆帯			2	3			5
	III b 5類	隆帯に刻目・刺突				2			2
	III b 6類	貼付によらない隆帯				2		1	3
	III b 7類	屈曲タイプ	1			8		3	12
轟C式	III b類	その他							0
	III c 1類	貝殻による曲線文							0
轟D式	III c 2類	振幅の大きい曲線文							0
	III d 1類	棒状工具による沈線文							0
	III d 2類	太めの施文具による 浅い条痕							0
野口式	III d 3類	その他				1			1
	III e 1類	隆帯と沈線の組み合わせ							0
	III e 2類	隆帯なし、直線・細弧線							0
曾畑式	III f類	全面的・幾何学的沈線							0
尾田式	III g 1類	貝殻による帯状の押し文 粘土紐貼付あり							0
	III g 2類	粘土紐貼付なし							0
	III類	その他			1	12	2	9	24
IV類 (阿高式系土器)			0	0	4	0	0	0	4
並木式	IV a類	凹線文間に押し文 胎土に滑石							0
阿高式	IV b 1類	凹線文を持つ阿高式 口縁～胴部に施文							0
	IV b 2類	口縁部のみの凹線文				3			3
	IV b類	その他				1			1
南福寺式	IV c 1類	凹線文・ヘラ施文							0
	IV c 2類	同上・口縁部肥厚							0
出水式	IV d類	口縁ヘラ施文 (短沈線)							0
V類 (市来式系土器)			0	0	0	0	0	0	0
	V a 1類	口縁に粘土帯張付							0
	V a 2類	張付によらない口縁肥厚							0
	V b 1類	口縁に粘土帯張付							0
	V b 2類	貼付によらない口縁肥厚							0
VI類 (磨消縄文系土器)			0	0	0	0	0	0	0
鐘崎式	VI a類	口縁外反 斜線・平行沈線・渦巻文							0
北久根山式	VI b類	口縁部やや肥厚 貼付文・短直線文・疑似縄文など							0
福田K 2式	VI c類	3本の沈線で区画した帯部に縄文							0
西平式	VI d類	口縁屈曲, 山形口縁 列点文・平行直線・磨消縄文							0
	VI類	その他							0
VII類 (黒色磨研土器)			0	0	0	0	0	0	0
御領式	VII類	黒色磨研 口縁部に平行沈線							0
その他 (分類不能)									0
合計 (図化点数)			1	2	10	40	2	31	86

第41表 轟貝塚第12・13次調査 包含層出土石器 分類別集計表

器種	分類名	特徴	1 T		3 T			4 T					5 T			6 T			8 T							トレンチ外	合計										
			I・II層	I・II層	I・II層	IIIb層	IVa層	IVb層	I・II層	IIIb層	IVa層	V層	SK01	I・II層	IIIb層	IVa層	3層	5層	SP02	IIIa層	IIIb層	IVa層	IVb層	VI層	SK01	SK02		ST01	表土								
石鏃	I a類	正三角形, 浅い抉れ	1				1													2																	4
	I b類	正三角形, V字抉れ			1															2	1														2	6	
	I c類	正三角形, U字抉れ	1	1			1													1	1															6	
	I類	正三角形																																		0	
	II a類	縦長, 浅い抉れ	1	1					2												2															9	
	II b類	縦長, V字抉れ	1		2		5		2											2	3	11													2	32	
	II c類	縦長, U字抉れ			1		1	1	2						1	1				2	1	2	1													14	
	II類	縦長																			1	1														4	
	III a類	横長, 浅い抉れ																																			0
	III b類	横長, V字抉れ																																			1
	III c類	横長, U字抉れ																																			0
		小計		4	2	4	0	10	1	6	0	6	1		1	2	2	0	0	0	4	12	16	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4			76	
石匙	I a類	横長, つまみ大			1																														1		
	I b類	横長, つまみ小			1		1	2	1		2			1						1																9	
	I類	横長									1																									1	
	II a類	縦長, つまみ大	1																																	1	
	II b類	縦長, つまみ小																																		1	
	II類	縦長																																		0	
	小計		1	0	2	0	1	2	1	0	3	0		1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		13		
削器	I類	片刃																																		4	
	II類	両刃																			1															3	
		小計																			1															7	
打製石斧	(分類なし)																																		1		
磨製石斧	I a類	長方形, 扁平			1			1																												3	
	I b類	長方形, 厚い		1	1			1																												3	
	II a類	台形, 扁平			4																															6	
	II b類	台形, 厚い																																		1	
		小計		0	1	6	0	2	0	0	0	1	0		0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		13
磨石 敲石	I a類	扁平, 円形		1	2			3		1																										15	
	I b類	扁平, 楕円形			1			3																												5	
	I c類	扁平, 不整形																																		2	
	II a類	厚みあり, 円形	2	1	1			5	1												1	1	1													17	
	II b類	厚みあり, 楕円形	2	1	1			3													1		1	1												13	
	II c類	厚みあり, 不整形						1																												2	
	III類	不整形			1																															3	
		小計		4	4	5	0	15	1	1	0	2	0		0	2	4	0	0	0	0	4	8	2	1	0	2	1	0	2	1	1	1		57		
石皿	(分類なし)																																		9		
砥石	I類	細長い棒状	1	2																																3	
	II類	扁平な板状																																		9	
	III類	その他, 不整形																																		4	
		小計		1	2	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		16	
石錘	I類	両端に小剥離			1																															4	
	II類	周縁に溝																																		0	
		小計		0	1	0	0	1	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		4	
双角状礫器	(分類なし)																																		11		
凹石	(分類なし)																																		4		
有孔石製品	(分類なし)																																			1	
球状耳飾	(分類なし)																																			1	
石核	(分類なし)																																			1	
不明石製品	(分類なし)																																			4	
合計 (図化点数)			10	10	20	1	48	5	9	1	14	1	1	2	4	9	1	4	1	5	24	32	3	1	1	3	1	7						218			

第5節 出土人骨

本章第3節でも述べたように、轟貝塚第12次・13次調査では1号から5号まで計5体分の人骨が出土した。土壙墓としての所見は先に述べたとおりだが、ここでは人骨資料そのものの詳細について報告する。調査時、人骨の詳細検出及び実測・取り上げはNPO法人人類学研究機構に委託し、取り上げた人骨資料の洗浄・計測までを一連の作業として実施した。次頁より、実際に作業をした同法人の松下孝幸・松下真実両氏に作成いただいた当該人骨の詳細報告を掲載する。

熊本県宇土市轟貝塚出土の縄文早・前期人骨

松下真実*・松下孝幸**

【キーワード】：熊本県，縄文早・前期人骨，屈葬，中頭型，低・広顔，高身長，柱状大腿骨

はじめに

熊本県宇土市^{みやのしょうまち}宮庄町字須崎に所在する轟貝塚の2016(平成28)年におこなわれ遺跡確認調査で，人骨が5体検出された。4体は人骨が集中して検出されたが，1体は単独で出土した。前者は縄文時代早期に，後者は縄文時代前期に所属する人骨と推測されている。

轟貝塚は1917(大正6)年，鈴木文太郎らの東京帝国大学や熊本医学専門学校による発掘調査で2体(男1，女1)の人骨が発掘されている(鈴木，1917，1918)(第1次調査)。1919(大正8)年12月には濱田耕作，清野謙次ら京都帝国大学が発掘調査をおこない，18体の人骨を発掘している(第2次調査)。1920(大正9)年7月には東北帝国大学の長谷部言人が20体余りの人骨を発掘している(第3次調査)。1930(昭和5)年には鳥居龍蔵，松本雅明らによって発掘調査がおこなわれたが，その詳細は明らかではないという(第4次調査)。1958年7月30日から8月3日まで宇土市と宇土高等学校によって発掘調査がおこなわれたが，人骨は出土していない(第5次調査)。1966(昭和41)年には熊日学術調査団の宇土，不知火地方の古代文化に関する学術調査の一環として早稲田大学の江坂輝彌が調査をおこなっている(第6次調査)。平成16・17(2004・2005)年度は宇土市教育委員会が宇土市内遺跡範囲確認調査事業の一環として第7・8次調査を実施している。なお，轟貝塚の発掘史については，轟貝塚(宇土市埋蔵文化財調査報告書第30集，2008，宇土市教育委員会)に詳述されている。



調査区全景

熊本県内の縄文人骨の出土例としては，轟貝塚(鈴木，1918)をはじめとして，阿高貝塚(岡本，1929，田幡，1930，大森・他，1957，大森，1960)，御領貝塚(金関・他，1955)，かきわら貝塚(松野・他，1967)，沖の原(内藤，1973)，天岩戸岩陰遺跡(内藤・他，1978，松下・他，2019)，七ツ江カキワラ貝塚(松下・他，1986)，高橋貝塚の例があるが，近年は熊本大学構内の黒髪遺跡や熊本市の託麻弓削遺跡からも縄文人骨が出土している。

今回本貝塚から出土したのは縄文時代早期と前期に属すると推測されている人骨であるが，早期人骨は，近年では佐賀市の東名遺跡からも出土しており，その形質的特徴が明らかになっている(松下・他，2009，2016，2017)。これまでの研究では，縄文早・前期人骨と中・後・晩期人骨との間には差異が認められ，前者は「きゃしゃ」であるが，後者は「頑丈」であると言われてきた(小片，1981)。しかし，前者は主に山間部の遺跡から，後者は海浜部の遺跡から出土しているので，両者の差異は時代差ではなく，環境差である可能性も指摘されてきた。縄文早・前期人骨が海浜部から出土することがなく，また中・後・晩期人骨が山間部から出土しないのでこの疑問を解決することができなかった。ところが，有明海に面する東名遺跡から縄文早期人骨が出土したので，この課題を検討することができるようになった。東名縄文早期人は，縄文中・後・晩期人よりもかなりきゃしゃであったが，その程度は山間部の縄文早期人程ではなかった。すなわち，縄文

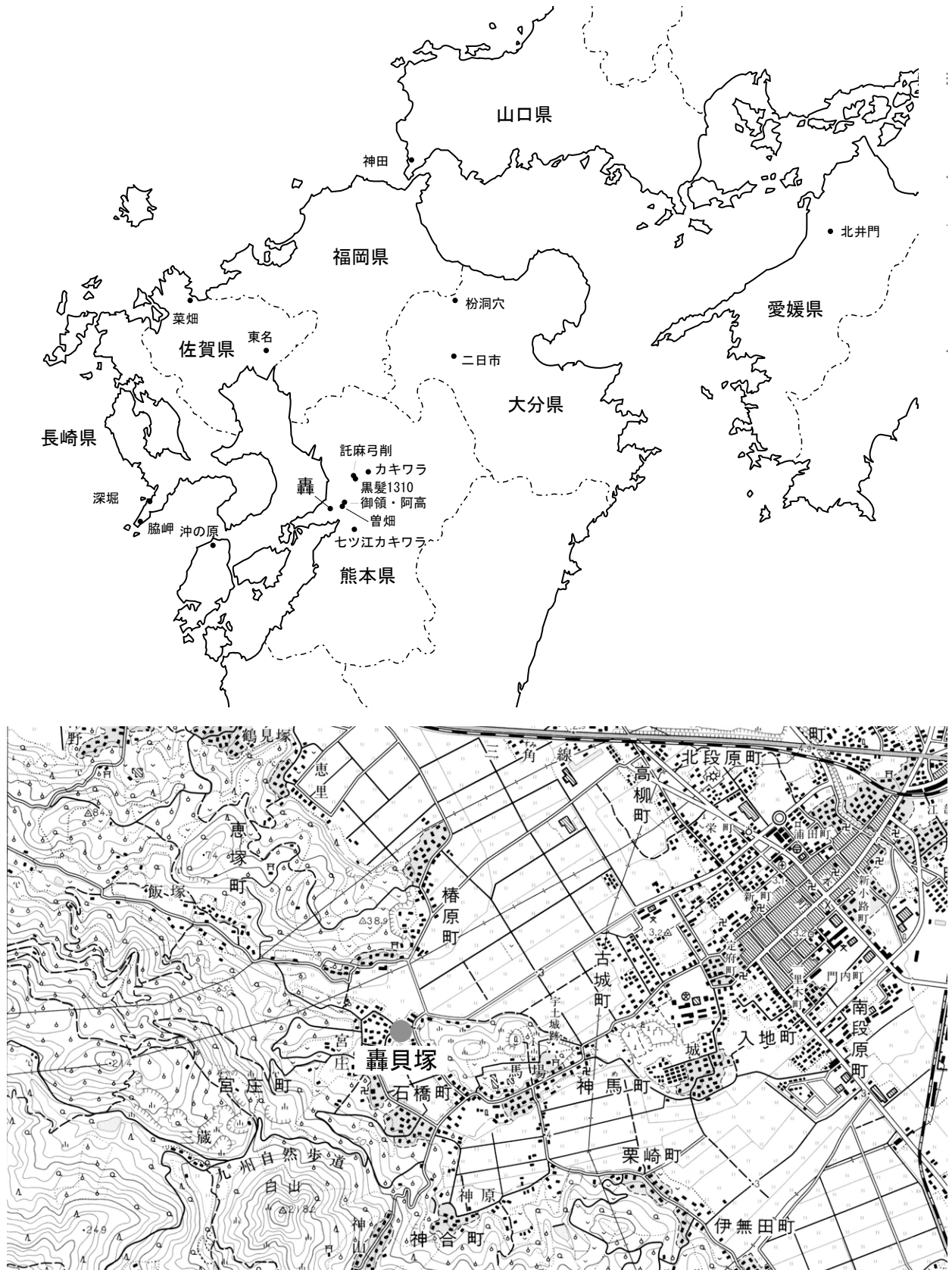


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Todoroki shell mound, Uto City, Kumamoto Prefecture)

早期人は海浜部でも山間部でも立地に関係なく、縄文中・後・晩期人よりもきゃしゃであることがわかった。それは氷河期が終わって温暖になったとは言え、縄文中・後・晩期ほど食料資源事情はよくなかったことによるものと思われる。ただ、山間部の縄文早・前期人に比べると海浜部の東名早期の方が大きく、これは山間部よりも海浜部の方が食料資源の量と種類で優っていることによるものであろう。

本例も海浜部に位置する縄文早・前期人骨であることから、さらに研究を深めるところができるという点で、きわめて貴重な資料となるものである。

今回の遺跡範囲確認調査で出土した人骨は5体で、いずれも基本的には埋葬状態を保って検出され、人骨の保存状態は良好である。現場で人骨の出土状況を観察し、人骨については人類学的観察と計測をおこない、九州内で出土している縄文人骨などとの検討とともに、放射性炭素年代やDNA分析もおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資料

今期（第13次）の調査では5体の人骨が出土した（表1）。すべて成人骨である。5体のうち4体（1号人骨～4号人骨）は縄文時代早期に、1体（5号人骨）は縄文時代前期に属する人骨と推測されている。5体のうち男性は1体、女性は4体である。1号人骨～4号人骨はまとまって検出されたが、1号、2号、4号は骨の一部が重なった状態で検出された。この地点が墓域と認識されていたものと思われる。5号人骨はこの4体とは別の地点から単体で、しかもほぼ全身骨が埋葬状態を保って出土した。各骨の残存状態は図2に示すとおりで、保存状態は良好である。なお、5体とも副葬品を伴っていなかった。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法（前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測）で計測し、鼻根部については鈴木（1963）と松下ら（1983）の方法で計測した。年齢区分は表3のとおりである。なお、考察以外を松下真実が、考察を松下孝幸が分担して執筆した。

《放射性炭素年代測定結果》

人骨番号	$\delta^{13}\text{C}$ (0/00)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
				海産物寄与率:50.1%	海産物寄与率:50.1%
5号人骨 (女性)	-18.55 \pm 0.24	5340 \pm 23	5340 \pm 23	4035-4016 cal BC (9.6%) 4002-3933 cal BC (58.6%)	4046-3892 cal BC (86.9%) 3877-3814 cal BC (8.5%)

BP: Before Physics(1950年), cal: Calibrated, BC: 紀元前

《ミトコンドリアDNA分析結果》

今回、植田信太郎氏（東京大学理学部）と水野文月氏（東邦大学医学部）に依頼して、5体についてDNA分析をおこなったが、DNAを抽出できたのは5号人骨（女性）のみであった。ミトコンドリアゲノム分析結果は、ハプログループ「M7a1a」であった。縄文人のハプログループには、「M7a」系統と「N7b」系統の2系統が存在し、前者は西日本に、後者は東日本に分布が偏っていることがわかっている。「M7a」系統についてはさらに細分化できるので、今後の研究の深化に伴って、系譜についてはより詳細な分析ができるものと思われる。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
1	4	0	0	5

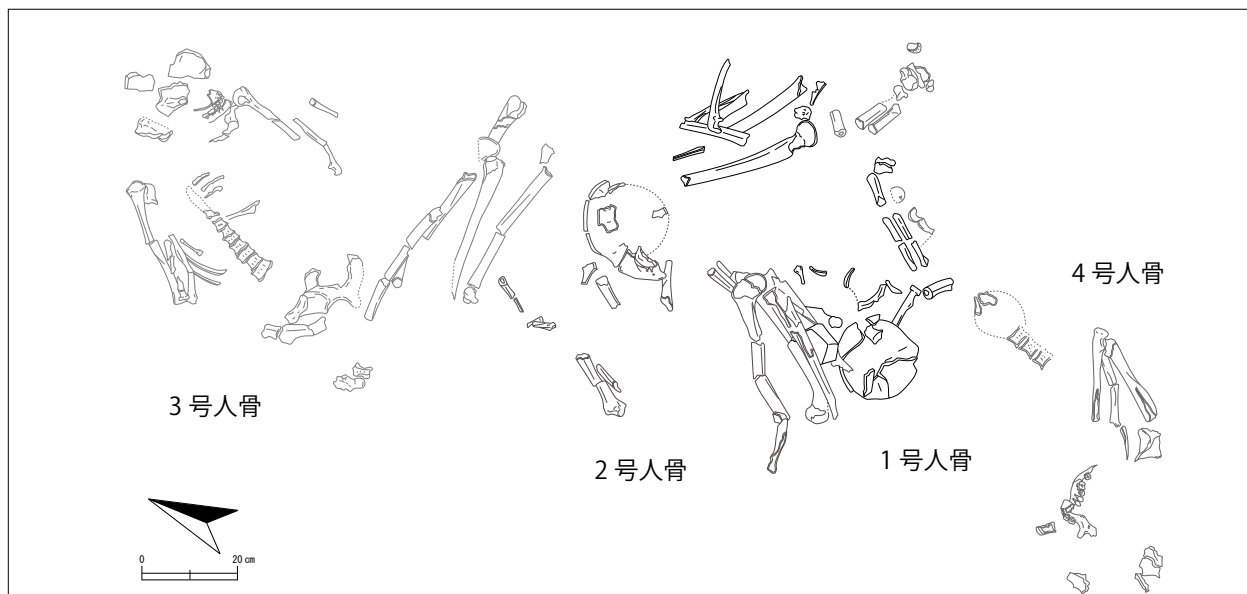
表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	頭位	埋葬姿勢	所属時期
1号人骨	女性	熟年	南西	仰臥 屈葬	縄文早期
2号人骨	女性	壮年	北東	仰臥 屈葬	縄文早期
3号人骨	女性	壮年	北	仰臥 屈葬	縄文早期
4号人骨	男性	壮年	南	仰臥 屈葬	縄文早期
5号人骨	女性	熟年	北	仰臥 屈葬	縄文前期

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

	年齢区分	年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
成人	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
老年	60歳以上	

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。



所見

I 人骨の検出状況と埋葬姿勢

1号人骨から4号人骨は、狭い範囲内から並ぶようにして出土した。一見すると散乱骨のようにみえるが、丁寧に観察すると、それぞれ埋葬状態を保っている。人骨の重なりと切り合い状態から、4号被葬者が先に埋葬され、次いで1号被葬者が埋葬され、その後2号被葬者が埋葬されている。2号被葬者と3号被葬者の先後関係は不明である。残存している骨は多くはないが、これは人骨の上部に礫群を敷いた時期に墓を平に削平した可能性があり、その際に攪乱を受けたようである。長骨は骨体中央部などで折れているが、この理由は骨の上に乗っている礫群の圧力で破砕されたためである。以前から長骨の中央部分が、なぜ真二つに割れるのか疑問に思っていたが、轟貝塚の現場で、その疑問を解決することができた。骨の上部に礫群が存在することによって、骨体面に均等に圧力がかかるのではなく、場所によって差が生じ、その結果骨折したのである。



1号人骨～4号人骨出土状況



3号人骨出土状況



4号人骨出土状況



5号人骨出土状況

1号人骨（女性・熟年）

埋葬姿勢は仰臥である。上肢骨の残りが悪いので、肘関節の様態は不明であるが、膝関節は両側とも強屈していたようである。

2号人骨（女性・壮年）

2号人骨の残存量も多くない。埋葬姿勢は仰臥であるが、肘関節と膝関節の様態は不明である。

3号人骨（女性・壮年）

3号人骨の残存量は多い。埋葬姿勢は仰臥で、右側肘関節は強屈状態であるが、左側は不明である。両側の膝関節は強屈し、左側へ倒していた。

4号人骨（男性・壮年）

4号人骨の残存量も少ない。埋葬姿勢は仰臥で、右側肘関節は強屈していたが、左側肘関節と膝関節の様態は不明である。

5号人骨（女性・熟年）

ほぼ完全な埋葬人骨である。埋葬姿勢は仰臥で、頭蓋は右側に倒していた。右側肘関節は強屈状態で手を右肩に置いていた。左側肘関節は約90度に曲げて、手を右側の肘に置いている。股関節と膝関節は強屈し、下肢を右側に倒していた。

II 人骨の形質

各人骨の残存部は図2に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

1号人骨（女性・熟年）

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

前頭骨の左側と左側頭頂骨の一部が欠損している。保存状態はそれほどよくないが、骨壁は厚く、堅牢である。全体の径はやや小さい。前頭結節の発達はやや良好で、外後頭隆起の発達は弱い。乳様突起は小さい。外耳道は右側が観察できたが、骨腫は認められない。縫合は、三主縫合の観察ができた。内板は三主縫合とも比較的癒合が進んでいるが、外板は縫合が明瞭でラムダ付近ではまだ開離している。

計測値は、頭蓋最大長が173mm、頭蓋最大幅は135mmで、頭蓋長幅示数は78.03となり、頭型は中頭型(mesokran)に属している。

(2) 顔面頭蓋

両側の頬骨が残存していたにすぎない。頬骨は小さい。眉上弓の隆起は弱い。顔面の計測はできない。下顎骨は、右側の下顎体が残存していた。下顎体の高さは低く、咬筋粗面の発達は良好である。

2. 歯

歯は残存していなかった。歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

/ / / / / / / / / /	/ / / / / / / / / /	[○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 /：不明（破損）]
8 ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①	/ / / / / / / / / /	

(1：中切歯，2：側切歯，3：犬歯，4：第一小白歯，5：第二小白歯，6：第一大臼歯，7：第二大臼歯，8：第三大臼歯)

下顎には風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨（左），鎖骨（左），上腕骨，橈骨，尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。計測はできないが、骨体は細く、扁平で、左側は三角筋粗面の発達がよさそうである。

②橈骨

右側の骨体の一部と左側の近位部が残存している。骨体は細い。

③尺骨

右側の骨体遠位部と左側の近位部が残存していた。骨体は細い。

(2) 下肢骨

寛骨，大腿骨，膝蓋骨（左），脛骨，腓骨が残存していた。

①寛骨

左側の腸骨体が残存していたが，保存状態は悪い。大坐骨切痕の角度は大きく，耳状面前溝が確認できた。溝は広くて浅い。

②大腿骨

両側の骨体が残存していた。長さは短く，骨体はやや大きい。粗線はよく発達しており，骨体両側面の後方への発達も良好で，縄文早・前期に特有な形状の柱状形成が認められる。また，骨体上部は扁平である。

計測値は，骨体中央周が80mm（左右）で，骨体はやや大きい。骨体中央矢状径は27mm（左右），中央横径が22mm，（左右）で，骨体中央断面示数は122.73（左右）となり，骨体両側面の後方への発達は極めて良好である。また，上骨体断面示数は73.33（右），78.57（左）となり，骨体上部は扁平である。

③脛骨

両側の骨体が残存していた。骨体はかなり扁平である。ヒラメ筋線の発達はそれほど良くない。骨体の断面形は両側ともヘリチカのIV型（後面に一稜を形成し，断面型は菱形を呈する）を呈している。

計測値は，骨体周が73mm（左），最小周は65mm（右）で，骨体は細い。中央最大径は28mm（左），中央横径が17mm（左）で，中央断面示数は60.71（左）となり，骨体は著しく扁平である。

④腓骨

両側の骨体が残存していた。骨体はあまり大きくないが，稜の発達は良好で，溝も深い。

4. 性別・年齢

性別は，前頭結節の発達が良好で，大坐骨切痕が広いことから女性と推定した。年齢は，三主縫合の内板は癒合し，外板は縫合が明瞭でラムダ付近ではまだ開離していることから，熟年と思われる。

2号人骨（女性・壮年）

1. 頭蓋

頭蓋は脳頭蓋のみが残存していた。

(1) 脳頭蓋

左右の頭頂骨と後頭骨および両側側頭骨の一部が残存していた。脳頭蓋の遺存状態は悪い。骨壁は厚く，堅牢である。外後頭隆起の発達は弱く，その下方は窪んでいる。乳様突起は小さい。外耳道は両側とも観察できない。縫合は，矢状縫合とラムダ縫合が確認できた。両縫合の内外両板はともに開離している。脳頭蓋の計測はできない。

下顎骨の保存状態は比較的良好である。下顎枝は小さくて，高さは低い。咬筋粗面の発達は比較的良好である。

2. 歯

歯は残存していなかった。歯槽の状態を歯式で示すと，次のとおりである。

/ / / / / / / / / /	/ / / / / / / / / /	[○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 /：不明]
● ⑧ ● ⑦ ● ⑥ ● ⑤ ● ④ / /	① ② ③ ④ ⑤ ● ⑥ ● ⑦ ● ⑧	

(1：中切歯，2：側切歯，3：犬歯，4：第一小白歯，5：第二小白歯，6：第一大臼歯，7：第二大臼歯，8：第三大臼歯)

下顎には風習的抜歯は認められない。歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨（左）、鎖骨（両側）、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。骨体は短くて細いが、三角筋粗面の発達は極めて良好である。

計測値は、中央周が62mm（右）、59mm（左）、骨体最小周が54mm（右）、53mm（左）で、骨体は細い。また、中央最大径は19mm（左右）、中央最小径が18mm（右）、17mm（左）で、骨体断面示数は94.74（右）、89.47（左）となり、骨体には扁平性は認められない。

②橈骨

両側の骨体が残存していた。骨体は短くて細い。骨間縁の発達は良好である。

③尺骨

左側の近位端が残存していた。骨体は細い。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨、腓骨が残存していた。

①寛骨

左側の大坐骨切痕の一部が残存していたが、保存状態は悪い。大坐骨切痕の角度は大きい。

②大腿骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。長さは短く、骨体はやや太い。粗線の発達は悪いが、骨体両側面の後方への発達は極めて良好で、柱状形成が認められる。骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央周は79mm（右）、80mm（左）で、骨体はやや太い。骨体中央矢状径は28mm（右）、26mm（左）、中央横径は22mm（右）、23mm（左）で、骨体中央断面示数は127.27（右）、113.04（左）となり、骨体両側面の後方への発達は極めて良好である。また、上骨体断面示数は73.33（左）となり、骨体上部には扁平である。

③脛骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は悪い。長さは短く、骨体は細い。ヒラメ筋線の発達は良好である。骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅢ型（ほぼ三角形で、外側面が著しく凹彎（くぼむ））を呈している。

計測値は、骨体周が75mm（右）、76mm（左）、最小周は65mm（右）で、骨体は細い。中央最大径は28mm（左）、中央横径は17mm（左）で、中央断面示数は60.71（左）となり、骨体は著しく扁平である。

④腓骨

両側の骨体が残存していた。骨体の径はやや大きく、骨間縁の発達は良好である。

4. 性別・年齢

四肢骨が短く、大坐骨切痕の角度が広いことから女性と推定した。年齢は、三主縫合の内外両板が開離していることから、壮年と推定した。

3号人骨（女性・壮年）

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

前頭骨と左側頭頂骨から後頭骨にかけて残存していた。保存状態は悪いが、骨壁は厚く、堅牢である。前

頭結節の発達は良好で、外後頭隆起の発達は弱い。乳様突起は小さい。外耳道は左側が観察できたが、骨腫は認められない。縫合は、冠状縫合の一部とラムダ縫合が確認できた。冠状縫合の一部は内外両板で癒合している。ラムダ縫合は内外両板とも開離している。計測はできなかった。

(2) 顔面頭蓋

左側頬骨と上顎骨が残存していた。保存状態は悪い。眉上弓の隆起は弱く、眼窩上縁は薄く、鋭い。頬骨の高さは低い。

下顎骨は、右側の下顎枝が欠損しているが、保存状態は比較的良好である。下顎体の高さは低く、下顎枝はやや高く、幅は狭い。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

⑧ 7 ⑥ 5 4 3 ② 1	1 ② 3 ④ 5 6 ⑦ /	[○：歯槽開存 ●：歯槽閉鎖 /：不明]
/ 7 6 5 ④ ③ ② 1	1 2 3 4 ⑤ ⑥ ⑦ 8	

(1：中切歯，2：側切歯，3：犬歯，4：第一小白歯，5：第二小白歯，6：第一大臼歯，7：第二大臼歯，8：第三大臼歯)

咬耗度は Broca の 2 度（咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ）である。風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨（両側）、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。骨体は細く短く、三角筋粗面の発達は悪い。

計測値は、中央周が 56mm（右）、55mm（左）、骨体最小周が 52mm（右）で、骨体は細い。中央最大径は 19mm（右）、18mm（左）、中央最小径が 14mm（右）、13mm（左）で、骨体断面示数は 73.68（右）、76.92（左）となり、右側の骨体は扁平である。

②橈骨

両側の骨体が残存していたが、保存状態は悪い。骨体は細い。

③尺骨

両側の尺骨が残存していた。保存状態は比較的良好である。長さは短く、骨体は細い。骨間縁の発達は良好である。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨、が残存していた。

①寛骨

両側の腸骨体が残存していた。大坐骨切痕の角度は大きく、耳状面前溝が認められるが、浅い。

②大腿骨

両側の大腿骨が残存していた。保存状態は比較的良好である。長さは短く、骨体はやや太い。粗線の発達は弱く、骨体両側面の後方への発達はそれほど強くない。骨体上部は扁平である。

計測値は、最大長が 405mm（左）、骨体中央周は 78mm（右）、79mm（左）で、骨体は短く、やや太い。骨体中央矢状径は 25mm（左右）、中央横径が 24mm（右）、25mm（左）で、骨体中央断面示数は 104.17（右）、100.00（左）となり、骨体両側面の後方への発達はそれほど強くない。また、上骨体断面示数は 75.00（左右）となり、骨

体上部は扁平である。

③脛骨

両側の脛骨が残存していた。保存状態は比較的良好である。骨体の長さは短く、骨体は細い。ヒラメ筋線の発達が悪い。骨体の断面形は両側ともヘリチカのIV型（後面に一稜を形成し、断面型は菱形）を呈している。

計測値は、骨体周が71mm（右）、69mm（左）、最小周は64mm（左右）で、骨体は細い。中央最大径は26mm（右）、25mm（左）、中央横径が18mm（左右）で、中央断面示数は69.23（右）、72.00（左）となり、骨体には扁平性は認められない。

4. 推定身長値

大腿骨最大長から、Pearson および藤井の式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ151.62cm（Pearson, 左）、152.21cm（藤井, 左）となり、身長は高い。

5. 性別・年齢

性別は、前頭結節の発達は良好で、四肢骨は細く、大坐骨切痕の角度が広いことから女性と推定した。年齢は、三主縫合の冠状縫合の一部は内外両板とも癒合しているが、ラムダ縫合は内外両板とも開離していることから壮年と推定した。

4号人骨（男性・壮年）

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

左側頭頂骨と左側側頭骨の一部が残存しているにすぎない。保存状態は悪い。縫合は、冠状縫合の一部が確認できた。冠状縫合は内外両板で開離している。脳頭蓋の計測はできなかった。

(2) 顔面頭蓋

右側頬骨の一部と上顎骨が残存していた。保存状態は悪い。計測はできなかった。

下顎骨は、下顎体と左側下顎肢が残存していた。保存状態は悪い。下顎体の高さはやや高い。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／	／	／	／	④	③	②	①	①	②	3	④	5	6	／	／	[○：歯槽開存 　／：不明]
8	7	6	5	4	③	②	1	①	②	／	／	5	6	7	8	

（1：中切歯，2：側切歯，3：犬歯，4：第一小臼歯，5：第二小臼歯，6：第一大臼歯，7：第二大臼歯，8：第三大臼歯）

咬耗度はBrocaの1度（咬耗がエナメル質のみ）である。風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨（右）、鎖骨（右）、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。骨体は短い、径は大きい。三角筋粗面の発達は著しく良好である。

計測値は、中央周が77mm（右）、74mm（左）、骨体最小周が63mm（左右）で、骨体は大きい。また、中央最大径は26mm（右）、25mm（左）、中央最小径が20mm（右）、18mm（左）で、骨体断面示数は76.92（右）、

72.00(左)となり、左側骨体は扁平である。

②橈骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。長さは短く、骨体は大きい。骨間縁の発達は良好である。

③尺骨

両側の骨体が残存していた。保存状態は比較的良好である。長さは短く、骨体は大きい。骨間縁の発達は良好である。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、右側脛骨、右側腓骨が残存していた。

①寛骨

右側の腸骨体が残存していた。保存状態は悪い。大坐骨切痕の角度は小さい。

②大腿骨

両側の骨体近位端が残存していた。保存状態は悪い。骨頭は小さい。計測はほとんどできなかった。

③脛骨

右側の遠位端が残存していた。保存状態は悪い。骨体は大きい。ヒラメ筋線の発達や骨体の断面形は不明である。計測はできなかった。

④腓骨

右側の遠位端が残存していた。保存状態は悪い。骨体は大きい。

4. 性別・年齢

性別は、四肢骨が大きく、大坐骨切痕の角度が小さいことから男性と推定した。年齢は、冠状縫合が内外両板とも開離していることから、壮年と推定した。

5号人骨(女性・熟年)

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

頭蓋の保存状態は良好で、ほぼ完全である。前頭結節の発達は良好で、外後頭隆起の発達は弱い。乳様突起は小さい。外耳道は両側とも観察できた。両側とも後壁に骨腫が認められる。縫合は、三主縫合の内外両板が確認できた。内板は三主縫合ともに癒合しており、外板は癒合が進んでいるものの縫合は明瞭で、開離している。

計測値は、頭蓋最大長が177mm、頭蓋最大幅は138mm、バジオン・ブレグマ高は135mmである。頭蓋長幅示数は77.97、頭蓋長高示数は76.27、頭蓋幅高示数は97.83となり、頭型は中頭型・高頭型・中頭型(meso-, hypsi-, metriokran)に属している。また、頭蓋水平周は511mm、横弧長は311mm、正中矢状弧長は362mmである。

(2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋もほぼ完全である。眉上弓の隆起は弱く、眼窩上縁は薄く、鋭い。頬骨の高さは低い。鼻骨の陥凹は弱い。

顔面頭蓋の計測値は、顔長が(100)mm、頬骨弓幅は(132)mm、中顔幅は98mm、顔高は102mm、上顔高は(57)mmで、顔示数は(77.27)(K)、104.08(V)、上顔示数は(43.18)(K)、(58.16)(V)となり、顔面には低・広

顔傾向が認められる。

眼窩幅は41mm(左)、眼窩高は32mm(左)で、眼窩示数は78.05(左)となり、左側は中眼窩(mesokonch)に属している。

鼻根部の計測はほとんどできないが、鼻骨の鼻根部は厚く、残存している左側の前頭突起の向きは矢状方向である。鼻頬骨角は152度で、この角度は大きく、顔面扁平示数は12.37である。

側面角は、全側面角が(87)度、鼻側面角が89度、歯槽側面角が(79)度で、歯槽性突顎の傾向はみられない。

下顎骨の保存状態も良好で、ほぼ完全である。下顎体は低く、下顎枝は高く、幅は狭い。咬筋粗面の発達も良好である。

2. 歯

上下両顎骨には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8		[○:歯槽開存 /:不明]
8	7	6	5	4	3	2	/		1	2	3	4	5	6	7	8		

(1:中切歯, 2:側切歯, 3:犬歯, 4:第一小臼歯, 5:第二小臼歯, 6:第一大臼歯, 7:第二大臼歯, 8:第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの3度(咬耗が象牙質まで及ぶ)である。風習的抜歯は認められない。また、歯の咬合形式は鉗子状咬合である。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨(両側)、鎖骨(両側)、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

①上腕骨

両側の上腕骨が残存していた。右側はほぼ完全である。骨体は短くて細いが、三角筋粗面の発達は良好である。

計測値は、最大長は282mm(右)、骨体最小周が54mm(右)、53mm(左)、中央周が57mm(右)、55mm(左)で、長厚示数は19.15(右)となり、骨体はきゃしゃである。また、中央最大径は20mm(右)、18mm(左)、中央最小径が14mm(左右)で、骨体断面示数は70.00(右)、77.78(左)となり、右側の骨体には強い扁平性が認められる。

②橈骨

両側の橈骨が残存していた。右側はほぼ完全である。長さは短く、骨体は細い。骨間縁の発達は悪い。

③尺骨

両側の尺骨が残存していた。右側はほぼ完全である。長さは短く、骨体は細い。骨間縁の発達は悪い。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、右側膝蓋骨、脛骨、腓骨が残存していた。

①寛骨

両側の腸骨体が残存していた。大坐骨切痕の角度は大きく、耳状面前溝が認められる。

②大腿骨

両側の大腿骨が残存していた。保存状態は良好であるが、右側は大転子と内側顆の先端を欠損しており、左側は遠位部を欠損している。長さは短く、骨体は細い。粗線はやや発達しているが、骨体両側面の後方への発達はそれほど強くない。骨体上部は扁平である。

計測値は、残っている部分での最大長は289mmであるので、先端部が欠損していることを考慮すれば推定

最大長は(390)mm(右)程度と考えられる。骨体中央周は79mm(右),78mm(左)で,長厚示数は20.31(右)となり,骨体はきゃしゃである。骨体中央矢状径は24mm(左右),中央横径が24mm(左右)で,骨体中央断面示数は100.00(左右)となり,粗線はやや発達しているが,骨体両側面の後方への発達はそれほど強くない。また,上骨体断面示数は72.41(右),77.78(左)となり,骨体上部は扁平である。

③脛骨

両側の脛骨が残存していた。保存状態は良好である。長さは短く,骨体は細い。ヒラメ筋線の発達が悪い。骨体の断面形は両側ともヘリチカのIV型(後面に一稜を形成し,断面型は菱形)を呈している。

計測値は,脛骨最大長は326mm(右),骨体周が71mm(右),70mm(左),最小周は65mm(右),61mm(左)で,骨体は細い。中央最大径は26mm(右),25mm(左),中央横径が17mm(右),18mm(左)で,中央断面示数は65.38(右),72.00(左)となり,右側の骨体は扁平である。

④腓骨

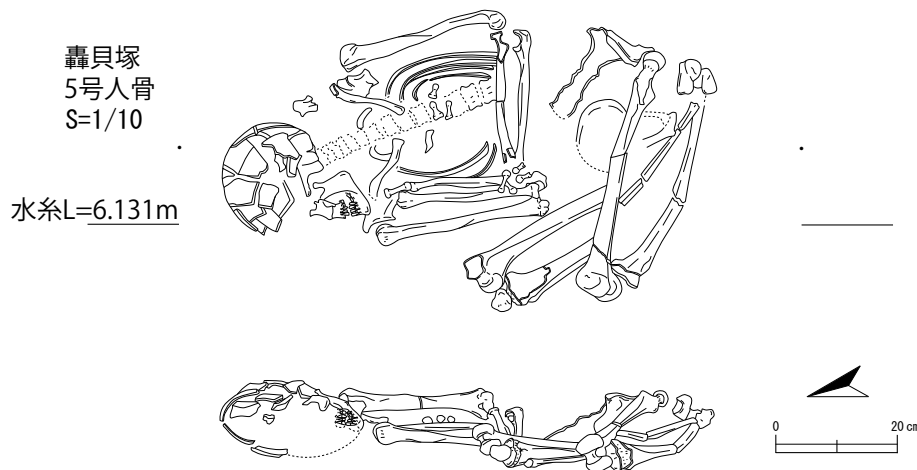
両側の腓骨が残存していた。保存状態は比較的良好で,右側はほぼ完全である。骨体は細く,骨間縁はそれほど発達していない。

4. 推定身長値

大腿骨最大長から,Pearson および藤井の式を用いて推定身長値を算出すると,それぞれ(148.70)cm(Pearson, 右),(148.40)cm(藤井, 右)となり,身長は低い。

5. 性別・年齢

性別は,前頭結節の発達は良好で,四肢骨は細く,大坐骨切痕の角度が広いことから女性と推定した。年齢は,三主縫合の内板は癒合しているが,外板は開離していることから熟年と推定した。



考 察

四肢骨について検討をおこなった。

1. 上腕骨

表4は、男性上腕骨の比較表である。中央周は77mmで、表4では最大値となり、骨体はかなり太い。縄文中・後・晩期人の平均値は71mm、早・前期人の平均値は61.6mmであるから、本例（4号人骨）の上腕骨がかなり太いことがわかる。骨体断面示数は76.72で、菜畑（84.21）に次いで大きい示数値で、骨体の扁平性は他の縄文人に比べると弱い。

表5は、女性上腕骨の比較表である。最大長は282mmで、表5では最大値となり、長さは長い。中央周は58.33mmで、カキワラ（64mm）よりも小さく、また、縄文中・後・晩期人（60.7mm）よりもわずかに小さく、東名と大差ない。また、縄文早・前期人よりは大きい、縄文中・後・晩期人よりも小さい。骨体断面示数は77.72で、東名よりは大きく、阿高（77.43）、カキワラ（77.27）とほぼ同じで、縄文早・前期人（75.0）と縄文中・後・晩期人（73.1）よりも大きい。

2. 大腿骨

表6は、女性大腿骨の比較表である。最大長は397.50mm（3号と5号の平均値）で、表6では最大値となるが、3号人骨は405mmで、5号人骨は（390mm）で、前者は表6では最大値に、後者は阿高（391.8mm）に近い。骨体中央周は79.00mmで、阿高（82.74mm）よりは小さいが、カキワラ（73.00mm）、東名（75.17mm）よりは大きい。また、縄文早・前期人（76.9mm）よりも大きく、縄文中・後・晩期人（79.8mm）と大差ない。すなわち、大腿骨は長く、骨体は太い。骨体中央断面示数は113.54で、表6では最大値となるが、東名（112.26）に近く、骨体には柱状性がみられる。上骨体断面示数は73.58で、カキワラ（70.37）に次いで小さいが、東名（73.96）とも大差なく、骨体上部は扁平である。

3. 脛骨

表7は、女性脛骨の比較表である。最大長は326mmで、阿高（331mm）よりは短い、東名（304mm）よりも長い。また、縄文早・前期人（319.5mm）と縄文中・後・晩期人（323.5mm）よりも長い。骨体周は72.00mmで、縄文中・後・晩期人（75.9mm）よりも小さいが、カキワラ（62mm）よりも大きく、東名（71.00mm）、縄文早・前期人（73.9mm）と大差ない。すなわち長さは長く、骨体は細い。中央断面示数は69.04で、カキワラよりもわずかに小さく、その他の資料とは大差なく、骨体はわずかに扁平である。

4. 推定身長

表8は、女性の推定身長と比較表である。3号人骨は151.62cm（大腿骨、Pearson式）で、表8では最大値となり、縄文人としては身長が高い。一方、5号人骨は（148.70cm）で、縄文中・後・晩期人（149.2cm）に近い。

これまでの研究では、縄文早・前期人はきゃしゃで、中・後・晩期人は頑丈であると言われてきた。しかし、前者は山間部の遺跡から出土し、後者は海浜部の遺跡から出土することから、両者の違いは時代差ではなく、環境差の可能性も指摘されてきた。海浜部から早・前期人骨が、山間部から中・後・晩期人骨が出土しないので、検討することができなかったが、海浜部に立地する佐賀市の東名遺跡から早期人骨が出土したので、検討が可能になった。海浜部の東名縄文早期人は、山間部の早期人と同様、中・後・晩期人に比べるときゃしゃであった。山間部の早・前期人も海浜部の早期人も中・後・晩期人に比べるときゃしゃで、この差は時代差であることを示唆していた。また、東名早期人は山間部の早期人よりはやや頑丈であったが、これは山間部よりも海浜部の方が食糧資源が豊富であることによるものと推測される。すなわち、海浜部の方が食糧資の獲得に

ついてははるかに有利なのである。

では東名遺跡と同じ海浜部に立地する轟貝塚の早・前期人の特徴をみてみよう。男性では上腕骨しか検出ができないが、男性の上腕骨は、頑丈な中・後・晩期人よりも中央周の値は大きく、上腕骨はかなり太くて屈強である。

一方、女性の上腕骨は、長さは早・前期人と中・後・晩期人よりも長い。中央周は中・後・晩期人より小さく、早・前期よりも大きく、東名早期人と大差ない。女性大腿骨は、長さが長いものと短いものが存在する。骨体中央周は早・前期よりも大きく、中・後・晩期人と大差ない。女性脛骨も長さは長い。骨体周は中・後・晩期人よりも小さく、早・前期人と大差なく、東名早期人とも大差ない。

すなわち、男性の上腕骨は海浜部の中・後・晩期人よりも太くて頑丈であるが、女性上腕骨は山間部の早・前期よりも太いものの、中・後・晩期人よりは細い。女性大腿骨も早・前期よりも太く、中・後・晩期人と大差ない。女性脛骨は中・後・晩期人より細く、早・前期と大差ない。おおむね女性の四肢骨は、中・後・晩期人よりも細く、早・前期よりも太い傾向が認められ、このような特徴は東名早期人とほぼ同じ傾向を示している。

要 約

熊本県宇土市宮^{みやのしょうまち}庄町字須崎にある轟貝塚の2015年度と2016年度に亘る第13次調査（遺跡確認調査）で、縄文時代人骨が5体出土した。後世の攪乱を受けている人骨もあったが、保存状態は良好である。現場で人骨の検出をおこない、出土人骨の解剖学的精査や人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 5体のうち4体は人骨が一部重なるほど狭い範囲から検出されたが、1体（5号人骨）は単体埋葬である。埋葬遺構は土坑墓で、埋葬姿勢は5体とも仰臥の屈葬であった。集中して出土した4体は人骨の上部に乗っていた礫群が構築された際に攪乱を受けており、全身骨は残ってなかったが、単独で出土した人骨はほぼ全身骨が埋葬された状態を保って出土した。
2. 集中して検出された4体は、考古学的所見から縄文時代早期に、単独で出土した人骨（5号人骨）は縄文時代前期に所属する人骨と推測されている。
3. 出土した5体の人骨はすべて成人骨で、男性1体、女性4体である。集中して出土したのは男性骨1体と女性骨3体で、単独で出土したのは女性骨である。
4. 頭蓋の計測ができたのはわずか1体（5号人骨・女性）である。脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長177mm、頭蓋最大幅138mm、バジオン・ブレグマ高135mmで、頭蓋長幅示数77.97、頭蓋長高示数76.27、頭蓋幅高示数97.83となり、頭型は中頭型・高頭型・中頭型（meso-, hypsi-, metriokran）に属している。顔面頭蓋の計測値は、頬骨弓幅（132）mm、中顔幅98mm、顔高102mm、上顔高（57）mmで、顔示数77.27（K）、（104.08）（V）、上顔示数（43.18）（K）、（58.16）（V）となり、顔面には低・広顔傾向が認められる。鼻骨の根部は厚く、つままれた様に隆起しており、鼻根部には縄文人的特徴がみられる。
5. 歯槽部の観察ができた5体には風習的抜歯は認められない。外耳道骨腫が1例（5号人骨、女性、両側）にみられた。
6. 男性上腕骨は、長さが短く、三角筋粗面の発達は著しく良好で、骨体は太い。
7. 女性上腕骨は、長さが長い。長さの割には骨体は太くはなく、きゃしゃであるが、山間部の早・前期人ほどきゃしゃではない。女性大腿骨は、長いものと短いものが存在し、骨体断面示数は山間部の縄文早・前期人並みに大きく、骨体両側面は後方へ発達し、柱状性が認められるので、骨体周はその分だけ

け計測値が大きくなり、その値は中・後・晩期人に近いが、骨体が太くて頑丈なわけではない。女性脛骨は山間部の早・前期人なみに骨体は細い。

8. 大腿骨最大長から算出した女性の推定身長値は、1例は151.62cm(3号人骨・早期人)で高身長であるが、もう1例は(148.70)cm(5号人骨・前期人)で、低身長である。
9. 今回縄文人の起源を考える上で貴重な資料となる、保存良好な縄文時代早期と前期に属する人骨が出土した。男性骨の遺存状態は悪かったので、頭型や顔面の形態、大腿骨などの下肢骨の特徴などを明らかにすることができなかったが、女性については頭型や顔面の形態を知ることができた。頭型は中頭型で顔面は低・広顔傾向が強く、鼻根部には縄文人的特徴がみられ、顔面は縄文人そのものである。男性上腕骨は太く、屈強であった。女性大腿骨には縄文早・前期人に顕著な強い柱状性がみられた。女性の四肢骨は海浜部の中・後・晩期人よりもきゃしゃであるが、山間部の早・前期人よりは大きく、東名早期人と同じ傾向が認められた。しかし、男性上腕骨は同じ海浜部に存在する佐賀市の東名早期人とは違い、屈強であり、しかも海浜部の中・後・晩期人よりも頑丈であった。すなわち女性は中・後・晩期人よりもきゃしゃで、山間部の早・前期よりは頑丈であるが、男性上腕骨は頑丈な海浜部の中・後・晩期人よりもさらに屈強である。

男女によるこのような差異は、男女によって生業形態が異なっていたことに起因するものかもしれないし、あるいは同じ有明海沿岸部に位置するといっても、東名遺跡は干満の差が大きく、干潮時には広大な干潟が広がり移動が困難な有明海の奥域に面しており、轟貝塚のある沿岸域とは様相が異なることによるものかもしれない。

縄文早・前期人はきゃしゃで、中・後・晩期人は頑丈であるという特徴は、東名早期人骨の研究によって遺跡の立地に関係なく、時代の特徴であるということが言えそうであったが、轟貝塚の男性上腕骨の特徴は、そんなに単純ではないことを示唆しているようである。今後も、丁寧に人骨の特徴を検討していく必要がある。

今回、男性の詳細なデータが得られなかったのは残念であるが、本例には風習的抜歯がみられなかったことや、身長が高い女性が存在することにも注意しておきたい。

《参考文献》

1. 金関丈夫・他, 1952: 熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘人骨について(会)。福岡医学会雑誌, 43: 1032-1033.
2. 金関丈夫・他, 1955: 熊本県下益城郡豊田村御領貝塚発掘の人骨について。人類学研究, 2: 93-163.
3. 北条暉幸・他, 1971: 熊本県天草郡沖の原貝塚人骨とその遺物。人類学雑誌, 79: 70.
4. 松野 茂, 地後井泰然弘, 永田忠寿, 1967: 肥後国上益城郡嘉島村六嘉かきわら貝塚出土人骨について。熊本医学会雑誌, 41: 41-52.
5. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart: 429-597.
6. 松下真実, 2009: 沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第4号(沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告(1)): 42-57.
7. 松下真実・他, 2010: 沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨(2)土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第6号: 28-49.

第5節 出土人骨

8. 松下孝幸・他, 1983a: 山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次調査報告概報(豊北町埋蔵文化財調査報告2): 19-30.
9. 松下孝幸・他, 1983a: 佐賀県唐津市菜畑遺跡出土の人骨。菜畑遺跡(唐津市文化財調査報告5): 388-398.
10. 松下孝幸・他, 1983b: 山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7次発掘調査概報(豊北町埋蔵文化財調査報告2): 19-30.
11. 松下孝幸・他, 1986: 熊本県小川町七ツ江カキワラ貝塚出土の縄文時代人骨。七ツ江カキワラ貝塚の下貝塚(熊本県文化財調査報告第79集): 39-70.
12. 松下孝幸・他, 2009: 佐賀市東名遺跡出土の縄文早期人骨。東名遺跡群I第4分冊(佐賀導水事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5)(佐賀市文化財調査報告書第150集): 16-23.
13. 松下孝幸・他, 2016: 東名遺跡出土の縄文早期人骨の特徴とその意義。東名遺跡群IV(東名遺跡群総括報告書)(佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集, 東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2)第1分冊【堆積層・遺構編】: 101-114.
14. 松下孝幸, 2016: 東名遺跡出土人骨の特徴。東名遺跡群IV(東名遺跡群総括報告書)(佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集, 東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2)第4分冊【総括編】: 63-65.
15. 松下孝幸, 2017: 骨からわかる東名縄文人の特徴。佐賀市教育委員会編『東名遺跡』: 164-171. 雄山閣
16. 松下孝幸・他, 2019: 熊本県山鹿市天岩戸岩陰遺跡出土の縄文晩期人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第14号: 1-14.
17. 内藤芳篤, 1973: 沖の原遺跡の人骨。長崎大学解剖学第二教室。
18. 内藤芳篤, 1974: 天草・沖の原遺跡出土の人骨について(会)。解剖学雑誌, 49: 207.
19. 内藤芳篤・他, 1978: 天岩戸岩陰遺跡出土の人骨について。菊池川流域文化財調査報告書(熊本県文化財調査報告31): 117-121.
20. 小方保, 1981: 縄文時代人骨。人類学講座5 日本人I: 27-55. 雄山閣
21. 岡本辰之輔, 1929: 肥後国下益城郡阿高貝塚人人骨の人類学的研究(頭蓋骨に就いて)第一報。人類学雑誌, 44(第一附録): 1-26.
22. 岡本辰之輔, 1929: 肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究(其の二, 四肢骨について)。人類学雑誌, 44(第三附録): 77-105.
23. 大森浅吉, 木野田章, 1957: 阿高貝塚人の下顎骨について。鹿児島医学会雑誌, 30: 408-421.
24. 大森浅吉, 1960: 故南山大学教授中山英司博士により測定された阿高貝塚人骨の測定値。人類学研究, 7(附録): 211-223.
25. 鈴木文太郎, 1918: 肥後轟貝塚河内道明寺にて発掘せる人骨に就いて。人類学雑誌, 33: 59-66.
26. 鈴木 尚, 1963: 日本人の骨。岩波書店, 東京。
27. 田幡丈夫, 1930: 肥後国下益城郡阿高村西阿高貝塚人人骨の人類学的研究(其の三, 骨盤骨に就いて)。人類学雑誌, 45: 425-433.

* Masami MATSUSHITA, ** Takayuki MATSUSHITA

The Organization of Anthropological Research [特定非営利活動法人・人類学研究機構]

表4 上腕骨計測値(男性、右、mm)(Table 4. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

		轟貝塚13次		東名		葉畑		阿高		カキワラ		縄文		縄文	
		縄文早期人		縄文早期人		縄文前期人		縄文中期人		縄文後期人		早・前期人		中・後・晩期人	
		熊本県		佐賀県		佐賀県		熊本県		熊本県					
		宇土市		佐賀市		唐津市		(大森)		小川町		(小方)		(小方)	
		4号人骨		17		n M		n M		n M		n M		n M	
5.	中央最大径	26		22	(左)	1	19	14	24.86	2	23.00	6	20.8	52	24.4
6.	中央最小径	20		15	(左)	1	16	14	18.43	2	16.00	6	14.7	52	18.1
7.	骨体最小周	63		59	(左)	1	56	15	67.87	2	60.00		-		-
7(a).	中央周	77		64	(左)	1	60		-	2	66.50	5	61.6	49	71.0
6/5	骨体断面示数	76.72		68.18	(左)	1	84.21	14	74.23	2	69.89	6	70.6	52	74.2

表5 上腕骨計測値(女性、右、mm)(Table 5. Comparison of measurements and indices of female right humeri)

		轟貝塚13次		東名		阿高		カキワラ		縄文		縄文	
		縄文早期人		縄文早期人		縄文中期人		縄文後期人		早・前期人		中・後・晩期人	
		熊本県		佐賀県		熊本県		熊本県					
		宇土市		佐賀市		(大森)		小川町		(小方)		(小方)	
		n	M	30	48	n	M	2号人骨	n	M	n	M	
1.	上腕骨最大長	1	282	-	-	2	267.5	-	5	271.2	21	272.0	
2.	上腕骨全長	1	278	-	-		-	-		-		-	
5.	中央最大径	3	19.33	21	21 (左)	7	21.29	22 (左)	12	18.6	41	21.0	
6.	中央最小径	3	15.00	13	14 (左)	7	16.43	17 (左)	12	13.9	41	15.2	
7.	骨体最小周	3	53.33	55	53 (左)	7	59.43	58 (左)		-		-	
7(a).	中央周	3	58.33	59	58 (左)		-	64 (左)	11	55.0	39	60.7	
6/5	骨体断面示数	3	77.72	61.90	66.67 (左)	7	77.43	77.27 (左)	12	75.0	41	73.1	
7/1	長厚示数	1	19.15	-	-	2	20.40	-		-		-	

表6 大腿骨計測値(女性、右、mm)(Table 6. Comparison of measurements and indices of female right femora)

		轟貝塚13次		東名		阿高		カキワラ		縄文		縄文	
		縄文早期人		縄文早期人		縄文中期人		縄文後期人		早・前期人		中・後・晩期人	
		熊本県		佐賀県		熊本県		熊本県					
		宇土市		佐賀市		城南町		小川町		(小方)		(小方)	
		n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1.	最大長	1	405	(左)	-	5	391.8	-	4	382.3	25	392.5	
	最大長(右+左/2)	2	(397.50)										
2.	自然位全長	1	389		-	4	396.25	-		-		-	
6.	骨体中央矢状径	4	26.00	6	25.00	18	27.17	3	22.33	8	22.3	57	26.2
7.	骨体中央横径	4	23.00	6	22.33	18	25.44	3	23.00	9	22.5	57	23.8
8.	骨体中央周	4	79.00	6	75.17	19	82.74	3	73.00	8	76.9	56	79.8
9.	骨体上横径	3	29.00	4	27.75	17	29.76	3	28.00	9	27.2	53	28.2
10.	骨体上矢状径	3	21.33	4	20.50	17	23.71	3	19.67	9	20.9	53	22.1
8/2	長厚示数	1	20.31	-	-	4	21.22	-	4	19.9	22	20.1	
6/7	骨体中央断面示数	4	113.54	6	112.26	18	107.33	3	97.09	8	114.5	56	110.6
10/9	上骨体断面示数	3	73.58	4	73.96	16	79.24	3	70.37	9	77.1	53	78.4

表7 脛骨(女性、右、mm)(Table 7. Comparison of measurements and indices of female right tibiae)

		轟貝塚13次		阿高		カキワラ		東名		縄文		縄文	
		縄文早期人		縄文中期人		縄文後期人		縄文早期人		早・前期人		中・後・晩期人	
		熊本県		熊本県		熊本県		佐賀県					
		宇土市		(大森)		小川町		佐賀市		(小方)		(小方)	
		n	M	n	M	3号	n	M	n	M	n	M	
1.	脛骨全長	1	322		2	322	-	-		-		-	
1a.	脛骨最大長	1	326		2	331	-	1	304	4	319.5	11	323.5
8.	中央最大径	4	26.50	(左)	7	29.3	22	4	25.25	7	27.8	33	28.1
9.	中央横径	4	18.25	(左)	8	19.88	16	4	17.50	7	19.3	33	19.5
10.	骨体周	4	72.00	(左)		-	62	3	71.00	8	73.9	37	75.9
10b.	最小周	4	64.75			-	57	3	63.67		-		-
9/8	中央断面示数	4	69.04	(左)	10	68.87	72.73	4	69.32	7	69.6	33	69.8
10b/1	長厚示数	1	20.19			-	-		-	4	23.0	11	22.5

表8 推定身長値(女性、右、cm)(Table 8. Comparison of estimated male statures)

	轟貝塚13次		東名	縄文	縄文	
	縄文早前期人		縄文早期人	早前期人	中後晚期人	
	熊本県 宇土市		佐賀県 佐賀市 (松下・他)	(小方)		
	3号人骨	5号人骨	19	M	M	
Pearsonの式	上腕骨	149.14		-	-	
	橈骨	154.10		-	-	
	大腿骨	151.62	148.70	-	147.1	149.2
	脛骨	150.51		-	-	
藤井の式	上腕骨	148.42		-	-	
	橈骨	151.17		-	-	
	大腿骨	152.21	148.40	-	-	-
	脛骨	149.59		144.89	-	-

表23 形態小変異(Non-metoric crania variants)

	轟13次 1号人骨 女性		轟13次 2号人骨 女性		轟13次 3号人骨 女性		轟13次 5号人骨 女性		轟13次 4号人骨 男性	
	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
1. Medial palatine canal	/	/	/	/	/	/	-	/	/	/
2. Pterygospinous foramen	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
3. Hypoglossal canal bridging	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/
4. Clinoid bridging	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
5. Condylar canal absent	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence,Foramen of Huschke(>1mm)	+	/	/	/	/	-	-	-	/	/
7. Jugular foramen bridging	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/
8. Precondylar tubercle	/	/	/	/	/	/	-	-	/	/
9. Supra-orbital foramen(incl.frontal foramen)	-	/	/	/	-	-	-	-	/	/
10. Accesory infraorbital foramen	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
11. Zygo-facial foramen absent	/	/	/	/	/	-	-	-	/	/
12. Aural exostosis	-	/	/	/	/	-	+	+	/	/
13. Metopism	-	/	/	/	-	-	-	-	/	/
14. Os incae	+	-	-	-	/	-	-	-	/	/
15. Ossicle at the lambda	+	-	+	-	/	-	-	-	/	/
16. Parietal notch bone	-	/	/	/	/	-	-	-	/	/
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	/	/	/	/	/	-	-	-	/	/
18. Asterionic ossicle	-	-	/	/	/	-	-	-	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	-	/	/	/	/	/	-	/	/	/
20. Epipteric ossicle	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
22. Biasterionic suture(>10mm)	/	-	/	-	/	/	-	-	/	/
23. Mylohyoid bridging	-	/	-	/	/	-	/	-	/	/
24. Accessory mental foramen	-	/	-	-	-	-	-	-	/	-
25. Mandibular torus	-	/	-	-	-	-	+	+	/	-
26. 滑車上孔	/	/	-	/	+	/	-	/	/	-

表10 顔面頭蓋(女性、mm、度)
(Facial skeleton)

	13次 1号人骨 女性	13次 5号人骨 女性
40. 顔長	(100)	
41. 側顔長	67	
42. 下顔長	109	
43. 上顔長	104	
44. 頬骨弓幅	(132)	
45. 中顔幅	98	
46. 顔高	102	
47. 上顔高	(57)	
48. 上顔高(K)	(77.27)	
48/45 上顔高(K)	(43.18)	
47/46 顔示数(V)	104.08	
48/46 上顔示数(V)	(58.16)	
40+45+47/3 顔面モジュール	111.33	
50. 前眼窩間幅	-	
44. 両眼窩間幅	(96)	
50/44 眼窩間示数	-	
51. 眼窩幅(右)	-	
52. 眼窩幅(左)	41	
52/51 眼窩示数(右)	32	
52/51 眼窩示数(左)	78.05	
54. 鼻幅	28	
55. 鼻高	47	
54/55 鼻示数	-	
55(1). 梨状口高	-	
56. 鼻骨長	-	
57. 鼻骨最大幅	-	
57(1). 上顎歯槽長	-	
60. 上顎歯槽幅	-	
61. 口蓋長	-	
62. 口蓋幅	-	
63. 口蓋高	-	
64. 上顎歯槽示数	-	
61/60 口蓋示数	-	
63/62 口蓋示数	-	
64/63 全側面角	(87)	
72. 鼻側面角	(89)	
73. 齒槽側面角	(79)	

表11 鼻根部(女性、mm、度)
(Nasal root)

	13次 5号人骨 女性	
50. 前眼窩間幅	-	
50A. 鼻根横弧長	-	
50/50A 鼻根彎曲示数	-	
57. 鼻骨最小幅	(96)	
44. 両眼窩間幅	-	
50/44 眼窩間示数	-	
a. 前頭突起上幅(右)	9	
	(左)	
b. 前頭突起水平傾斜角	2	
c. G-N投影距離	-	
d. 鼻根角	-	
e. G-R距離	-	
f. 垂線高	-	
f/e 鼻根傾凹示数	152	
77. 鼻頰骨角	97	
Fa fmo間距離	12	
Fh 垂線高	12.37	
Fh/Fa 顔面扁平示数	12.37	

表9 脳頭蓋(女性、mm)(Calvaria)

	13次 1号人骨 女性	13次 5号人骨 女性
1. 頭蓋最大長	173	177
8. 頭蓋最大幅	135	138
17. バジオン・ブレグマ高	-	135
8/1 頭蓋長幅示数	78.03	77.97
17/1 頭蓋長高示数	-	76.27
17/8 頭蓋幅高示数	-	97.83
1+8+17/3 頭蓋モジュール	-	150.00
5. 頭蓋底長	-	105
9. 最小前頭幅	-	99
10. 最大前頭幅	-	120
11. 両耳幅	-	(113)
12. 最大後頭幅	103	112
13. 乳突幅	91	-
7. 大後頭孔長	-	32
16. 大後頭孔幅	-	-
23. 頭蓋水平周	-	511
24. 楛弧長	[308]	311
25. 正中矢状弧長	-	362
26. 正中矢状前頭弧長	119	120
27. 正中矢状頭頂弧長	124	130
28. 正中矢状後頭弧長	-	112
29. 正中矢状前頭弧長	107	106
30. 正中矢状後頭弧長	110	114
31. 矢状前頭示数	89.92	88.33
29/26 矢状前頭示数	88.71	87.69
30/27 矢状後頭示数	-	87.50
31/28 矢状後頭示数	-	-

表13 肩甲骨(女性、mm)(Scapula)

	13次 3号人骨 女性	13次 5号人骨 女性
12. 関節窩長(右)	33	31
	(左)	-
13. 関節窩幅(右)	24	-
	(左)	-
14. 関節窩深(右)	4	3
	(左)	-
13/12 関節窩長幅示数(右)	72.73	-
	(左)	-
14/12 関節窩彎曲示数(右)	12.12	9.68
	(左)	-

表12 下顎骨(女性、mm、度)(Mandibula)

	13次 2号人骨 女性	13次 3号人骨 女性	13次 5号人骨 女性	13次 4号人骨 男性	平均
65	-	-	123	-	123
65(1). 下顎関節突起幅	-	-	100	-	100
66	-	-	93	-	93
67	46	43	48	50	45.67
68	-	-	71	-	71
68(1). 下顎長	-	-	95	-	95
69	-	26	-	26	26
69(1). オトガイ高	-	28	30	29	29.00
		(左)	(右)	(左)	
69(2). 下顎体高(右)	-	25	24	-	24.50
		(左)	(右)	(左)	
70	-	-	59	-	59
70(1). 枝高(右)	-	56	58	-	57.00
		(左)	(右)	(左)	
70(2). 前枝高(右)	-	62	63	-	62
		(左)	(右)	(左)	
70(3). 最小枝高(右)	-	53	53	-	53
		(左)	(右)	(左)	
71(1). 下顎切痕高(右)	-	11	11	-	11
		(左)	(右)	(左)	
71	-	34	29	-	31.50
71a. 枝幅(右)	-	33	33	-	33
		(左)	(右)	(左)	
79	-	30	32	-	31.00
79	-	30	32	-	31.00
		(左)	(右)	(左)	
66/65 下顎幅示数	-	123	112	-	117.50
68/65 幅長示数	-	-	75.61	-	75.61
69(2)/69 幅長示数(右)	-	-	57.72	-	57.72
		(左)	(右)	(左)	
71/70 下顎枝示数(右)	-	-	-	-	-
		(左)	(右)	(左)	
71a/70(2) 下顎枝示数(右)	-	53.57	55.17	-	54.37
		(左)	(右)	(左)	
70(3)/71(1) 下顎切痕示数(右)	-	56.60	60.38	-	58.49
		(左)	(右)	(左)	
		32.35	37.93	-	35.14

表14 鎖骨(女性、mm)(Clavicula)

	肱13次 2号人骨 女性		平均 女性	
	n	M	n	M
4. 中央垂直径(右)	7	8	2	7.50
(左)	7	9	2	8.00
5. 中央矢状径(右)	12	10	2	11.00
(左)	10	10	2	10.00
6. 中央周(右)	33	31	2	32.00
(左)	30	32	2	31.00
4/5 鎖骨断面示数(右)	58.33	80.00	2	69.17
(左)	70.00	90.00	2	80.00

表15 上腕骨(女性、mm)(Humerus)

	肱13次 2号人骨 女性		肱13次 3号人骨 女性		肱13次 5号人骨 女性		平均 女性		肱13次 4号人骨 男性
	n	M	n	M	n	M	n	M	
1. 上腕骨最大长(右)	-	-	-	-	282	-	1	282	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 上腕骨全长(右)	-	-	-	-	278	-	1	278	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 上端幅(右)	-	-	-	-	(45)	-	1	(45)	-
(左)	-	-	-	-	43	-	1	43	-
3(1). 横上径(右)	-	-	-	-	46	-	1	46	-
(左)	-	-	-	-	(47)	-	2	46.00	-
4. 下端幅(右)	-	-	-	-	(48)	-	1	(48)	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5. 中央最大径(右)	19	19	20	3	19.33	-	3	19.33	26
(左)	19	18	18	3	18.33	-	3	18.33	25
6. 中央最小径(右)	17	14	14	3	15.00	-	3	15.00	20
(左)	17	13	14	3	14.67	-	3	14.67	18
7. 骨体最小周(右)	54	52	54	3	53.33	-	3	53.33	63
(左)	53	-	53	2	53.00	-	63	53.00	63
7(a). 中央周(右)	62	56	57	3	56.33	-	3	56.33	77
(左)	59	55	55	3	56.33	-	74	56.33	74
8. 頭周(右)	-	-	-	-	120	-	1	120	-
(左)	-	-	-	-	126	-	1	126	-
9. 頭最大横径(右)	-	-	-	-	41	-	1	41	-
(左)	-	-	-	-	(41)	-	1	(41)	-
10. 頭最大矢状径(右)	-	-	-	-	37	-	1	37	-
(左)	-	-	-	-	38	-	2	38.00	-
11. 滑車幅(右)	-	-	-	-	17	-	1	17	-
(左)	-	-	-	-	18	-	1	18	19
12. 小頭幅(右)	-	-	-	-	15	-	1	15	-
(左)	-	-	-	-	15	-	1	15	-
12(a). 滑車幅および小頭幅(右)	-	-	-	-	37	-	1	37	-
(左)	-	-	-	-	36.00	-	2	36.00	-
13. 滑車深(右)	22	23	22	1	22	-	1	22	26
(左)	24	-	24	2	22.50	-	2	22.50	26
14. 肘頭窩幅(右)	23	24	24	2	24.00	-	2	24.00	28
(左)	11	11	12	2	23.50	-	2	23.50	28
15. 肘頭窩深(右)	11	12	12	2	11.50	-	2	11.50	12
(左)	89.47	73.68	70.00	3	77.72	-	3	77.72	76.92
6/5 骨体断面示数(右)	89.47	72.22	77.78	3	79.82	-	3	79.82	72.00
(左)	-	-	19.15	1	19.15	-	1	19.15	-
7/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表16 橈骨(女性、mm)(Radius)

	肱13次 2号人骨 女性		肱13次 5号人骨 女性		平均 女性		肱13次 4号人骨 男性
	n	M	n	M	n	M	
1. 最大长(右)	-	-	218	-	1	218	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
1b. 平行长(右)	-	-	216	-	1	216	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
2. 機能长(右)	-	-	207	-	1	207	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
3. 最小周(右)	35	36	2	35.50	2	36	46
(左)	36	36	1	36	2	36	44
4. 骨体横径(右)	14	14	2	14.00	2	14	17
(左)	13	13	1	13	1	13	16
4a. 骨体中央横径(右)	14	14	2	14.00	2	14	17
(左)	12	13	2	12.50	2	12	16
4(1). 小頭横径(右)	-	-	20	-	1	20	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
4(2). 頸横径(右)	-	-	11	-	1	11	17
(左)	12	-	12	-	1	12	15
5. 骨体矢状径(右)	10	10	2	10.00	2	10	12
(左)	8	9	2	8.50	2	8.50	12
5a. 骨体中央矢状径(右)	10	10	2	10.00	2	10	12
(左)	9	9	2	9.00	2	9	12
5(1). 小頭矢状径(右)	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5(2). 頸矢状径(右)	-	-	12	-	1	12	16
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5(3). 小頭周(右)	12	-	-	-	1	12	15
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5(4). 頸周(右)	-	-	38	-	1	38	49
(左)	34	-	1	34	1	34	48
5(5). 骨体中央周(右)	39	38	2	38.50	2	38.50	47
(左)	36	36	2	36.00	2	36.00	45
5(6). 骨下端幅(右)	-	-	28	-	1	28	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
3/2 長厚示数(右)	-	-	17.39	-	1	17.39	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-
5/4 骨体断面示数(右)	71.43	71.43	2	71.43	2	71.43	70.59
(左)	66.67	69.23	2	67.95	2	67.95	75.00
5a/4a 中央断面示数(右)	71.43	71.43	2	71.43	2	71.43	70.59
(左)	75.00	69.23	2	72.12	2	72.12	75.00

表17 尺骨(女性、mm)(Ulna)

	轟13次 2号人骨		轟13次 3号人骨		轟13次 5号人骨		平均		轟13次 4号人骨 男性
	女性	n	女性	n	女性	n	女性	M	
1. 最大長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 機能長(右)	-	232	-	232	-	232	232	232	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2(1). 肘頭尺骨頭長(右)	-	208	-	208	-	208	208	208	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 最小周(右)	-	32	-	32	-	32	32	32	-
(左)	-	31	-	31	-	31	31	31	-
6. 肘頭幅(右)	-	21	-	21	-	21	21	21	-
(左)	21	21	-	21	-	21	21	21	-
6(1). 上幅(右)	-	28	-	28	-	28	28	28	-
(左)	31	27	-	27	-	27	27	27	-
7. 肘頭深(右)	-	22	-	22	-	22	22	22	24
(左)	20	21	-	21	-	21	21	21	23
8. 肘頭高(右)	-	17	-	17	-	17	17	17	20
(左)	17	18	-	18	-	18	18	18	18
11. 尺骨矢状径(右)	-	13	-	13	-	13	13	13	15
(左)	-	12	-	12	-	12	12	12	14
12. 尺骨横径(右)	-	11	-	11	-	11	11	11	15
(左)	-	14	-	14	-	14	14	14	14
S 中央最小径(右)	-	10	-	10	-	10	10	10	12
(左)	-	11	-	11	-	11	11	11	12
L 中央最大径(右)	-	13	-	13	-	13	13	13	15
(左)	-	14	-	14	-	14	14	14	15
C 中央周(右)	-	40	-	40	-	40	40	40	49
(左)	-	44	-	44	-	44	44	44	45
3/2 長厚示数(右)	-	-	-	13.79	-	13.79	13.79	13.79	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11/12 骨体断面示数(右)	-	118.18	-	73.33	-	73.33	95.76	95.76	100.00
(左)	-	85.71	-	80.00	-	80.00	82.86	82.86	100.00
S/L 中央断面示数(右)	-	76.92	-	73.33	-	73.33	75.13	75.13	80.00
(左)	-	78.57	-	62.50	-	62.50	70.54	70.54	80.00

表18 大腿骨(女性、mm)(Femur)

	轟13次 1号人骨		轟13次 2号人骨		轟13次 3号人骨		轟13次 5号人骨		平均		轟13次 4号人骨 男性
	女性	n	女性	n	女性	n	女性	n	女性	M	
1. 最大長(右)	-	1	-	1	-	1	-	1	390	390	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	405	405	-
2. 自然位全長(右)	-	-	-	-	-	405	-	405	389	389	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 最大軀子長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 自然位軀子長(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6. 骨体中央矢状径(右)	27	28	27	25	25	24	24	24	26.00	1.83	-
(左)	27	26	27	25	25	24	24	24	25.50	1.29	-
7. 骨体中央横径(右)	22	22	22	24	24	24	24	24	23.00	1.15	-
(左)	22	23	22	25	25	24	24	24	23.50	1.29	-
8. 骨体中央周(右)	80	79	80	79	78	79	79	79	79.00	0.82	-
(左)	80	80	80	79	79	78	78	78	79.25	0.96	-
9. 骨体上横径(右)	30	-	30	28	28	29	29	29	29.00	1.00	-
(左)	28	30	28	28	28	27	27	27	28.25	1.26	-
10. 骨体上矢状径(右)	22	-	22	21	21	21	21	21	21.33	0.58	-
(左)	22	22	22	21	21	21	21	21	21.50	0.58	-
15. 頸垂直径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	25	25	30
(左)	-	25	-	27	-	27	-	27	26.33	1.15	32
16. 頸矢状径(右)	24	-	24	-	-	-	-	-	22.50	2.12	25
(左)	-	21	-	24	-	24	-	24	22.00	1.73	23
17. 頸周(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	80	80	70
(左)	-	78	-	81	-	81	-	81	79.33	1.53	71
18. 頭垂直径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	40	40	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	40.050	40.050	-
19. 頭横径(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	40	40	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	41	40.50	-
20. 頭周(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	127	127	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	130	130	-
21. 上顆幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8/2 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	20.31	20.31	-
6/7 骨体中央断面示数(右)	122.73	127.27	122.73	104.17	104.17	100.00	100.00	100.00	113.54	13.47	-
(左)	122.73	113.04	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	108.94	11.06	-	
10/9 上骨体断面示数(右)	73.33	-	73.33	75.00	75.00	72.41	73.58	73.58	73.58	-	-
(左)	78.57	73.33	78.57	75.00	75.00	77.78	76.17	76.17	2.43	-	-

表19 脛骨(女性、mm)(Tibia)

	藤13次 1号人骨 女性		藤13次 3号人骨 女性		藤13次 5号人骨 女性		平均 女性		
	n	M	n	M	n	M	n	σ	
1. 脛骨全長(右)	-	-	-	-	322	322	1	322	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1a. 脛骨最大長(右)	-	-	-	-	326	326	1	326	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1b. 脛骨長(右)	-	-	-	-	317	317	1	317	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 顆距間距離(右)	-	-	-	-	306	306	1	306	-
(左)	-	-	-	-	305	305	1	305	-
8. 中央最大徑(右)	-	-	27	26	26	26.33	3	26.33	1.73
(左)	28	28	25	25	4	26.50	4	26.50	1.73
8a. 栄養孔位最大徑(右)	-	-	28	28	30	29.00	2	29.00	2.22
(左)	31	32	27	29	4	29.75	4	29.75	2.22
9. 中央横徑(右)	-	-	20	18	17	18.33	3	18.33	1.26
(左)	17	20	18	18	4	18.25	4	18.25	1.26
9a. 栄養孔位横徑(右)	-	-	19	18	2	18.50	2	18.50	0.82
(左)	18	20	19	19	4	19.00	4	19.00	0.82
10. 骨体周(右)	-	-	75	71	71	72.33	3	72.33	3.16
(左)	73	76	69	70	4	72.00	4	72.00	3.16
10a. 栄養孔位周(右)	-	-	77	77	2	77.00	2	77.00	2.94
(左)	80	82	75	79	4	79.00	4	79.00	2.94
10b. 最小周(右)	-	-	65	64	65	64.75	4	64.75	0.50
(左)	65	65	64	64	2	62.50	2	62.50	0.50
9/8. 中央断面示数(右)	-	-	74.07	69.23	65.38	69.23	3	69.23	5.55
(左)	60.71	71.43	72.00	72.00	4	69.04	4	69.04	5.55
9a/8a 栄養孔位断面示数(右)	-	-	67.86	60.00	2	63.93	2	63.93	5.17
(左)	58.06	62.50	70.37	65.52	4	64.11	4	64.11	5.17
10b/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	20.19	20.19	1	20.19	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表20 腓骨(女性、mm)(Fibula)

	藤13次 2号人骨 女性		藤13次 3号人骨 女性		藤13次 5号人骨 女性		平均 女性		
	n	M	n	M	n	M	n	M	
1. 最大長(右)	-	-	-	-	311	311	1	311	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2. 中央最大徑(右)	-	-	15	13	15	14.33	3	14.33	9.33
(左)	-	-	9	9	1	9	1	9	9.33
3. 中央最小徑(右)	-	-	10	9	9	9.33	3	9.33	40.67
(左)	-	-	43	37	42	40.67	3	40.67	38
4. 中央周(右)	-	-	-	-	38	38	1	38	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4a. 最小周(右)	-	-	-	-	13	13	1	13	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4b. 頸横徑(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	11	11	1	11	-
4c. 頸矢状徑(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	(23)	(23)	1	(23)	-
4(1). 上端幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4(1a). 上端矢状幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4(2). 下端幅(右)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4(2a). 下端矢状幅(右)	-	-	-	-	23	23	1	23	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3/2 中央断面示数(右)	-	-	-	-	-	-	60.00	60.00	60.00
(左)	66.67	69.23	69.23	69.23	3	65.30	3	65.30	12.22
4a/1 長厚示数(右)	-	-	-	-	-	-	12.22	12.22	-
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表22 推定身長値(女性、cm)(Estimated S

Pearsonの式	藤13次 3号人骨 女性		藤13次 5号人骨 女性	
	n	M	n	M
上腕骨(右)	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-
橈骨	-	-	15	15
(右)	-	-	3	14.33
(左)	-	-	9	9
大腿骨(右)	-	-	9	9.33
(左)	-	-	42	42
脛骨	-	-	38	40.67
(右)	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-
藤井の式	-	-	-	-
上腕骨(右)	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-
橈骨	-	-	13	13
(右)	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-
大腿骨(右)	-	-	11	11
(左)	-	-	(23)	(23)
脛骨	-	-	-	-
(右)	-	-	-	-
(左)	-	-	-	-

表21 膝蓋骨(女性、mm)(Patella)

	藤13次 1号人骨 女性	
	n	M
1. 最大高(右)	-	39
(左)	-	-
2. 最大幅(右)	-	(41)
(左)	38	-
3. 最大厚(右)	-	19
(左)	18	-
4. 関節面高(右)	-	29
(左)	-	-
5. 内関節面幅(右)	-	18
(左)	18	-
6. 外関節面幅(右)	-	23
(左)	23	-
1/2 膝蓋骨高幅示数(右)	-	(95.12)
(左)	-	-

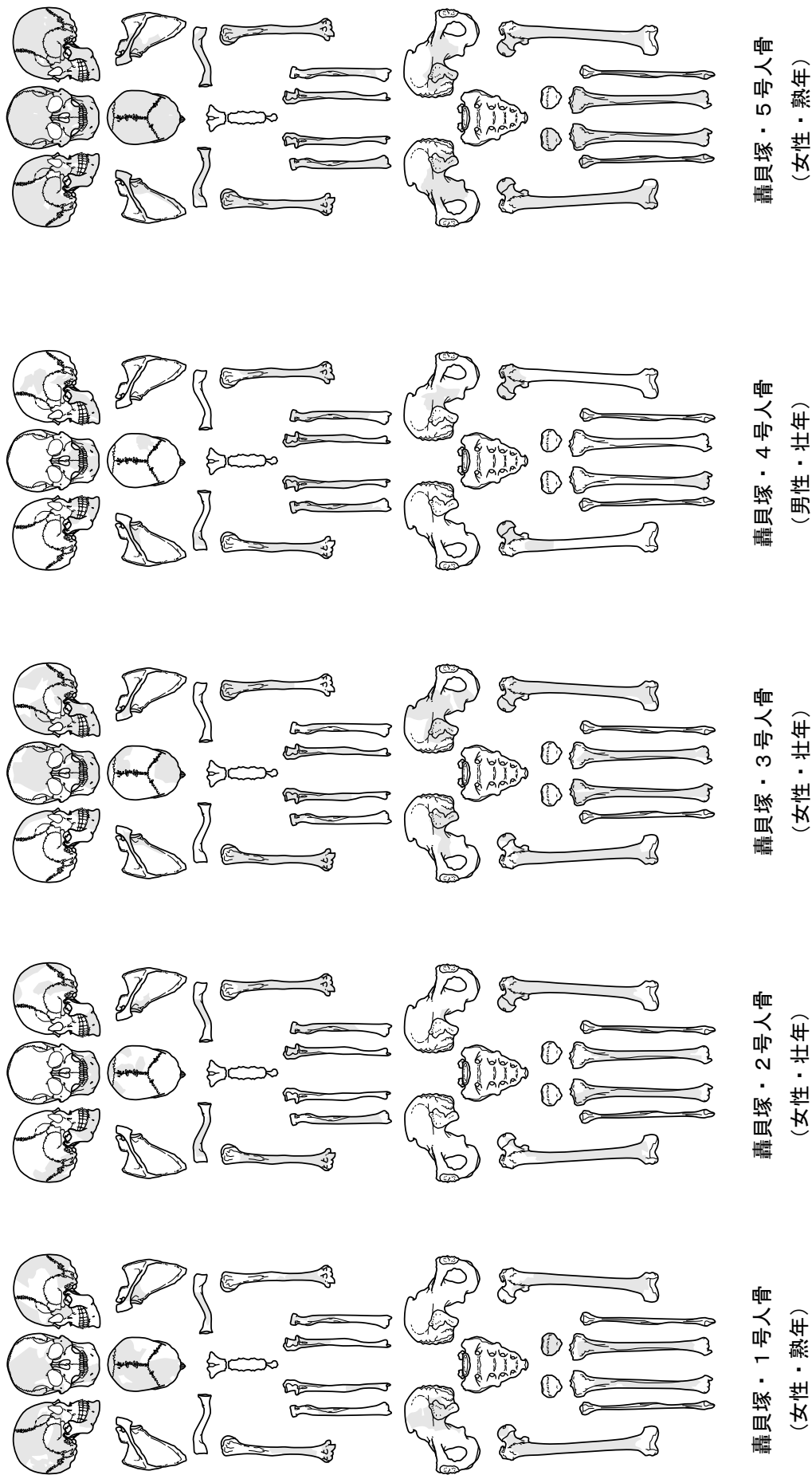
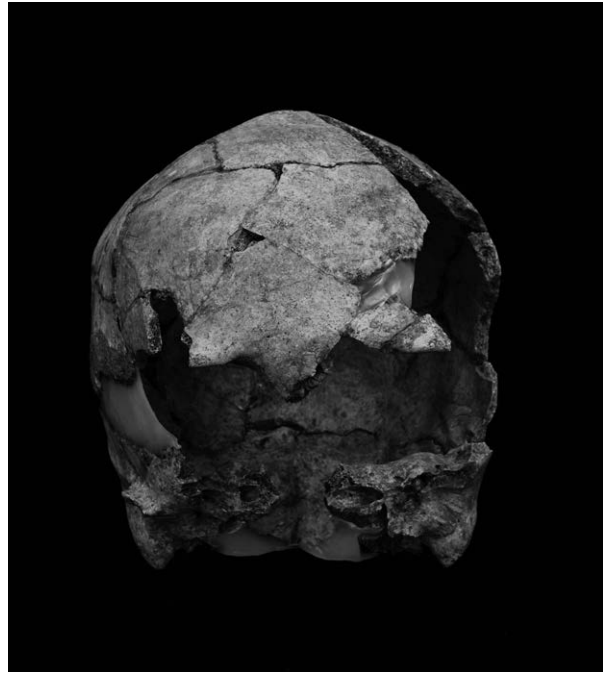


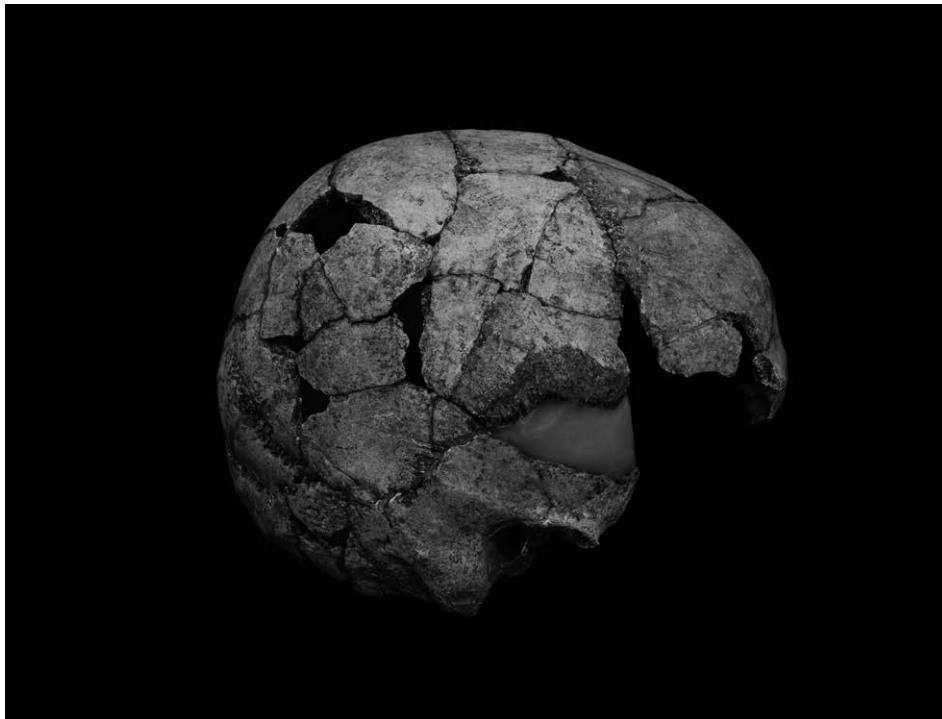
図2 人骨の残存図(アミかけ部分)
(Fig. 2-1 Regions of Preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



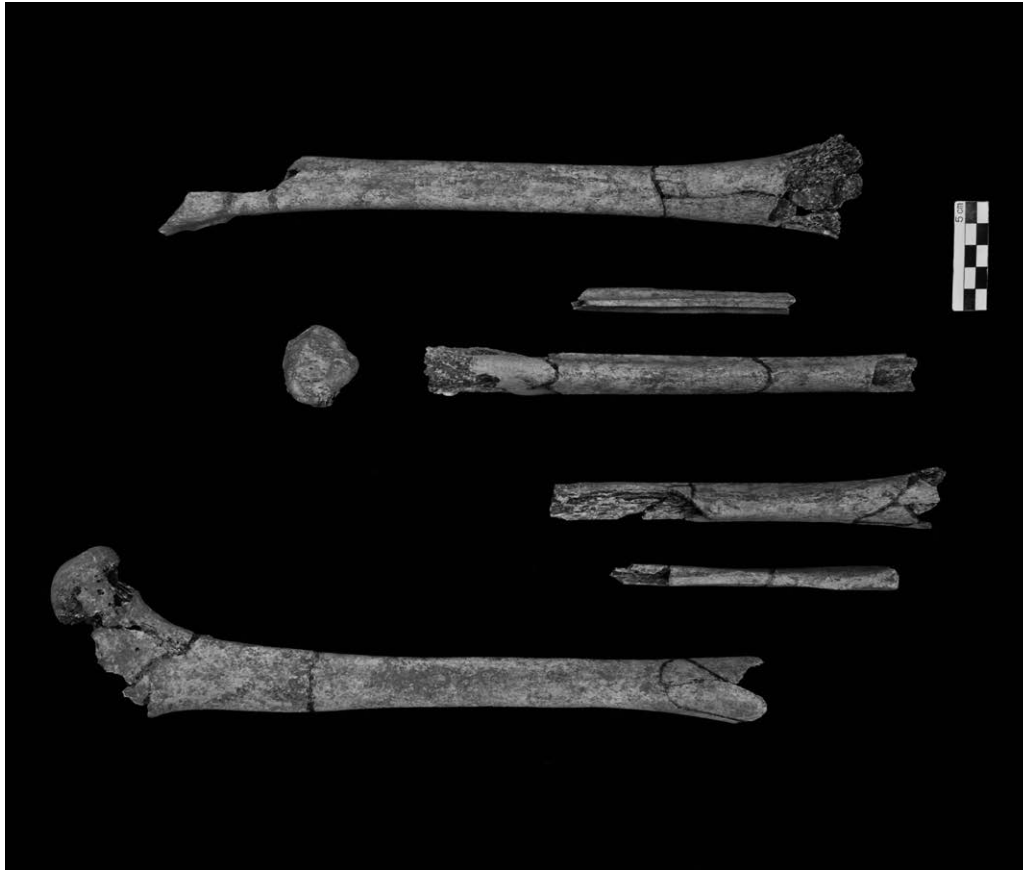
頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



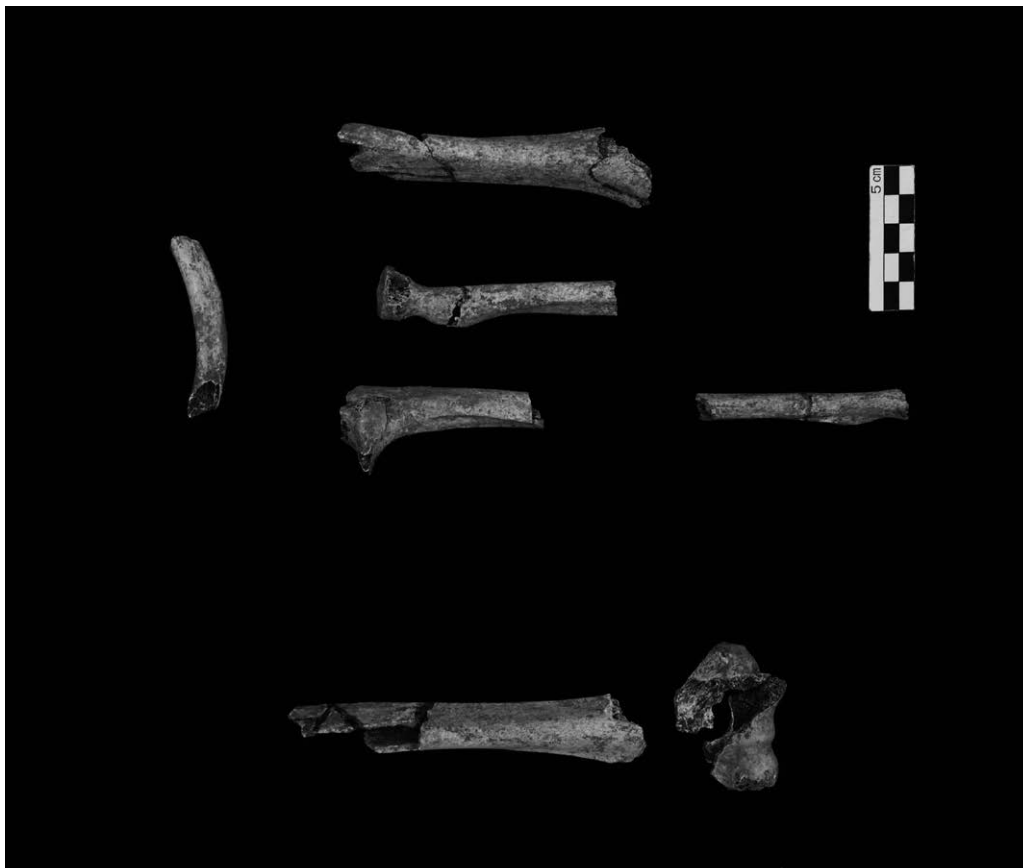
頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

轟貝塚 1号人骨 (女性・熟年)

(The skeleton No.1 from the Todoroki shell mound, mature female)



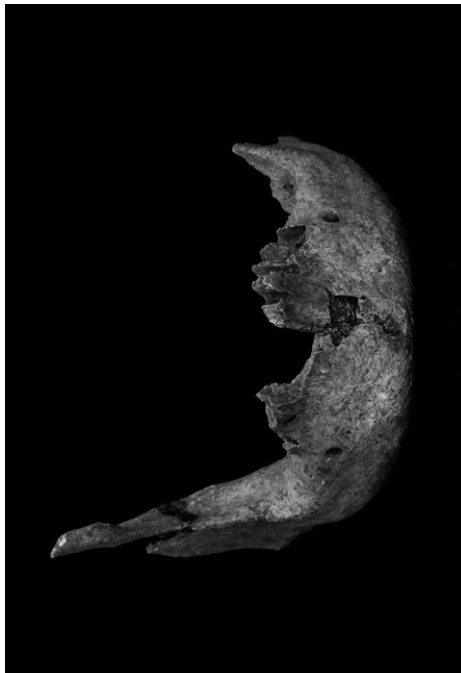
下肢骨 (Bones of the lower limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

轟貝塚 1号人骨 (女性・熟年)

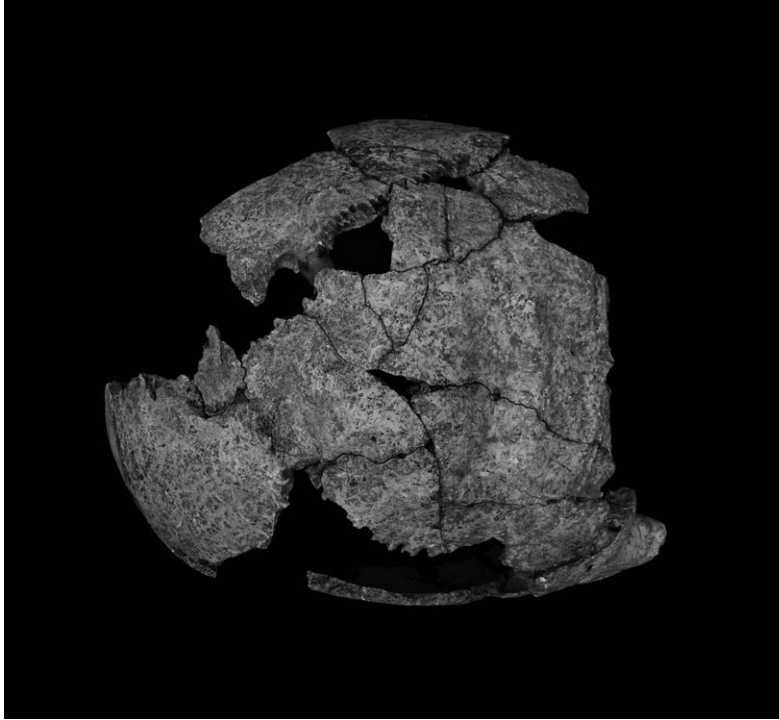
(The skeleton No. 1 from the Todoroki shell mound, mature female)



下顎骨正面 (Frontal view of the mandible)



下顎骨上面 (Superior view of the mandible)



頭蓋後面 (Posterior view of the skull)

轟貝塚 2号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No.2 from the Todoroki shell mound, young adult female)



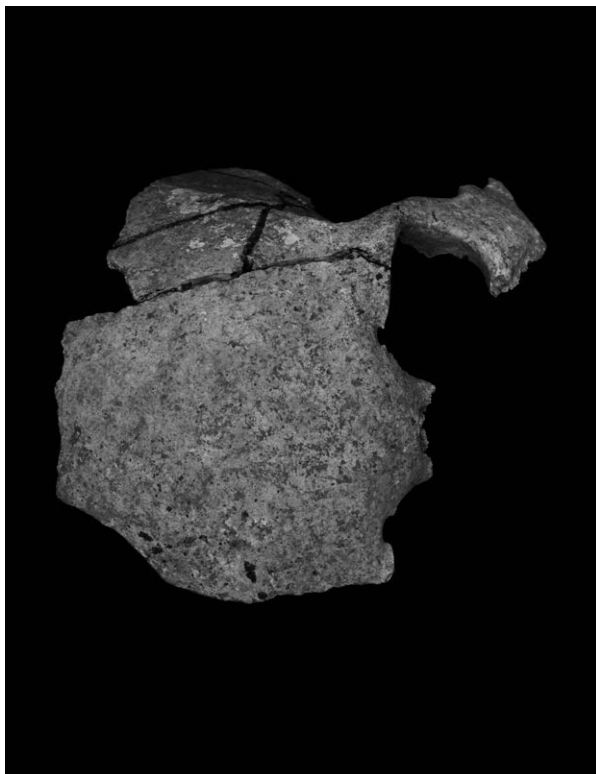
下肢骨 (Bones of the lower limb)



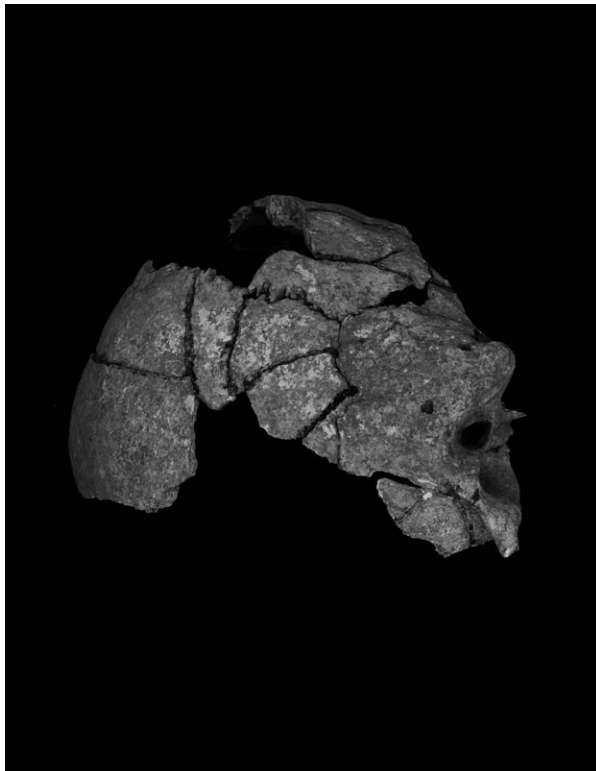
上肢骨 (Bones of the upper limb)

轟貝塚 2号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No.2 from the Todoroki shell mound, young adult female)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)

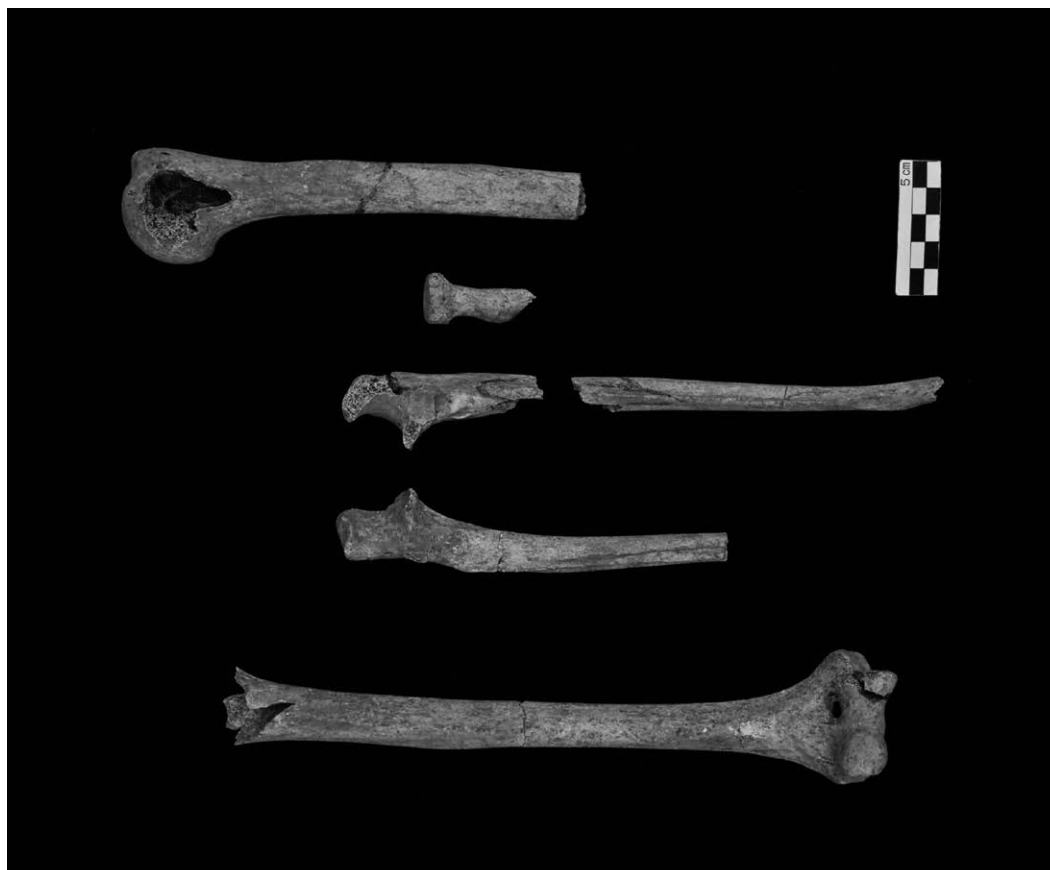


頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

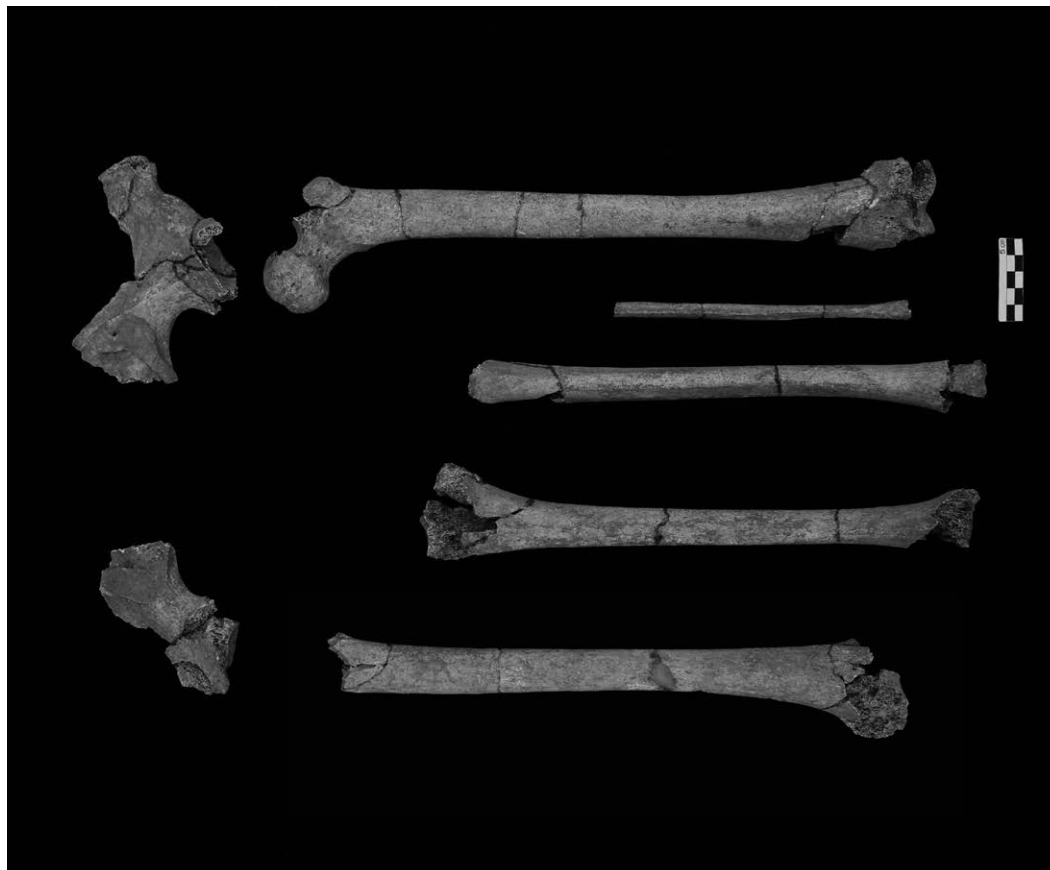


轟貝塚 3号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No. 3 from the Todoroki shell mound, young adult female)



上肢骨 (Bones of the upper limb)



下肢骨 (Bones of the lower limb)

轟貝塚 3号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No.3 from the Todoroki shell mound, young adult female)



下顎骨正面 (Frontal view of the mandible)



下顎骨上面 (Superior view of the mandible)

轟貝塚 4号人骨 (男性・壮年)

(The skeleton No.4 from the Todoroki shell mound, young adult male)



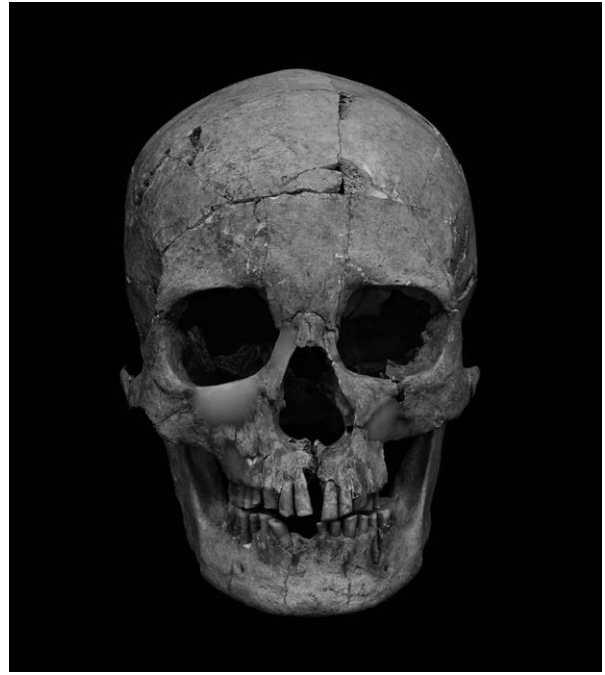
四肢骨 (The limb bones)

轟貝塚 4号人骨 (男性・壮年)

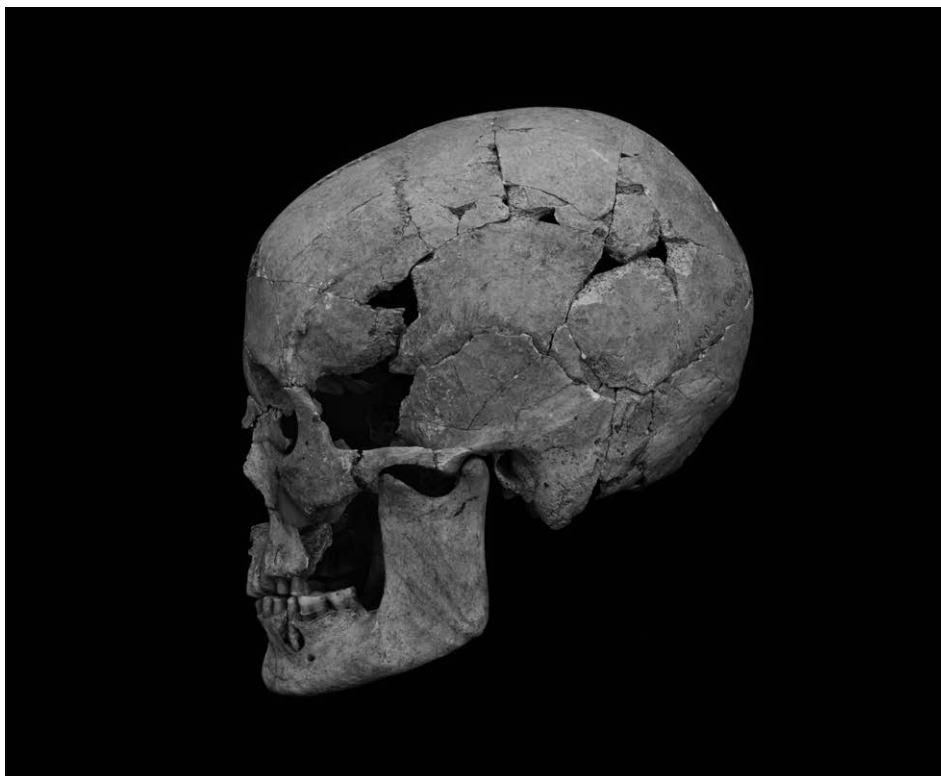
(The skeleton No.4 from the Todoroki shell mound, young adult male)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

轟貝塚 5号人骨 (女性・熟年)

(The skeleton No.5 from the Todoroki shell mound, mature female)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

轟貝塚 5号人骨 (女性・熟年)

(The skeleton No. 5 from the Todoroki shell mound, mature female)



下肢骨 (Bones of the lower limb)



齒 (The teeth)



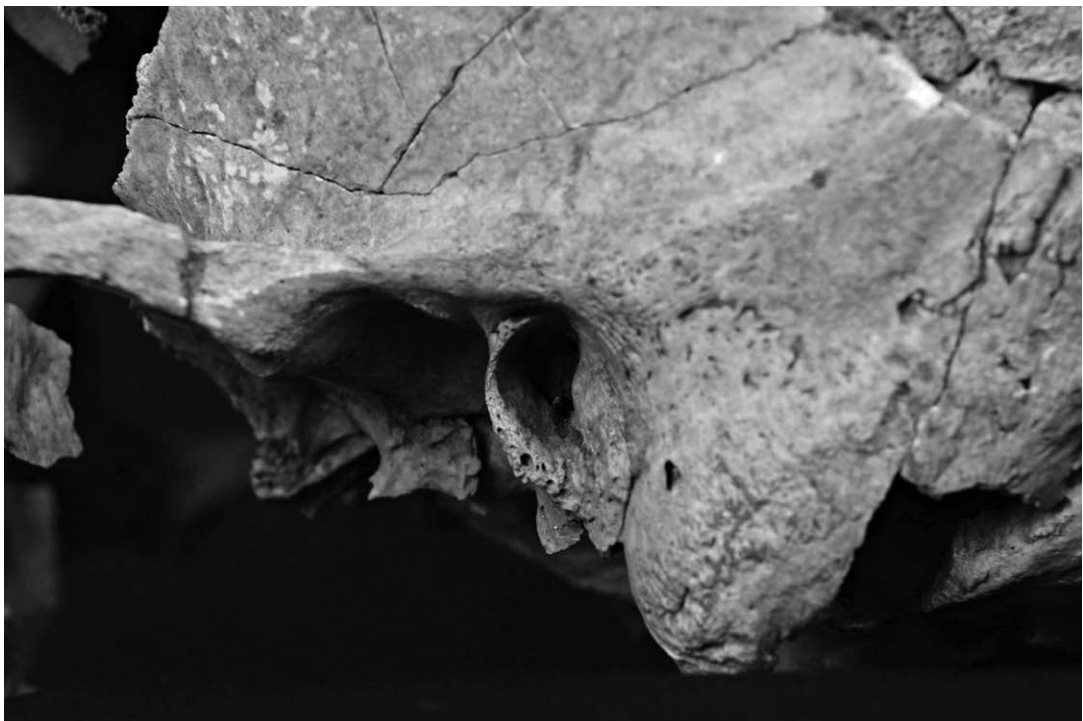
下顎骨上面 (Superior view of the mandible)

轟貝塚 5号人骨 (女性・熟年)

(The skeleton No.5 from the Todoroki shell mound, mature female)



外耳道骨腫（右）(The aural exostosis, right)



外耳道骨腫（左）(The aural exostosis, left)

轟貝塚 5号人骨（女性・熟年）

(The skeleton No.5 from the Todoroki shell mound, mature female)

